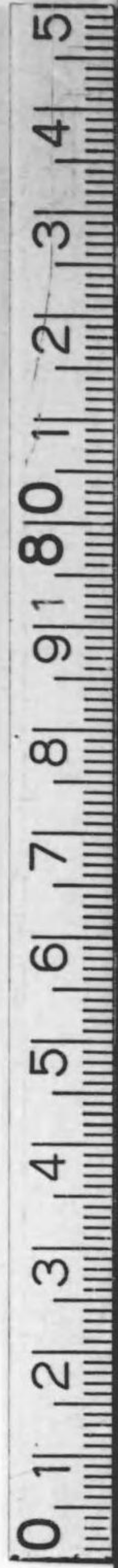


始



大分縣進農會編  
大分縣立農事試驗場業務報告  
昭和九年度

14.24  
825

昭和九年度

大分縣立農事試驗場業務報告

大分縣進農會



本報告ハ昭和九年度表作ヨリ全年

播種作ニ至ル大分縣立農事試験場

業務ノ概要ヲ輯録セルモノナリ

昭和十一年三月

大分縣進農會



14.21-825

# 昭和九年度業務報告目次

氣象概要.....	1	第三 栽培法ニ關スル試驗.....	29
<b>種 藝 部</b>		(一) 播種期對播種量試驗	
水 稻.....	5	(二) 播幅試驗	
耕種概要.....	5	(三) 條間距離試驗	
第一 豐凶考照試驗.....	7	菜 種.....	32
第二 品種改良ニ關スル試驗.....	8	耕種概要.....	32
(一) 品種保存栽培		第一 品種改良ニ關スル試驗.....	33
(二) 品種比較試驗		(一) 品種比較試驗	
1. 第一次品種比較試驗		第二 栽培法ニ關スル試驗.....	34
2. 第二次品種比較試驗		(一) 肥料用量對株間試驗	
3. 第三次品種比較試驗		(二) 苗ノ大小ト株間試驗	
(三) 人工交配ニ依ル育成試驗		(三) 植方試驗	
(四) 西海水稻未固定系統比較試驗		(四) 假植床肥料試驗	
第三 栽培法ニ關スル試驗.....	15	(五) 播種期對定植期試驗	
(一) 苗仕立法ト播種量トノ關係試驗		綠肥大豆.....	37
(二) 挿秧期對一株苗數試驗		第一 品種比較試驗.....	37
(三) 肥料用量對株數並ニ一株苗數試驗		(一) 麥間作品種試驗	
(四) 栽植粗密試驗		(二) 裏作品種試驗	
(五) 晚植試驗		(三) 採種試驗	
(六) 耕鋤深淺對肥料用量試驗		第二 採種栽培法ニ關スル試驗...39	
(七) 麥整地法跡地稻作試驗		(一) 栽植ノ距離ニ關スル試驗	
麥 類.....	21	食用大豆.....	40
耕種概要.....	21	第一 品種比較試驗.....	40
第一 麥豐凶考照試驗.....	22	(一) 品種比較試驗	
第二 品種改良ニ關スル試驗.....	23	苧 麻.....	40
裸 麥.....	23	第一 調査成績.....	40
(一) 品種保存栽培		(一) 收量調査	
(二) 品種比較試驗		(二) 勞力調査	
1. 第一次品種比較試驗		原種圃及採種圃.....	41
2. 第二次品種比較試驗		第一 水 稻.....	41
3. 第三次品種比較試驗		(一) 原々種育成	
4. 特殊系統選拔試驗		(二) 原種育成	
小 麥.....	27	1. 原種圃作付反別ノ生産數量及配付數量	
(一) 品種保存栽培		2. 郡市別配付數量	
(二) 品種比較試驗		第二 麥 類.....	43
1. 第一次品種比較試驗			
(三) 人工交配ニ依ル育成試驗			
(四) 獎勵品種決定試驗			

- (一) 原種育成
- (二) 原種育成
  - 1. 原種圃作付反別、生産數量及配付數量
  - 2. 郡市別配付數量
- 第三 菜種.....45
  - (一) 原種育成
  - (二) 採種圃經營
    - 1. 作付反別及採種量
    - 2. 郡市別配付數量
- 第四 青刈大豆.....47
  - (一) 原種育成
    - 1. 作付反別及採種量
    - 2. 郡市別配付數量
- 第五 其他.....47
  - (一) 陸稻
  - (二) 黃麻

農藝化學部

- 肥料試驗ニ關スル事項.....4
- 水 稻.....49
  - 第一 圃場試驗.....49
    - (一) 三要素試驗
    - (二) 裏作殘効試驗
    - (三) 三要素配合量比較試驗
    - (四) 肥料連用試驗
    - (五) 速成堆肥肥効比較試驗
    - (六) 青刈大豆施用量試驗
  - 第二 框試驗.....52
    - (一) 火山灰質腐植土石灰用量試驗
    - (二) 火山灰質腐植土ニ於ケル硅酸鹽加用試驗
    - (三) 石灰窒素施用量試驗
  - 第三 ポット試驗.....56
    - (一) 窒素質肥料肥効比較試驗
    - (二) 磷酸質肥料肥効比較試驗
    - (三) 石灰窒素施用時期試驗
    - (四) 火山灰質腐植土ニ於ケル磷酸及石灰關係試驗
    - (五) 火山灰質腐植土ニ於ケル堆肥用量比較試驗
    - (六) 生糞類窒素肥効試驗
- 稈 麥.....59
  - 第一 圃場試驗.....59

- (一) 三要素試驗
- (二) 肥料連用試驗
- 第二 框試驗.....60
  - (一) 火山灰質腐植土石灰用量試驗
- 第三 ポット試驗.....61
  - (一) 三要素試驗
- 小 麥.....61
  - 第一 圃場試驗.....61
    - (一) 三要素配合量比較試驗
    - (二) 速成堆肥肥効比較試驗
    - (三) 堆肥施用法改善試驗
    - (四) 石灰窒素施用法試驗
    - (五) 鶏糞施用試驗
    - (六) グアノ肥効試驗
  - 第二 框試驗.....63
    - (一) 火山灰質腐植土ニ於ケル硅酸鹽加用試驗
    - (二) 石灰窒素施用量試驗
  - 第三 ポット試驗.....66
    - (一) 窒素質肥料肥効比較試驗
    - (二) 磷酸質肥料肥効比較試驗
    - (三) 三要素試驗
    - (四) 石灰窒素施用時期試驗
    - (五) 火山灰質腐植土ニ於ケル磷酸及石灰關係試驗
    - (六) 火山灰質腐植土ニ於ケル堆肥用量比較試驗
- 菜 種.....69
  - 第一 圃場試驗.....69
    - (一) 石灰窒素施用量試驗
  - 第二 ポット試驗.....70
    - (一) 石灰窒素施用時期試驗
- 七 島 蘭.....70
  - 第一 ポット試驗.....70
    - (一) 七島蘭ノ成育及品質ニ及ボス土壤酸度影響試驗
    - (二) 七島蘭ニ對スル窒素質肥料肥効比較試驗
    - (三) 七島蘭ニ對スル鹽化物加用試驗
- 綠肥作物根瘤菌配付ニ關スル事項.....72
- 分析ニ關スル事項.....72
- 施肥標準調査ニ關スル事項.....73

- 第一 三要素試驗.....73
  - (一) ポット三要素試驗
  - (二) 原地ニ於ケル三要素試驗
- 第二 原地試驗.....73
- 園 藝 部
- 蔬菜ニ關スル事項.....75
  - 茄 子.....75
    - 耕種概要.....75
    - 第一 品種改良ニ關スル試驗.....75
      - (一) 品種比較試驗
      - (二) 連作試驗
      - (三) 一代雜種查定試驗
  - 蕃 茄.....77
    - 耕種概要.....77
      - (一) 品種比較試驗
      - (二) 耐病性檢定試驗
      - (三) 一代雜種查定試驗
  - 胡 瓜.....78
    - 耕種概要.....78
      - (一) 品種比較試驗
      - (二) 一代雜種查定試驗
      - (三) 抑制胡瓜品種比較試驗
  - 西 瓜.....79
    - 耕種概要.....79
      - (一) 品種比較試驗
  - 結珠白菜.....80
    - 耕種概要.....80
      - (一) 品種比較試驗
      - (二) 芝罘系統分離試驗
      - (三) 包頭連系統分離試驗
      - (四) 母本越冬法試驗
  - 蘿 蔔.....82
    - 耕種概要.....82
      - (一) 品種比較試驗
      - (二) 交配育種試驗
  - 甘 藍.....83
    - 耕種概要.....83
      - (一) 早生品種比較試驗
      - (二) 豐田早生系統分離

- (三) サクセツション系統分離
- 第二 栽培ニ關スル試驗.....85
  - (一) 水田利用蔬菜間作試驗
  - (二) 早熟南瓜整枝試驗
- 第三 見本栽培.....86
- 第四 優良品種ノ育成配付.....86
- 果樹及花卉ニ關スル事項.....86
- 病 蟲 部
- 第一 米麥ノ病害蟲ニ關スル試驗.....87
  - (一) 二化性螟蛾發生時期調査
  - (二) 誘蛾燈ノ種類ト效果トノ關係試驗
  - (三) 稻穂頸いもち病豫防上ポルドウ液ニ加用スル展着劑ト效果トノ關係試驗
  - (四) 稻熱病發生ト三要素トノ關係試驗
  - (五) 葉稻熱病豫防上藥劑撒布ノ効果ト展着劑トノ關係試驗
  - (六) 小麥腥黑穗病豫防ニ關スル試驗
  - (七) 小麥萎縮病防除ニ關スル試驗
  - (八) 稈麥斑葉病豫防ニ關スル試驗
- 第二 果樹蔬菜ノ病害蟲ニ關スル試驗.....93
  - (一) 蜜柑黑點病豫防試驗
  - (二) 柑橘瘡痂病ニ防上消石灰ポルドウ液ノ効果ニ關スル試驗
  - (三) 枇杷瘡痂病(鉢卷病)豫防ニ關スル試驗
  - (四) 柑橘介殼虫驅除上マシン油乳劑ノ効果ニ關スル試驗
  - (五) 大根螟虫(心喰虫)ノ防除ニ關スル試驗
- 第三 農用藥劑ニ關スル試驗.....97
  - (一) 殺虫劑ノ効果ニ關スル試驗
  - (二) 砒酸石灰ノ効果ニ關スル試驗
  - (三) デリス劑調製時ニ於ケル溫度ノ高低及調製後時間經過ト效果トノ關係試驗
  - (四) 消石灰ポルドウ液ノ調製及効果ニ關スル試驗
- 農林省指定浮塵子及  
稻萎縮病防除試驗
- 浮塵子.....101

第一 浮塵子驅除ニ關スル試驗 101

- (一) 藥劑ノ種類別驅除時刻查定試驗
- (二) 油類ト他ノ藥劑トノ併用効果比較試驗
- (三) 粉劑ニ對スル石灰及木灰加用量查定試驗

第二 浮塵子ノ生態ニ關スル 調査... 104

稻萎縮病..... 105

- (一) 子孫ニ對スル傳染能力ノ有無調査試驗
- (二) 保毒虫ノ傳染能力調査試驗
- (三) 各種混虫ニ於ケル病原媒介力有無調査試驗
- (四) 浮塵子驅除回数ト罹病狀態調査試驗
- (五) 苗代ノ種類ト罹病關係調査試驗
- (六) 抵抗力稻品種查定試驗

講習部

柑橘試驗分場

栽培標準..... 113

第一 御下賜柑橘ノ栽培..... 115

- (一) 御下賜柑橘ノ栽培

第二 品種改良ニ關スル試驗... 117

- (一) 特種柑橘種類試驗
- (二) 温州異系比較試驗
- (三) 早生温州異系比較試驗
- (四) ネーブル異系比較試驗
- (五) 温州優良母樹調査
- (六) 早生温州優良母樹調査
- (七) 縣内産在來「カボス」果實調査
- (八) 温州變種淘汰
- (九) 早生温州變種淘汰
- (十) 温州系統保存栽培
- (十一) 早生温州系統保存栽培
- (十二) 柑橘種類見本栽培
- (十三) 早生温州二重砧木種類試驗

第三 苗木養成法ニ關スル試驗 124

- (一) 砧木ノ系統ニ關スル調査

第四 培栽法ニ關スル試驗..... 125

- (一) 温州定植密度試驗
- (二) 温州肥料要素肥効試驗
- (三) 温州肥料要素加減試驗

- (四) 温州園ノ土壤種類試驗
- (五) 温州施肥時期試驗
- (六) 温州施肥方法試驗
- (七) 温州施肥深度試驗
- (八) 温州對自給肥料連施試驗
- (九) 温州綠肥連作連施試驗
- (十) 温州樹ノ畫一的整枝法試驗
- (十一) 温州樹ノ轉換的整枝法ニヨル生産力増進試驗
- (十二) 温州綠枝剪定時期試驗
- (十三) 温州ノ介殼虫驅除藥劑種類試驗

普及指導並ニ獎勵事項..... 139

- (一) 優良柑橘苗木養成配給
- (二) 町村技術員養成
- (三) 中堅柑橘業者養成

第二回縣内産温州果實品評..... 140

庶務ニ關スル事項..... 140

- (一) 印刷物配付
- (二) 出張
- (三) 文書收發件數
- (四) 質問應答
- (五) 參觀人

高冷地試驗地

氣象概要..... 143

水 稻..... 146

耕種概要..... 146

第一 豊凶考照試驗..... 148

第二 品種改良ニ關スル試驗... 149

- (一) 品種比較本試驗
- (二) 品種比較豫備試驗
- (三) 農林省農事試驗場奥羽試驗地及熊本試驗地育成品種比較試驗
- (四) 酒造米品種比較試驗
- (五) 耐肥性品種比較試驗
- (六) 銀坊主純系淘汰第三年目生産力檢定試驗
- (七) 人工交配ニヨル新品種育成試驗
  1. 雜種第七代系統育成試驗
  2. 雜種第八代系統育成試驗
  3. 雜種第七代未固定系統生産力檢定試驗
  4. 雜種第八代未固定系統生産力檢定試驗

第三 栽培法ニ關スル試驗..... 156

- (一) 播種量對苗代日數試驗

第二 栽培法ニ關スル試驗..... 174

- (一) 栽培時期ト一坪株數試驗
- (二) 苗ノ育成法試驗
- (三) 苗ニ關スル個体調査研究

本田ニ關スル試驗..... 174

第一 品種改良ニ關スル試驗... 174

- (一) 耐病性品種比較試驗
- (二) 品種比較試驗
- (三) 實生ノ淘汰

第二 栽培法改良ニ關スル試驗 ..... 175

- (一) 移植時期ト一坪株數試驗
- (二) 苗仕立試驗
- (三) 耕鋤深淺試驗
- (四) 挿秧深淺試驗
- (五) 植方試驗
- (六) 早熟栽培ニ於ケル刈數ノ種類ト施用量試驗
- (七) 早熟栽培ニ關スル個体調査研究

第三 肥料ニ關スル試驗..... 176

- (一) 三要素試驗
- (二) 窒素適量試驗
- (三) 磷酸適量試驗
- (四) 加里適量試驗
- (五) 窒素質肥料種類試驗
- (六) 肥料施用期試驗

第四 病虫害ニ關スル試驗..... 178

- (一) 七島蘭黴甲病豫防試驗

七島蘭跡地利用..... 178

第一 七島蘭跡地水稻..... 178

耕種概要 ..... 178

- (一) 定植時期試驗

第二 七島蘭跡地晚化栽培 ..... 180

耕種概要 ..... 180

第三 稈麥、小麥、蔬菜、紫雲英 ..... 181

耕種概要 ..... 181

農林省委託試驗 ..... 181

- (一) 七島蘭早熟栽培法及跡地利用試驗
- (二) 七島蘭早熟栽培ニ關スル試驗

- (二) 未分蘖苗分蘖苗比較試驗
- (三) 灌溉法試驗
- (四) 落水時期試驗
- (五) 刈取時期試驗
- (六) 施肥量對株數並一株苗數試驗
- (七) 熟期促進ニ關スル試驗

第四 肥料ニ關スル試驗..... 162

- (一) 四要素試驗
- (二) 堆肥ヲ基礎トシタル速効性肥料ノ適量試驗
- (三) 過磷酸施用法試驗

麥 類..... 164

耕種概要..... 164

第一 品種改良ニ關スル試驗... 164

小 麥..... 164

- (一) 第一次小麥品種比較試驗
- (二) 第二次小麥品種比較試驗

稈 麥..... 165

- (一) 稈麥品種比較試驗

第二 栽培法ニ關スル試驗..... 165

- (一) 小麥播種時期對播種量試驗
- (二) 小麥早熟栽培

菜 種..... 166

耕種概要..... 166

第一 品種改良ニ關スル試驗... 167

- (一) 品種比較試驗

第二 栽培法ニ關スル試驗..... 167

- (一) 定植期對株間試驗

七島蘭試驗地

七島蘭普通栽培..... 167

耕種概要..... 167

七島蘭早熟栽培..... 171

耕種概要..... 171

苗育成ニ關スル試驗..... 173

第一 品種改良ニ關スル試驗... 173

- (一) 品種比較試驗
- (二) 耐病性品種比較試驗
- (三) 優良品種比較試驗
- (四) 實生ノ淘汰

**庶務部**

第一 印刷物刊行..... 183

第二 出張..... 183

第三 文書收發ノ件數..... 183

第四 質疑應答..... 183

第五 參觀人..... 184

第六 職員ノ異動..... 184

第七 現職員..... 184

**氣象概要**

(自昭和九年四月至昭和十年三月)

平均氣溫

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	10.9	(-) 0.5	11.8	(-) 1.7	14.8	(±) 0	12.5	(-) 0.7
五月	15.8	(+) 0.1	18.6	(+) 1.6	18.8	(+) 0.6	17.8	(+) 0.8
六月	21.1	(+) 1.3	20.4	(-) 0.8	25.2	(+) 3.0	22.2	(+) 1.1
七月	27.6	(+) 4.2	26.5	(+) 1.3	27.2	(+) 1.3	27.1	(+) 2.2
八月	27.1	(+) 0.9	26.7	(+) 0.5	26.6	(+) 1.0	26.8	(+) 0.8
九月	23.7	(-) 0.7	23.1	(+) 0.6	20.0	(-) 0.7	22.3	(-) 0.3
十月	18.0	(-) 0.8	15.7	(-) 1.7	14.5	(-) 1.3	16.1	(-) 1.2
十一月	12.8	(-) 1.1	11.0	(-) 1.2	9.1	(-) 1.6	10.9	(-) 1.4
十二月	7.8	(-) 1.2	8.1	(+) 0.6	8.7	(+) 2.1	8.2	(+) 0.5
一月	7.1	(+) 0.9	5.4	(-) 0.2	3.8	(-) 1.6	5.4	(-) 0.3
二月	5.1	(+) 0.3	5.8	(+) 0.6	8.2	(+) 1.7	6.2	(+) 0.8
三月	8.3	(+) 1.3	10.1	(+) 2.1	8.7	(-) 1.1	9.0	(+) 0.7

平均最高氣溫

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	15.9	(+) 0.2	17.0	(-) 1.0	18.8	(-) 0.3	17.2	(-) 0.4
五月	22.4	(+) 2.4	23.5	(+) 1.9	24.2	(+) 1.4	23.4	(+) 1.9
六月	26.2	(+) 2.0	24.5	(-) 0.3	29.7	(+) 4.1	26.8	(+) 1.9
七月	32.4	(+) 5.6	30.8	(+) 1.8	31.5	(+) 1.7	31.5	(+) 2.9
八月	31.7	(+) 1.5	31.9	(+) 1.8	32.3	(+) 2.7	32.0	(+) 2.0
九月	28.4	(+) 0.2	26.2	(±) 0	25.1	(+) 0.7	26.6	(+) 0.3
十月	22.0	(-) 0.9	20.7	(-) 1.1	19.5	(-) 1.1	20.7	(-) 1.0
十一月	17.6	(-) 1.2	17.1	(-) 0.1	14.5	(-) 1.0	16.4	(-) 0.8
十二月	11.9	(-) 2.1	14.1	(+) 2.0	13.4	(+) 1.9	13.1	(+) 0.6
一月	12.0	(+) 1.0	9.7	(+) 0.1	9.6	(+) 0.3	10.4	(+) 0.3
二月	9.8	(+) 0.9	11.9	(+) 2.4	12.5	(+) 1.8	11.3	(+) 1.7
三月	14.7	(+) 3.5	15.0	(+) 2.9	12.2	(-) 1.7	13.9	(+) 1.5

平均最低氣溫

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	5.5 <sup>°C</sup>	(-) 1.1	6.4 <sup>°C</sup>	(-) 2.1	10.7 <sup>°C</sup>	(+) 0.5	7.5 <sup>°C</sup>	(-) 1.1
五月	8.9	(-) 2.4	13.4	(+) 1.3	12.7	(-) 1.8	11.7	(-) 0.6
六月	16.4	(+) 0.9	16.7	(-) 0.9	20.7	(+) 1.6	17.9	(+) 0.5
七月	22.6	(+) 2.2	23.4	(+) 1.5	23.2	(+) 0.8	23.1	(+) 1.5
八月	22.8	(+) 0.3	21.7	(-) 0.5	21.7	(-) 0.3	22.1	(-) 0.2
九月	19.5	(-) 1.5	20.3	(+) 1.3	15.0	(-) 2.2	18.3	(-) 0.8
十月	14.7	(±) 0	10.9	(-) 2.1	9.5	(-) 1.7	11.7	(-) 1.2
十一月	8.2	(-) 0.8	5.0	(-) 2.2	3.7	(-) 2.1	5.6	(-) 1.8
十二月	3.9	(-) 0.4	2.8	(-) 0.3	4.0	(+) 1.7	3.6	(+) 0.5
一月	2.4	(+) 0.9	1.5	(+) 0.1	- 0.7	(-) 2.1	1.0	(-) 0.5
二月	0.6	(±) 0	- 0.2	(-) 1.0	3.9	(+) 1.7	1.3	(+) 0.2
三月	1.1	(-) 1.5	4.4	(+) 0.8	5.0	(-) 0.4	3.5	(-) 0.4

濕度

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	76%	(-) 3	74%	(-) 5	79%	(-) 2	76%	(-) 4
五月	71	(-) 10	78	(-) 2	76	(-) 5	75	(-) 6
六月	70	(-) 12	81	(-) 3	75	(-) 12	75	(-) 10
七月	76	(-) 10	85	(±) 0	80	(-) 5	81	(-) 4
八月	82	(-) 2	80	(-) 5	76	(-) 10	79	(-) 6
九月	81	(-) 5	87	(-) 2	82	(-) 3	83	(-) 2
十月	82	(+) 2	76	(-) 4	79	(±) 0	76	(-) 1
十一月	72	(-) 5	78	(+) 1	78	(+) 3	79	(-) 1
十二月	73	(-) 1	82	(+) 9	82	(+) 9	79	(+) 6
一月	76	(+) 3	70	(+) 4	65	(-) 10	70	(-) 4
二月	72	(±) 0	64	(-) 6	80	(+) 5	72	(-) 1
三月	60	(-) 15	73	(-) 3	74	(-) 5	69	(-) 8

降水量

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	12.8 <sup>m</sup>	(-) 30.8 <sup>m</sup>	82.3 <sup>m</sup>	(+) 39.4 <sup>m</sup>	60.0 <sup>m</sup>	(+) 6.3 <sup>m</sup>	155.1 <sup>m</sup>	(+) 14.9 <sup>m</sup>
五月	10.6	(-) 43.3	33.4	(-) 18.1	0.4	(-) 60.5	44.4	(-) 121.9
六月	28.3	(-) 31.2	88.9	(+) 9.7	6.1	(-) 82.2	123.3	(-) 103.6
七月	0.0	(-) 98.5	91.9	(+) 18.5	33.8	(-) 21.8	125.7	(-) 101.8
八月	15.7	(-) 31.4	4.4	(-) 55.1	10.6	(-) 40.3	30.7	(-) 126.8
九月	59.9	(-) 22.8	247.5	(+) 169.6	139.5	(+) 69.4	446.9	(+) 216.2
十月	97.4	(+) 37.5	5.5	(-) 55.4	22.2	(-) 11.1	125.1	(-) 28.7
十一月	3.0	(-) 28.8	19.3	(-) 2.0	74.5	(+) 55.1	96.8	(+) 24.3
十二月	14.6	(-) 2.9	1.0	(-) 16.6	77.4	(+) 60.6	93.0	(+) 1.1
一月	14.0	(+) 5.4	2.2	(-) 13.2	0.0	(-) 26.3	16.2	(-) 34.1
二月	21.0	(+) 6.1	0.9	(-) 5.7	103.9	(+) 65.3	125.8	(+) 65.7
三月	0.0	(-) 35.2	45.5	(+) 8.4	101.0	(+) 50.0	146.5	(+) 23.2

降水日數

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	4 <sup>H</sup>	(±) 0 <sup>H</sup>	3 <sup>H</sup>	(-) 1 <sup>H</sup>	5 <sup>H</sup>	(±) 0 <sup>H</sup>	13 <sup>H</sup>	(-) 1 <sup>H</sup>
五月	1	(-) 4	3	(-) 1	1	(-) 3	5	(-) 8
六月	3	(±) 0	6	(+) 2	3	(-) 4	12	(-) 2
七月	0	(-) 7	7	(+) 3	5	(+) 3	12	(-) 1
八月	2	(-) 2	2	(-) 1	2	(-) 3	6	(-) 6
九月	6	(+) 3	8	(+) 4	3	(-) 5	17	(+) 2
十月	6	(±) 0	4	(+) 1	3	(+) 2	13	(+) 3
十一月	2	(-) 1	4	(+) 2	3	(±) 0	9	(+) 1
十二月	2	(±) 0	1	(-) 2	5	(+) 2	8	(±) 0
一月	4	(+) 4	1	(-) 1	0	(-) 7	5	(-) 4
二月	3	(+) 1	1	(-) 1	4	(-) 1	8	(-) 1
三月	0	(-) 3	3	(-) 2	7	(+) 2	10	(-) 3



日照時數

月別	上旬		中旬		下旬		全月	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
四月	68.1	(+)18.8	60.9	(+)4.5	40.5	(-)12.7	169.5	(+)10.6
五月	95.1	(+)44.1	67.3	(+)5.5	115.8	(+)49.6	278.2	(+)99.2
六月	65.4	(+)11.6	39.7	(+)0.2	88.9	(+)55.8	194.0	(+)67.6
七月	121.2	(+)78.9	52.0	(-)0.6	91.5	(+)23.5	264.7	(+)101.8
八月	80.6	(+)13.0	116.8	(+)51.1	104.5	(+)35.9	301.9	(+)100.0
九月	62.6	(+)13.7	23.0	(-)29.2	75.5	(+)33.0	161.1	(+)17.5
十月	39.0	(-)10.4	64.3	(+)9.5	72.6	(+)14.5	175.9	(+)13.6
十一月	73.9	(+)19.3	65.8	(+)14.0	57.9	(+)8.1	197.5	(+)41.3
十二月	48.1	(-)1.5	65.1	(+)20.2	37.6	(-)15.7	150.8	(+)3.0
一月	55.7	(+)2.4	60.4	(+)13.1	75.1	(+)28.7	191.2	(+)44.2
二月	48.8	(-)1.1	82.1	(+)29.1	33.0	(-)8.3	163.9	(+)19.7
三月	93.1	(+)40.3	76.2	(+)22.7	44.8	(-)2.7	214.1	(+)50.3

種 藝 部

水 稻

耕 種 概 要

苗 代

- 1 整地 苗代地ハ冬期休閑シ置キ三月中旬稻株ヲ切除シ、除草ヲ行ヒ、床巾4尺溝幅1尺ニ區畫ヲ切り溝幅ノ部分ノミ耕起シテ土塊ヲ床上ニ揚ゲ其ノ儘放置シ、四月上旬土塊ヲ碎キ馬糞ニテ搔キ均シ肥料ヲ施シ次デ鋤ニテ淺ク切り返シ其ノ儘放置シ播種前ニ至リ床面ヲ整地スルト同時ニ畦溝ノ稍々高クナルマデ土壤ヲ拂ヒ落シテ整地ヲ了ル
- 2 肥料 1坪ニ對スル施肥量次ノ如シ

肥料名	施用量	三 要 素		
		窒 素	磷 酸	加 里
菜 種 粕	120	6.0	2.4	1.5
硫酸アンモニア	30	6.0	—	—
過 磷 酸 石 灰	30	—	4.5	—
藥 灰	200	—	4.2	9.0
計		12.0	11.1	10.5

- 備考 菜種粕、硫酸アンモニア、過磷酸石灰ノ全量ハ元肥トシ藥灰ハ播種後撒布ス。尙苗ノ生育ノ狀況ニヨリ追肥トシテ硫酸アンモニア坪當5匁ヲ施スコトアリ
- 3 播種及浸種 種子用トシテ採種又ハ拔穂セシモノヲ拔落シ風選及篩選ヲ行ヒ更ニ粃ハ1.13糶及有芒種ハ1.10ノ比重ヲ以テ鹽水選ヲ行ヒ浸種ハ桶浸ヲ3日間トシ毎日換水ス
  - 4 播種 播種期ハ4月下旬ニシテ播種ノ前日床拵ヲナシ直チニ區畫板或ハ框(品種又ハ系統ヲ區畫スルタメ)ヲ入レ置キ翌日坪當3合ノ割合ニテ下種シ、5—6分ノ程度ニ覆土ス
  - 5 管理 播種後灌水ハ特ニ之ヲ行ハザルモ晴天連續シテ床地極度ニ乾燥スル場合ハ播種ヨリ本田移植2—3週間前迄數回畦溝ノ部分ニノミ引水ヲ行ヒ決シテ水ヲ床面上ニ揚ゲズ、本田移植ニ際シテハ充分灌水ヲナシ苗取ヲ行フ
  - 6 保護 苗1—2寸ニ成長セバ間引ヲ行ヒ雜草ヲ除キ螟虫ノ發生期ニ至ラバ8日目毎ニ捕蛾採卵ヲナシ稻熱病其ノ他ノ病害ニ罹リタルモノハ直ニ拔取り燒却シ其ノ跡地ニハ木灰ヲ撒布ス

本田

1 整地 前作物收穫後直ニ馬耕シ數日間放置シ土塊ヲ碎キテ畦畔ヲ塗リ灌水後塊返シヲナス、次デ數回代掻ヲ行ヒ田面ヲ均一ニス

2 肥料ノ種類及施肥量

肥料名	總用量	基肥	追肥	要素		
				窒素	燐酸	加里
堆肥	300.000	300.000	—	1.500	780	1.890
硫酸アンモニヤ	6.000	3.000	3.000	1.200	—	—
過磷酸石灰	5.000	5.000	—	—	750	—
大豆粕	4.000	4.000	—	278	28	80
硫酸加里	1.500	1.500	—	—	—	720
計				2.978	1.558	2.690

備考 基肥ハ挿秧前整地ノ際ニ施シ追肥ハ二番除草前ニ施ス早稲、中稲ハ前標準肥料ノ1割減トス

3 挿秧 本田挿秧ハ六月下旬ニ行ヒ1坪株數1株本數ハ左ノ標準ニヨル

種類	一坪株數	一株本數	株間
早稲	72	6	1尺×5寸
中稲	60	5	1尺×6寸
晚稲	60	4	1尺×6寸

4 除草 除草ハ下記ニヨリ行フ

回数	時期	方法
一回	挿秧後2週間目	蟹爪打
二回	一回除草後5日目	手取蟹爪直
三回	二回除草後1週間目	八段取
四回	三回除草後1週間目	八段取
五回	四回除草後1週間目	手取

5 管理保護

灌排水 挿秧當時ハ稍々深水トシ苗活着後ハ可成淺水トス、又時々排水シテ地温ノ上昇ヲ圖リ三回除草後ハ田面ニ龜裂ヲ生ゼザル程度ニ乾付ケ其ノ後ハ適宜灌水シテ開花後穂ノ下垂スルニ至リテ落水ス

除害 挿秧後ハ常ニ病虫害ノ發生ニ注意シ螟蛾ノ捕殺、螟虫卵採集、葉鞘變色莖ノ切り取り浮塵子ノ驅除ヲ行フ

6 收穫及調製 黄熟期ニ至ラバ刈取架乾(5日)シ充分乾燥セシメタル後扱落シ更ニ蒔乾(2日)ヲ行ヒ粃摺ヲナシ精選調査用トス

第一 水稻豐凶考照試驗

目的 毎年同一品種ヲ同様ノ方法ニヨリ栽培シ所定ノ時期ニ其ノ成績ヲ調査シ其ノ年ニ於ケル稻作豐凶ヲ考照セントス

設計 供用品種ハ下記9品種トシ各品種13坪宛栽培ス

早稲 穀良都 大分辨慶一號 北國  
 中稲 白玉 大分雄町五〇號 東郷  
 晚稲 大分神力一〇〇號 大分三井一二〇號 選立

成績

1 大暑

種別	昭和九年		平年		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稲 三種平均	2.51	13.9	2.17	14.2	(+) .34	(-) 0.3
中稲 三種平均	2.55	13.9	1.97	14.6	(+) .58	(-) 0.7
晚稲 三種平均	2.10	17.2	1.66	18.7	(+) .44	(-) 1.5

苗代期間中ノ氣象ハ平年ニ比シ高溫ニシテ日照多ク苗ノ生育良好ナリキ挿秧後又高溫多照ニシテ生育良好ナリシモ大暑前ニ至リ氣温低ク降雨多クシテ日照少カリシタメ稻ノ生育ニ影響シ其ノ成績前表ニ示セル如ク平年ニ比シ草丈長ク分蘗稍少クシテ作況普通ト認ム

尙縣下一般ノ生育ハ灌漑水豊富ナル地方ニ於テハ前記ノ如クナレドモ早越地ニ於テハ生育不良ナリ

2 二百十日 (九月一日)

種別	昭和九年		平年		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稲 三種平均	4.25	11.3	3.95	11.9	(+) .30	(-) 0.6
中稲 三種平均	4.10	12.1	3.81	12.6	(+) .29	(-) 0.5
晚稲 三種平均	2.66	15.6	3.40	18.4	(+) .26	(-) 2.8

大暑以後ノ氣候ハ旱天連續シ日照時數甚ダ多ク氣温稍高ク降水量極メテ少シ、其ノ生育ハ病虫害ノ被害ナク出穂ハ平年ニ比シ3—4日早クシテ分蘗ハ前表ニ示セル如ク稍少キモ草丈ハ稍長クシテ目下ノ作況概シテ平年ト大差ナシト認ム尙縣下全般ハ旱害被害地多クシテ作況概シテ不良ナリ

3 秋分 (九月二十四日)

種別	昭和九年		平年		比較増減	
	稈長	穂数	稈長	穂数	稈長	穂数
早稻 三種平均	3.61	10.9	3.57	11.4	(+) .04	(-) 0.5
中稻 三種平均	3.69	11.8	3.54	12.0	(+) .15	(-) 0.2
晚稻 三種平均	3.25	15.3	3.20	17.4	(+) .05	(-) 2.1

二百十日以後ノ氣候ハ九月上旬ハ氣温稍低ク日照稍多ク降雨少カリシモ中旬ニ於テハ氣温稍高ク日照少ク降水量極メテ多クシテ九月八日、九月廿日ノ二回ニ亙リテ強風ノ襲來アリ、稻ハ病虫害ノ發生平年ト大差ナク其ノ生育前表ノ如ク平年ニ比シ稈長ハ大差ナキモ分蘗稍少ク尙強風降雨ニヨリテ結實ニ幾分ノ影響アリ、作柄稍不良ト認ム

4 大雪

種別	昭和九年		平年		比較増減	
	反當收量	一升重量	反當收量	一升重量	反當收量	一升重量
早稻 三種平均	2.978	407	2.579	390	(+) .399	(+) 17
中稻 三種平均	3.037	407	2.809	395	(+) .228	(+) 12
晚稻 三種平均	2.908	408	2.857	394	(+) .051	(+) 14

苗代期中ノ氣象ハ平年ニ比シ高温ニシテ日照多ク苗ノ生育良好ナリキ挿秧期ニ於テハ晴天連續シ縣内一般ハ稀有ノ大旱魃ヲ受ケタルモ本試験地ハ田水充分ナリシタメ良好ナル生育ヲナセリ、而シテ大暑頃ノ長雨低温ト九月ニ於ケル強風長雨ハ稻ノ生育結實ニ幾分ノ影響アリシモ其ノ後ノ氣候ハ概シテ適順ニシテ病虫害ノ障害ナク實收調査ノ結果ハ平年ニ比シ穂大ナリシタメ早稻0.15割中稻0.8割晚稻ハ0.18割ノ增收ヲ示セリ

第二 品種改良ニ關スル試験

(一) 品種保存栽培

目的 品種比較試験ノ結果、米質、病虫害ノ抵抗性其他主要型質ニ就キ局部ニ優良ト認メタルモノ、人工交配ニ供用センガタメノ豫定父本、翌年ノ供試材料トナルモノ等ヲ單植栽培シ併セテ純良ナル種子ヲ採收セントス

設計 (イ) 試験方法 1株本數ハ1本、一區面積ハ0.5坪1區制 (ロ) 供試材料、粳種113品種、糯種31品種

(二) 品種比較試験

1 第一次品種比較試験

目的 等温線ヲ主トシ其他氣象狀態並ニ品種感應ノ程度ヲ考慮シ本縣ニ於テ有望

ト認メタル品種ヲ縣ノ内外各地ヨリ多數蒐集シ此等ヲ系統栽培シ品種ノ主要特性ノ調査ヲ行ヒ第二次品種比較試験ニ供スベキ適良品種ヲ選抜セントス、更ニ風土感應ニヨル主要特性ノ變異ヲモ研究シ育種上ノ參考ニ供セントス

設計 (イ) 試験方法 一區2坪ノ1區制其他ハ標準耕種概要ニ準ス

(ロ) 供試材料 粳種61品種、糯種17品種

2 第二次品種比較試験

目的 本試験ニ在リテハ第一次品種比較試験ノ結果有望ト認メタル品種ニ就キ更ニ精細ナル比較考査ヲ行ヒ翌年第三次品種比較試験ニ供試スベキ品種ヲ選出セントス

設計 (イ) 試験方法 一區5坪ノ1區制其他ハ標準耕種概要ニ準ス (ロ) 供試材料ハ次ノ如シ

イ 中稻品種

試験番號	品種名	取寄先	試験番號	品種名	取寄先	試験番號	品種名	取寄先
1	改良雄町	福岡	4	福神大分	7	銀坊主	福井	
2	雄町三號	岡山	5	渡船兵庫				
3	器良好二號	愛知	6	雄町二號	岡山			

ロ 旭種

1	早生旭	愛知	4	旭20號	滋賀	7	愛知旭	愛知
2	旭	佐賀	5	改良旭	奈良	8	耐潮性旭	福岡
3	旭	熊本	6	京都旭	京都			

ハ 晚稻品種

1	三井神力	鹿兒島	7	近畿六號	兵庫	13	吉神	岡山
2	盤田朝日三號	靜岡	8	近畿七號	兵庫	14	九州八號	和歌山
3	福晚三八號	福岡	9	旭三號	當場	15	永興四三號	當場
4	與吉選	愛媛	10	旭二號	當場	16	永興一五號	當場
5	雄神	岡山	11	源一本一〇號	當場			
6	金剛	大分	12	神德	佐賀			

試験成績

試験結果ニ依リ優良ナリシモノノ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

イ 中稻品種

試驗 番號	品種名	出穗期	成熟期	稈長	穗長	穗數	反 玄米容量	當 全上對標 準比	一升重	品質
1	改良雄町	8.31	10.21	100	22.6	11.3	2.929	100	403	中
6	雄町二號	8.31	10.21	108	22.0	11.1	3.241	102	404	中上
標準	雄町	8.31	10.22	106	22.3	10.3	3.053		405	中上

口 旭 種

2	旭	9.2	10.22	97	20.0	15.7	3.243	104	407	中上
3	旭	9.2	10.22	96	20.0	14.3	2.993	94	404	中
4	旭二〇號	9.2	10.21	91	20.8	11.8	3.195	97	407	中
8	耐潮性旭	9.2	10.21	96	21.0	14.4	3.227	99	403	上ノ下
標準	旭	9.2	10.21	95	19.9	14.5	3.224		406	中上

ハ 晚 稻 品 種

9	旭三號	9.2	10.25	89	20.4	11.7	2.996	119	401	中
10	旭二號	9.1	10.25	91	19.7	13.3	2.930	116	406	中
14	九州八號	9.6	11.4	99	22.3	12.3	3.063	108	405	中上
16	永興一五號	9.7	11.4	93	22.9	11.0	3.140	110	408	上下
標準	大分三井	9.7	11.4	93	19.1	12.6	2.801		405	中上

3 第三次品種比較試驗

目的 本試驗ニアリテハ第二次品種比較試驗、育成系統生産力檢定試驗ノ結果有望ト認メタル品種又ハ系統並農林省農事試驗場、農林省指定試驗地ノ有望ナル育成系統ニ就キ精密ナル比較考査ヲ行ヒ以テ本縣ノ優良品種ヲ選出セントス

設計 (イ)試驗方法第二次品種比較試驗ニ準ス

(ロ)供試材料 16品種(粳種) 16品種(糯種)

4 粳品種

A 生育調査成績(標準肥料區)

試驗 番號	品種名	取寄先	出穗期	成熟期	稈長	穗長	穗數	芒 有無	無 長短	脫粒 難易
1	旭一號	當場	9.3	11.4	94	20.6	16.6	少	中	中
2	耐潮性旭	福岡	9.1	11.4	94	20.6	12.5	少	中	中
3	滋賀神力	滋賀	9.1	11.4	89	20.2	14.7	無	中	中
4	豐穗	静岡	9.7	11.4	91	20.5	14.2	無	中	中
5	永興一號	當場	9.4	11.4	100	21.3	13.4	無	中	易
6	神山	佐賀	9.3	11.4	95	17.5	18.1	無	中	中
7	寶	熊本	9.3	11.4	88	19.6	14.2	無	中	中
8	三井八七號	當場	9.3	11.4	102	21.4	13.8	少	短	易

9	大分神力	當場	9.2	11.4	93	21.5	14.9	無	中	中
10	神光	熊本	9.3	11.4	97	21.6	10.6	無	中	中
11	源一本三號	當場	9.4	11.4	95	20.7	11.1	無	中	難
12	大學神力	九大	9.2	11.4	87	20.4	12.7	無	中	易
13	旭×三井七〇號	當場	9.3	11.4	93	23.0	11.4	少	短	易
14	旭×三井二七號	當場	9.3	11.4	91	20.2	11.4	無	中	易
15	旭×源一本	當場	9.3	11.4	95	19.4	12.3	無	中	中
16	旭×源一本	當場	9.4	11.4	94	19.4	12.1	無	中	中
標準	大分三井	當場	9.5	11.4	92	20.7	12.8	無	中	易

B 收量調査成績

試驗 番號	品種名	栽培 條件	反 玄米容量	當 全上對標 準比	昭和七年	昭和八年	三ヶ年 平均	一升重	品質
1	旭一號	A	3.193	125	3.047	3.324	3.188	406	中
		B	3.524	125	3.220	—	3.372	401	中下
		C	3.369	112	3.228	—	3.299	406	中下
2	耐潮性旭	A	2.889	111	3.260	3.331	3.160	406	中
		B	3.093	110	—	—	3.093	405	中
		C	3.354	112	—	—	3.354	402	中
3	滋賀神力	A	2.718	106	3.249	2.961	2.976	402	下中
		B	3.086	114	—	—	3.086	401	下中
		C	2.668	95	—	—	2.668	402	下中
4	豐穗	A	3.241	130	—	3.754	3.498	403	下中
		B	3.037	107	3.581	4.192	3.603	402	下中
		C	3.411	115	3.285	4.057	3.584	401	下上
5	永興一號	A	2.828	115	3.246	3.145	3.073	408	中上
		B	3.041	98	3.175	3.866	3.361	407	中
		C	3.248	114	3.514	3.435	3.399	406	中上
6	神山	A	2.796	118	3.319	3.068	3.061	405	中
		B	2.996	108	3.479	3.711	3.395	411	中上
		C	2.948	144	3.724	3.903	3.525	404	下中
7	寶	A	2.898	111	3.453	3.436	3.262	401	下上
		B	3.707	126	—	3.808	3.758	401	下上
		C	2.955	121	—	4.099	3.527	329	中下
8	三井八七號	A	2.971	111	3.040	3.064	3.025	403	中
		B	2.628	95	3.271	3.360	3.086	407	中
		C	2.948	144	3.187	3.523	3.219	404	中上

9	大分神力一〇〇號	A	3.166	117	3.369	3.311	3.282	404	下中
		B	3.147	106	3.563	3.306	3.369	399	下中
		C	3.146	130	3.195	2.892	3.078	402	下中
10	神 光	A	2.930	108	3.281	3.094	3.102	404	中下
		B	3.093	113	—	3.591	3.342	405	中下
		C	2.649	96	—	3.815	3.232	402	中上
11	源一本三號	A	2.726	107	3.213	2.966	2.968	406	中
		B	3.256	105	3.221	3.763	3.413	404	中
		C	3.007	106	3.408	4.092	3.502	408	中上
12	大學神力	A	2.750	112	3.189	3.193	3.042	402	下中
		B	3.181	117	—	—	3.181	405	下中
		C	2.300	82	—	—	2.300	408	下中
13	旭×三井七〇號	A	3.001	121	3.382	3.218	3.203	408	中上
		B	2.963	105	—	3.423	3.193	407	中上
		C	2.877	97	—	3.735	3.304	402	中上
14	旭×三井二七號	A	2.722	110	3.327	2.993	3.014	402	中上
		B	3.067	110	—	3.424	3.246	406	中上
		C	2.889	102	—	3.662	3.276	405	中上
15	旭×源一本一〇〇號	A	2.661	108	3.102	3.067	2.943	406	中
		B	3.084	111	—	3.342	3.213	409	中上
		C	2.543	95	—	3.125	2.834	407	中
16	旭×源一本九七號	A	2.850	115	3.142	2.932	2.971	403	中
		B	3.670	133	—	3.596	3.633	405	中上
		C	2.854	107	—	3.815	3.335	402	中
標準	大分三井	A	2.564	100	3.006	2.969	2.846	404	中上
		B	2.833	100	3.220	3.286	3.113	404	中上
		C	2.724	100	3.228	3.746	3.233	403	中上

成績概要 各區ヲ通ジ品質收量共ニ優良ナリシモノハ旭×三井七號、旭×三井七〇號ナリト認ム

ロ 糯 品 種

A 生育調査成績

試驗番號	品 種 名	取寄先	出穂期	成熟期	稈長	穗長	穗 數	芒ノ有無	芒ノ長短	脱粒難易
1	平 和 糯	愛 知	8.31	10.16	87	21.7	13.3	無	無	易
2	長 平 糯	長 崎	9. 9	11. 4	99	17.9	14.6	少短	少短	易

3	神 力 糯	愛 媛	9. 8	11. 4	94	19.7	16.9	無	無	易
4	神 力 糯	鹿兒島	9. 3	10.28	93	19.2	17.2	無	無	易
5	神 力 糯	香 川	9. 2	10.28	98	20.9	14.8	少短	少短	易
6	永 田 糯	福 岡	8.29	10.28	94	21.4	12.3	少短	少短	難
7	貝 味 糯	熊 本	8.22	10. 9	96	21.3	11.1	少短	少短	難
8	波 佐 見 糯	長 崎	9. 2	10.28	86	19.3	15.9	無	無	易
9	山 口 糯	山 口	9. 4	11. 4	88	19.1	14.6	無	無	易
10	羽二重七四號	長 崎	9. 2	10.28	94	22.4	12.3	少短	少短	易
11	金 時 糯	岡 山	8.29	10.28	94	21.6	13.4	少短	少短	易
12	溝 下 糯	—	9. 3	10.28	103	21.5	7.8	多長	多長	易
13	山 口 九 八 號	山 口	9. 2	11. 4	106	23.1	10.9	無	無	難
14	溝 下 糯	鹿兒島	9. 2	10.28	103	22.8	7.5	多長	多長	易
15	旭 糯	靜 岡	8.31	10.28	78	19.2	13.7	少長	少長	易
16	雄 金 糯	—	9. 2	10.28	94	21.1	12.0	少短	少短	易
標準	高 崎 糯	當 場	9. 2	11. 4	92	20.5	14.7	少短	少短	易

B 收量調査成績

試驗番號	品 種 名	反 當 全 上 對 標	玄 米 容 量 準 比 率	昭 和 七 年	昭 和 八 年	三 年 均 平	一 升 重	品 質	備 考
1	平 和 糯	石	98%	3.202	3.284	3.200	397	中	
2	長 平 糯	石	87%	2.882	3.372	3.007	401	下上	
3	神 力 糯	石	98%	2.832	3.326	3.051	399	中	
4	神 力 糯	石	91%	2.670	3.335	2.901	399	中	
5	神 力 糯	石	91%	2.888	2.719	2.764	392	中	
6	永 田 糯	石	92%	3.049	2.936	2.903	398	中下	
7	貝 味 糯	石	81%	2.488	2.472	2.458	401	中	
8	波 佐 見 糯	石	88%	3.152	3.151	2.977	403	中上	
9	山 口 糯	石	83%	3.147	3.041	2.922	399	中	
10	羽二重七四號	石	84%	3.096	2.958	2.882	393	中	
11	金 時 糯	石	93%	2.984	3.171	2.906	396	中	
12	溝 下 糯	石	96%	2.700	3.129	2.716	386	中	
13	山 口 九 八 號	石	97%	2.792	3.925	3.020	398	中	
14	溝 下 糯	石	89%	3.020	3.092	2.780	396	中下	
15	旭 糯	石	90%	2.815	2.830	2.660	397	中	
16	雄 金 糯	石	94%	2.478	2.794	2.564	399	中	
標準	高 崎 糯	石	100%	3.130	3.319	3.105	398	中	



月日	株本	本	月日	月日	月日	石	石	石	匁	匁	匁
6.20	50.2	100	9.6	9.7	9.7	3.880	2.834	3.013	396	401	402
全上	60.2	120	9.5	9.7	9.6	3.445	2.859	3.113	398	403	403
全上	75.2	150	9.5	9.6	9.5	3.064	2.888	3.006	394	405	405
全上	50.4	200	9.5	9.6	9.6	3.662	2.813	3.247	397	402	404
全上	60.4	240	9.4	9.6	9.5	3.357	2.782	2.999	394	399	403
全上	50.6	300	9.4	9.6	9.5	3.451	2.601	3.148	389	406	404
全上	75.4	300	9.4	9.5	9.4	3.246	2.867	3.000	397	405	406
全上	60.6	360	9.4	9.5	9.4	3.311	2.885	2.818	392	404	401
全上	50.8	400	9.4	9.5	9.5	3.437	2.815	2.984	398	398	401
全上	75.6	450	9.4	9.4	9.4	3.215	2.867	2.964	392	403	404
全上	60.8	480	9.4	9.5	9.4	3.604	2.957	3.073	394	405	404
全上	75.8	600	9.3	9.4	9.3	3.167	2.959	2.902	394	406	405
6.27	50.2	100	9.6	9.9	9.8	3.366	2.235	2.960	395	404	404
全上	60.2	120	9.6	9.9	9.7	3.204	2.892	2.940	392	404	404
全上	75.2	150	9.5	9.9	9.7	3.273	2.907	3.180	389	405	404
全上	50.4	200	9.5	9.8	9.7	3.766	2.613	3.030	391	403	405
全上	60.4	240	9.5	9.8	9.6	3.247	2.759	2.981	393	404	402
全上	50.6	300	9.5	9.7	9.7	3.072	2.591	3.178	397	400	404
全上	75.4	300	9.5	9.8	9.6	3.369	2.963	2.989	394	403	403
全上	60.6	360	9.4	9.7	9.6	3.164	2.658	2.956	393	403	401
全上	50.8	400	9.5	9.7	9.5	3.127	2.959	2.991	395	403	403
全上	75.6	450	9.4	9.7	9.6	3.067	3.030	3.004	396	400	403
全上	60.8	480	9.4	9.7	9.6	2.888	3.944	3.024	393	405	402
全上	75.8	600	9.4	9.6	9.5	3.101	3.859	3.036	398	404	404
7.4	50.2	100	9.8	9.12	9.11	3.061	1.907	2.758	392	405	405
全上	60.2	120	9.7	9.11	9.10	3.056	2.553	2.658	390	403	403
全上	75.2	150	9.9	9.11	9.10	3.142	2.925	2.837	397	398	402
全上	50.4	200	9.8	9.11	9.10	3.060	2.593	2.933	395	402	404
全上	60.4	240	9.6	9.10	9.10	2.978	2.632	2.834	395	403	403
全上	50.6	300	9.7	9.11	9.9	2.945	3.034	2.844	392	396	404
全上	75.4	300	9.9	9.10	9.9	3.283	2.511	2.956	394	402	403
全上	60.6	360	9.6	9.9	9.9	2.794	2.882	2.937	392	394	403
全上	50.8	400	9.7	9.10	9.9	3.017	2.981	2.882	396	402	403
全上	75.6	450	9.7	9.9	9.9	3.464	2.756	2.945	397	405	405
全上	60.8	480	9.6	9.9	9.9	3.028	2.624	2.911	394	403	401
全上	75.8	600	9.7	9.8	9.9	3.815	2.316	2.928	397	401	402

成績概要 一般ニ挿秧期ノ早キ場合ニ收量多ク尙各挿秧時期ニ於ケル各區ノ收量ノ傾向次ノ如シ

挿秧期六月中旬ノ場合

豊年ニ於テハ粗植區收量多ク密度ヲ増スニツレ收量ヲ減ズ、凶年ニ於テハ豊年ノ場合ニ比シ逆ノ傾向ヲ示ス、通常ノ年ニ於テハ最高收量ヲ示ス區ハ坪當苗數240—300本程度ノ區ナリ

挿秧期六月下旬ノ場合

豊年ニ於テハ坪當苗數200本—300本區收量多ク、凶年ニ於テハ400本—450本區多收ニシテ通常ノ年ニ於テハ300本區ヨリ收量ヲ増加ス

挿秧期七月上旬ノ場合

豊年ニ於テハ坪當苗數450本通常ノ年ニ於テハ480本區ニ於テ收量多ク、凶年ノ場合ニ於ケル傾向ハ判然セス

(三) 肥料用量對株數並ニ株苗數試驗 (四年目) (完結)

目的 肥料ノ用量ヲ異ニシタル場合坪當株數、1株苗數ノ多少ニヨリ生育收量ニ如何ナル差アルカラ知ラントス

設計 肥料用量ハ半量、普通量、倍量、ノ3種トシ坪當株數ハ50株、60株、75株1株苗數ハ4本、6本、8本トス

供用品種大分三井一二〇號

成績 前4ケ年ノ成績中昭和六年ハ氣候甚ダ不適ナリシヲ以ツテ特殊取扱ヒヲナシ昭和七、九、2ケ年平均成績ト對比ス

肥料用量	試驗區名		出穂期		反當玄米收量		玄米一升重量	
	一坪株數	坪當苗數	昭和六年	昭和七、九年二ケ年平均	昭和六年	昭和七、九年二ケ年平均	昭和六年	昭和七、九年二ケ年平均
半量	株本 50.4	本 200	月日 9.7	月日 9.7	石 2.480	石 2.493	匁 397	匁 404
全上	60.4	240	9.6	9.6	2.524	2.470	403	402
全上	50.6	300	9.6	9.6	2.369	2.417	402	403
全上	75.4	300	9.8	9.4	2.478	2.539	403	403
全上	60.6	360	9.7	9.6	2.566	2.562	403	402
全上	50.8	400	9.10	9.8	2.481	2.432	402	404
全上	75.6	450	9.4	9.5	2.572	2.716	403	407
全上	60.8	480	9.5	9.5	2.563	2.586	405	406
全上	75.8	600	9.4	9.4	2.572	2.985	406	406

普通量	50.4	200	9.7	9.8	2.606	3.038	404	399
全上	60.4	240	9.7	9.6	2.866	2.713	402	400
全上	50.6	300	9.6	9.7	2.480	2.919	404	402
全上	75.4	300	9.6	9.6	2.811	2.866	405	404
全上	60.6	360	9.6	9.5	2.818	2.842	404	403
全上	50.8	400	9.6	9.6	2.833	2.599	405	401
全上	75.6	450	9.6	9.5	2.978	3.138	404	402
全上	60.8	480	9.6	9.5	2.833	2.991	405	406
全上	75.8	600	9.5	9.5	2.844	3.265	403	401
倍量	50.4	200	9.8	9.9	2.936	3.352	401	403
全上	60.4	240	9.8	9.8	2.775	3.293	400	402
全上	50.6	300	9.7	9.8	3.019	3.107	402	405
全上	75.4	300	9.8	9.8	2.959	3.162	400	403
全上	60.6	360	9.7	9.8	3.052	3.003	402	403
全上	50.8	400	9.7	9.8	2.970	3.097	402	404
全上	75.6	450	9.7	9.7	2.929	3.127	399	404
全上	60.8	480	9.6	9.7	3.060	3.172	401	404
全上	75.8	600	9.6	9.7	2.940	3.320	401	405

成績概要 昭和六年度ノ如ク氣温低ク、日照少キ年ニ於テハ肥料半量區ニテハ坪  
宛苗數 360本區ヨリ密植區ニ於テ稍收量ノ増加ヲ見ルモ大差ナク普通量施肥區  
ニ於テハ坪當苗數450本區ニ於テ收量多ク、倍量區ニ於テハ坪當360本區多收ナ  
リ七年、九年ノ如キ年ニ於テハ各試驗區ニ於テ苗數ノ多クナルニ從ヒテ收量多  
キヲ認ム

(四) 栽植粗密試験 (四年目、完結)

目的 栽植ノ粗密ガ稻ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラントス

設計 一株ノ栽植距離ヲ8寸×8寸及ビ8寸×1尺1寸ノ二區ニ取り各區ニ於テ  
1株苗數ヲ1、3、5、7、10本トス

供用品種 大分三井一二〇號

成績 試驗施行ノ6、7、8、9ノ作柄状態ヲ見ルニ8年ハ氣候適良ニシテ作柄  
良好ナリ、9年ハ旱魃ノ異常天候ナリ、而シテ6年7年ハ作柄良好ナラズ特ニ  
6年ハ不良ノ年ナリ、故ニ8年、9年及6、7年2ケ年平均ノ成績ヲ各別々ニ  
検討スレバ次ノ如シ

試験區名	出 穂 期	反當玄米收量			玄 米 一 升 重		
		昭和八年	昭和九年	昭和六七年平均	昭和八年	昭和九年	昭和六七年平均
栽植距離	一株苗數	昭和八年	昭和九年	昭和六七年平均	昭和八年	昭和九年	昭和六七年平均
8寸×8寸	1	9.5	9.6	9.10	3.404	2.701	2.850
全上	3	9.5	9.5	9.10	3.302	2.620	2.952
全上	5	9.4	9.5	9.8	3.057	2.615	2.925
全上	7	9.3	9.4	9.8	3.134	2.664	2.944
全上	10	9.1	9.3	9.8	3.041	2.963	2.877
8寸×11寸	1	9.6	9.6	9.12	3.202	2.402	2.905
全上	3	6.7	9.5	9.11	3.431	2.493	2.997
全上	5	9.7	9.5	9.10	3.142	2.544	2.897
全上	7	9.5	9.4	9.9	3.255	2.596	2.906
全上	10	9.4	9.4	9.9	3.169	3.176	2.791

成績概要 6年7年ノ如キ年柄ニ於テハ8寸×8寸區既シテ收量多ク尙各栽植距  
離共3本植區收量多シ、豊作ナリシ8年度ハ粗植區ニ於テ漸次收量ヲ増加シ、  
9年ノ旱魃、異常天候ノ下ニ於テハ密植スルニ連レテ收量増加スル傾向アリ

(五) 晩植試験 (二年目)

目的 挿秧期ヲ遅ラシタル場合ニ於ケル栽培ノ適法ヲ知ラントス

設計 水苗代ヲ用ヒ挿秧期ヲ六月廿五日、七月五日、七月廿日、八月四日ノ4區  
トシ苗代播種ハ坪宛3合、日數ヲ60日、45日、30日、挿秧株數ヲ坪當60株、80  
株、1株苗數ヲ8本、4本トシ各區組合セテナス

供用品種 大分三井一二〇號

成績

試験區名	出 穂 期	成熟期		稈 長		穗 數		反 當 玄 米 收 量		玄 米 一 升 重		品 質	
		60株	80株	60株	80株	60株	80株	60株	80株	60株	80株	60株	80株
挿秧 月日	日數	4本植	8本植	4本植	8本植	4本植	8本植	4本植	8本植	4本植	8本植	4本植	8本植
7.5	45	9.8	9.8	11.2	11.2	83	84	10.1	9.9	2.411	2.668	410	407
全上	30	9.10	9.10	11.2	11.2	85	81	11.1	10.3	2.622	2.557	405	410
7.20	60	9.12	9.12	11.10	11.10	79	81	13.5	15.0	2.454	2.820	401	399
全上	45	9.14	9.14	11.11	11.11	82	80	14.1	13.1	2.712	2.407	401	407
7.20	30	9.14	9.15	11.11	11.11	84	83	14.6	14.0	2.254	2.585	404	405
8.4	60	9.17	9.16	—	—	66	66	16.7	16.9	1.515	2.369	390	416
全上	45	9.19	9.19	—	—	68	67	14.0	16.2	1.542	2.081	398	400
全上	30	9.20	9.20	—	—	64	62	16.2	15.7	1.142	1.244	394	393



成績概要 本年度ノ成績ニ徴スレバ七月廿日挿秧ノモノハ概シテ收量少クシテ品質不良ナリ、苗代日數ニ於テハ一般ニソノ日數少キモノ成績良好ナラズ、昨年度ニ於ケル傾向ト略々同一ナリ

(六) 耕鋤深淺對肥料用量試驗

目的 耕鋤ノ程度及施肥料ヲ異ニスレバ稻ノ生育、收量ニ如何ナル差異ヲ來スカヲ知ラントス

設計 耕鋤ノ深サヲ3寸、5寸、7寸ノ3種、肥料用量ハ半量、普通量、總量ノ3種トシ各區組合セテナス

供用品種 大分三井一二〇號

成績

試驗區名	出穂期	成熟期	稈長	一株總數	玄米一升重	玄米反當收量	玄米反當收量	
							自昭和六年至昭和九年平均	4ヶ年平均
半肥 3寸耕	9.7	11.1	82.6	9.4	406	1.980	2.254	
全上 5寸耕	9.7	11.1	79.7	7.4	411	1.909	2.157	
全上 7寸耕	9.7	11.1	79.8	7.3	407	1.691	2.124	
普肥 3寸耕	9.7	11.1	86.2	10.9	406	1.888	2.638	
全上 5寸耕	9.6	11.2	87.6	10.3	410	2.045	2.736	
全上 7寸耕	9.6	11.2	83.5	9.4	410	1.924	2.478	
倍肥 3寸耕	9.7	11.2	80.5	12.3	408	1.879	2.973	
全上 5寸耕	9.8	11.3	84.1	13.5	405	2.144	3.063	
全上 7寸耕	9.8	11.3	88.4	14.8	408	2.283	3.116	

成績概要 既往ノ成績ニ徴スルニ深耕ノ効果ハ概シテ施肥量ニ俱ツテ表ハレソノ用量多キ場合ニ於テハ耕土深キ程收量ヲ増加スルモ施肥量少キ場合ハ其ノ効果ヲ認め難シ

(七) 麥整地法跡地稻作試驗 (五年目)

目的 麥整地法ヲ異ニスレバ稻ノ生育收量ニ如何ナル影響アルカラ知ラントス

設計 各區1畝歩トシ下記ニヨリ試驗ス

- 1 不整地削播跡
- 2 切上整地播跡
- 3 普通整地播跡

供用品種 大分三井一二〇號

成績

區名 作付年度	不整地削播跡		切上整地播跡		普通整地播跡
	反當玄米收量	普通整地播跡收量ニ對スル率	反當玄米收量	普通整地播跡收量ニ對スル率	反當玄米收量
昭和五年	3.159	100	3.192	101	3.154
昭和六年	3.000	99	3.049	99	3.090
昭和七年	3.118	98	3.109	98	3.178
昭和八年	3.491	92	3.503	92	3.800
昭和九年	2.681	94	2.872	100	2.859

成績概要 既往ノ成績ヲ見ルニ麥作ノ場合耕起セルト否トニ依ル表作水稻ニ及ボス影響ハ初年度ノ間ハ見ル可キモノ無クレドモ年次ヲ重ネルニ從ヒ影響大ニシテ收量ニ相當ノ差ヲ來スヲ認ム

麥類

耕種概要

- 1 整地 稻作跡地ヲ5尺畦幅南北ニ耕起シ土塊ヲ乾燥セシメタル後粉碎シ畦ノ肩幅ヲ3.8尺ニナル様整地シ 5—8寸幅2條ノ縱播條ヲ切り播種ノ準備ヲナス
- 2 選種 唐箕選後稗麥、小麥ハ比量1、23ノ鹽水ニテ選種ス
- 3 黑穗豫防、冷水中ニ7時間浸漬シ後華氏120度ノ溫湯ニテ暖メ最後ニ華氏180度ノ溫湯ニ5分間浸シツツ攪拌シ直ニ冷水ニテ冷却シ取上ゲテ乾燥セシム
- 4 播種  
小麥 11月20日—11月22日  
稗麥 11月23日—11月25日  
大麥 11月26日—11月28日
- 5 播種量 稗麥、小麥反當3升大麥反當4升
- 6 播種法 總テ條播法ニヨリ畦ノ肩幅3、8尺中作條ノ中間ニ1、4尺ノ空地及畦ノ兩肩5寸ノ空地ヲ保タシメ7寸幅2條ノ條播トス

7 肥料ノ種類及施肥量

肥料名	總用量	基肥	追肥		三要素		
			第一回	第二回	窒素	磷酸	加里
堆肥	300.000	300.000	—	—	1.500	.780	1.890
大豆粕	10.000	10.000	—	—	.690	70	.200
硫酸安	4.500	1.500	1.500	1.500	.900	—	—
過磷酸石灰	8.000	8.000	—	—	—	1.200	—
硫酸加里	2.000	2.000	—	—	—	—	.960
計					3.090	2.050	3.050

備考 基肥ハ全部播種ノ際ニ施シ追肥ハ一月中旬三月上旬ノ2回ニ行フ、大麥稈麥ノ施肥量ハ前表ノ0.15割減トス

7 管理

1、中耕除草及踏壓 中耕除草ハ第一回第二回第三回ハ鋤ヲ以テ作條ノ中間ヲ深ク耕シ同時ニ畦ノ兩肩ヲ切り落シ1週間放置シテ日光ニ曝シ返土ヲ行フ第四回モ同様ノ作業ヲ行ヒ肥土返還ノ目的ヲ以ツテ土寄ヲ行フ

2、中耕除草ノ時期 踏壓ノ時期  
 第一回 1月上旬 12月下旬—1月上旬  
 第二回 1月下旬—2月上旬 1月中旬—1月下旬  
 第三回 3月中旬—3月下旬 2月中旬—2月下旬  
 第四回 4月上旬

6 收穫調製 成熟期ニ至レバ直ニ刈取り大麥、稈麥ハ直ニ扱落シ3日間陽乾シ連籾ニテ打落ス而シテ篩選、唐箕選後調査用トス  
 小麥ハ刈取後3日間陽乾シ其ノ後打落シ篩選、唐箕選ヲ行ヒ調査用トス

第一 麥豐凶考照試験

目的 毎年同一品種ヲ同様ノ方法ニヨリ栽培シ一定ノ時期ニ其ノ生育狀況並ニ收量ヲ調査シ其ノ年ニ於ケル麥作ノ豐凶ヲ考照セントス

設計 供用品種ハ下記9品種トシ各品種10坪宛栽培ス

大麥	坊主麥	改良大麥	長穗
稈麥	捻	大分裸	膝八
小麥	伊賀筑後	白坊主	赤坊主

成績 (昭和九年作付)

1 春分 (三月二十一日)

種別	昭和九年作付		平年		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
大麥 三種平均	1.31	122.3	.93	132.8	(+) .38	(-) 10.5
稈麥 三種平均	.93	96.8	.76	125.2	(+) .17	(-) 28.4
小麥 三種平均	1.25	117.1	.84	136.8	(+) .41	(-) 19.7

播種後適當ノ降雨アリテ發芽齊一、其後ノ天候ハ概シテ雨天稍少ク日照多カリシモ平年ニ比シ温暖ナリシ結果麥ハ前表ニ示セル如ク草丈ハ伸長セルモ分蘗少クシテ其ノ作況平年ニ比シ稍不良ト認ム

2 立夏 (五月六日)

種別	昭和九年作付		平年		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
大麥 三種平均	3.43	56.0	3.36	72.8	(+) .07	(-) 16.8
稈麥 三種平均	2.70	48.1	2.67	62.5	(+) .02	(-) 14.4
小麥 三種平均	3.17	71.6	3.27	85.5	(+) .10	(-) 13.9

春分後立夏ニ至ル氣象ハ概シテ低温ニシテ4月上旬ニ於テ屢々降雨アリ、而シテ麥ノ生育ハ前表ニ示セル如ク平年ニ比シ草丈ハ大差ナキモ莖數少ク、出穂期ハ裸麥8日、大麥6日何レモ早く小麥ハ未ダ完了セザルモ稍早キ見込ニテ目下ノ作況概シテ稍不良ト認ム

3 大暑

種別	昭和九年作付		平年		比較増減	
	反當收量	一升重量	反當收量	一升重量	反當收量	一升重量
大麥 三種平均	2.307	340	2.657	302	(-) .350	(+) 38
稈麥 三種平均	1.931	394	2.000	375	(-) .069	(+) 19
小麥 三種平均	1.117	368	2.072	357	(-) .955	(+) 11

播種後適當ノ降雨アリテ發芽齊一ナリシモ冬期間ハ比較的温暖ニシテ其ノ後春分ヨリ立夏ニ至ル間ハ概シテ低温ニシテ屢々降雨アリ、殊ニ小麥ニ於テハモザイック病ノ發生アリテ麥ノ生育稍不良ナリシガ立夏以後成熟期ニ於ケル天候ハ概ネ良好ナリシタメ穂實良好ニシテ子實1升重量重ク其ノ成績ハ前表ニ示セル如ク平年ニ比シ大麥ハ1.22割、裸麥ハ0.35割、小麥ニ於テハモザイック病ノ被害アリテ4.61割ノ減收ヲ示セリ

第二 品種改良ニ關スル試験

稈麥

(一) 品種保存栽培

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法 4寸千鳥1粒植、一區0.5坪一區制

(ロ) 供試材料192品種

(二) 品種比較試験

1 第一次品種比較試験

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法 一區2坪ノ1區制其他標準耕種概要ニ準ス

(ロ) 供試材料62品種

2 第二次品種比較試験

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法 一區5坪ノ1區制 (ロ) 供試材料ハ次ノ如シ

試験 番號	品種名	取寄先	試験 番號	品種名	取寄先	試験 番號	品種名	取寄先
1	鼠 裸	玖珠郡	7	青 麥	日田郡	13	片神麥	南海部郡
2	青 裸	東國東郡	8	肥後麥	日田郡	14	コビン	大野郡
3	一步一升	東國東郡	9	弘法麥	日田郡	15	ズリダリ	南海部郡
4	中國裸	東國東郡	10	ジンジク	日田郡	16	灘 麥	南海部郡
5	石井麥	日田郡	11	四升裸	日田郡			
6	鳥原麥	日田郡	12	青 稈	西國東郡			

試験成績

優良ナリシモノノ成績ヲ舉グレバ次ノ如シ

試験 番號	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	五〇 間總數	反當 子實重量	一升重	品質
1	鼠 裸	月日 4.22	月日 5.28	穂 97	穂 4.2	本 144	實 91.9	396	中
5	石井麥	4.18	5.27	86	5.2	103	76.7	398	中上
9	弘法麥	4.19	5.29	102	4.7	117	85.5	386	中
13	片神麥	4.16	5.26	100	4.6	115	84.9	405	中上
14	コビン	4.21	5.29	106	4.7	118	84.9	392	中
16	灘 麥	4.17	5.26	103	4.7	131	91.2	396	中
標準	大分捻	4.19	5.27	101	3.7	133	84.7	387	中

3 第三次品種比較試験

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法、一區5坪ノ2區制ニシテ他ハ第二次品種比較試験ニ準ス

(ロ) 供試材料 16品種

試験成績

試験 番號	品種名	取寄先	栽培 條件	出穂期	成熟期	稈長	穂長	五〇 間總數	反當 子實重量	一升重	品質
1	稗純系一〇號	當場	E	月日 4.14	月日 5.23	穂 89	穂 3.8	本 161	實 86.8	389	中
			C	4.14	5.23	93	3.8	147	91.1	403	中上
			L	4.23	5.29	88	4.4	112	74.8	396	中
2	稗純系二二號	當場	E	4.14	5.24	111	5.0	140	79.0	366	中下
			C	4.16	5.27	113	5.4	94	97.2	397	中上
			L	4.22	5.29	103	5.6	85	79.3	396	中上
3	稗純系二八號	當場	E	4.16	5.28	112	4.2	179	87.0	382	中下
			C	4.16	5.26	105	4.6	121	87.1	402	中
			L	4.22	5.29	96	4.8	107	75.2	397	中
	稗交配一九號	當場	E	4.16	5.27	126	4.9	165	75.0	365	下上
			C	4.16	5.27	106	5.4	110	92.8	397	中上
			L	4.22	5.30	100	5.7	101	76.8	397	中上
5	稗交配一五號	當場	E	4.12	5.26	110	4.8	176	70.9	355	中上
			C	4.15	5.27	106	4.8	135	103.7	402	下下
			L	4.22	5.30	97	4.3	118	85.8	399	中
	稗交配二一號	當場	E	4.14	5.24	122	5.0	147	78.0	373	中下
			C	4.16	5.27	114	5.5	100	92.1	399	中上
			L	4.23	5.29	106	5.4	98	79.6	395	中上
7	香川一號	愛媛	E	4.18	5.29	92	4.7	209	93.5	375	下中
			C	4.22	5.30	95	5.6	146	83.0	380	中
			L	4.25	6.3	88	5.5	160	81.8	392	中上
8	仁多稗	大阪	E	4.12	5.24	97	5.4	179	75.3	380	下上
			C	4.14	5.23	101	5.8	120	91.9	400	中
			L	4.20	5.29	85	5.8	110	86.4	399	中上
9	山口稗	山口	E	4.14	5.28	116	4.6	163	80.6	372	中下
			C	4.16	5.25	108	5.3	98	89.6	401	中
			L	4.22	5.29	98	5.1	100	76.1	398	中
10	畿二七號	畿内	E	4.20	5.29	98	4.9	214	89.1	372	下中
			C	4.16	5.26	88	3.7	118	90.0	398	中
			L	4.23	5.29	82	4.1	113	83.2	397	中
11	赤神力	兵庫	E	4.15	5.29	113	5.0	146	79.5	361	下下
			C	4.17	5.30	104	5.1	126	108.6	383	中
			L	4.23	6.2	93	5.1	107	84.6	401	中

12	大阪一號	大阪	E	4.12	5.24	93	4.2	196	68.5	368	下中
			C	4.15	5.26	108	4.3	120	95.2	400	中
			L	4.20	5.29	103	4.4	103	80.2	400	中
13	半 搗	高知	E	4.12	5.28	119	5.1	160	78.1	375	下中
			C	4.15	5.24	107	4.6	118	91.5	400	中
			L	4.20	5.29	96	5.1	101	78.3	398	中下
14	大分膝八	當場	E	4.16	5.24	91	3.5	178	91.8	380	下上
			C	4.16	5.26	89	3.7	120	87.2	407	中
			L	4.21	5.29	84	4.0	110	79.7	401	中
15	コ ビ ン	當場	E	4.16	5.28	104	4.0	161	79.1	368	下中
			C	4.20	5.27	105	4.3	116	87.2	396	中
			L	4.23	5.29	91	4.6	114	78.6	397	中
16	大 分 稗	當場	E	—	—	—	—	—	—	—	—
			C	4.21	5.30	95	5.6	124	99.4	381	中上
			L	4.24	6. 2	85	5.4	114	85.8	395	中上
標準	大 分 捻	當場	E	4.14	5.24	102	3.1	157	76.5	356	下上
			C	4.20	5.27	103	3.5	130	86.1	391	中
			L	4.24	6. 1	92	3.5	114	71.4	386	中

備考、栽培條件欄中ノEハ早播區(十一月十日)Cハ標準播區(十一月二十五日)

Lハ晩播區(十二月二十五日)ヲ示ス

成績概要 各區ヲ通ジ品質收量ニ於テ裸純系二二號、裸交配二一號、仁多稗ハ優良ナリト認ム

4、特殊系統選抜試験

目的 本試験ニ在リテハ七島蘭ノ前作又ハ煙草蔬菜ノ間作トシテノ早熟短稈多收ノ系統ヲ選抜セントス

設計 (1) 試験方法 第二次品種比較試験ニ準ス (ロ) 供試材料4品種

試験成績

試験 番號	系統名又ハ 品 種 名	栽培 條件	出穂期	成熟期	稈長	穗長	五〇糶 間總數	反當子 實重量	一升重	品 質
			月日	月日	釐	釐	本	實	匁	
1	裸交配一號	E	4. 9	5.19	103	4.7	194	50.1	380	中
		C	4.13	5.20	94	4.9	142	70.0	391	中上
		L	4.13	5.22	98	4.5	143	95.9	394	中上
2	裸交配二號	E	4. 9	5.19	105	4.4	235	49.8	378	中
		C	4.12	5.20	99	4.5	120	74.2	384	中上
		L	4.14	5.22	103	3.7	142	91.4	392	中上

3	裸交配三號	E	4. 4	5.18	93	3.1	197	58.4	373	中下
		C	4. 8	5.18	89	3.3	150	82.3	392	中
		L	4.12	5.19	88	3.4	147	92.9	393	中
4	三 月 稗	E	3.30	5.13	98	3.3	155	58.1	365	中下
		C	4. 4	5.19	102	3.5	156	73.7	379	中
		L	4.11	5.21	95	3.6	154	92.4	390	中
標準	大分膝八	E	—	—	—	—	—	—	—	—
		C	4.14	5.20	84	3.5	108	90.7	399	中
		L	4.16	5.22	83	3.5	134	106.7	397	中上

備考 栽培條件欄中ノEハ早播區(十一月十日)Cハ標準播區(十一月二十五日)

Lハ晩播區(十二月二十五日)ヲ示ス

成績概要 各試験區ヲ通ジ裸交配三號ハ早熟多收型トシテ最モ有望ナリト認ム

小 麥

(一) 品種保存栽培

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法 裸麥ニ準ス (ロ) 供試材料190品種

(二) 品種比較試験

1 第一次品種比較試験

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法 裸麥ニ準ス (ロ) 供試材料 29品種

(三) 人工交配ニ依ル育成試験

目的 水稻ニ準ス

設計 (1) 試験方法 第二次品種比較試験ニ準ス (ロ) 供試材料

試験成績

(1) 小麥雜種第五代以後ノ系統群及系統選抜統計表

主要育種目的	交 配 組 合		世代	栽植系統數		選抜系統數		備 考
	母	父		晩生型	合計	晩生型	合計	
早熟多數	早生小麥	寶 滿	F <sub>5</sub>	9	9	—	—	
良質多收	西 海	伊賀筑後	F <sub>5</sub>	6	6	—	—	
良質多收	白 幌	江 島	F <sub>6</sub>	1	1	1	1	
良質多收	江 島	島 田	F <sub>6</sub>	4	4	3	3	
早熟良質	早生小麥	江 島	F <sub>6</sub>	6	3	1	1	
良質多收	寶 滿	島 田	F <sub>6</sub>	1	1	1	1	
早熟良質多收	江 島	伊賀筑後	F <sub>8</sub>	6	6	2	2	

(2) 特性並收量成績

試験番號	系統番號	交配組合		出穂期	成熟期	病害(萎縮)	稈長	反子重	當實量	一升重	品質
		母	父								
20	F <sub>63</sub> -16	白幌	江島	4.25	6.1	B	116	86.5	381	中	
22	F <sub>64</sub> -17	江島	畠田	4.30	6.9	B	120	79.6	364	中上	
24	F <sub>64</sub> -19	江島	畠田	4.30	6.6	BC	118	78.1	369	中上	
25	F <sub>64</sub> -20	江島	畠田	4.30	6.6	B	115	91.0	373	中上	
28	F <sub>65</sub> -21	早生小麥	江島	4.22	6.1	B	115	90.3	378	中上	
32	F <sub>66</sub> -24	寶滿	畠田	4.30	6.8	B	121	88.3	373	中上	
37	F <sub>87</sub> -27	江島	伊筑	4.24	6.5	AB	115	89.9	376	中上	
39	F <sub>87</sub> -29	江島	伊筑	4.30	6.9	AB	122	84.8	363	中上	
標準	伊賀筑後			4.24	6.6	C	99	63.8	371	中下	

備考 病害欄中ノA、AB、B、BC、C、CDハ萎縮病ノ被害程度ヲ示シAハ健全、Bハ少、Dハ多、他ハソノ中間階級ヲ示ス

(四) 獎勵品種決定試験

目的 農林省指定試験地ヨリ配布ヲ受ケタル品種又ハ系統ヲ本縣獎勵品種ト比較研究ヲ行ヒ以テ本縣獎勵品種ヲ選定セシトス

設計 (イ) 試験方法 一區5坪ノ2區制ニシテ他ハ第二次品種比較試験ニ準ス  
(ロ) 供試材料

取寄先	系 統 名	品種名	供試數	
			系統數	品種數
佐賀	西海七號・二九號・三五號・四四號・四五號・四六號・四八號・四九號・五〇號・五一號・五二號・五三號・五四號・五五號・五六號・五七號	農林五號 新中長	16	2
宮崎	南九州一號・二號・三號・四號・五號・六號・七號・八號		8	
參考 品種	大分伊賀筑後・大分小麥白坊主・赤坊主・埼玉小麥二七號・一號熊本小麥・唐原小麥		8	

試験成績

優良ナリシモノノ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

系統名	栽培條件	出穂期	成熟期	病害	稈長	穗長	五〇穗間數	反子重	當實量	一升重	品質
-----	------	-----	-----	----	----	----	-------	-----	-----	-----	----

系統番號	母	父	出穂期	成熟期	病害	稈長	反子重	當實量	一升重	品質	
											月日
西海四五號	C		4.23	6.7	A	94	7.2	110	104.2	383	上下
	L		4.27	6.13	A	90	7.9	113	112.0	390	上下
西海四八號	C		4.21	6.5	C	79	7.4	89	89.6	385	中上
	L		4.27	6.13	D	76	8.2	80	81.0	385	中上
西海四九號	C		4.22	6.5	C	93	8.4	76	94.5	384	上下
	L		4.28	6.13	B	81	8.6	71	78.6	389	中上
西海五五號	C		4.22	6.5	A	104	8.3	133	96.6	380	中上
	L		4.27	6.10	A	94	8.5	82	81.9	376	中
西海五六號	C		4.20	6.5	C	94	6.1	89	82.2	376	中
	L		4.26	6.10	B	97	7.0	98	97.5	379	中
南九州四號	C		4.22	6.6	A	93	8.5	90	91.5	370	中
	L		4.28	6.13	A	84	8.7	83	85.4	384	中
南九州七號	C		4.23	6.9	AB	104	8.6	95	99.5	390	中上
	L		4.28	6.11	B	91	8.6	83	77.5	386	中上
新中長	C		4.20	6.3	A	98	6.0	101	91.3	366	中
	L		4.26	6.8	A	90	6.4	85	85.9	373	中
大分小麥一號	C		4.26	6.11	B	114	6.6	96	92.3	363	中
	L		5.1	6.15	AB	106	7.1	107	83.1	371	中
白坊主	C		5.5	6.12	B	131	7.1	102	78.8	364	中上
	L		5.9	6.16	AB	111	6.6	80	70.6	377	中
早坊主	C		4.27	6.7	B	103	5.6	124	81.2	366	中
	L		4.30	6.13	CD	88	5.3	69	61.6	381	中
標準 (伊賀筑後)	C		4.22	6.3	C	87	5.8	84	77.0	365	中下
	L		4.28	6.11	D	76	5.7	74	60.0	369	中下

備考 病害欄中ノA、AB、BC、C、CD、Dハ萎縮病ノ抵抗性程度ヲ示シAハ健全、Bハ少、Dハ多、AB、BC、C、CD、ハ其ノ中間ノ階級ヲ示ス

栽培條件欄中ノUハ標準播區(十一月下旬)Lハ晩播區(十二月下旬)ヲ示ス  
成績概要 各區ヲ通ジ良質多收且萎縮病ニ對スル抵抗性强キモノハ西海四五號ナリ、新中長ハ之レニ次ギ良好ナル成績ヲ示セリ

第三 栽培法ニ關スル試験

(一) 播種期對播種量試験

目的 播種期、播種量ノ最適度ヲ知ラントス

設計 半精密栽培試験的ニ操作ヲナシ品種ハ小麥白坊主、稗麥大分捻ヲ供用シ試験區ヲ下記ノ如ク取ル

播種期

11月 10日 }  
 11、 20 } 14區  
 11、 30 }  
 12、 10 }

各播種期ニ於ケル播種量ハ

反當 { 1升7合5勺當  
 3升5合當  
 5升2合5勺當

成績

(イ) 小麥 白坊主 (播條五〇種二區調査成績ノ平均)

播種期	播種量	完全穗數	遅穗數	主稈穗長	全子實重量	全屑麥重量	平均一株當重
11.10	1.75	101	1	8.3	27	0.2	1.2
	3.50	116	2	8.2	22	0.1	0.5
	5.25	117	3	7.5	24	0.2	0.3
11.20	1.75	86	1	8.6	27	0.1	1.2
	3.50	120	3	7.9	27	0.3	0.6
	5.25	137	6	8.1	24	0.2	0.3
11.30	1.75	116	4	8.3	37	0.8	1.6
	3.50	130	4	8.1	28	0.1	0.6
	5.25	151	14	7.3	25	0.2	0.4
12.10	1.75	107	4	8.1	36	0.3	1.6
	3.50	156	2	7.8	30	0.3	0.7
	5.25	160	9	6.9	33	0.3	0.5

(ロ) 稈麥 大分捻 (播條五〇種内調査成績ノ平均)

播種期	反播種量	完全穗數	遅穗數	主稈穗長	全穗重	全子實重量	平均一株當重
11.10	1.75	116	4	3.3	46	37	1.2
	3.50	109	4	3.3	46	31	0.5
	5.25	99	7	3.1	39	27	0.3
11.20	1.75	100	3	3.3	40	34	1.1
	3.50	101	5	3.2	39	31	0.5
	5.25	122	6	3.0	39	26	0.3

11.30	1.75	113	2	3.6	52	42	1.4
	3.50	135	7	3.3	52	42	0.7
	5.25	143	10	2.0	46	38	0.4
12.10	1.75	119	5	3.7	52	42	1.4
	3.50	144	6	3.2	52	41	0.7
	5.25	148	8	2.2	52	44	0.5

成績概要 小麥白坊主、稈麥捻、共ニ十一月下旬ヨリ十二月上旬ヲ播種ノ最適朝トスルモノニシテ、ソノ播種量ハ斯カル播種期ニ於テハ精密栽培ヲナセル結果、播種セル全部ノ種子ハ發芽、生育セルタメ薄播ノモノ程收量多キヲ認メタリ

(二) 播幅試験

目的 麥栽培ニ當リソノ播幅ノ適度ヲ知ラントス

設計 半精密栽培試験的ニ操作ヲナシ品種ハ稈麥大分捻ヲ供用シ條間ヲ2尺ニ取り播幅ハ5寸、7寸、9寸トシ其ノ播種密度ヲ50種間ニ57粒、87粒トシ、各區共3條取りソノ中央列ニ就テ調査ス

成績 (播條50種間調査)

播種50種間株數	播幅	穗重	子實重量	屑麥重量
57 (反當3升5合播ノ密度)	5	46	27.0	1.0
	7	59	37.0	1.0
	9	68	45.5	2.5
87 (反當5升2合5勺播ノ密度)	5	53	39.0	0.7
	7	66	45.5	0.7
	9	83	57.0	4.0

成績概要 麥播種ニ際シテ、播幅ノ廣キモノ收量多キヲ認メタリ(但シ試験圃場ハ園藝作物試作地ノ跡地ヲ使用セルタメ稍々肥沃ニ過ギタル感アリ)

(三) 條間距離試験

目的 麥栽培ニ當リソノ條間ノ適度ヲ知ラントス

設計 半精密栽培試験的ニ操作ヲナシ品種ハ稈麥大分捻ヲ供用シ播幅ヲ5寸5分トナシ條間ヲ8寸、1尺1寸、1尺4寸ニ取り各區3條ヲ試験區トシテソノ中央列ニ就テ調査ス

成績 (播條50種間調査)

栽植密度	條間距離	子實重量	平均一株 子實重量	一坪分量 子實重量
播條50種間 = 29粒 (標準栽培ノ場 合ノ播種密度 ノ半分)	8	17	0.6	272
	11	23	0.8	301
	14	23	0.8	255
播條50種間 = 57粒 (標準栽培ノ場 合ノ播種密度 ト同ジ)	8	26	0.5	417
	11	33	0.6	432
	14	33	0.6	366

成績概要 播條間ノ距離5寸ハ成績不良ナルモ1尺1寸ト1尺4寸トハソノ生育  
收量ニ大差ナク、從ツテ單位面積内ノ收穫量ハ1尺1寸最モ多キヲ認メタリ  
(試験圃場ハ園藝作物試作地ノ跡地ヲ供用セルタメ稍肥沃ニ過ギタル憾アリ)

## 菜 種

### 耕 種 概 要

#### 苗床

- 1 整地 八月下旬乃至九月上旬ニ畑地ヲ除草後石灰ヲ坪當6—7匁撒布シテ淺ク耕起シ土塊ヲ粉碎シ畦幅4尺高サ3寸ノ短冊畦ヲ作成シ所定ノ肥料ヲ施シ播種床トナス、苗床所要面積ハ本圃1反歩ニ對シ3坪ヲ用意ス
- 2 播種法 九月中旬苗床1坪宛1匁ノ種子ヲ播種ス
- 3 肥料 坪宛1匁ノ人糞尿ヲ3倍ノ水ニテ稀釋シ播種前ニ撒布シテ敷肥トナス
- 4 管理 發芽後3日頃ヨリ屢々間引ヲ行ヒ葉片ノ重ナラザル程度ニ保ツ

#### 假植床

- 1 整地 苗床ニ於ケル苗ノ生育本葉5枚位トナレバ假植ヲ行フモノニシテ畦幅4尺ノ短冊型ニ整地シ所定ノ肥料ヲ施シテ假植床トス本圃1反歩ニ要スル假植床面積ハ1畝歩ナリ
- 2 假植法 假植ノ距離ハ6寸×5寸トス
- 3 假植床肥料 假植床ニ用フル肥料ハ完熟堆肥ヲ主トシ其他ヲ適宜供用ス  
假植床一畝歩當用量

肥料種類	元 肥	追 肥	
		第 一 回	第 二 回
堆 肥	15.0	—	—
菜 種 粕	1.0	—	—
硫酸アンモニヤ	4.0	4	4
硫酸加里	0.4	—	—

#### 本圃

- 1 整地 稻刈取後直チニ耕起シ土塊ヲ粉碎シ5尺ノ畦幅ニ整地ス
- 2 肥料ノ種類及反當施用量

肥料種類	總用量	元 肥	追 肥		三 要 素		
			第一回	第二回	窒 素	磷 酸	加 里
堆 肥	300.000	300.000	—	—	1.500	0.780	1.890
大 豆 粕	8.000	8.000	—	—	0.552	0.560	0.160
硫酸アンモニヤ	4.500	1.500	1.500	1.500	0.900	—	—
過 磷 酸 石 灰	6,000	6,000	—	—	—	0.900	—
硫 酸 加 里	1.500	1,500	—	—	—	—	0.720
計	—	—	—	—	2.952	2.240	2.770

備考 追肥ハ一月下旬、三月上旬ノ2回ニ分施ス

- 3 管理 十二月下旬、二月上旬ノ2回ニ中耕ヲ行ヒ三月下旬土寄ヲ行フ

### 第 一 品 種 改 良 ニ 關 ス ル 試 験

#### (一) 品 種 比 較 試 験

目的 本縣ノ風土ニ最適セル優良品種ヲ選定セムトス

設計 2區制ニシテ標準區(反當栽植本數、2160本)及密植區(反當栽植本數2880本)ノ2區ヲ設ケ1區面積10坪トス

#### 成績

品 種 名	取寄先	成 熟 期		反當子實重量		子實一升重		標準ニ對スル率		菌核羅病合	
		標準栽培區	密植區	標準栽培區	密植區	標準栽培區	密植區	標準栽培區	密植區	標準栽培區	密植區
大分中生一號	當場	5.30	5.30	331	351	307	308	86.6	109.3	38.5	11.2
標準-(大朝鮮)	當場	6.5	6.4	382	321	313	313	100.0	100.0	15.7	5.1
伊 勢 黒	福岡	6.2	6.1	332	317	290	287	86.6	98.8	20.0	9.2
伊 勢 黒	鹿兒島	6.1	6.1	348	342	297	295	90.9	106.9	24.2	10.2

四日市黒	福岡	6.2	6.1	311	308	299	301	81.2	96.9	11.4	10.2
標準二	當場	6.5	6.4	383	318	316	312	100.0	100.0	5.7	7.1
九州一號	福岡	6.2	6.2	340	281	300	297	88.8	88.4	18.6	9.2
九州二號	福岡	6.4	6.3	370	309	296	297	116.0	95.1	21.4	9.2
標準三	當場	6.4	6.4	319	325	314	313	100.0	100.0	22.8	9.2
九州三號	福岡	5.30	5.30	301	278	310	309	94.4	85.5	7.1	5.1
九州四號	福岡	6.2	6.2	292	326	293	294	88.5	110.9	10.0	8.1
九州五號	福岡	6.6	6.4	335	352	314	313	98.2	133.8	20.0	6.1
標準四	當場	6.5	6.4	341	263	315	314	100.0	100.0	20.0	8.1
九州六號	福岡	6.5	6.4	381	326	306	307	111.7	124.0	17.1	7.1
九州七號	福岡	6.3	6.4	319	384	313	310	110.0	123.5	42.8	18.3
標準五	當場	6.5	6.4	290	311	314	315	100.0	100.0	20.0	20.4
中生朝鮮	福岡	6.1	6.1	337	306	306	307	116.2	98.4	28.5	12.2
水原	福岡	5.31	6.1	298	278	308	306	102.5	90.8	25.7	26.5
FN <sub>21</sub> 大朝鮮	福岡	6.4	6.4	351	341	310	312	119.8	113.7	28.5	31.6
標準六	當場	6.5	6.4	293	300	312	311	100.0	100.0	14.2	11.2
FN <sub>54</sub> 大朝鮮	福岡	6.3	6.3	333	318	312	310	113.7	106.0	14.2	29.5

成績概要 本年度試験ニ於テ特ニ成績優良ト認ムルモノハ早熟種ニ於テ伊勢黒(鹿兒島)、中生朝鮮、晩熟種ニ於テ九州五號、九州六號、九州七號FN<sub>21</sub>大朝鮮FN<sub>54</sub>大朝鮮ニシテ就中九州五號、及九州六號ハ菌核病ニ對スル抵抗性强ク將來有望ナリト認ム

第二 栽培法ニ關スル試験

(一) 肥料用量對株間試験

目的 肥料ノ施用量ト株間トノ關係ヲ檢知セムトス

設計 施用量ハ普通量、5割減及5割増ノ3種トシ條間距離ハ全部2尺、株間ヲ1尺—1.5尺、2尺、及2.5尺ノ4種ニ分チ1區面積10坪トシ不二種ヲ供用ス

成績

株間	成熟期			反當子實重量			一升重		
	五割減區	普通量區	五割増區	五割減區	普通量區	五割増區	五割減區	普通量區	五割増區
一尺	6.1	6.1	6.1	262	322	334	309	308	309
一尺五寸	6.1	6.1	6.1	242	304	305	314	310	311
二尺	6.1	6.2	6.1	275	300	297	310	311	313
二尺五寸	6.2	6.1	6.1	257	308	284	306	310	312

成績概要 以上ノ成績ヨリ見ルニ肥料普通量區及5割増區ニ於テハ栽植個體數ノ

増加スルニ從ヒ成績良好トナル傾向アルモ肥料5割減區ニ於テハ其ノ傾向ヲ認メズ依テ尙試験繼續ノ必要アリ

(二) 苗ノ大小ト株間試験

目的 苗ノ大小ト株間トノ關係ヲ檢知セムトス

設計 小苗ハ十月十日播、無假植、大苗ハ九月十五日播1回假植ノモノトシ、條間距離ハ全部2尺、株間ハ小苗ニ於テハ5寸、8寸、1尺、1.5尺、及2尺ノ5種大苗ニ於テハ1尺、1.5尺、2尺、2.5尺ノ4種ヲ設ケ1區面積10坪トス。

供用品種大朝鮮

成績

株間	成熟期		反當子實重量		一升重	
	大苗	小苗	大苗	小苗	大苗	小苗
五寸	6.7	6.7	—	285	—	317
八寸	—	6.7	—	264	—	317
一尺	6.4	6.7	357	237	313	316
一尺五寸	6.4	6.8	335	267	316	315
二尺	6.5	6.8	318	227	315	317
二尺五寸	6.9	—	277	—	312	—

成績概要 以上ノ成績ヨリ見ルニ大苗、小苗ノ如何ヲ問ハズ疎植スルニ從ヒ收量減少スル傾向アリ、兩區共ニ成績最モ優秀ナルハ最モ密植セル區ニシテ大苗區ニ於テハ2尺×1尺區、小苗區ニ於テハ2尺×5寸區ナリ。而シテ大苗ハ小苗ニ比シ成績良好ナリ。

(三) 植方試験

目的 植方ノ方法如何ガ生育收量ニ如何ナル影響アルヤヲ檢知セムトス

設計 直立植及伏植ノ2種トス、直立植ハ假植床及本圃ニ於テ常ニ普通植トシ、伏植ハ假植床及本圃共ニ伏植トス大朝鮮ヲ供用シ1區面積5坪トス

成績

區名	成熟期	反當子實重量	一升重
直立植	6.4	308	314
伏植	6.4	284	312

成績概要 直立植ハ伏植ニ比シ成績良好ナルヲ認メタリ

(四) 假植床肥料試験

目的 假植床ニ於ケル施肥ノ如何ガ生育收量ニ及ス影響ヲ知ラムトス



設計 假植床肥料ニ於テ速効性肥料施用區、標準肥料ノ半量施用區及標準肥料ノ倍量施用區ノ3區ニ分テ速効性肥料施用區ニ於ル含有窒素成分ハ全部硫酸アンモニヤニテ置換ヘテ施用ス

成績

區名	成熟期	反當子實重量	一升重
速効性肥料施用區	月日 6.4	斤 319	畝 312
標準肥料ノ半量施用區	6.4	306	310
標準肥料ノ倍量施用區	6.4	296	313

成績概要 假植床肥料トシテ速効性肥料ノ効果相當顯著ナルヲ認ム

(五) 播種期對定植期試験

目的 播種期並ニ定植期ノ夫々ノ關係ヲ檢定セムトス

設計 播種期ハ八月二十五日、九月一日、九月十日、九月二十五日、十月十日、十月二十五日ノ6期、定植期ハ十一月十五日、十一月三十日、十二月十五日、十二月三十日、及一月十四日ノ5期トシ此等ノ組合セニヨル30區ヲ設ケ1區面積5坪トシ大朝鮮ヲ供用セリ

成績

播種期	定植期	成熟期		反當子實重量		一升重	
		昭和九年	前四ヶ年平均	昭和九年	前四ヶ年平均	昭和九年	前四ヶ年平均
月日 8.25	月日 11.15	月日 6.4	月日 —	斤 353	斤 —	畝 310	畝 —
	11.30	6.4	—	342	—	315	—
	12.15	6.4	—	306	—	318	—
	12.30	6.4	—	271	—	314	—
	1.14	6.4	—	278	—	314	—
9.1	11.15	6.4	6.6	363	326	312	316
	11.30	6.4	6.7	302	321	314	317
	12.15	6.4	6.6	290	310	313	318
	12.30	6.4	6.7	229	282	312	316
	1.14	6.4	6.7	293	300	312	316
9.10	11.15	6.4	6.7	326	317	313	317
	11.30	6.4	6.7	361	310	315	318
	12.15	6.6	6.8	289	307	311	317
	12.30	6.7	6.8	224	264	315	317
	1.14	6.7	6.9	253	276	316	317

9.25	11.15	6.5	6.8	316	295	319	318
	11.30	6.6	6.8	272	268	319	319
	12.15	6.6	6.8	268	300	316	317
	12.30	6.7	6.9	226	278	316	317
	1.14	6.7	6.9	230	264	316	317
10.10	11.15	6.6	6.9	289	280	315	316
	11.30	6.7	6.12	244	270	324	320
	12.15	6.9	6.13	191	249	322	320
	12.30	6.9	6.13	—	242	—	319
	1.14	6.9	6.13	178	(三ヶ年平均) 199	322	(三ヶ年平均) 320
10.25	—	—	—	—	—	—	—
	11.30	6.9	6.14	199	242	315	316
	12.15	6.10	6.15	231	217	318	320
	12.30	6.10	6.15	—	181	—	321
	1.14	6.10	6.15	176	(三ヶ年平均) 162	322	(三ヶ年平均) 323

成績概要 四ヶ年平均ノ成績ヨリ考察スルニ播種期ニ於テハ九月二十五日迄ナレバ概シテ成績良好ニシテ定植期ニ於テハ十二月十五日迄ナレバ良好ナリ而シテ全區中最高收量ヲ示セルハ9月1日播、11月15日定植區ナリ

## 綠肥大豆

### 第一 品種比較試験

目的 本縣ニ最適セル優良品種ヲ選出セントス

#### (一) 麥間作品種試験

設計 各品種6坪トシ1區制トス

播種期 4月5日

播種量 9升

收穫期 6月21日

成績

品 種 名	反當生草量	反當乾草量	乾 燥 歩 止
いざり三四號	112.500	28.000	25.61
いざり四一號	214.500	44.000	20.51
いざり九六號	168.000	43.008	25.60
茶千石九號	216.000	45.792	21.20
茶千石一二號	153.000	38.250	25.00
茶千石八一號	196.500	40.872	20.80
黒千石三號	148.500	36.531	24.60
黄色秋大豆三四號	168.000	40.656	25.76
雄 基	169.500	34.784	20.52

成績概要 茶千石九號最モ優秀ニシテいざり四一號之ニ以テ成績良好ナリ

(二) 裏作品種試験

設計 各品種6坪トシ1區制トス

播種期 4月5日

播種量 9升

收穫期 6月21日

成績

品 種 名	反當生草量	反當乾草量	乾 燥 歩 止
いざり三四號	627.000	127.908	20.40
いざり四一號	600.000	109.200	18.20
いざり九六號	531.000	90.270	17.00
茶千石九號	579.000	114.642	19.80
茶千石一二號	594.000	115.237	19.40
茶千石八一號	558.000	102.168	18.30
黒千石三號	550.500	108.999	19.80
黄色秋大豆三四號	510.000	108.120	21.20
雄 基	487.500	102.375	21.00

成績概要 いざり三四號最モ優秀ニシテ茶千石九號及茶千石一二號之ニ次ギ成績良好ナリ

(三) 採種試験

設計 各品種10坪トシ1區制トス

播種期 7月4日

播種法 畦間2尺株間1尺2-3粒宛點播ス

成績

品 種 名	收 穫 期	一 升 重	反 當 收 量
いざり三四號	11.29	360	1.610
いざり四一號	11.29	361	1.672
いざり九六號	11.29	359	1.823
茶千石九號	11.29	359	1.771
茶千石一二號	11.29	356	1.879
茶千石八一號	11.29	363	1.636
黒千石三號	11.29	359	1.615
黒千石(宮崎)	11.29	363	1.286
黒千石(静岡)	11.29	360	1.182
黄色秋大豆三四號	11.29	358	2.392
茶 豆	11.29	359	2.087

成績概要 以上ノ成績ヲ通覽スルニ綠肥トシテモ相當優良ニシテ採種量モ比較的多キハ茶千石九號及黄色秋大豆三四號ナリ

第二 採種栽培法ニ關スル試験

(一) 栽植ノ距離ニ關スル試験

目的 栽植距離ノ差ガ收量ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラムトス

設計 各區10坪トシ畦幅2尺、株間5寸、1尺-1.5尺、2尺-2.5尺ノ5種トシ

各區共2本立、4本立ノ2種ニ分チ尙別ニ條播3升播區ヲ設ク

供試品種 茶千石九號

成績

區 名	一 升 重			反 當 收 量			千粒重
	昭和八年	昭和九年	二ヶ年平均	昭和八年	昭和九年	二ヶ年平均	
條 播 (三 升 播)	360	358	359	1.327	1.588	1.458	23.6
畦幅二尺・株間五寸・二本立	359	355	357	1.208	1.241	1.225	24.5
畦幅二尺・株間五寸・四本立	360	357	359	1.132	1.523	1.328	25.7
畦幅二尺・株間一尺・二本立	363	357	360	1.029	1.341	1.185	25.9
畦幅二尺・株間一尺・四本立	361	356	359	1.270	1.862	1.566	26.2
畦幅二尺・株間一尺五寸・二本立	360	359	360	0.958	1.335	1.147	27.5
畦幅二尺・株間一尺五寸・四本立	364	357	361	1.053	1.598	1.326	26.9
畦幅二尺・株間二尺・二本立	357	356	357	1.102	1.143	1.123	27.3
畦幅二尺・株間二尺・四本立	359	357	358	1.124	1.245	1.185	27.1

畦幅二尺・株間二尺五寸・二本立	356	356	356	1.003	0.967	0.985	28.9
畦幅二尺・株間二尺五寸・四本立	358	358	358	1.138	1.243	1.191	28.8

成績概要 以上ノ成績ヨリ見ルニ一般ニ株間距離狭キモノ收量多ク4本立ハ3本立ニ勝ルヲ認ム、尙株間ノ廣クナルニ從ヒ粒ノ大キクナルヲ認ム

## 食用大豆

### 第一 品種比較試験

#### (一) 品種比較試験

目的 本縣ニ最適セル優良品種ヲ選出セムトス

設計 各品種10坪トシ1區制トス

播種期 7月4日

播種法 畦間2尺、株間1尺、2—3粒宛點播ス

成績

品種名	收穫期	一升重	反當收量	粒ノ大小	品質
岡大豆	11.29	360	2.105	中ノ小	中
秋大豆	11.29	361	1.573	中ノ大	上
共進會一號	11.29	360	1.953	中	上
高瀬豆	11.29	360	1.312	中	中
土喰	11.29	360	1.828	中	上

成績概要 收量最モ多キハ岡大豆ナレドモ品質劣ル收量品質共ニ優秀ナルハ共進會一號及土喰ナリト認ム

## 苧 麻

### 第一 調査成績

#### (一) 收量調査

設計 標準栽培第八年目成園一畝歩ヲ供用ス

供用品種 白皮種

成績

收穫期	反當乾燥纖維量			計
	四尺以上	三尺以上	二尺以下	
7.6	21.600	1.300	—	22.900
8.31	24.146	1.140	0.120	25.406
10.26	—	7.830	—	7.830
計	43.746	10.270	0.120	56.136

### (二) 勞力調査

收穫期	草丈	乾燥纖維量	反當所要延時間(女)				計
			刈取	脱葉	選別	剥皮及乾燥	
8.31	7.10	25.406	150	275	125	270	820

## 原種圃及採種圃

水稻、麥、青刈大豆、ノ原種圃並菜種採種圃ハ縣獎勵品種ノ増殖ヲ圖ルタメ之レガ經營ヲ行ヒ、水稻、麥、青刈大豆ノ種子ハ市町村組合採種圃用原種トシテ配付シ菜種種子ハ一般農家ノ栽培用種子トシテ配付ヲナス、而シテ尙殘餘アル場合ハ試作用トシテ農學校及農事改良ヲ目的トスル各種團體ニ少量宛配付ス

### 第一 水稻

#### (一) 原々種育成

目的 原種ニ供スベキ優良種子ノ維持繁殖ニアリ

設計 品種數八品種、施肥量標準肥料ノ一割減、畦幅株間早生、中生9寸×5寸

晩生9寸×6寸、一株本數1本、其ノ他ノ耕種方法ハ標準栽培ニ準ズ

成績 作付反別及採種量

品種名	作付反別	採種量
早生	穀良都 30	斗合坪 1.8.0
	銀坊主 40	2.5.0
	大分辨慶一號 40	2.5.0
中生	大分雄町五〇號 40	2.8.0
	旭 40	3.0.0
晩生	大分三井一二〇號 80	6.0.0
	大分永興一號 40	2.8.0
	高崎糯一五〇號 40	2.8.0
計	神力糯 30	1.5.0
計	380	25.7.0

(二) 原種育成

目的 市町村内組合採種圃用原種ヲ育成配付スルニアリ

設計 原々種育成ノ場合ト同様トス

成績 1 原種圃作付反別、生産數量及配付數量

品 種 名	作付反別	生産總量	配 付 數 量		
			採種圃	其 他	計
早生 { 穀 良 都 銀 坊 主 大分辨慶一號	反 畝 歩 700	石斗升合 2.520	石斗升合 2.505	石斗升合 9	石斗升合 2.514
	3.800	13.300	12.608	11	12.619
	1.500	5.250	4.488	49	4.537
中 生 { 大分雄町五〇號 旭	1.000	3.500	3.314	62	3.376
	2.000	7.000	6.412	146	6.558
	20.700	74.520	71.176	521	71.697
大分永興一號	500	1.750	1.494	38	1.532
高崎糯一五〇號	2.300	6.900	6.593	84	6.677
神 力 糯	500	1.500	917	47	964
計	33.000	116.240	109.507	967	110.474

2 郡市別配付數量 (採種圃配付分)

品種別 郡市別	穀良都	銀坊主	大分辨慶一號	大分雄町五〇號	旭	大分三井一二〇號	大分永興一號	高崎糯一五〇號	神力糯	計
	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合	石斗升合
西國東郡	33	196	110	32	398	4.376	10	285	124	5.564
東國東郡	—	150	130	76	552	4.618	748	6.35	44	6.453
速見郡	192	1.376	780	172	790	5.910	74	543	84	9.921
大分郡	33	484	352	160	82	11.864	30	1.070	132	14.207
北海部郡	—	—	36	52	416	7.984	146	552	14	5.000
南海部郡	—	44	40	48	304	2.496	506	425	96	3.959
大野郡	—	241	142	442	128	11.094	228	433	104	12.812
直入郡	403	3.658	1.309	1.006	1.006	3.696	20	327	87	11.572
玖珠郡	1.633	4.614	382	374	216	60	—	249	—	7.528
日田郡	156	796	407	160	504	3.484	64	228	98	5.897
下毛郡	22	416	341	606	366	6.062	20	529	—	8.362
宇佐郡	33	615	437	158	1.124	11.676	20	1.057	121	15.241
大分市	—	—	—	—	124	798	116	112	—	1.150
別府市	—	18	22	28	52	44	12	22	13	211
中津市	—	—	—	—	290	1.014	—	126	—	1.430
計	2.505	12.308	4.488	3.314	6.412	71.176	1.494	6.593	917	109.507
配付歩合	% 2.3	% 11.5	% 4.1	% 3.0	% 5.9	% 65.0	% 1.4	% 6.0	% 0.8	% 100

備考 1 耕種方法ハ當場原種栽培ニ準ズ

5 反當播種量ハ晩生 2 升早生及糯ハ2.5升ノ割合ニ配付ス

3 採種圃 1 畝歩ヲ以テ普通作 1 町歩ヲ更新スルモノトス

4 本年度交付原種ヲ以テ來年度分46,400町歩ヲ更新セシムル見當ナリ

第 二 麥 類

(一) 原々種育成

目的 水稻ニ全ジ

設計 品種數大麥一品種、稈麥四品種、小麥四品種施肥量、標準栽培ノ一割減、

畦幅 5 尺 2 條株間 4 寸千鳥 = 1 粒點播、其他ノ耕種方法ハ標準栽培ニ準ズ

成績 作付反別及採種量

品 種 名	作 付 反 別	採 種 量
大 麥 改 良 大 麥	20	斗升合 80
稈麥 { 大分膝八五號 大分捻一〇號 コ ビ ン 大 分 稈	90	320
	180	560
	180	550
	120	420
計	570	1.850
小麥 { 大分伊賀筑後五〇號 白 坊 主 大分小麥一號 白 坊 主	280	820
	100	310
	120	400
計	740	1.980

(二) 原種育成

目的 水稻ニ全ジ

設計 品種數、施肥量ハ原々種ト全様畦幅 5 尺 2 條ノ反當 2 升播、其他ノ耕種方

法ハ標準栽培ニ準ズ

成績 (1) 原種圃作付反別、生産數量及配付數量

品 種 名	作付反別	生産總量	配 付 數 量		
			採種圃	其 他	計
大 麥 改 良 大 麥	反 畝 歩 1.000	石斗升合 2.050	石斗升合 2.023	石斗升合 3	石斗升合 2.026

稗麥	大分膝八五號	4.713	7.930	7.660	256	7.925
	コンピ	9.805	13.720	12.840	148	12.988
	大分捻一〇號	10.407	15.750	15.280	18	15.298
	大分稗	6.315	11.080	10.696	116	10.812
計		31.310	48.480	46.476	547	47.023
小麥	大分伊賀筑後五〇號	18.903	27.500	27.352	74	27.426
	早坊主	10.019	13.300	11.900	23	11.923
	大分小麥一號	10.601	15.600	14.656	108	14.754
	白坊主	17.029	22.500	22.430	19	22.449
計		56.622	78.900	76.338	224	76.562

(2) 郡市別配付數量(稗麥、大麥採種圃配付分)

郡市別	品種別	大分膝八五	コンピ	大分捻一〇號	大分稗	稗計	改良大麥
西國東郡	石斗升合	200	850	450	1.150	2.650	石斗升合 224
東國東郡		276	870	1.240	755	3.141	16
速見郡		880	402	1.580	1.053	3.915	108
大分郡		1.550	1.286	2.058	2.123	7.117	64
北海部郡		278	1.458	1.332	1.541	4.609	24
南海部郡		130	1.026	794	233	2.183	—
大野郡		1.284	2.728	2.394	780	7.186	57
直入郡		440	280	750	369	1.839	247
玖珠郡		120	1.060	660	280	2.120	176
日田郡		970	1.264	1.048	562	3.844	88
下毛郡		776	262	588	651	2.277	106
宇佐郡		426	1.094	1.486	958	3.964	817
大分市		40	260	700	170	1.170	—
別府市		50	—	60	71	181	—
中津市		140	—	140	—	280	96
計		7.660	12.840	15.280	10.696	46.476	2.023
配付歩合		16.7%	27.5%	32.8%	23.0%	100%	—

(小麥採種圃配付分)

郡市別	品種別	大分伊賀筑後五〇號	早坊主	大分小麥一號	白坊主	計
西國東郡	石斗升合	320	636	1.734	3.016	石斗升合 5.706

東國東郡	1.526	298	2.038	2.892	6.754
速見郡	1.498	1.142	1.366	1.336	5.342
大分郡	6.018	1.386	2.200	1.602	11.206
北海部郡	1.498	510	1.112	1.378	4.498
南海部郡	974	312	356	444	1.786
大野郡	4.500	2.032	1.472	2.592	10.626
直入郡	2.278	1.300	128	1.138	4.844
玖珠郡	1.934	570	30	120	2.654
日田郡	1.804	254	526	392	2.976
下毛郡	1.568	2.062	962	2.136	6.728
宇佐郡	3.082	830	1.972	4.674	10.558
大分市	600	30	320	110	1.060
別府市	52	68	40	—	160
中津市	—	440	400	600	1.440
計	27.352	11.900	14.656	22.430	76.338
配付歩合	35.8%	15.6%	19.2%	29.4%	100%

- 備考 1、耕種方法ハ當場原種栽培ニ準ズ  
 2、反當播種量2升ノ割合ニ配付ス  
 3、採種圃1畝歩ヲ以テ普通作3反6畝歩ヲ更新スルモノトス  
 4、本年度交付原種ヲ以テ來年度大麥375町歩稗麥6、66町歩、小麥10、800町歩ヲ更新セシムル見込ナリ

第三 菜 種

(一) 原 種 育 成

目的 採種圃用優良原種ヲ育成スルニアリ  
 設計 品種數早生一品種晚生一品種施肥料標準栽培ノ1割減、畦幅5尺ノ2條植、株間早生2尺×1.5尺晚生2尺×2尺ノ千鳥植、開花前品種固有ノ形狀、性質ヲ有スル株ヲ選定シ貸掛ケヲナシ自花受精ヲ行ハシム、其ノ他ノ耕種方法ハ標準栽培ニ準ズ

成績 作付反別及採種量

品 種 名	作 付 反 別	採 種 量
不 二	採種圃 4反歩ノ内ヨリ 10株程選定ス	4
大 朝 鮮	採種圃 6反歩ノ内ヨリ 15株程選定ス	6
計	25株	10

(二) 採種圃經營

目的 一般當業者ノ栽培用種子ヲ育成配付スルニアリ

設計 原種育成ノ場合ニ準ジ袋掛ケヲ行ハザルタメ雜交ヲ防グ爲メ場所ノ選定ニ注意スル

成績 (1) 作付反別及採種量

品 種 名	作付反別	生産總量	配 付 數 量		
			一般配付	特別配付	計
不 二	反 畝 歩 4.000	石斗升合 5.200	5.1407	—	石斗升合 5.1407
大 朝 鮮	6.000	6.600	4.0512	—	4.0512
計	10.000	11.800	9.1916	—	9.1912

(2) 郡市別配付數量

郡 市 別	品 種 別	不 二	大 朝 鮮	計
西 國 東 郡		石斗升合 258	石斗升合 3.100	石斗升合 3.358
東 國 東 郡		1.950	3.440	5.390
速 見 郡		1.503	2.112	3.615
大 分 郡		360	3.972	4.332
北 海 部 郡		150	980	1.130
南 海 部 郡		318	1.272	1.590
大 野 郡		12.500	7.052	19.552
直 入 郡		26.781	3.352	30.133
玖 珠 郡		4.554	2.632	7.186
日 田 郡		1.338	4.012	5.350
下 毛 郡		1.215	2.324	3.539
字 佐 郡		480	5.664	6.144
大 分 市		—	—	—
別 府 市		—	—	—
中 津 市		—	600	600
計		51.407	40.512	91.919
配 付 歩 合		55.9%	44.1%	100%

- 備考 1、耕種方法ハ當場採種圃經營方法ニ準ズ  
 2、反當播種量ハ不二3勺大朝鮮5勺ノ割合ニ配付ス  
 3、本年度配付セル種子ヲ以テ不二1,714町大朝鮮810町計2,524町ヲ栽培ス

第 四 青 刈 大 豆

(一) 原種育成

目的 市町村內組合採種圃用原種ヲ育成スルニアリ

設計 品種數一品種、施肥量反當過磷酸石灰6貫硫酸加里1.5貫畦幅2尺株間1尺3粒點播、播種7月上旬 收穫11月中旬

成績 (1) 作付反別及採種量

品 種 名	作付反別	生産總量	配 付 數 量		
			採種圃	其 他	計
茶 千 石 九 號	反 畝 歩 5.000	石斗升合 4500	石斗升合 3230	石斗升合 1062	石斗升合 4292

(2) 郡市別配付數量(採種圃分)

郡 市 別	茶千石九號	郡 市 別	茶千石九號	郡 市 別	茶千石
西 國 東 郡	斗升 15	南 海 部 郡	斗升 15	下 毛 郡	斗升 15
東 國 東 郡	75	大 野 郡	53	字 佐 郡	30
速 見 郡	45	直 入 郡	15	大 分 市	7.5
大 分 郡	45	玖 珠 郡	30	別 府 市	—
北 海 部 郡	30	日 田 郡	15	中 津 市	—
計	323.0				

- 備考 1、耕種方法ハ當場原種栽培ニ準ズ  
 2、反當播種量ハ2升ノ割合ニ配付ス

第 五 其 他

陸稻、黃麻ノ優良品種ヲ一般當業者ニ普及セシメシガタメ圃場ノ一部ヲ利用シテ左記品種ヲ育成シ採種用原種トシテ配付ス

- (一) 陸稻 早凱旋糯、美濃糯、凱旋糯、浦三(梗)  
 (二) 黃麻 大分青皮一號

## 農藝化學部

## 肥料試験ニ關スル事項

## 水 稻

## 第一 圃場試験

## (一) 三要素試験 (大正十四年開始)

目的 當場土壤ノ地力ヲ檢知セントス

設計 反當各要素2貫ヲ硫安、過石及ビ硫加ニテ施用ス尙本年度ヨリ完全石灰區  
無肥料石灰區窒素單用區窒素單用堆肥區及ビ完全堆肥區ヲ新設セリ、石灰ハ反  
當25貫堆肥ハ反當300貫ヲ施用ス

成績 (品種大分三井一區制7.5坪)

區名	出穂期 月日	成熟期 月日	成熟期調査		玄米 一升重	反當收穫量			米質	玄米 四ヶ年 平均
			稈長	穗數		生葉	籾	玄米		
無肥料區	9.5	11.4	76.4	7	397	186	2.420	1.709	四・上	1.831
無窒素區	9.4	11.4	82.2	9	399	253	3.502	2.032	三・中	2.214
無磷酸區	9.4	11.4	93.9	14	395	438	5.300	3.323	四・下	3.356
無加里區	9.4	11.6	99.1	15	401	418	4.870	3.000	四・上	3.045
完全區	9.5	11.7	99.6	13	396	488	5.728	3.595	三・下	3.578
無肥料石灰區	9.4	11.4	88.6	11	395	333	4.009	2.500	四・上	—
完全石灰區	9.4	11.7	106.6	13	394	500	5.741	3.623	四・中下	—
窒素單用區	9.5	11.7	97.2	12	394	499	5.600	3.526	四・中	—
窒素單用堆肥區	9.5	11.7	89.7	10	395	430	5.105	3.226	四・上	—
完全堆肥區	9.5	11.7	101.3	15	395	469	5.396	3.419	四・中下	—

## (二) 裏作殘効試験 (昭和七年開始)

目的 水田裏作跡地ニ於ケル殘効ヲ檢知セントス

設計 水稻ニ對シ各區共反當窒素1.5貫磷酸1.0貫加里1.7貫ヲ硫安、過石及ビ硫  
加ニテ施用ス

裏作設計及ビ收量(一區制7.5坪)

區名	品 種	反當施用量			反當收穫量		子實 三ヶ年 平均
		窒素	磷酸	加里	生 稈	子 實	
裸麥區	大 分 捻	2.0	2.0	2.0	158	3.470	2.586
小麥區	伊 賀 筑 後	2.0	2.0	2.0	450	3.620	2.906

菜種區	大朝鮮	2.0	2.0	2.0	—	2.250	1.945
綠肥區	ザートウイツケン	2.0	2.0	2.0	982	—	812(實)

表作成績 (品種大分三井一區制7.5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		玄米一升重	反當收穫量			米質	玄米平均
			稈長	穗數		生葉	籾	玄米		
稗麥區	9.4	11.4	93.6	13	405	495	5.382	3.341	三・下	3.282
小麥區	9.4	11.4	95.8	15	403	494	5.206	3.232	三・中	3.239
菜種區	9.4	11.5	98.7	15	402	541	5.884	3.436	四・上	3.318
綠肥區	9.5	11.6	99.7	14	403	556	5.624	3.343	四・中下	3.487

(三) 三要素配合量比較試験 (昭和八年開始)

目的 三要素配合量ヲ變更シテ米質及ビ收量増進上好適ナル標準量ヲ査定セントス

設計 硫安、過石及ビ硫加ヲ施用シテ次表ノ如ク配合ス

區名	三要素施用量 (反當)			里
	窒素	磷酸	加	
窒素 1.5 貫區	1.5	1.0	3.5	
窒素 2.0 貫區	2.0	1.0	3.0	
窒素 2.5 貫區	2.5	1.0	2.5	
窒素 3.0 貫區	3.0	1.0	2.0	
窒素 3.5 貫區	3.5	1.0	1.5	
窒素 4.0 貫區	4.0	1.0	1.0	

成績 (品種大分三井一區制7.5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		玄米一升重	反當收穫量			米質	玄米平均
			稈長	穗數		生葉	籾	玄米		
窒素1.5貫區	9.3	11.5	91.3	12	400	389	4.569	2.751	四・上	2.842
窒素2.0貫區	9.3	11.5	91.8	13	401	421	4.802	2.848	四・中	3.017
窒素2.5貫區	9.4	11.5	94.1	14	401	484	5.364	3.232	四・上	3.245
窒素3.0貫區	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
窒素3.5貫區	9.4	11.5	98.6	15	402	437	5.424	3.226	四・中下	3.465
窒素4.0貫區	9.5	11.7	103.2	15	403	464	5.450	3.254	四・上	3.025

備考 窒素3.0貫區ハ事故ノタメ成績ヲ得ズ

(四) 肥料連用試験 (昭和九年開始)

目的 化學肥料並ニ有機肥料ノ連用ガ水稻ノ收量品質及ビ土壤成分ニ及ボス影響

ヲ檢知セントス

設計 次表ノ配合ニ依リ各區共窒素2.5貫磷酸1.5貫加里2.0貫トナス

區名	施 肥 量 (反當)								
	堆肥	青刈大豆	硫安	大豆粕	下肥	強過石	籾	骨粉	硫加
標準肥料區	300	—	4.35	3.0	—	3.60	—	—	1.20
化學肥料區	—	—	12.50	—	—	7.50	—	—	4.00
有機肥料區	300	—	—	7.5	—	—	5.0	2.6	1.04
自給肥料區	100	200	—	—	200	3.25	—	—	—

成績 (品種大分三井一區制8.0坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		玄米一升重	反當收穫量			米質
			稈長	穗數		生葉	籾	玄米	
標準肥料區	9.5	11.7	97.5	14	398	464	5.183	3.284	四・中下
無機肥料區	9.5	11.8	103.2	18	399	587	6.324	3.998	四・中下
有機肥料區	9.5	11.7	93.9	12	399	475	5.600	3.468	四・上
自給肥料區	9.5	11.8	104.5	17	399	551	5.987	3.825	四・中

(五) 速成堆肥肥効比較試験 (昭和九年開始)

目的 稻藁ヲ材料トシ硫安、石灰窒素及ビ下肥ヲ窒素源トシタル速成堆肥ト稻藁ノ肥効ヲ比較セントス

設計

區名	施 肥 量 (反當)				
	堆肥	稻藁	硫安	過石	硫加
稻藁區	—	150	5.0	5.0	2.0
硫安堆肥區	300	—	5.0	5.0	2.0
石灰窒素堆肥區	300	—	5.0	5.0	2.0
下肥堆肥區	300	—	5.0	5.0	2.0

成績 (品種大分三井一區制6.0坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		玄米一升重	反當收穫量			米質
			稈長	穗數		生葉	籾	玄米	
稻藁區	9.5	11.6	92.7	11	400	408	4.789	3.000	四・上
硫安堆肥區	9.4	11.7	94.2	12	399	443	5.134	3.180	三・下
石灰窒素堆肥區	9.4	11.7	94.5	13	398	491	5.507	3.430	四・中
下肥堆肥區	9.4	11.6	93.7	12	400	445	5.132	3.203	三・中下



(六) 青刈大豆施用量試験 (昭和九年開始)

目的 青刈大豆ノ施用量ガ收量及ビ品質ニ及ボス影響ヲ檢知セントス  
設計 自一區至五區ハ各要素量ヲ一定トシ自六區至十區ハ青刈大豆量トシテ變更ス

區名	施 肥 量 (反當)					
	青刈大豆	大豆粕	硫安	強過石	硫加	石灰
無青刈大豆區	—	33.333	0.5	7.84	2.87	—
青刈大豆100貫區	100	25.000	0.5	7.88	2.15	5
青刈大豆200貫區	200	16.667	0.5	7.92	1.43	10
青刈大豆300貫區	300	8.333	0.5	7.96	0.72	15
青刈大豆400貫區	400	—	0.5	8.00	—	20
青刈大豆100貫區	100	—	2.5	7.00	2.40	5
青刈大豆200貫區	200	—	2.5	7.00	2.40	10
青刈大豆300貫區	300	—	2.5	7.00	3.40	15
青刈大豆400貫區	400	—	2.5	7.00	2.40	20
青刈大豆500貫區	500	—	2.5	7.00	2.40	25

成績 (品種大分三井一區制7.5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		玄米 一升重	反當收穫量			米質
			稈長	穗數		生藁	粗	玄米	
無青刈大豆區	9.3	11.7	85.7	9	393	360	4.090	2.574	四・上
青刈大豆100貫區	9.3	11.7	94.9	14	364	418	4.568	2.867	四・上
青刈大豆200貫區	9.4	11.7	102.5	14	396	517	5.122	3.330	四・中上
青刈大豆300貫區	9.3	11.7	90.4	12	394	371	4.264	2.702	四・中上
青刈大豆400貫區	9.3	11.7	92.2	13	400	402	4.497	2.790	四・中上
青刈大豆100貫區	9.3	11.7	92.8	10	394	351	4.082	2.567	四・中
青刈大豆200貫區	9.3	11.7	88.3	10	395	360	4.010	2.525	四・中
青刈大豆300貫區	9.4	11.7	87.9	9	395	339	4.060	2.572	四・中下
青刈大豆400貫區	9.3	11.7	90.3	12	397	425	4.720	2.985	四・中下
青刈大豆500貫區	9.4	11.7	95.5	10	393	413	5.781	3.614	四・下

第二 框 試 驗

(一) 火山灰質腐植土石灰用量試験(昭和八年開始)

目的 火山灰質腐植土ニ於ケル石灰ノ影響ヲ檢知セントス  
設計 四分ノ一坪「コンクリート」框(無底)各區共通ニ窒素6.4瓦磷酸9.6瓦加里3.0瓦ヲ硫安、過石及ビ硫加ニテ施用シ消石灰量ヲ變更ス

成績 (品種大分三井一區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量			玄米 二ヶ年 平均
			稈長	穗數	生藁	粗	玄米	
無石灰區	9.2	11.2	80.4	9	1443.8	401.2	345.0	330.0
石灰31瓦區	9.2	11.2	81.6	10	1301.3	416.3	348.8	330.0
石灰62瓦區	9.2	11.2	82.7	10	1383.8	363.8	315.0	345.0
石灰93瓦區	9.2	11.2	80.9	9	1376.3	397.5	333.8	360.0
石灰124瓦區	9.2	11.2	82.6	9	1432.5	408.8	348.8	356.3
石灰155瓦區	9.2	11.2	83.1	9	1323.8	375.0	315.0	341.3

(二) 火山灰質腐植土ニ於ケル硅酸鹽加用試験(昭和九年開始)

目的 活性二三酸化物ニ富ミ石灰ヲ加用スルモ磷酸ノ溶解度ヲ増加セザル火山灰質腐植土ニ對シ硅酸鹽ノ効果ヲ檢知セントス  
設計 四分ノ一坪「コンクリート」框(無底)ニ次表ノ如ク施用ス

區名	施 用 量 (一框當)				
	硅酸曹達	堆肥	硫安	強過石	硫加
無硅酸區	—	—	55.0	31.1	12.4
硅酸6.1瓦區	6.1	—	55.0	31.1	12.4
磷倍硅酸6.1瓦區	6.1	—	55.0	62.2	12.4
硅酸12.2瓦區	12.2	—	55.0	31.1	12.4
磷倍硅酸12.2瓦區	12.2	—	55.0	62.2	12.4
堆肥無硅酸區	—	937.5	49.1	24.2	5.6
堆肥硅酸6.1瓦區	6.1	937.5	49.1	24.2	5.6
堆肥磷倍硅酸6.1瓦區	6.1	937.5	49.1	48.4	5.6
堆肥硅酸12.2瓦區	12.2	937.5	49.1	24.2	5.6
堆肥磷倍硅酸12.2瓦區	12.2	937.5	49.1	48.4	5.6

成績 (品種大分三井一區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量		
			稈長	穗數	生藁	粗	玄米
無硅酸區	9.7	11.4	77.9	12	716.3	300.0	255.0
硅酸6.1瓦區	9.5	11.4	86.4	12	1278.8	536.3	450.0
磷倍硅酸6.1瓦區	9.5	11.4	87.2	13	1286.3	495.0	423.8
硅酸12.2瓦區	9.5	11.4	88.1	17	1563.8	525.0	461.3
磷倍硅酸12.2瓦區	9.5	11.5	91.7	17	1631.3	528.8	450.0
堆肥無硅酸區	9.6	11.4	78.5	10	806.3	341.3	285.0

堆肥硅酸 6.1 瓦區	9.6	11.4	85.6	11	105.0	449.5	375.0
堆肥磷倍硅酸 6.1 瓦區	9.5	11.4	87.3	12	1252.5	450.0	375.0
堆肥硅酸 12.2 瓦區	9.5	11.5	85.6	13	1338.8	461.3	378.8
堆肥磷酸倍硅酸 12.2 瓦區	9.5	11.5	86.3	14	1488.8	577.5	491.3

(三) 石灰窒素施用量試験(昭和九年開始)

目的 各土性ニツキ堆肥施用又ハ無施用ノ場合ニ於ケル石灰窒素、施用量ノ影響ヲ檢知セントス

設計 四分ノ一坪「コンクリート」框(無底)ニ次表ノ如ク施用ス

區名	施 用 量 (一框當)				
	堆 肥	石灰窒素	硫 安	強 過 石	硫 加
無 窒 素 區	—	—	—	31	12.4
無 窒 素 堆 肥 區	937.5	—	—	31	12.4
窒 素 1.2 貫 區	—	18.8	—	31	12.4
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	937.5	18.8	—	31	12.4
窒 素 2.4 貫 區	—	37.6	—	31	12.4
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	937.5	37.6	—	31	12.4
窒 素 3.6 貫 區	—	56.4	—	31	12.4
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	937.5	56.4	—	31	12.4
窒 素 4.8 貫 區	—	75.2	—	31	12.4
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	937.5	75.2	—	31	12.4

備考 黒土ニ對シテハ各區共磷酸量ヲ強過石ニテ47瓦トス  
成績 (品種大分三井一區制)

砂 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量			米質
			稈長	穗數	生 藁	粃	玄 米	
無 窒 素 區	9.4	11.4	75.2	8	870.0	292.5	240.0	三・下
無 窒 素 堆 肥 區	9.5	11.4	78.9	10	1061.3	397.5	345.0	四・上
窒 素 1.2 貫 區	9.3	11.4	84.6	14	1226.3	405.0	341.3	三・中
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	9.4	11.4	87.1	11	1297.5	442.5	378.8	四・上
窒 素 2.4 貫 區	9.3	11.4	86.3	14	1316.3	408.8	352.5	二・下
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	9.5	11.4	88.8	17	1721.3	592.5	502.5	二・下
窒 素 3.6 貫 區	9.4	11.4	89.9	18	1905.0	588.8	510.0	三・中
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	9.6	11.4	92.2	17	1950.0	690.0	596.3	三・上
窒 素 4.8 貫 區	9.5	11.5	89.9	18	1567.5	525.0	446.3	四・下
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	9.7	11.5	93.5	18	2145.0	746.3	145.0	三・上

埴 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量			米質
			稈長	穗數	生 藁	粃	玄 米	
無 窒 素 區	9.5	11.4	77.0	7	753.8	300.0	255.0	三・下
無 窒 素 堆 肥 區	9.4	11.4	78.4	7	313.8	281.3	202.5	三・下
窒 素 1.2 貫 區	9.4	11.4	82.3	11	1248.8	435.0	360.0	三・上
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	9.4	11.4	85.0	12	1443.8	442.5	375.0	三・下
窒 素 2.4 貫 區	9.5	11.5	86.3	12	1402.5	491.3	382.5	三・上
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	9.5	11.5	86.9	14	1725.0	543.8	468.8	三・上
窒 素 3.6 貫 區	9.5	11.5	91.1	16	1691.3	498.8	420.0	四・下
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	9.5	11.6	90.5	17	1908.8	570.0	483.8	三・上
窒 素 4.8 貫 區	9.5	11.5	92.3	17	1792.5	570.0	483.8	二・中
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	9.7	11.7	96.9	21	2471.3	720.0	618.8	三・上

黒 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量			米質
			稈長	穗數	生 藁	粃	玄 米	
無 窒 素 區	9.4	11.6	75.1	8	810.0	251.3	217.5	三・中
無 窒 素 堆 肥 區	9.4	11.6	75.9	9	933.8	285.0	247.5	四・中
窒 素 1.2 貫 區	9.5	11.5	80.3	10	1087.5	337.5	285.0	四・中
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	9.5	11.5	79.2	11	1027.5	356.3	307.5	四・中
窒 素 2.4 貫 區	9.5	11.5	85.1	15	1346.3	397.5	337.5	四・中
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	9.6	11.5	83.2	11	1080.0	333.8	285.0	四・中
窒 素 3.6 貫 區	9.7	11.5	84.1	15	1361.3	528.8	450.0	三・下
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	9.6	11.5	90.4	17	1635.0	532.5	453.8	四・中
窒 素 4.8 貫 區	9.7	11.5	88.7	17	1695.0	588.8	510.0	三・下
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	9.7	11.6	93.0	16	1965.0	618.8	532.5	三・下

壤 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量			米質
			稈長	穗數	生 藁	粃	玄 米	
無 窒 素 區	9.7	11.7	66.3	8	723.8	300.0	255.0	三・下
無 窒 素 堆 肥 區	9.4	11.7	76.3	8	771.3	300.0	247.5	四・中
窒 素 1.2 貫 區	9.5	11.4	75.6	8	750.0	255.0	217.5	三・下
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	9.4	11.4	78.0	8	795.0	281.3	236.3	四・上
窒 素 2.4 貫 區	9.4	11.4	78.4	9	870.0	266.3	236.3	四・下
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	9.4	11.4	80.9	13	1008.8	326.3	270.0	三・下

窒素 3.6 貫 區	9.4	11.4	81.5	15	1173.8	457.5	393.8	三・中
窒素3.6貫堆肥區	9.4	11.4	84.8	14	1200.0	341.3	292.5	四・下
窒素 4.8 貫 區	9.4	11.5	83.2	18	1676.3	483.8	412.5	三・中
窒素4.8貫堆肥區	9.5	11.6	90.1	14	1871.3	461.3	390.0	三・中

### 第三ポット試験

(一) 窒素質肥料肥効比較試験(昭和八年開始)

目的 新肥料及び有機質窒素肥料ノ窒素肥効ヲ比較セントス

設計 二萬分ノ一「ポット」當磷酸<sup>1</sup>瓦ヲ過石、加里一瓦ヲ硫加ニテ施用シ窒素ハ各肥料ニテ1瓦施用ス

成績 (品種大分三井三區又ハ二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		二ヶ年平均
			稈長	穂數	葉	穀	
無窒素區	9.8	11.8	67.3	5	19.4	15.1	18.6
硫安區	9.11	11.12	89.8	26	96.5	65.1	80.4
石灰窒素區	9.9	11.19	86.0	16	75.6	56.0	69.4
アンモホス區	9.9	11.9	92.1	17	81.4	59.0	70.2
ブラナホス區	9.12	11.9	84.4	20	80.3	59.0	62.0
ニトロホスカ區	9.9	11.8	80.3	15	66.9	43.3	45.3
ロイナホス區	9.10	11.11	79.9	20	78.2	56.8	59.1
みくに化成區	9.12	11.12	84.1	15	72.3	54.7	57.8
みづほ化成區	9.12	11.12	84.1	19	78.9	50.8	57.7
まきは化成區	9.12	11.12	83.1	16	76.7	54.2	61.1
こづち化成區	9.13	11.12	82.2	13	76.4	51.4	58.9
巴特許區	9.13	11.12	84.8	16	78.2	55.2	57.1
尿素區	9.10	11.8	84.5	14	78.4	47.3	50.1
大豆粕區	9.8	11.8	90.5	18	80.2	61.5	59.3
菜種粕區	9.8	11.8	84.2	15	87.4	63.7	59.2
鱈粕區	9.8	11.8	84.2	16	68.0	47.9	53.2
蠶蛹粕區	9.7	11.8	85.3	14	68.9	50.5	53.9
鶏糞區	9.7	11.8	80.0	13	56.1	41.1	48.0
骨粉區	9.5	11.8	78.6	7	35.4	28.3	32.2
米糠區	9.7	11.9	87.0	16	72.9	59.0	57.4
智利硝石區	9.8	11.8	73.1	11	65.8	44.3	—
グアノ區	9.8	11.8	81.2	16	66.1	48.5	—

硫磷安區	9.7	11.9	88.6	20	85.5	63.9	—
堆肥區	9.7	11.9	81.0	7	28.6	26.4	—

備考 智利硝石區、グアノ區硫磷安區及ビ堆肥區ノ四區ハ本年度ヨリ新設ス

(二) 磷酸質肥料肥効比較試験(昭和八年開始)

目的 火山灰質腐植土ニ於テ磷酸質肥料ノ磷酸肥効ヲ比較セントス

設計 窒素質肥料肥効比較試験ニ準ズ

成績 (品種大分三井二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		二ヶ年平均
			稈長	穂數	葉	穀	
無磷酸區	9.10	11.12	69.0	6	14.4	10.3	25.4
過石區	9.7	11.8	82.0	15	74.1	49.6	47.0
磷酸アルミナ區	9.8	11.8	88.2	14	67.8	46.6	45.4
骨粉區	9.7	11.9	88.8	13	73.8	44.6	49.3
鶏糞區	9.8	11.12	90.5	11	50.9	47.2	46.0
米糠區	9.11	11.12	76.6	8	25.9	21.8	30.0
硫磷安區	9.10	11.12	90.6	16	68.5	43.4	—

(三) 石灰窒素施用時期試験(昭和八年開始)

目的 石灰窒素施用ノ最適ナル時期ヲ檢知シ併セテ硫安及ビ大豆粕ト比較セントス

設計 二萬分ノ一ポット當窒素<sup>1</sup>瓦ヲ石灰窒素硫安及ビ大豆粕、磷酸<sup>1</sup>瓦ヲ過石加里<sup>1</sup>瓦ヲ硫加ニテ施用シ窒素肥料ノ施用時期ヲ變更ス

成績 (品種大分三井二區制)

#### 石灰窒素

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量	
			稈長	穂數	葉	穀
挿秧當日施用區	9.13	11.18	80.3	18	49.2	39.7
挿秧5日前施用區	9.7	11.10	86.2	19	80.1	59.8
挿秧10日前施用區	9.8	11.9	87.8	15	77.6	57.7
挿秧15日前施用區	9.6	11.9	83.0	13	58.1	45.8

#### 硫酸アムモニヤ

挿秧當日施用區	9.8	11.10	86.9	13	82.0	59.1
挿秧5日前施用區	9.8	11.10	96.0	17	94.1	64.1
挿秧10日前施用區	9.6	11.8	90.0	17	84.2	54.4
挿秧15日前施用區	9.6	11.8	83.1	16	77.0	56.1

大豆 粕

挿秧當日施用區	9. 8	11. 9	93.0	18	80.4	64.5
挿秧5日前施用區	9. 7	11. 9	93.3	17	74.8	57.8
挿秧10日前施用區	9. 6	11. 9	94.0	16	71.5	57.2
挿秧15日前施用區	9. 6	11. 9	85.5	12	63.0	46.7

(四) 火山灰質腐植土ニ於ケル磷酸及ビ石灰關係試驗 (昭和八年開始)

目的 磷酸及ビ石灰施用量ノ相互關係ガ水稻ニ及ボス影響ヲ檢知セントス  
 設計 二萬分ノ一「ポット」當窒素1瓦ヲ硫安、加里1瓦ヲ硫加ニテ施用シ磷酸ハ標準區ニ1瓦ヲ過石ニテ施用シ他ハ其量ヲ變更シ炭酸石灰<sup>10</sup>瓦加用區ト無加用區トヲ設ク

成績 (品種大分三井二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		二平	籾ケ年 均
			程長	穂數	藥	籾		
標準區	9. 6	11. 8	91.0	15	79.0	50.9	55.1	
標準石灰區	9. 5	11. 8	89.6	13	71.9	47.3	52.1	
磷酸倍量區	9. 6	11. 8	91.0	17	86.4	50.2	56.8	
磷酸倍量石灰區	9. 5	11. 8	89.0	13	74.1	50.5	55.2	
磷酸三倍量區	9. 6	11. 8	89.5	16	80.7	56.4	58.3	
磷酸三倍量石灰區	9. 7	11. 8	86.8	14	74.6	53.7	57.2	

(五) 火山灰質腐植土ニ於ケル堆肥用量比較試驗 (昭和八年開始)

目的 堆肥用量ガ水稻ニ及ボス影響ヲ比較セントス  
 設計 二萬分ノ一「ポット」當磷酸1瓦ヲ過石、加里1瓦ヲ硫加ニテ施用シ窒素ハ堆肥含有窒素量ノ三分ノ一ヲ有効態トミナシ有効態窒素0.5瓦トナルヤウ硫安ニテ補給ス

成績 (品種大分三井二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		二平	籾ケ年 均
			程長	穂數	藥	籾		
無堆肥區	9. 5	11. 8	83.5	10	53.1	36.3	40.6	
堆肥20瓦區	9. 4	11.10	77.5	14	57.5	40.3	43.7	
堆肥50瓦區	9. 4	11.10	78.5	11	46.7	31.5	34.5	
堆肥100瓦區	9. 4	11.10	79.3	10	47.7	34.0	38.4	
堆肥150瓦區	.	11.10	80.9	10	48.5	31.6	32.9	

(六) 生糞類窒素肥効試驗(昭和九年開始)

目的 生糞及ビ糞磷等ノ窒素ノ肥効ヲ檢知セントス  
 設計 二萬分ノ一「ポット」當磷酸1瓦ヲ過石、加里1瓦ヲ硫加ニテ施用シ窒素ハ各供試物ヲ以テ1瓦施用ス  
 成績 (品種大分三井二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量	
			程長	穂數	藥	籾
無窒素區	9. 5	11.10	71.0	5	23.1	24.6
硫安區	9. 8	11.10	92.8	17	80.5	54.5
生糞區	9. 9	11.10	87.0	15	55.1	43.9
生糞硫安區	9. 9	11.10	80.5	13	65.5	52.5
生糞堆肥區	9. 8	11.10	80.8	11	49.4	41.0
糞磷區	9. 7	11.10	74.0	7	35.0	27.9
糞磷硫安區	9. 7	11.10	77.8	13	58.1	44.4
糞磷堆肥區	9. 6	11.10	75.5	9	35.9	29.6
生糞腐敗區	9. 8	11.10	77.1	15	59.4	53.3

稈 麥

第一 圃場試驗

(一) 三要素試驗(大正十四年開始)

目的 當場土壤ノ地力ヲ檢知セントス  
 設計 水稻ニ準ズ  
 成績 (品種大分三井一區制7.5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實 一升重	反當收穫量		子實 十ヶ年 平均
			程長	一尺間 穂數		生程	子實	
無肥料區	5. 6	6. 8	68.6	29	377	68	0.716	0.896
無窒素區	5. 1	6. 4	62.8	24	393	78	0.795	0.925
無磷酸區	5.11	6.13	57.3	23	323	49	0.600	0.932
無加里區	5. 7	6. 6	56.3	58	362	61	1.104	1.662
完全區	4.29	6. 3	81.0	64	384	181	1.720	2.066
無肥料石灰區	5. 3	6. 4	72.1	22	389	87	0.941	—

完全石灰區	4.29	6.2	92.6	76	382	196	2.123	—
窒素單用區	5.5	6.6	78.5	49	384	155	1.719	—
窒素單用堆肥區	5.4	6.5	78.6	67	381	160	1.965	—
窒素堆肥區	4.29	6.2	91.6	76	378	198	2.192	—

(二) 肥料連用試驗(昭和九年開始)

目的 化學肥料並ニ有機肥料ノ連用ガ稈麥ノ收量及ビ土壤成分ニ及ボス影響ヲ檢知セントス

設計 次表ノ配合ニ依ル

區名	肥料 (反當)							
	堆肥	下肥	硫安	大豆粕	鱈粕	強過石	骨粉	硫加
標準肥料區	300	476.2	4.35	3.0	—	3.6	—	1.20
化學肥料區	—	—	12.50	—	—	7.5	—	4.00
有機肥料區	300	—	—	7.5	5.0	—	2.6	1.04
自給肥料區	100	—	—	—	—	1.5	—	—

成績 (品種大分捻一區制8、0坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實一升重	反當收穫高	
			稈長	一尺間穂數		生稈	子實
標準肥料區	4.29	6.2	79.5	46	389	149	1.530
化學肥料區	4.28	6.3	77.7	49	382	149	1.863
有機肥料區	5.2	6.6	76.1	37	384	113	1.404
自給肥料區	4.30	6.4	79.5	47	387	173	2.086

第二 框 試 驗

(一) 火山灰質腐植土石灰用量試驗(昭和八年開始)

目的 火山灰質腐植土ニ於ケル石灰ノ影響ヲ檢知セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種大分捻一區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量		子實二ヶ年平均
			稈長	一尺間穂數	生稈	子實	
無石灰區	4.28	5.31	76.6	26	851.3	165.0	221.3
石灰31瓦區	4.28	5.31	76.8	25	975.0	206.3	247.5
石灰62瓦區	4.27	5.31	75.6	23	930.0	195.0	251.3
石灰93瓦區	4.26	5.31	75.1	25	930.0	191.3	255.0

石灰124瓦區	4.25	5.31	74.6	26	892.5	183.8	251.3
石灰155瓦區	4.24	5.31	76.5	26	967.5	202.5	262.5

第三 ホット試験

(一) 三要素試驗(昭和七年開始)

目的 同質土壤ニ於テ三要素ノ影響ヲ小麥ト比較セントス

設計 二萬分ノ「ポット」當三要素1瓦ヲ硫安、過石及ビ硫加ニテ施用ス

成績 (品種大分捻二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		子實三ヶ年平均
			稈長	穂數	生稈	子實	
無肥料區	4.30	6.3	69.3	8	9.5	9.2	10.6
無窒素區	5.1	6.4	69.4	7	10.4	8.5	11.1
無磷酸區	5.14	6.10	61.2	10	13.5	11.8	15.5
無加里區	5.6	6.3	51.2	20	15.9	14.2	20.9
完全區	5.2	6.1	66.8	28	25.2	24.3	28.5
完全石灰區	4.30	6.3	73.6	18	22.0	20.9	26.0

小 麥

第一 圃場試驗

(一) 三要素配合量比較試驗(昭和八年開始)

目的 三要素配合量ヲ變更シテ品質及ビ收量増進上好適ナル標準ヲ查定セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後1區制7、5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實一升重	反當收穫量		子實二ヶ年平均
			稈長	一尺間穂數		生稈	子實	
窒素1.5貫區	4.22	6.3	99.9	53	377	345	2.269	2.687
窒素2.0貫區	4.23	6.5	101.3	86	371	345	2.552	3.039
窒素2.5貫區	4.23	6.6	106.1	96	360	278	2.242	2.799
窒素3.0貫區	4.23	6.8	101.2	104	352	292	2.173	3.124
窒素3.5貫區	4.24	6.9	103.0	92	352	277	2.124	2.742
窒素4.0貫區	4.24	6.9	105.8	87	351	301	1.894	2.847

(二) 速成堆肥肥効比較試験(昭和八年開始)

目的 小麥稈ヲ材料トシ硫安石灰窒素及ビ下肥ヲ窒素源トシタル速成堆肥ト小麥稈ノ肥効ヲ比較セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後一區制6、0坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實一升重	反當收穫量		子實二ヶ年平均
			稈長	一尺間穗數		生稈	子實	
小麥稈區	4.29	6.6	77.9	37	378	98	0.966	1.557
硫安堆肥區	4.27	6.2	98.7	56	370	218	1.737	2.131
石灰窒素堆肥區	4.27	6.2	95.7	55	371	256	1.997	2.151
下肥堆肥區	4.27	6.2	93.1	53	371	225	1.730	1.960

(三) 堆肥施用法改善試験(昭和九年開始)

目的 縣下各地ノ慣習ニシテ播種ニ於ケル堆肥ノ施用法ガ小麥ノ收量ニ及ボス影響ヲ檢知セントス

設計 堆肥200貫硫安10貫強過石6、25貫及ビ硫加1、3貫ヲ各區共通肥料トシテ堆肥及ビ他ノ肥料ノ施用法ヲ區名ノ如クテス

成績 (品種伊賀筑後一區制7、5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實一升重	反當收穫量		子實二ヶ年平均
			稈長	一尺間穗數		生稈	子實	
肥料一種子一堆肥區	4.22	6.7	116.4	100	371	335	2.623	
肥料一種子一土壤一堆肥區	4.22	6.7	113.4	90	372	313	2.296	
種子一堆肥肥料混合區	4.22	6.7	114.0	96	372	290	2.613	
堆肥肥料混合一種子區	4.22	6.7	114.0	93	371	302	2.802	
種子肥料堆肥混合區	4.22	6.7	112.3	95	369	380	2.876	
堆肥一肥料一土壤一種子區	4.22	6.7	112.0	97	369	371	2.615	

(四) 石灰窒素施用法改善試験(昭和九年開始)

目的 石灰窒素ヲ播種當日施用シ得ル如ク考案シ之ガ收量ニ及ボス影響ヲ檢知セントス

設計 基肥ニ石灰窒素7、36貫強過石6、25貫硫加1、3貫ヲ各區共通ニ施用シ追肥トシテ硫安2、68貫ヲ施用ス、施用方法ハ區名ノ如ク變更ス、但シ全面撒布區ハ畦立後表土ニ播種10日前撒布シ克ク混和セシム

成績 (品種伊賀筑後一區制7、5坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實一升重	反當收穫量	
			稈長	一尺間穗數		生稈	子實
全面撒布區	4.22	6.7	109.1	82	373	378	2.595
播溝一寸覆土區	4.22	6.7	113.1	89	375	363	2.608
播溝二寸覆土區	4.22	6.7	112.7	91	377	364	2.774
播溝三寸覆土區	4.22	6.7	111.5	91	374	352	2.710

(五) 鶏糞施用法試験(昭和七年開始)

目的 鶏糞ノ合理的施用法ヲ檢知セントス

設計 各區共反當磷酸2貫ヲ過石ニテ加里1貫ヲ硫加ニテ施用シ窒素ハ鶏糞多用區(窒素1、5貫)中用區(窒素1、0貫)少用區(窒素0、5貫)ヲ設ケ硫安ニテ全窒素ヲ2貫ニ補正ス

成績 (品種伊賀筑後一區制7、5坪)

本年ハ萎縮病發生シ正規ノ成績ヲ得ズ

(六) グアノ肥効試験(昭和八年開始)

目的 グアノノ窒素肥効ヲ檢知セントス

設計 反當磷酸2貫ヲ過石ニテ加里2貫ヲ硫加ニテ施用シ窒素ハ各區2貫トナルヤウ硫安ニテ補正ス

成績 (品種伊賀筑後一區制5、0坪)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		子實一升重	反當收穫量		子實二ヶ年平均
			稈長	一尺間穗數		生稈	子實	
硫安單用區	4.22	6.6	101.0	82	359	340	3.465	3.189
グアノ單用區	4.22	6.6	104.7	77	364	285	2.772	2.988
硫安グアノ併用區	4.24	6.6	102.5	90	363	349	3.006	3.052
グアノ堆肥區	4.25	6.6	97.7	103	366	347	2.880	2.967

第二 框 試 験

(一) 火山灰質腐植土ニ於ケル硅酸鹽加用試験(昭和九年開始)

目的 活性二三酸化物ニ富ミ石灰ヲ加用スルモ磷酸ノ溶解度ヲ増加セザル火山灰質腐植土ニ對シ硅酸鹽ノ効果ヲ檢知セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後) 區制)

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量	
			稈長	一尺間數	稈	子實
無 硅 酸 區	4.28	6.4	100.3	40	900.0	296.3
硅 酸 6.1 區	4.27	6.4	98.6	42	881.3	292.5
磷 倍 硅 酸 6.1 瓦 區	4.28	6.4	100.6	51	922.5	322.5
硅 酸 12.2 瓦 區	4.28	6.4	98.1	40	911.3	311.3
磷 倍 硅 酸 12.2 瓦 區	4.27	6.4	105.8	49	1031.3	375.0
堆 肥 無 硅 酸 區	4.27	6.4	107.5	40	918.8	307.5
堆 肥 硅 酸 6.1 瓦 區	4.27	6.4	97.4	48	862.5	296.3
堆 肥 磷 倍 硅 酸 6.1 瓦 區	4.27	6.4	98.3	48	903.8	345.0
堆 肥 硅 酸 12.2 瓦 區	4.27	6.4	96.4	40	907.5	345.0
堆 肥 磷 倍 硅 酸 12.2 瓦 區	4.27	6.4	103.6	46	1087.5	386.3

(二) 石灰窒素施用量試驗(昭和九年開始)

目的 各土性ニツキ堆肥施用又ハ無施用ノ場合ニ於ケル石灰窒素施用量ノ影響ヲ  
檢知セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種大分三井一區制)

砂 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量	
			稈長	一尺間數	稈	子實
無 窒 素 區	4.26	6.4	75.0	21	303.8	131.5
無 窒 素 堆 肥 區	4.27	6.5	79.7	30	502.5	183.8
窒 素 1.2 貫 區	4.24	6.2	102.2	50	858.8	251.3
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	4.27	6.5	97.0	47	986.3	307.5
窒 素 2.4 貫 區	4.24	6.2	109.0	52	1188.8	345.0
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	4.27	6.5	106.9	54	1278.8	408.8
窒 素 3.6 貫 區	4.24	6.5	106.2	64	1263.8	435.0
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	4.27	6.6	111.7	66	1458.8	510.0
窒 素 4.8 貫 區	4.24	6.6	106.4	70	1293.8	528.8
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	4.28	6.6	103.2	78	1458.8	551.3

埴 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量	
			稈長	一尺間數	稈	子實
無 窒 素 區	4.25	6.2	74.7	16	266.3	105.0
無 窒 素 堆 肥 區	4.26	6.4	81.5	25	288.8	146.3
窒 素 1.2 貫 區	4.25	6.2	98.2	43	731.3	232.5
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	4.26	6.4	91.8	29	588.8	240.0
窒 素 2.4 貫 區	4.24	6.2	103.9	44	1095.0	307.5
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	4.26	6.4	109.2	58	952.5	356.3
窒 素 3.6 貫 區	4.24	6.5	94.3	61	1117.5	408.8
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	4.26	6.6	108.7	58	1335.0	483.8
窒 素 4.8 貫 區	4.24	6.5	104.1	61	1290.0	476.3
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	4.26	6.7	102.7	83	1346.0	506.3

黑 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量	
			稈長	一尺間數	稈	子實
無 窒 素 區	4.27	6.5	81.2	20	386.3	135.0
無 窒 素 堆 肥 區	4.28	6.6	76.4	20	427.5	165.0
窒 素 1.2 貫 區	4.26	6.4	92.3	31	607.5	243.8
窒 素 1.2 貫 堆 肥 區	4.28	6.4	98.9	41	641.3	277.5
窒 素 2.4 貫 區	4.26	6.4	104.5	52	956.3	333.8
窒 素 2.4 貫 堆 肥 區	4.27	6.5	107.8	53	1256.3	390.0
窒 素 3.6 貫 區	4.26	6.6	105.9	46	1162.5	393.8
窒 素 3.6 貫 堆 肥 區	4.27	6.6	107.7	55	1282.5	461.3
窒 素 4.8 貫 區	4.26	6.7	96.1	40	1068.8	412.5
窒 素 4.8 貫 堆 肥 區	4.28	6.7	106.2	65	1365.0	423.8

壤 土

區名	出穗期	成熟期	成熟期調査		一區當收穫量	
			稈長	一尺間數	稈	子實
無 窒 素 區	4.27	6.4	80.9	26	311.3	135.0
無 窒 素 堆 肥 區	4.28	6.5	79.5	21	277.5	112.5
窒 素 1.2 貫 區	4.26	6.4	86.4	34	431.3	180.0

窒素 1.2 貫 堆肥 區	4.26	6.4	84.6	31	363.8	195.0
窒素 2.4 貫 區	4.26	6.4	103.3	51	731.3	277.5
窒素 2.4 貫 堆肥 區	4.26	6.4	99.2	39	705.0	270.0
窒素 3.6 貫 區	4.25	6.4	99.7	57	900.0	345.0
窒素 3.6 貫 堆肥 區	4.25	6.4	108.7	55	896.3	352.5
窒素 4.8 貫 區	4.25	6.5	100.0	50	1031.3	393.8
窒素 4.8 貫 堆肥 區	4.25	6.5	108.4	60	1177.5	405.0

第三 ポット試験

(一) 窒素質肥料肥効比較試験(昭和七年開始)

目的 新肥料及び有機質窒素肥料ノ窒素肥効ヲ比較セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後三區又ハ二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		子實平均
			稈長	穗數	稈	子實	
無窒素區	4.26	6.4	73.4	6	5.8	4.6	5.4
硫安區	4.26	6.2	103.0	33	47.3	28.2	30.7
石灰窒素區	4.25	6.2	95.6	20	26.2	20.5	24.9
智利硝石區	4.27	6.3	91.3	17	20.6	16.0	28.0
アムモホス區	4.26	6.2	104.9	27	43.6	27.7	29.7
ブラナホス區	4.25	6.2	102.9	30	44.3	31.4	33.9
ニトロホスカ區	4.25	6.2	100.2	21	30.3	19.5	25.7
ロイナホス區	4.25	6.2	101.9	28	39.3	26.5	29.9
みくに化成區	4.26	6.2	104.5	26	38.9	26.8	30.6
みづほ化成區	4.26	6.2	105.4	29	45.9	28.1	32.6
さきわ化成區	4.25	6.2	108.0	30	48.2	31.3	34.9
こづち化成區	4.26	6.2	107.2	26	41.2	25.8	31.3
巴特許區	4.25	6.2	105.9	27	44.5	26.3	31.6
尿素區	4.27	6.2	95.4	17	26.2	17.0	23.7
グアノ區	4.27	6.1	91.8	17	24.5	15.2	28.5
大豆粕區	4.27	6.3	94.3	15	16.2	12.5	21.5
菜種粕區	4.26	6.3	91.2	17	19.7	14.5	18.2
鱈粕區	4.26	6.3	92.1	18	19.9	15.6	21.3
蠶蛹粕區	4.26	6.3	95.6	16	18.4	13.4	20.0
鶏糞區	4.27	6.3	87.1	15	14.6	11.6	15.9

骨粉區	4.27	6.4	82.8	16	13.4	12.0	13.5
米糠區	4.27	6.4	94.2	17	20.8	19.3	16.0
堆肥區	4.25	6.5	82.9	12	9.9	7.5	—
硫磷安區	4.25	6.2	106.9	29	45.7	35.1	—

備考 智利硝石區グアノ區及ビ米糠區ハニケ年ノ平均トス

(二) 磷酸質肥料肥効比較試験(昭和七年開始)

目的 火山灰質腐植土ニ於テ磷酸質肥料ノ磷酸肥効ヲ比較セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		子實平均
			稈長	穗數	稈	子實	
無磷酸區	5.7	6.8	57.9	5	2.5	1.8	2.3
過石區	2.29	6.7	84.5	11	13.3	11.1	15.6
磷酸アルミナ區	4.30	6.8	78.6	6	6.8	6.7	7.2
骨粉區	4.30	6.8	86.2	6	8.2	6.6	8.2
鶏糞區	5.1	6.7	86.7	14	17.7	13.7	15.8
米糠區	5.4	6.8	83.2	8	8.9	6.7	4.8
硫磷安區	4.29	6.8	100.0	26	42.4	33.7	—

備考 米糠區ハニケ年平均トス

(三) 三要素試験(昭和七年開始)

目的 同質土壤ニ於テ三要素ノ影響ヲ稈麥ト比較セントス

設計 稈麥ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後二區制)

區名	出穂期	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		子實平均
			稈長	穗數	稈	子實	
無肥料區	4.30	6.8	63.5	5	3.3	3.1	7.9
無窒素區	4.25	6.6	70.5	5	4.6	4.5	9.8
無磷酸區	5.2	6.15	82.0	19	19.5	12.2	21.5
無加里區	4.23	6.6	72.0	29	23.7	19.5	26.2
完全區	4.23	6.4	94.8	37	40.1	29.9	32.7
完全石灰區	4.24	6.4	90.0	28	34.1	27.0	29.6

(四) 石灰窒素施用時期試験(昭和七年開始)

目的 石灰窒素施用ノ最適ナル時期ヲ検知シ併セテ硫安及ビ大豆粕ト比較セントス

設計 水稻ニ準ズ



成績 (品種伊賀筑後二區制)

石灰窒素

區名	出穂期 月日	成熟期 月日	成熟期調査		一ポット當收穫量	
			穂長	穂數	穂	子實
播種當日施用區						
播種5日前施用區	4.26	6.3	97.2	17	26.1	20.6
播種10日前施用區	4.25	6.3	89.6	18	23.1	19.7
播種15日前施用區	4.25	6.2	95.0	20	29.1	24.1

備考 播種當日施用區ハ發芽セズ

硫酸アムモニヤ

區名	出穂期 月日	成熟期 月日	成熟期調査		一ポット當收穫量	
			穂長	穂數	穂	子實
播種當日施用區	4.26	6.3	96.3	21	33.6	26.7
播種5日前施用區	4.27	6.3	97.5	19	29.6	22.4
播種10日前施用區	4.26	6.3	91.7	15	23.3	16.6
播種15日前施用區	4.25	6.3	92.9	14	17.6	12.1

大豆粕

區名	出穂期 月日	成熟期 月日	成熟期調査		一ポット當收穫量	
			穂長	穂數	穂	子實
播種當日施用區	2.26	6.3	100.4	18	28.0	20.6
播種5日前施用區	4.25	6.3	98.9	20	30.8	23.2
播種10日前施用區	4.25	6.2	100.5	20	29.5	20.4
播種15日前施用區	4.24	6.1	95.2	18	25.0	16.4

(五) 火山灰質腐植土ニ於ケル燐酸及ビ石灰關係試驗  
(昭和八年開始)

目的 燐酸及ビ石灰施用量ノ相互關係ガ小麥ニ及ボス影響ヲ檢知セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後二區制)

區名	出穂期 月日	成熟期 月日	成熟期調査		一ポット當收穫量		子實 二ヶ平	實年 均
			穂長	穂數	穂	子實		
標準區	4.27	6.4	97.6	20	29.1	21.5	29.0	
標準石灰區	4.28	6.4	101.3	20	29.2	18.5	25.5	
燐酸倍量區	4.27	6.4	106.4	25	46.0	30.2	35.3	

燐酸倍量石灰區	4.26	6.4	103.0	20	34.2	16.3	27.4
燐酸三倍量區	4.27	6.4	102.7	23	37.8	23.0	31.6
燐酸三倍量石灰區	4.27	6.4	99.2	22	34.5	22.0	30.2

(六) 火山灰質腐植土ニ於ケル堆肥用量比較試驗  
(昭和八年開設)

目的 堆肥用量ガ小麥ニ及ボス影響ヲ比較セントス

設計 水稻ニ準ズ

成績 (品種伊賀筑後二區制)

區名	出穂期 月日	成熟期 月日	成熟期調査		一ポット當收穫量		子實 二ヶ平	實年 均
			穂長	穂數	穂	子實		
無堆肥區	4.28	6.5	90.2	13	24.0	16.0	19.9	
堆肥25瓦區	4.28	6.5	99.7	16	27.0	18.0	21.3	
堆肥50瓦區	4.27	6.4	101.8	17	24.0	18.3	21.0	
堆肥100瓦區	4.27	6.4	95.6	13	13.7	12.8	19.1	
堆肥150瓦區	4.27	6.4	92.2	10	15.1	11.7	17.4	

菜種

第一團場試驗

(一) 石灰窒素施用量試驗(昭和九年開始)

目的 石灰窒素ノ施用適量ヲ檢知セントス

設計 反當強過石<sup>12</sup>、5貫及ビ硫加<sup>4</sup>貫ヲ施用シ石灰窒素量ヲ次表ノ如ク變更ス、

石灰窒素ハ菜種移植7日前ニ施用ス

成績 (品種大朝鮮一區制7、5坪)

區名	開花揃 月日	成熟期 月日	成熟期調査		子實 一升重	反當收穫量	
			穂長	分枝		穂重	子實
無窒素區	4.11	6.7	151.3	14	313	50	0.814
窒素1.2貫區	4.11	6.7	169.2	17	313	83	1.418
窒素1.8貫區	4.11	6.7	176.4	18	313	95	1.610
窒素2.4貫區	4.11	6.7	174.0	20	313	108	1.850

窒素 3.0 貫 區	4.12	6.7	179.9	22	313	108	1.984
窒素 3.6 貫 區	4.12	6.9	180.3	22	316	121	2.193
窒素 4.8 貫 區	4.12	6.9	174.5	23	316	143	2.545

## 第二 ポット試験

### (一) 石灰窒素施用時期試験(昭和九年開始)

目的 石灰窒素ノ施用適期ヲ檢知セントス

設計 二萬分ノ「ポット」、當窒素1.5瓦ヲ石灰窒素、磷酸1.5瓦ヲ過石及ビ加里  
1.5瓦ヲ硫加ニテ施用シ石灰窒素ノ施用時期ヲ變更ス

成績 (品種大朝鮮三區制)

區名	開花揃	成熟期	成熟期調査		一ポット當收穫量		
			程長	分枝	程	莢	子實
移植當日施用區	4.6	6.1	137.0	13	43.1	27.5	29.3
移植5日前施用區	4.5	6.1	147.0	14	50.1	30.0	29.5
移植10日前施用區	4.6	6.1	144.6	15	49.5	33.8	33.1
移植15日前施用區	4.6	6.1	142.2	14	44.0	27.5	28.9

## 七 島 蘭

### 第一 ポット試験

#### (一) 七島蘭生育及ビ品質ニ及ボス土壤酸度影響試験 (昭和八年開始)

目的 七島蘭ノ生育及ビ品質ニ及ボス土壤水素「イオン」濃度ノ影響ヲ檢知セントス

設計 二萬分ノ「ポット」當窒素1.5瓦ヲ硫安ニテ、磷酸1.0瓦ヲ過石ニテ、加里  
1.0瓦ヲ硫加ニテ施用シ二規定硫酸及ビ苛性曹達液ニテ水素「イオン」濃度ヲ變  
更ス

成績 (品種大粒種2區制)

區名	全長	分蘖	全重	上 蘭			下 蘭		上 蘭 品質順
				重量	莖數	乾燥歩合	重量	莖數	
I-H 3.3-3.7	24.0	4	3.8	—	—	—	3.8	4	—
4.3-4.5	166.5	101	847.5	710.6	66	13.4	136.9	35	2
4.9-4.8	172.3	101	884.3	727.5	67	13.1	156.8	34	3
5.5-4.8	178.3	105	1062.4	898.1	75	13.0	164.3	30	6
5.9-5.6	177.1	97	898.1	780.0	75	14.4	99.4	24	3
6.2-5.6	178.6	98	1025.6	907.5	70	13.5	118.1	28	1
6.5-5.8	171.5	118	1051.9	892.5	80	12.9	159.4	38	5
6.7-6.4	178.7	104	1061.3	901.9	79	13.0	159.4	30	4
7.5-7.3	159.6	100	943.1	791.3	66	13.3	151.9	34	7
8.5-7.7	126.1	70	366.8	169.9	18	14.7	196.9	32	8

### (二) 七島蘭ニ對スル窒素質肥料肥効比較試験 (昭和九年開始)

目的 七島蘭ニ對シ窒素質肥料肥効ヲ比較シ肥効率及ビ吸收率ヲ檢知セントス

設計 二萬分ノ「ポット」當磷酸2瓦ヲ過石ニテ、加里2瓦ヲ硫加ニテ施用シ窒  
素2瓦ヲ各窒素質肥料ニテ施用ス

成績 (品種大粒種二區制)

區名	全長	全重	分蘖	全窒素	窒素含量	吸收率	増收率	上 蘭 品質順
無 窒 素 區	140.8	560.6	103	0.159	0.891	—	—	10
硫 安 區	157.4	847.5	117	0.197	1.670	39	100	3
石 灰 窒 素 區	117.2	178.1	49	0.192	0.342	—	—	9
智 利 硝 石 區	154.0	838.1	113	0.193	1.618	36	97	6
七 島 專 肥 區	158.2	870.0	122	0.192	1.670	39	108	1
みづほ化成區	164.3	883.1	125	0.198	1.749	43	112	8
青 島 配 合 區	156.6	891.6	118	1.196	1.747	43	115	2
大 豆 粕 區	146.9	416.3	71	0.172	0.716	—	—	3
油 粕 區	153.0	576.6	90	0.189	1.090	10	6	4
蠶 蛹 粕 區	155.2	720.0	98	0.183	1.318	21	56	5
鱈 粕 區	152.4	753.8	108	0.177	1.334	22	67	7
紫 雲 英 區	143.9	690.0	103	0.175	1.208	16	45	7
堆 肥 區	142.9	358.1	63	0.171	0.613	—	—	1

(三) 七島蘭ニ對スル鹽化物加用試験(昭和九年開始)

目的 七島蘭ノ生育收量及ビ品質ニ及ボス鹽化物ノ影響ヲ檢知セントス  
 試計 二萬分ノ「ボット」當室素1.5瓦ヲ硫安又ハ鹽安ニテ磷酸1.5瓦ヲ過石ニテ加里1.5瓦ヲ硫加又ハ鹽加ヲ以テ施用ス、食鹽ハ5.0瓦、曹達ハ炭酸曹達2.6瓦ヲ施用ス

成績 (品種大粒種ニ區制)

區名	全長	全重	分蘖	上 蘭			上 蘭 品質順
				重量	莖 數	乾燥歩合	
硫安硫加區	153.6	716.3	113	515.6	55	29.1	2
鹽安硫加區	141.3	498.8	68	345.0	32	23.2	5
硫安鹽加區	153.8	727.5	92	558.8	57	26.0	3
鹽安鹽加區	145.2	618.8	74	470.6	44	23.4	4
硫安硫加食鹽區	155.2	742.5	76	579.4	46	22.4	7
硫安硫加食鹽區	160.9	705.0	73	573.8	50	23.5	8
鹽安鹽加食鹽區	147.2	483.8	60	330.0	28	22.7	6
硫安無加里曹達區	150.1	534.4	75	388.1	48	28.3	1

綠肥作物根瘤菌配付ニ關スル事項

本年度ニ於テ農林省獎勵金ノ交付ヲ受テ綠肥作物根瘤菌ヲ配付セシモノ次ノ如シ

名 稱	接 種 面 積	配 付 量 (試驗管數)
紫 雲 英	225	4500
青 刈 大 豆	97	1940
ザートウイソケン	72	1440
ルービン	56	1120
計	450	9000

分析ニ關スル事項

種 類	場 用		依 賴	
	件 數	成 分 數	件 數	成 分 數
土 壤	11	224	1	3
肥 料	54	167	21	41
農 産 物	55	282	20	35
計	120	673	42	79

施肥標準調査ニ關スル事項

第一 三要素試験

(一) ボット三要素試験

代表土壤18點ニツキ前年度ヨリ引續キ三要素試験ヲ施行セリ

(二) 原地ニ於ケル三要素試験

下記ニケ所ニ於テ引續キ試験ヲ施行セリ

- 1 宇佐郡四日市町大字四日市 第四紀古層
- 2 速見郡南由布村大字中川 安山岩(濕田)

第二 原地試験

前年度ヨリ引續キ下記箇所ニ於テ原地試験ヲ施行セリ

場 所	作 物
玖珠郡玖珠町大字大隈字倉園	水 稻 稗 麥
日田郡五馬村大字塚田字下原	全 上
北海部郡佐志生村大字田井	全 上
宇佐郡四日市町大字四日市字馬渡	全 上
大分郡判田村大字中判田字高江	全 上
直入郡茨村大字馬場字馬場	水 稻
大野郡大野町大字田代字犬山	陸 稻 小 麥

## 園藝部

## 蔬菜ニ關スル事項

## 第一 品種改良ニ關スル試験

## 茄 子

## 耕種概要

- 1 播種 一月二十七日
- 2 假植 二回
- 3 定植 四月二十六日
- 4 栽植距離 畦幅3尺株間2尺
- 5 施肥量(反當)

肥料名	總量	基肥	追肥	追 肥				三 要 素		
				一回	二回	三回	四回	窒素	磷酸	加里
堆 肥	300 <sup>實</sup>	300 <sup>實</sup>	— <sup>實</sup>	—	—	—	—	1.740 <sup>實</sup>	900 <sup>實</sup>	1.500 <sup>實</sup>
棉 實 粕	30	10	20	—	10	—	10	1.710	780	510
大 豆 粕	10	10	—	—	—	—	—	700	110	200
人 糞 尿	400	100	300	50	50	100	100	2.280	400	1.080
過 磷 酸 石 灰	3	3	—	—	—	—	—	—	450	—
硫 酸 加 里	5	5	—	—	—	—	—	—	—	2.400
計								6.430	2.640	5.690

外ニ石灰反當<sup>30</sup>貫耕入ス

## (一) 品種比較試験

目的 本縣ニ適スル優良品種ヲ選擇セントス

設計 一區面積3坪宛、一區制トシ矢原外<sup>14</sup>品種ニテキ前年ニ繼續シ收量並ニ特性調査ヲ行フ

成績 本年度ノ成績ニヨレバ長型ノモノニ付テハ前年ト同様津田長茄子品質、收量熟期等ノ諸點ニ於テ最モ優秀ナルヲ示シ博多長茄子、熊本長茄之レニ次ギテ收量多ク佳良ナルヲ認メタルモ尙繼續試験セントス丸型ノモノニ付テハ累計18種ニツキ調査シタル結果本年度迄ノ成績ニヨリテ判定セリ

特性調査 (昭和九年度調査)



品種名	種子取寄先	草姿	草勢	果		萼色	個体調査		
				形状	色澤		重量	横徑	縦徑
矢原四號	當場	稍開張	甚強	長卵	黒紫	紫	0.187	6.8	15.3
モギ	志波	開張	弱	卵	紫	淡紫	0.080	5.1	10.0
眞黒	ヤマト	稍開張	強	卵	濃黒紫	濃紫	0.137	6.6	12.7
大歳	山口	稍開張	強	長卵	濃紫	紫	0.202	7.5	12.3
中生山茄	ヤマト	開張	弱	卵	紫	淡紫	0.156	6.6	12.1
橘田	ヤマト	稍開張	甚強	中長	濃黒紫	紫	0.161	5.7	15.7
埼眞	埼農	稍開張	甚強	卵圓	濃黒紫	濃紫	0.200	7.3	13.7
大歳改良	山口	稍開張	稍弱	中長	紫	淡紫	0.141	5.2	15.8

収量調査 (反當)

品種名	種子取寄先	收穫		七月二十日迄		八月二十日迄		四ヶ年平均収量反・當)			
		始	終	個數	重量	個數	重量	七月二十日迄		八月二十日迄	
								個數	重量	個數	重量
矢原四號	當場	6.14	8.20	11100	1476.100	26200	3809.000	92000	1372.900	24900	3817.900
モギ	志波	〃	〃	15900	1633.000	36100	2466.000	20100	1514.500	42000	3193.700
眞黒	ヤマト	〃	〃	13200	1113.000	29400	3264.000	12350	1206.700	30400	3446.300
大歳	山口	〃	〃	11200	1529.500	27300	4298.000	—	—	—	—
中生山茄	ヤマト	〃	〃	14100	1215.500	31400	3315.000	10700	1152.100	29100	3518.100
橘田	熊農	〃	〃	12700	1219.000	37000	4834.000	10400	1406.500	29200	3971.500
埼眞	埼農	〃	〃	10300	1231.000	32200	4416.000	7900	821.600	24900	3213.200
大歳改良	山口	〃	〃	9300	929.900	24600	3043.000	11300	1260.800	27400	3485.500

以上ノ成績ヲ綜合スルニ早熟及普通栽培用トシテハ眞黒ハ初期及末期共何レモ収量多ク品質良好且栽培容易ナルヲ認メラレ矢原四號ハ収量ニ於テハ前者ニ稍劣ル處アルモ品質極メテ良好ニシテ日持ヨリ檢勢甚ダ強健ニシテ栽培容易ナル等前者ニ優ル點多ク殊ニ收穫末期ニ至ルモ草勢ノ衰弱少ク外皮ノ硬化、肉質ノ惡變等品質ヲ低下スル事少ク早熟及普通栽培用トシテ本縣ノ嗜好ニ好適ヲ認メタリ

搔ギ茄子及中生山茄ハ収量最モ多ク殊ニ前者ハ個數ニ於テ著シク多收且熟期早キモ樹勢弱ク色澤淡色ニシテ品質不良ナルヲ以テ適セズ中生山茄又色澤品質共ニ良好ナラズ

橘田ハ形状中長型ニ屬スルモ収量、品質ヨリ草勢強健ナルヲ以テ相當優良ナリト認ム

(二) 連作試験

目的 優良ト認メタル品種並ニ一代雜種ニツキ連作ヲ行ヒテ耐病性並ニ収量ニ及

ボス影響ヲ檢定セントス

設計 連作4年ヲ行ヒタル畑ヲ供用シ一區3坪宛トシ矢原外12品種ニツキ耐病性並ニ収量ヲ調査ス

成績 橘田、久留米、博多×矢原ハ耐病性強ク博多ハ最モ弱キガ如シ

(三) 一代雜種查定試験

目的 茄子一代雜種ハ實用的價值極メテ大ナルモノアルヲ以テ収量、品質、熟期耐病性ニツキ優良ナル組合セヲ查究セントス

設計 一區坪數3坪宛トシ眞黒×橘田外9組合セニツキ試験ス

成績 本年度ノ成績ニヨレバ博多×矢原品質良好収量最モ多ク優良ナルヲ認メタル外特ニ有望ナリト認メラルベキモノナキヲ以テ尙繼續試験セントシ博多×矢原外十五組合セノ交配ヲ行ヒタリ

蕃茄

耕種概要

- 1 播種 一月二十七日
- 2 假植 二回
- 3 定植 四月二十五日
- 4 栽植距離 畦幅5尺株間2尺
- 5 施肥量 (反當)

肥料名	總量	基肥	追肥	追肥			三要素		
				一回	二回	三回	窒素	磷酸	加里
堆肥	200	200	—	—	—	—	1.160	600	1.000
棉實粕	25	20	5	—	5	—	1.425	650	425
練粕	10	—	10	—	10	—	830	560	70
人糞尿	300	50	250	50	100	100	1.710	300	810
過磷酸石灰	8	8	—	—	—	—	—	1.200	—
硫酸加里	6	6	—	—	—	—	—	—	2.880
計							5.125	3.310	5.185

外ニ石灰反當30貫耕入ス

(一) 品種比較試験

目的 本縣ニ適スル優良品種ヲ撰出セントス

設計 一區坪數5坪宛ノ一區制トシ、ベストオブオール外10種類ニツキ比較試験ス

成績 本年度ノ成績ニヨレバ早熟及普通栽培トシテハ收量ニ於テボンデローサ最モ多ク愛知種之レニ次ギテ多收ナルモ形状不整ノ欠點アリ之レニ次ギテマーグローブ收量多ク且品質優良栽培容易ニシテ最モ有望ナルヲ認ムスパークスアーリアナモ亦優秀ナル結果ヲ示セルモ尙繼續試験セシトス

(二) 耐病性檢定試験

目的 品種ニヨル耐腐性ノ檢定ヲ行ヒ育種上ノ參考ニ資セントス  
 設計 茄子科連作四年畑ヲ使用シベストオブオール外7品種ニツキ罹病率並ニ收量ニ及ボス影響ヲ調査セリ  
 成績 ベストオブオール、スパークスアーリアナハ何レモ罹病セルモノナク耐病性強キガ如シ

(三) 一代雜種查定試験

目的 蕃茄一代雜種ハ實用的價值大ナルモノナルヲ以テ優良組合セニツキ查究セントス  
 設計 及成績スパークスアーリアナ×マーグローブ外15組合セノ交配ヲ行ヒ次年度ノ試験ニ供用セリ

胡 瓜

耕 種 概 要

- 1 播種 二月十五日
- 2 假植 二 回
- 3 定植 四月二十五日
- 4 栽植距離 畦幅 5 尺株間 2 尺ノ 2 條植トス
- 5 施肥量 (反當)

肥 料 名	總量	基肥	追肥	追 肥				三 要 素		
				一回	二回	三回	四回	窒素	磷酸	加里
堆 肥	300	300	—	—	—	—	—	1.740	.900	1.500
大 豆 粕	20	15	5	—	5	—	—	1.400	.220	.400
硫 安	5	—	5	—	3	2	—	1.000	—	—
人 糞 尿	300	50	250	50	—	100	100	1.710	.300	.810
過 磷 酸 石 灰	8	8	—	—	—	—	—	—	1.200	—
硫 酸 加 里	3	3	—	—	—	—	—	—	—	1.440
計								5.850	2.620	4.150

(一) 品種比較試験

目的 本縣ニ適スル優良品種ノ撰擇ヲ行ハントス  
 設計 一區5坪宛トシ落合外9品種ニツキ收量並特性調査ヲ行フ  
 成績 本年度ハ未曾有ノ早魁ノタメ成績判然セズ

(二) 一代雜種查定試験

目的 胡瓜一代雜種ハ實用的價值極メテ大ナルモノナルヲ以テ草勢、收量、品質等ニ關シ優良ナル組合セヲ查究セントス  
 設計 一區坪數5坪宛ノ2區制トシ3交配種ニツキ試験ス  
 成績 本年度ノ成績ニヨレバ博多青長×馬込半白ハ收量最モ多ク、且草勢極メテ強健、品質佳良ニシテ有望ナルガ如シ

(三) 抑制胡瓜品種比較試験

目的 抑制用胡瓜ノ優良品種ヲ選出セントス  
 設計 一區5坪トシ支那三尺外5品種ニツキ試験ス播種ハ七月十一日トシ施肥並ニ管理ハ普通栽培ノモノニ準ズ  
 成績 收量調査(反當)

品 種 名	種 子 取 寄 先	收 穫		上		下		計	
		始	終	個 數	重 量	個 數	重 量	個 數	重 量
支那三尺	志 波	8.27	9.21	7850	2372.250	1800	243.250	9650	2615.500
京都三尺	〃	〃	〃	9659	2878.500	1850	320.250	11500	3198.750
台灣毛馬	〃	〃	〃	10650	3022.500	1650	214.750	11300	3237.250
毛 馬	ヤニト	〃	〃	4000	2858.500	1050	119.000	5050	2977.500
青 大 長	志 波	〃	〃	6150	1331.000	1450	252.000	7600	1583.000
博多青長	竹 内	〃	〃	4900	1042.500	1750	241.500	6650	1284.000
金澤節成	ヤマト	〃	〃	7600	1707.500	3300	367.750	10900	2075.250

以上ノ成績ヨリ見レバ收量ニ於テハ京都先白三尺最モ多ク且品質優良ニシテ草勢強健ナルヲ認メ之レニ次ギテ支那三尺優良ナリト認メタリ  
 台灣毛馬及金澤節成ノ如キハ收量ニ於テハ多收ナルモ日持悪ク品質ノ點ニ於テ前二者ニ及バス本試験ハ尙繼續施行セントス

西 瓜

耕 種 概 要

- 1 播種 四月十四日

- 2 栽植距離 畦幅9尺株間6尺
- 3 施肥量(反當)

肥料名	總量	基肥	追肥	追肥				三要素		
				一回	二回	三回	四回	窒素	磷酸	加里
堆肥	200	200	—	—	—	—	—	1.160	.600	1.000
棉實粕	70	—	70	10	10	20	30	3.990	1.820	1.190
鍊粕	20	—	20	—	5	7	8	1.660	1.120	140
過磷酸石灰	8	—	8	—	4	—	4	—	630	—
硫酸加里	6	—	6	3	—	3	—	6.610	5.370	6.560

外ニ石灰反當30貫施用ス

(一) 品種比較試験

目的 優良品種ノ選出ヲ行ハントス

設計 一區9坪宛トシ新大和外6種ニツキ調査ス

成績 新大和最モ優良ナルヲ認メタルモ尙經濟試驗セントス

## 結球白菜

### 耕種概要

- 1 播種 九月一日
- 2 栽植距離 畦幅5尺2條播トシ株間早生1.5尺晚生種ハ2尺トス
- 3 施肥量(反當)

肥料名	總量	基肥	追肥	追肥				三要素		
				一回	二回	三回	四回	窒素	磷酸	加里
堆肥	400	400	—	—	—	—	—	2.440	1.200	2.000
油粕	10	—	10	—	10	—	—	505	200	130
大豆粕	20	20	—	—	—	—	—	1.440	220	400
過磷酸石灰	8	8	—	—	—	—	—	—	1.200	—
硫酸加里	3	3	—	—	—	—	—	—	—	1.440
人糞尿	400	100	300	50	50	100	100	2.280	400	1.080
計								6.625	3.220	5.050

(一) 品種比較試験

目的 優良適品種ノ選出ヲ行ハントス

設計 5坪宛ノ2區制トシ芝罘一號外7品種ニツキ特性並ニ收量調査ヲ行フ  
成績 收量調査(反當)

品種名	取寄先	收穫		2 疋以上		1-2 疋		1 疋以下	
		始	終	個數	重量	個數	重量	個數	重量
芝罘	庄原	12.5	12.24	1380	3645.300	630	1100.880	—	—
芝罘	滿洲	〃	〃	1050	2671.800	1020	1589.280	30	23.700
辻田	長崎	〃	〃	450	1020.600	1680	2680.200	30	26.400
松島一號	宮城	〃	〃	570	1272.000	1500	2371.980	30	22.800
松島二號	〃	〃	〃	780	1750.200	1170	1854.780	60	102.420
包頭連	滿洲	〃	〃	1110	2961.420	600	1061.280	—	—
茨城	茨城	〃	〃	690	1582.380	1380	2205.400	—	—
畦崎二號	愛知	11.21	12.4	30	66.180	2430	3257.580	360	327.780

品種名	取寄先	反當數量		結球歩合	個體調査				
		個數	重量		全重	球重	周圍	高さ	球重歩合%
芝罘	庄原	2010	4746.180	94.4	3.798	2.385	54.5	28.7	62.796
芝罘	滿洲	2100	4284.780	100.0	3.761	2.402	54.5	27.0	63.866
辻田	長崎	2160	3700.800	100.0	2.626	1.820	48.8	24.0	69.307
松島一號	宮城	2100	3666.780	97.2	2.786	1.833	51.5	22.1	65.793
松島二號	全	2010	3707.400	95.4	3.212	2.188	52.0	24.8	68.119
包頭連	滿洲	1710	4022.700	79.2	3.696	2.231	57.8	25.6	60.362
茨城	茨城	2070	3787.780	95.8	2.874	1.887	51.3	23.0	65.657
野崎二號	愛知	2820	3651.540	100.0	1.796	1.229	42.2	23.5	68.391

以上ノ成績ニヨレバ早生系トシテハ野崎二號收量多ク品質良好ニシテ熟期ノ點ヨリ考察スルモ極メテ優秀ナル成績ヲ示セリ

晚生系中ニ於テハ芝罘(本場原種ニヨル大分市平倉庄太郎氏採種)ハ最モ豊産結球良好ニシテ毎年優劣ナル成績ヲ示シ芝罘系統中最良ナルヲ認メタリ之レニ次ギテ包頭連ハ一層晚生ニシテ豊産且品質之レニ及ブモノナキモ耐病性弱ク栽培稍困難ナリ

辻田ハ栽培容易ニシテ豊産熟期芝罘ヨリ稍早ク之レ又優良ナリ

(二) 芝罘系統分離試験

目的 優良整一系統ノ育成ヲ行ハントス

設計 滿洲産外4系ヲ蒐集栽培シ之レヨリ7系統20株ヲ撰拔セリ

(三) 包頭連系統分離試験

目的 優良整一ニシテ耐病性强ク栽培容易ナル系統ノ育成ヲ目的トス

設計 滿洲産外3系ヲ蒐集栽培シ之レヨリ6系統14株ヲ撰拔セリ

(四) 母本越冬法試験

目的 採種用母本ノ越冬法ニ關シ適法ヲ發見セントス  
 設計 完全結球三分ノ二切除被覆外3區ニツキ試験ス  
 成績 本年度ハ冬期溫暖ニシテ各區共越冬歩合ニ大差ヲ認メザリシモ三分ノ二切除被覆セルモノ越冬歩合最モ良ク放任セルモノハ越冬歩合ヲ減ジタリ

蘿 蔔  
 耕 種 概 要

- 1 播種 九月六日
- 2 栽植距離 畦幅5尺株間1.2尺ノ2條播トス
- 3 施肥量(反當)

肥料名	總量	基肥	追肥	追 肥			三 要 素		
				一回	二回	三回	窒 素	燐 酸	加 里
堆 肥	200	200	—	—	—	—	1.160	600	1.000
練 粕	15	5	10	—	10	—	1.245	840	1.050
油 粕	5	—	5	—	5	—	252	100	260
硫 酸 加 里	4	4	—	—	—	—	—	—	1.920
過 磷 酸 石 灰	8	8	—	—	—	—	—	1.200	—
人 糞 尿	400	100	300	100	100	500	2.280	400	1.080
計							4.937	3.140	5.310

(一) 品種比較試験

目的 澤庵用大根ノ適品種並ニ系統ノ優劣ヲ查究セントス  
 設計 練馬尻細4系白宮重2系及ビ小田部、宮重ヲ加エテ一區5坪宛ノ1區制トシ特性並ニ收量及乾燥歩合ヲ調査ス  
 成績 (反當收量)

品 種 名	種子取寄先	播種期	收穫期	上		中	
				個 數	根 重	個 數	根 重
練馬尻細	當場原種	9.6	12.10	1680	2678.880	900	1125.000
全 上	東 京	〃	〃	1980	2990.100	900	922.500
全 上	久住採種組合	〃	〃	1680	2361.000	1380	1298.280
埼 練	埼玉農試	〃	〃	2940	4508.100	360	315.000
小 田 部	福 岡	〃	〃	2460	4523.400	1020	1226.280

品 種 名	種子取寄先	下		計		根重歩合	備 考
		個數	根 重	個數	根 重		
宮 重	當場原種	〃	〃	3360	4879.200	1080	978.780
白 宮 重	森町採種組合	〃	〃	2880	4587.360	420	450.000
白 宮 重	兵 庫	〃	〃	1980	2662.500	1020	922.500
練馬尻細	當場原種	840	738.000	3420	4541.880	63.2	整一ニシテ成育良
全 上	東 京	720	465.780	3600	4378.380	62.0	整一ニシテ成育極良
全 上	久住採種組合	480	319.500	3540	3978.780	60.5	全 上
埼 練	埼玉農試	—	—	3300	4824.180	68.3	全 上
小 田 部	福 岡	—	—	3480	5749.680	75.8	稍不整成育良
宮 重	當場原種	120	45.000	3480	4924.200	72.9	整 一 極 良
白 宮 重	森町採種組合	120	33.780	3420	5071.680	71.6	全 上
白 宮 重	兵 庫	360	225.000	3360	3810.000	79.0	整一ニシテ成育良

以上ノ成績ニヨレバ何レモ澤庵大根トシテ優良ナルヲ認メタルモ練馬系中ニ於テハ埼練最モ整正豊産ニシテ優秀本場産及東京久住兩地産ハ之レニ次ギ何レモ大ナル差違ヲ認メズ

當場産宮重及森町採種組合産亦何レモ優良ナル成績ヲ示セリ

交配育種試験

目的 優良ナル澤庵大根ノ作出ヲ目的トス

設計 小田部、練馬尻細、宮重尻細ノ3品種ノ母本栽植ヲ行ヒ採種籠ヲ覆ヒテ、次ノニ組合セノ交配ヲ行ヒ採種ス

小 田 部 × 宮 重 (2株)

練馬尻細 × 宮 重 (3株)

甘 藍  
 耕 種 概 要

- 1 播種 九月二十九日
- 2 假植 2 回
- 3 栽植距離 畦幅5尺株間2尺ノ2條植トス
- 4 定植 十二月十九日
- 5 施肥量



肥料名	總量	基肥	追肥	追肥				三要素		
				一回	二回	三回	四回	窒素	磷酸	加里
堆肥	300	300	—	—	—	—	—	1.740	900	1.500
大豆粕	15	10	5	—	5	—	—	1.050	165	300
米糠	20	20	—	—	—	—	—	416	756	280
硫酸加里	4	4	—	—	—	—	—	—	—	1.920
過燐酸石灰	6	6	—	—	—	—	—	—	900	—
人糞尿	400	50	350	50	100	100	100	2.280	400	1.080
計								5.485	3.121	5.080

(一) 早生品種比較試験

目的 本縣ニ適スル優良早生品種ノ撰擇ヲ行ハントス

設計 豊田早生外5種ニツキ一區5坪宛ノ1區制トシ特性並ニ收量調査ヲ行フ

成績 收量調査(反當)

品種名	種子取寄先	收穫		1 疋以上		2 - 3 疋		1 - 2 疋	
		始	終	個數	重量	個數	重量	個數	重量
豊田早生	直入	5.13	5.30	—	—	60	123.300	980	1107.480
三池早生	福岡	5.15	5.30	60	195.780	240	489.420	1140	1629.000
中野早生	東京	5.13	5.30	—	—	480	1060.440	1200	1714.980
豊田魁	石井	5.13	5.30	—	—	560	971.100	1620	2645.580
豊田早生新一號	石井	5.13	5.30	—	—	120	257.880	1500	2000.040
野崎早生	野崎	5.13	5.30	—	—	120	272.460	480	737.340

品種名	種子取寄先	1 疋以下		合計		結球歩合	重量%
		個數	重量	個數	重量		
豊田早生	直入	360	257.400	1200	1488.180	55.5	100
三池早生	福岡	540	421.200	1980	2735.400	91.6	184
中野早生	東京	300	255.840	1980	3031.260	91.6	204
豊田魁	石井	—	—	2040	3616.680	94.4	243
豊田晚生新一號	石井	350	321.300	2040	266.922	94.4	179
野崎早生	野崎	300	213.780	900	1223.580	41.6	82

本年度成績ニヨレバ豊田魁ハ結球衝メテ容易ニシテ熟期最も早く大球ニヨテヨク捕ヒ豊産ニシテ品質優良ナルハ全ク前年度ト其ノ傾向ヲ同ジクス唯結球緊密ナル爲收穫期數日ヲ遅ラス場合ハ著シク裂開スルノ欠點ヲ有ス之レニ次ギテ中野早生及豊田早生新一號ハ豊産且品質優良ニシテ有望ナル品種ナルヲ認メタリ

(二) 豊田早生系統分離

目的 優良整一系ノ育成ヲ行ハントス

設計及成績 ヤマト種苗會社産外4種ヲ蒐集シ之レヨリ7系統14株ヲ撰擇採種籠ヲ用ヒテ自花採種ヲ行フ

(三) サクセツション系統分離

目的 優良整一系ノ育成ヲ行ハントス

設計及成績 ヤマト種苗會社産外4種ヲ蒐集シ之レヨリ6系統12株ヲ撰擇採種籠ヲ用ヒテ自花採種ヲ行フ

第二 栽培ニ關スル試験

(一) 水田利用蔬菜間作試験

目的 從來ノ二毛作水田ヲ利用シ蔬菜ノ間作ヲ行ヒ經濟的ニ如何ナル程度迄利用シ得ルヤニツキ試験セントス

設計 各區1畝宛トシ次ノ4種ニツキ試験ス

試験區別	第一期作	第二期間作	第三期作	備考
第一區	裸麥	里芋	水稻	
第二區	ク	蕃茄	ク	
第三區	ク	西瓜	ク	
第四區	ク	南瓜	ク	
第五區	ク	—	ク	標準區

成績 收量調査(反當)

試験區別	種類名	品種名	播種	定植	收穫		反當收量	
					始	終	個數	重量(容)
第一區	}	裸麥	膝八	11.24	—	6.1	—	1.890
		里芋	石川早生	催芽 3.16	4.22	7.18	27640	422.263
		水稻	大分三井	6.5	7.20	11.6	—	3.015
第二區	}	裸麥	膝八	11.24	—	6.1	—	1.590
		蕃茄	スーパークスアーリアナ	1.28	4.26	6.27	7.16	16850
第三區		水稻	大分三井	6.5	7.20	11.6	—	2.505
第三區	事故ノ爲	省略						
第四區	}	裸麥	膝八	11.24	—	6.1	—	1.720
		南瓜	黒皮早生	2.14	4.26	6.20	7.9	1330
第五區	}	水稻	大分三井	5.21	7.12	11.6	—	3.327
		裸麥	膝八	11.24	—	6.1	—	2.460
第五區		水稻	大分三井	5.12	6.27	11.6	—	2.583

(水稻ハ一坪坪刈換算收量ヲ示ス)

(二) 早熟南瓜整枝試験

目的 早熟南瓜ノ整枝上適法ヲ檢知セントス  
 設計 摘心4本區外3區ヲ設ケ落果、開花ノ早晚、熟期品質等ノ關係ヲ調査ス  
 成績 本年度ハ摘心2本區及摘心4本區優良ナルヲ示セリ

第三 見本栽培

目的 各種蔬菜ノ見本栽培ヲ行ヒ當業者ノ參考ニ供セントス  
 設計及成績 供試驗蔬菜種類落、豌豆、苜、土當歸、チャョテ、百合、甘藍ノ七種ニ付栽培ヲナシ一般觀覽者ノ參考ニ供セリ

第四 優良品種ノ育成配付

目的 本縣蔬菜ノ改良増殖ヲ圖ランタメ優良原種ヲ育成配付セントスルニアリ  
 設計及成績 本年育成配付セル原種次ノ如シ

種	類	品 種 名	原 種 配 付 量
葡	葡	練馬尻 細四號	斤 3.10
		宮 重 三 號	斤 1.80
茄	子	矢 原 四 號	斤 4.30
		博 多 長 茄	斤 0.80

果樹及花卉ニ關スル事項

本年四月園藝部圃場移轉ノタメ從來ノ果樹園ハ全部之レヲ廢シ十二月新ニ柿、栗梨ノ3種ヲ定植シ試験ヲ開始スル事トセリ  
 花卉ハ硝子室並ニ露地ニ於テゼラニウム外20餘種ノ見本栽培ヲ行ヒテ一般觀覽者ノ參考ニ供セリ

病 蟲 部

第一 米麥ノ病害蟲ニ關スル試験

(一) 二化性螟蛾發生時期調査

目的 本調査ハ二化性螟蛾發生ノ遲速併ニ多少等ヲ調査シ以テ之ガ驅除ノ適期ヲ知ラントスルニアリ  
 設計 豫察燈ヲ五月一日ヨリ九月末日迄毎夜點燈シテ調査ス豫察燈ハ光力32燭光ニシテ地上ヨリノ高サ4尺餘水盤ハ徑2尺トス  
 成績 本年ノ第一化期ニ於ケル發生ハ例年ヨリ約十日間遲レ五月二十二日之ヲ認メ最盛期ハ六月中旬ニシテ其ノ發生蛾數ハ多カラズ第二化期ハ八月九日ニ初發ヲ認メ最盛期ハ八月中下旬ニ亙リ發蛾數多ク被害亦多カリキ

(二) 誘蛾燈ノ種類ト効果トノ關係試験

目的 二化性螟蛾誘殺上坊間ニ販賣セラル、各種誘蛾燈ノ効果ヲ知ラントスルニアリ  
 設計 各種誘蛾燈ヲ苗代及本田ニ點火シ落下セル二化螟蛾ノ數ヲ調査シ以テ其ノ優劣ヲ定ム誘蛾燈ノ高サ地上2.5尺毎夜其ノ位置ヲ變更ス  
 成績 1 苗代ニ於ケル調査自六月十一日至全二十四日13日間ノ誘殺蛾數トス

誘 蛾 燈 ノ 種 別	蛾 殺 蛾 數			雌 歩 合	一 夜 ノ 平 均 誘 殺 數
	雌	雄	合 計		
江 口 式	209	617	826	25.3%	64
香 川 式	88	364	452	19.5	35
高 山 式	90	319	409	22.0	31
岡 崎 式	73	275	349	21.0	27
齊 藤 式	34	145	179	19.0	14
報 國 式	20	29	49	40.8	4
本場豫殺燈(三十二燭光)	363	422	785	46.2	60

即チ江口式最モ良好ニテ香川式、高山式、岡崎式等之ニ次ゲリ

2 本田第一化期ニ於ケル調査自六月二十五日至七月十二日

誘 蛾 燈 種 別	點 火 日 數	誘 殺 蛾 數			雌 歩 合	一 夜 平 均 誘 殺 數
		雌	雄	合 計		
江 口 式	13	158	1,281	1,439	11.0%	111
香 川 式	16	59	900	959	6.2	60
大 分 式	14	49	685	734	6.7	52

岡崎式	16	42	754	796	5.3	50
高山式	16	58	725	783	7.4	49
齊藤式	16	24	412	436	5.5	27
報國式	15	17	180	197	8.6	12
本場豫察燈	15	879	1,362	2,241	33.2	149

3 本田第二化期ニ於ケル調査自八月十三日至二十八日十五日間

誘蛾燈種別	誘殺蛾數			雌歩合	一夜平均誘蛾數	備考
	雌	雄	合計			
香川式	3	113	116	2.6%	7.7	七日間點燈
高山式	1	115	116	0.9	7.7	
岡崎式	2	89	91	2.2	6.0	
大分式(水盤角形)	4	75	79	5.1	5.1	
大分式(水盤丸形)	10	56	66	15.1	4.4	
江口式	3	61	64	4.7	9.0	
齊藤式	2	25	27	7.4	1.8	
報國式	0	11	11	0	0.7	
本場豫察燈	126	185	221	16.3	14.7	

以上調査成績ニ依レバ苗代ニ於ケルモノト一致シ江口式、香川式、高山式、岡崎式、大分式等良好ナリキ、然レドモ江口式ハ取扱上不便多キ缺點アリ

(三) 稻穂頸いもち病豫防上ボルドウ液ニ加用スル展着剤ト効果トノ關係試験

目的 穂頸いもち病豫防上撒布スルボルドウ液ハ濃厚ナルモノハ藥害ヲ蒙リ易シキヲ以テ可成稀薄ナルモノヲ可トスルモ之ノ場合加用スル展着剤ノ種類及分量ト其ノ効果トノ關係ヲ知ラントスルニアリ

設計 六斗式及八斗式ノ濃度ノボルドウ液1斗ニ對シ次ノ如ク展着剤ヲ加用シ穂揃期ニ1回撒布シテ調査ス

但シ發病歩合ハ5ヶ年平均収量ハ3ヶ年平均トス

- |   |                      |   |        |
|---|----------------------|---|--------|
| 1 | ボルドウ液1斗ニ對シガゼイン石灰5匁加用 | 2 | 全10匁加用 |
| 3 | 全松脂曹達液1匁加用           | 4 | 全2匁加用  |
| 5 | 全黒砂糖20匁加用            | 6 | 全無加用   |
- 7 標準(無撒布) 供試品種大分三井1區供試面積10坪耕種法本場標準ニ準ズ

成績

試験區別	穂頸いもち發病歩合	反當玄米收量	籾一升重	玄米一升重	反當藥收量
1. 六斗式ボルドウ液一斗ニ對シガゼイン石灰五匁加用	2.7%	3.14石	281匁	405匁	498匁
2. 全10匁加用	3.9	3.03	275	404	488
3. 全松脂曹達液1匁加用	2.0	2.88	281	404	473
4. 全2匁加用	1.6	2.11	279	404	503
5. 全黒砂糖20匁加用	3.3	3.21	278	403	496
6. 全無加用	4.8	3.14	283	405	486
7. 標準(無撒布)	15.3	3.29	286	405	493
8. 八斗式ボルドウ液一斗ニ對シカゼイン石灰5匁加用	7.1	3.21	284	405	475
9. 全10匁加用	5.0	3.15	285	404	483
10. 全松脂曹達液1匁加用	3.9	3.22	286	406	503
11. 全2匁加用	3.2	3.30	283	407	510
12. 全黒砂糖20匁加用	5.4	3.24	285	405	514
13. 全無加用	6.2	3.40	285	407	534
14. 標準(無加用)	22.6	3.14	287	401	453

以上試験ノ結果ニ據レバ六斗式ボルドウ液ニ對シ展着剤ヲ加用セルモノノ効果多ク八斗式ノモノ劣レリ展着剤中松脂曹達液ヲ加用セルモノノ最モ良好ニテ黒砂糖ハ効果少シ發病歩合僅少ナルヲ以テ收量ニハ殆ド影響ナカリキ

(四) 稻熱病發生ト三要素トノ關係試験

目的 葉、穂頸、節稻熱病ノ發生ト三要素トノ關係ヲ知ラントスルニアリ

設計 八區ノ試験區ヲ設ケ各稻熱病ノ發生ヲ調査ス

供試品種神力 1坪株數 60株 各要素反當 2貫匁

成績 (三ヶ年平均)

試験區別	葉いもち發病歩合	穂頸いもち發病歩合	節いもち發病歩合	反當量	玄米一升重	籾一升重
1. 無肥料區	33%	17%	6%	2.61石	392匁	283匁
2. 磷酸加里區	28	13	16	2.65	391	283
3. 窒素加里區	68	11	4	2.89	390	280
4. 窒素磷酸區	68	12	11	2.90	392	283
5. 三要素區	48	18	8	2.87	392	280
6. 三要素石灰加用	43	14	11	2.98	392	280
7. 大豆粕區	47	18	10	3.08	390	279
8. 骨粉區	44	21	10	3.00	389	283

(五) 葉稻熱病豫防上藥劑撒布ノ効果ト展着劑トノ關係試驗

目的 葉稻熱病豫防上藥劑撒布ノ效果及之ニ加用スル展着劑ノ良否ハ其ノ效果ニ影響スルコト大ナルヲ以テ之ヲ檢知セントスルニアリ

- 設計 1 四斗式過石灰ボルドウ液  
 2 全ボルドウ液1斗ニ對シカセイン石灰10匁加用  
 3 全松脂曹達液1合加用  
 4 ミイケ殺菌劑150倍液  
 5 標準供試 品種神力 耕種法 本場標準ニ準ズ 撒布回数 發病期2回  
 成績 (三ケ年平均)

試 驗 區 別	葉いもち發病歩合			發病歩合 三ケ年 平均	反 當 量	玄米一 升重量	粃一升 重 量
	昭和 七年	全 八年	全 九年				
1. 四斗式過石灰ボルドウ液	50%	50%	5%	35%	2.88石	389匁	278匁
2. 全カセイン石灰10匁加用	45	35	5	28	2.87	391	280
3. 全 松脂曹達液1合加用	45	35	3	28	2.91	389	276
4. ミイケ殺菌劑150倍液	45	45	24	38	2.85	391	277
5. 標 準	45	75	26	49	2.91	390	275

發病歩合ハ展着劑ヲ加用セルモノ少カリシモ收量ハ大差ヲ認メズ

(六) 小麥腥黑穗病豫防ニ關スル試驗

目的 小麥腥黑穗病發生ト之ガ簡易ナル防除法ヲ知ラントスルニアリ

- 設計 1 種子消毒ニ關スル試驗 2 播種期トノ關係  
 3 品種トノ關係 4 病菌混入トノ關係

成績 1 種子消毒中最モ簡易有効ナルハ1,000倍昇永水10分間浸漬水洗セルモノ、硫酸銅0.4%液5時間浸漬ノモノ、木灰汁24時間浸漬(木灰1升熱湯2升5—6時間放置)等ニシテ尙試驗繼續中ナリ

2 播種期ト發病トノ關係(供試品種伊賀筑後)

試 驗 區 別	五坪發病 本 數	發病歩合	反當收量	一升重量	反當秤量	品 質
1. 十二月一日播種	366本	10.2%	2.846石	343匁	320匁	上
2. 全 十日播種	862	30.6	1.529	333	140	中下
3. 全 二十日播種	836	26.7	1.814	334	180	中下
4. 全 三十日播種	504	18.0	1.679	334	175	下
5. 一月十日播種	426	13.7	1.831	338	190	下
6. 全 二十日播種	874	30.5	1.403	335	140	下
7. 全 三十日播種	627	28.1	1.393	333	155	下

即チ播種期トハ大ナル關係ナキモノ、如シ

3 品種ト發病トノ關係試驗(播種十一月二十八日)

品 種 名	五坪發病 本 數	發病歩合	反當收量	一升重量	品 質
1. 大分伊賀筑後	668本	16.7%	2.314石	357匁	上下
2. 大分小麥一號	361	9.8	2.831	346	全
3. 早 坊 主	847	23.2	2.014	358	全
4. 白 坊 主	1,021	29.0	1.967	332	全
5. 西國穗揃(宮崎)	844	20.9	2.008	355	全
6. 新中長(長崎)	604	18.3	2.347	360	全
7. 福岡小麥一八號	1,242	36.6	1.757	345	全
8. 赤坊主(福岡)	941	24.8	1.797	365	全

4 病菌混入ト發病トノ關係(供試品種伊賀筑後)

試 驗 區 別	五坪發病 本 數	發病歩合	反當收量	一升重量	品 質
1. 堆肥中ニ孢子混入	8本	0.2%	3.090石	359匁	上下
2. 肥料中ニ孢子混入	0	0	2.710	360	全
3. 土壤中ニ孢子混入	82	2.2	2.608	355	全
6. 種子ニ孢子混入	458	12.3	2.393	353	全
5. 標 準	0	0	2.936	360	全

多クノ場合本病ハ種子傳染ニ依ルモノニシテ其ノ他ニヨリ傳染スルコトハ稀ナルガ如シ

(七) 小麥萎縮病防除ニ關スル試驗

目的 縣下各地ニ蔓延被害シツ、アル本病ノ簡易有効ナル防除法ヲ知ラントスルニアリ

- 設計 1 種子消毒トノ關係試驗 2 土壤消毒トノ關係試驗  
 3 肥料トノ關係試驗 4 品種トノ關係試驗

供試品種 大分伊賀筑後 供試面積 一區一畝

成績 播種ノ早晚、種子消毒、土壤消毒、肥料ト發病トノ關係試驗ニ就テハ前二ケ年ノ試驗結果ニ依リ其ノ效果ノ有無ヲ知ルコトヲ得タルヲ以テ本年ハ以上試驗ノ結果ニ基キ最モ効果アルモノノミニ就テ比較試驗ヲ施行セリ、即チ硫酸銅及硫酸銅ノ種子及土壤消毒、施肥分量等ニ就キ實施セリ、然レドモ本年ハ各區共發病割合ニ少ク判然タル結果ヲ得ルニ至ラザリキ  
 品種ト發病トノ關係試驗(三ケ年平均)

品 種 名	取寄先	草 丈	成熟期	發病歩合	反當收量	一升重量	反當秤量
		C.m	月 日	%	石	匁	匁
1. 新 中 長	長 崎	94	6. 7	1.33	2.733	362	228
2. 長 崎 小 麥	全	85	6. 7	29.33	2.346	346	188
3. 三 洲 小 竹	鹿 兒 島	89	6. 9	46.33	2.223	361	164
4. 幾 内 一 八 九 號	全	89	6. 9	13.67	2.275	369	165
5. 白 プ ン プ	熊 本	101	6.13	2.33	2.429	378	249
6. 一 號 熊 本 小 麥	全	89	6.13	12.67	2.637	361	194
7. 赤 坊 主	福 岡	105	6.13	0	2.142	366	239
8. 福 岡 小 麥 一 號	全	84	6. 7	0.67	3.188	355	206
9. 西 國 穂 揃 一 號	宮 崎	91	6. 8	5.33	1.946	358	177
10. 新 中 長	佐 賀	98	6. 7	0.67	2.986	362	228
11. 大 分 小 麥 一 號	大 分	94	6.10	12.00	2.647	346	174
12. 白 坊 主	全	116	6.13	54.00	2.099	358	207
13. 大 分 伊 賀 筑 後	全	85	6. 7	85.00	1.592	349	148

備考 大分小麥一號ハ昭和八、九2ケ年ノ平均トス  
草丈成熟期ハ昭和八年度調査ノモノトス

(八) 稈麥斑葉病豫防ニ關スル試驗

目的 麥斑葉病豫防ニ對シ現時實施シツ、アル風呂湯浸法ヨリモ一層簡易有効ナル防除法ヲ案出セントスルニアリ

- 設計 1 種子消毒トノ關係試驗 2 播種期トノ關係試驗  
3 品種トノ關係試驗 4 覆土ノ淺深トノ關係試驗  
5 肥料トノ關係試驗 供試品種 大分稈

成績 1 種子消毒トノ關係試驗ハ尙繼續中ナルモ本年度ノ成績ニ依レバ1,000倍昇汞水10分間浸漬ノモノ、1%硫酸銅液5時間浸漬、フオルマリン200倍液1時間浸漬、風呂湯浸等ノモノハ至ク發病ナク効果多キヲ認ム木灰汁ハ24時間浸漬ノモノモ多少發病セリ

2 播種期トノ關係

試 驗 區 別	生 育 否	五坪ニ於ケル發病數	反當收量	一 升 重 量	反 當 秤 量	品 質 良 否
1. 十一月十日播種	上	1.164 <sup>本</sup>	3.168 <sup>石</sup>	374 <sup>匁</sup>	282 <sup>匁</sup>	上
2. 全 二十日播種	上	1.001	3.128	366	311	中
3. 全 三十日播種	中下	421	2.472	364	194	中
4. 十二月十日播種	中下	669	3.054	365	242	中

5. 全 二十日播種	下	515	2.447	360	233	下
6. 全 三十日播種	下ノ下	406	1.808	305	117	下ノ下

3 品種ト發病トノ關係

試 驗 區 別	生 育 否	五坪ニ於ケル發病數	反當收量	一升重量	反當秤量	品 質
1. 大 分 稈	中上	0 <sup>本</sup>	2.316 <sup>石</sup>	359 <sup>匁</sup>	286 <sup>匁</sup>	上
2. 大 分 捻	中上	7	3.441	383	245	上
3. 大 分 膝 八	上	0	3.732	396	277	上
4. コ ビ ン	上	1	2.463	356	264	上

4 覆土ノ淺深トノ關係

試 驗 區 別	生 育 否	五坪ニ於ケル發病數	反當收量	一升重量	反當秤量	品 質
1. 五 分 覆 土	上	1.208 <sup>本</sup>	2.731 <sup>石</sup>	383 <sup>匁</sup>	229 <sup>匁</sup>	上
2. 八 分 全	上	886	2.903	386	297	上
3. 一 寸 全	上	1.279	2.817	389	282	上
4. 一 寸 五 分 全	上	808	2.123	386	305	上

覆土ノ淺深ト發病トハ大ナル關係ナキガ如シ

5 肥料トノ關係

試 驗 區 別	生 育 否	五坪ニ於ケル發病數	反當收量	一升重量	反當秤量	品 質
1. 人 糞 尿 三 百 貫 施 用	中	341 <sup>本</sup>	2.373 <sup>石</sup>	388 <sup>匁</sup>	192 <sup>匁</sup>	上
2. 全 六 百 貫 施 用	上	404	3.426	386	252	上
3. 堆 肥 三 百 貫 施 用	下	154	1.186	412	99	上
4. 標 準 (本 場 標 準 肥 料)	上下	297	2.767	374	174	上
5. 肥 料 五 割 増	上	326	3.177	370	217	上
6. 堆 肥 人 糞 尿 各 三 百 貫 施 用	下	260	2.121	380	189	上

第 二 果 樹 蔬 菜 ノ 病 蟲 害 ニ ス 關 ル 試 驗

(一) 蜜柑黒點病豫防試驗

目的 本病豫防上ボルドウ液撒布ノ有効ナルコトハ前3ケ年ノ試驗成績ノ明示スル所ニシテ即チ六月下旬ヨリ七月上旬ノ間ニ於テ四斗式ボルドウ液ヲ2回撒布スレバ殆ド完全ニ豫防スルコトヲ得而シテ柑橘ニ撒布スルボルドウ液ハ種々ノ關係上成ルベク稀薄ナルモノヲ可トスルヲ以テ濃度ト効果トノ試驗ニ就テハ本

年度新ニ之ヲ設ケ四斗、五斗、六斗式ノ3種ニ就テ爲セル結果ニ依レバ五斗式ノモノ最モ良好ナルヲ示セリ尙石灰硫黄合劑ガ本病豫防上効果ノ有無ニ就テ試驗セル結果ハ次ノ如シ

設計 石灰硫黄合劑ノ濃度ハボーマー比重0.5度  
撒布時期及回数六月下旬ヨリ七月上旬1—2回撒布  
供試柑橘ハ温州蜜柑トス

成績 (二ケ年平均)

試 驗 區 別	無 病 果 歩 合		發 病 歩 合 二 ケ 年 平 均			
	昭和八年	全九年	無病果	劇シキモノ	中位ノモノ	輕キモノ
1 石灰硫黄合劑0.5度液 六月下旬一回撒布	73.3	61.7	67.5	1.9	4.2	26.4
2. 全 七月上旬一回撒布	75.1	63.8	69.5	2.7	4.2	23.6
3. 全 六月下旬二回撒布 七月上旬一回撒布	60.5	58.3	59.4	3.3	6.8	30.5
4. 標 準 (無 撒 布)	65.3	56.5	60.9	3.3	8.5	27.3

石灰硫黄合劑ハ本病豫防上殆ド効果ナキガ如シ

(二) 柑橘瘡痂病豫防上消石灰ボルドウ液ノ効果ニ關スル試驗

目的 蜜柑瘡痂病豫防上消石灰ボルドウ液ヲ撒布シ之ガ効果及藥害等ヲ檢知セントスルニアリ

設計 1 五斗式等量ボルドウ液撒布 2 四斗式消石灰ボルドウ液撒布(等量)  
3 五斗式消石灰ボルドウ液撒布 4 標準(無撒布)  
撒布期日 五月中下旬1回 供試柑橘 温州蜜柑

成績 2ケ年間ノ試驗成績ニ依レバ消石灰ボルドウ液有効ナルヲ示セリ而シテ消石灰ボルドウ液ハ蜜柑ノ品質ニ惡影響ナキノミナズ介殼虫ヲ誘發スルコト尠キヲ認ム尙本試驗ハ繼續スルモノナリ

(三) 枇杷瘡痂病(鉢卷病)豫防ニ關スル試驗

目的 本病豫防上種々ノ藥劑ヲ撒布シ之ガ豫防ノ時期藥劑撒布回数及濃度等ヲ知ラントスルニアリ

設計 1 硫酸ニコチン800倍液撒布 2 石灰硫黄合劑0.5度液撒布  
3 四斗式ボルドウ液撒布 4 標準  
撒布回数 8—10回 一區供試樹數 2本

成績 藥劑撒布ハ前3ケ年間ニ於テハ四月及五月中ニ3—4回施行セルモ其ノ効果ヲ認メズ、本年度ハ秋季ニ於テ4—5回春季ニ於テ4—5回撒布ニ變更セリ然レドモ本年度ニ於テモ藥劑撒布ノ効果ハ認メ得ス

(四) 柑橘介殼虫驅除上マシン油乳劑ノ効果ニ關スル試驗

目的 柑橘介殼虫(褐色丸介殼虫、長カキ介殼虫、コンマ介殼虫)驅除上最モ効果アルマシン油乳劑ノ種類濃度、撒布回数及時期等ヲ知ラントスルニアリ

設計 1 マシン油乳劑ノ種類トノ關係 2 藥液濃度トノ關係  
3 撒布回数トノ關係 4 撒布時期トノ關係  
供試柑橘 温州蜜柑 供試樹數一區 2本

成績 1 マシン油乳劑ノ種類トノ關係

試 驗 區 別	供試樹數	藥害有無	介殼虫斃死歩合		備 考
			長がき介殼虫	褐色丸介殼虫	
1. 日本農藥製改良マシン油乳劑	2	無	80—90%	70—80%	藥液濃度17倍撒布期日十二月十五日各藥劑共ニ龜甲介殼虫幼虫80%死コンマ介殼虫幼虫80—90%死
2. 井上喜商店製マシン油乳劑	2	全	80—85	80	
3. 本場製マシン油乳劑	2	全	80—85	80	
4. 日本農藥製3%スケルシン	2	全	80	60—70	
5. 標 準	2	全	8	10	

各マシン油乳劑共ニ其ノ効果ニ大差ヲ認メザルモスケルシンハ多少劣ルガ如シ之レ油滴ノ小ナルガ爲メナルベシ

2 藥液濃度トノ關係

試 驗 區 別	供試樹數	藥害有無	介殼虫斃死歩合		備 考
			長がき介殼虫	褐色丸介殼虫	
1. 日本農藥會社製改良マシン油乳劑十五倍液	2	無	90	84	撒布期日十二月十五日コンマ介殼虫幼虫90%死龜甲介殼虫幼虫80%死コンマ介殼虫幼虫85—90%死介殼虫幼虫2割位死
2. 全 十 七 倍 液	2	全	80—90	70—80	
3. 全 二 十 倍 液	2	全	9	10	
4. 標 準	2	全	7	10	

濃度ハ15倍ノモノ最モ効果多ク17倍ハ稍々劣リ20倍ノモノハ殆ド効果ナキヲ示セリ藥害ハ樹性強健ナルモノハ以上ノ濃度ニテハ之ヲ認メズ撒布回数ハ1回ノモノヨリモ2回撒布ノモノ良好ナリキ撒布時期ハ十二月、一月撒布ノモノニテハ其ノ効果ニ大差ヲ認メス

(五) 大根螟虫(心喰虫)ノ除防ニ關スル試驗

目的 大根螟虫ノ最モ簡易有効ナル防除法ヲ知ラントスルニアリ

設計 1 幼虫ニ對スル接觸劑効果試驗  
2 幼虫ニ對スル毒劑効果試驗

3 卵ニ對スル接觸劑効果試験

4 圃場試験

成績 1 幼虫ニ對スル接觸劑効果試験

試験區別	供試虫數	死虫數	生虫數	同化蛹上數	死虫歩合
1. 四〇〇倍水溶性ネオトン液撒布	15	11	1	3	73.3%
2. かんこう殺虫劑水一斗二十二匁	15	12	1	2	80.0
3. 八〇〇倍硫酸ニコチン液	15	10	0	5	66.7
4. デリス根液水一斗三匁	15	13	1	1	86.7
5. 二〇匁除虫菊石鹼液	15	9	2	4	60.0
6. 標 準	15	7	4	4	46.6

備考 供試虫ハ三、四、五齡ノモノトス九月二十九日開始1週間調査ノ結果トス試験ノ結果ニ據レバ該幼虫ハ一般藥劑ニ對スル抵抗力甚ダ強ク何レモ効果顯著ナラズ、然レドモデリス劑ハ他ノモノニ比シ効果多ク殊ニデリス根ハ良好ナルヲ示セリ

2 幼虫ニ對スル毒劑効果試験

試験區別	供試虫數	一週間後ニ於ケル死虫數	同上生虫數		死虫歩合
			幼虫	蛹化數	
1. 水一斗ニ砒酸鉛二〇匁加用	20	12	6	2	60%
2. 全 二五匁	20	14	5	1	70
3. 全 三〇匁	20	14	5	1	70
4. 全 三五匁	20	19	1	0	95
5. 標 準	20	8	7	5	40

備考 供試幼虫ハ三、四、五齡ノモノトス、十月一日開始1週間迄ノ結果トス以上試験成績ノ示スガ如ク砒酸鉛35匁加用ノモノ最モ良好ニシテ25-30匁加用ノモノハ差ナカリキ

3 卵ニ對スル接觸劑効果試験

試験區別	供試卵粒數	孵化數		孵化卵粒數	死卵數	孵化歩合
		十二日	十三日			
1. 四〇〇倍水溶性ネオトン液撒布	20	12	0	12	8	60.0%
2. 八〇〇倍硫酸ニコチン液	20	20	0	20	0	100.0
3. 一〇〇〇倍硫酸ニコチン液	19	19	0	19	0	100.0
4. かんこう殺虫劑水一斗十二匁	22	10	3	13	9	59.1
5. デリス根水一斗三匁	25	8	3	11	14	44.0

6. 十五匁除虫菊石鹼液	19	18	0	18	1	94.7
7. 二十匁 全 上	18	16	0	16	2	88.9
8. 標 準	20	20	0	20	0	100.0

以上成績ノ示スガ如ク該虫及卵ハ種々ノ藥劑ニ對シ抵抗力強ク殊ニ硫酸ニコチンハ殆ド効果ヲ認メズ水溶性ネオトンハ稍々効果アルモ顯著ナラズデリス根ハ最モ良好ナルヲ示セリ

4 圃場試験毒劑及接觸劑ヲ圃場ニ於テ大根及白菜ニ撒布セル結果ニ據レバ砒酸鉛、デリス根及除虫菊石鹼液撒布ノモノ良好ナリキ本試験ハ尙繼續中ナリ

第三 農用藥劑ニ關スル試験

(一) 殺虫劑ノ効果ニ關スル試験

目的 坊間ニ販賣セラル、種々ノ殺虫劑ノ効果及藥害等ヲ知ラントスルニアリ

設計 種々ノ接觸劑ニ就キ濃度ヲ異ニシ菜種及甘藍蚜虫ニ撒布ス

成績

試験區別	藥害有無	斃死歩合		備考
		菜種蚜虫	甘藍蚜虫	
1. ビレトン一封度一石液	無	80%	90%	撒布期日五月十七日
2. 全 一石五斗液	全	72	80	圃場試験結果トス
3. 全 二石液	全	60	62	硫酸ニコチンハフラックリ一フ40トス
4. デリゲン一封度一石液	全	70	92	ビレトンハ三共株式會社製
5. 全 一石五斗液	全	48	70	品除虫菊製劑デリゲンハ同
6. 全 二石液	全	27	20	社製デリス製劑ナリ
7. 硫酸ニコチン一、四〇〇倍液	全	100	100	除虫菊粉ハ日本農藥純正除
8. 全 二、〇〇〇倍液	全	100	100	菊粉トス
9. 除虫菊石鹼液(各十匁)	全	98	100	藥液1斗ニアデカ石鹼20匁
10. デリス根水一斗三匁液	全	100	100	加用
11. 五〇〇倍水溶性ネオトン	全	100	100	
12. 全 上 一、〇〇〇倍液	全	95	95	
13. かんこう殺虫劑水一斗七匁加用	全	100	100	
14. 標 準	全	0	0	

即チ硫酸ニコチン、除虫菊石鹼液、デリス根水溶性ネオトン、かんこう殺虫劑等最モ効果多クビレトン及デリゲンハ効果確實ナラザリキ

(二) 砒酸石灰ノ効果ニ關スル試験

目的 害虫防除上砒酸石灰ノ効果及藥害等ヲ知ラントスルニアリ  
 設計 ニホナート(日本農藥會社製品)三菱礦業會社製、横濱植木株式會社製等各種ノ砒酸石灰ニ就キ藥害及効果ノ試験ヲナス  
 成績 梨、葡萄、甘藍、瓜類ニ撒布試験中ナルモ作物ノ種類ニヨリテハ藥害多ク使用困難ナルモノアリ瓜守、こがね虫等ニ就テ効果試験施行繼續中ナリ

(三) デリス劑調製時ニ於ケル溫度ノ高低及調製後時間ノ經過ト効果トノ關係試験

目的 デリス劑ヲ高溫度ニテ處理セル場合其ノ有効成分ニ影響スルヤ否ヤ調製後時間ノ經過ト効果減退トノ關係ヲ知ラントスルニアリ  
 設計 1 石鹼水ノ溫度40度、60度、90度等ノモノニデリス劑ヲ加ヘ冷却後撒布  
 2 藥液調製後1晝夜、2晝夜、3晝夜經過後効果試験ヲ施行ス  
 成績 デリス劑ハ90度以上ノ溫度ニテ長ク處理スレバ効果著シク減退スルヲ以テ成ルベク低溫度ニテ調製スルヲ可トス亦調製後長時間ヲ經過スルニ從ヒ効果減退スルヲ以テ成ルベク調製當日中ニ使用スルヲ可トス

(四) 消石灰ボルドウ液ノ調製及効果ニ關スル試験

目的 消石灰ヲ以テボルドウ液ヲ調製シ其ノ効果及藥害ノ有無等ヲ知ラントスルニアリ  
 設計 1 消石灰ボルドウ液ノ調製ニ關スル試験  
 2 全上効果及藥害ニ關スル試験  
 成績 1 調製ニ關スル試験(石灰量ト品質トノ關係)

(一)

試験區別	沈澱ノ深サ(上澄)						色	品質	良否順
	十分後	二十分後	三十分後	四十分後	五十分後	六十分後			
1. 五斗式ボルドウ液 消石灰六〇匁加用	2.0	4.5	9.0	14.0	22.0	28.0	帶白綠	不良	6
2. 全 七〇匁	2.5	6.0	10.0	13.0	15.0	18.0	全上	稍良	3
3. 全 八〇匁	2.5	5.0	9.0	12.0	15.0	17.0	青	良	2
4. 全 九〇匁	2.5	5.0	9.0	13.0	16.0	18.0	全	良	3
5. 全 一〇〇匁	2.5	5.0	8.0	10.0	13.0	16.0	全	良	1
6. 全 一一〇匁	2.5	6.0	18.0	25.0	31.0	35.0	全	良	4
7. 全 一二〇匁	2.0	8.5	33.0	38.0	42.0	44.0	全	良	5

(二)

試験區別	沈澱ノ深サ				粒子ノ大小	反應
	十分後	二十分後	三十分後	四十分後		
1. 硫酸銅一〇匁 生石灰一三〇匁	3.5	6.5	10.5	14.0	中	強アルカリ
2. 硫酸銅一〇匁 消石灰一八〇匁	2.5	17.5	32.5	38.5	中	全上
3. 全消石灰二四〇匁加用	6.0	30.5	38.5	43.0	大	全上
4. 全 三六〇匁加用	13.0	43.5	50.0	53.0	大	全上

備考 ボルドウ液ノ濃度ハ五斗式トス室内溫度25度ボルドウ液溫度27度  
 以上實驗ノ結果ニ依レバ消石灰ボルドウ液ノ調製ニ當リ加用スル消石灰ノ分量ハ硫酸銅120匁ニ對シ80—100匁ヲ適當トスルガ如シ、右分量ニテハ中和ノ點ニ於テハ多クノ場合安全ナリトス、其ノ分量多キニ過グレバ却ツテボルドウ液ノ品質不良トナル過濕状態ニアル消石灰ハ結果不良ナルヲ以テ使用セザルヲ可トス  
 之ガ効果ニ關シテハ尙目下試験繼續中ナルモ柑橘瘡痂病等ニ撒布ノ結果ニヨレバ生石灰ボルドウ液ヨリモ有効ナルヲ示セリ、藥害ハ生石灰ボルドウ液ヨリモ稍々多キガ如キヲ以テ藥害ヲ蒙リ易キ作物ニ撒布スル場合ニハ注意ヲ要ス



## 農林省指定浮塵子及稻萎縮病防除試験

## 浮 塵 子

## 第 一 浮塵子驅除ニ關スル試験

## (一) 藥劑ノ種類別驅除時刻査定試験

目的 前年同様ノ目的ヲ以テ各種藥劑ヲ使用シ適當ナル驅除時刻ヲ檢知セムトス  
設計 試験方法ハ午前4時、5時、6時、10時、午後2時、5時半ノ6回ニ分チ  
藥劑ノ種類ヲ次ノ如ク區分シ苗代本田双方ニ於テ施行ス

藥劑ノ種類	苗代	本田	備考
除虫菊浸出石油(虎印)	反當 1升	反當 1升	苗代 竹棒拂落 本田 柄振使用
市販煙草粉 不篩過	坪當40匁	全 10貫	手 撒キ
除虫菊石鹼液	全 5合	全1石5斗	植木式肩掛噴霧器 除虫菊ハ虎印純止除虫菊ヲ用ユ

## 成績

- イ 本田試験ニ於テハ未曾有ノ旱害ニ遭遇シ浮塵子類過少ノ嫌ヒアルモ概シテ前年度同様油類粉劑共ニ苗代本田ニ於ケル殺虫率ハ低溫多濕ニシテ陽光ノ照射少ナク虫ノ活動力劣レル午前6時迄最モ高ク10時ニ至リテ低下シ午後2時最モ劣リ5時半ニ至リ稍々高シ液劑ハ本年度ニ於テハ時刻別ニ確タル差異顯ハレズ
- ロ 除虫菊浸出石油ハ殺虫率比較的高ク苗代ノ結果ハ本田ヨリモ多少高キ傾向アリシモ午後5時半ヲ除キ時刻別殺虫効果略相匹敵セリ然レドモ日中ノ驅除操作ハ著シク成虫ノ飛翔逃避スルコト多シ
- ハ 煙草粉ハ苗代本田共最モ殺虫率劣リ特ニ露ト風ノ有無及多少ニヨリ効果ニ差異ヲ生ズ早朝露アルトキハ苗代本田共附着良好ナレドモ苗代期ニ於テハ上部ニノミ附着スルコト多ク日中ノ撒布ハ殆ンド附着スルコトナク田面上ニ落下ス
- ニ 除虫菊石鹼液ハ苗代本田共殺虫率最モ高ク時刻別ニ判然タル差異顯ハレズ而シテ眞晝ノ驅除ハ早朝驅除ニ比シ液撒布ノ衝動ニ依リテ成虫ノ飛翔逃避スルモノ多ク殺虫率ニモ影響スルモノト思考スルモ注油驅除及粉劑撒布ヨリモ殺虫効果適確ナル成績ヲ示セリ

## (二) 油類ト他ノ藥劑トノ併用効果比較試験

目的 苗代期及本田出穂後ニ於ケル浮塵子ノ徹底的驅除ノ方法ヲ檢知セムトス  
設計

試験方法

供試薬劑ノ區分次ノ如シ

薬劑ノ種類	苗代		本田出穂後		備考
	油ノ種類及用量	液粉劑ノ種類及用量	油ノ種類及用量	液粉劑ノ種類及用量	
除虫菊浸出輕油併用 除虫菊木灰併用	輕油(青全勝)1升 除虫菊粉 20匁	木灰3貫 坪當 除虫菊粉120匁 20匁	全上	全上反當 7貫	1. 油ノ單用ハ苗代ニテハ竹本振ヲ使用ス 2. 粉劑ハ手シ植掛ヘモ手シ植掛ヘモ噴霧器ヲ使用ス
全煙草石灰併用	全	市販煙草粉7貫 消石灰3貫 坪當 20匁	全上	全上 全	
全除虫菊石鹼液併用	全	除虫菊石鹼各 20匁水1斗 坪當 20匁	全上	全上反當 1石	
全硫酸ニコチン石鹼液併用	全	硫酸ニコチン八匁 水1斗石鹼20匁 坪當 4合	全上	全上 全	
除虫菊浸出輕油單用	全	—	全上	—	

成績

薬劑ノ種類	苗代	本田		
		液粉劑坪當量	一回二區分平均殺虫率	反當藥劑價格
除虫菊浸出輕油(青全勝)反當 1升 除虫菊(木灰3貫除虫菊120匁)	併用 20匁	87.39%	2.71圓	7貫 87.80% 3.10圓
全煙草石灰(煙草粉7貫消石灰3貫)	併用 20匁	54.51	2.16	7貫 74.48 2.46
全除虫菊石鹼液(除虫菊石鹼各々20匁水1斗)	併用 4合	97.45	2.53	1石 95.89 2.25
全硫酸ニコチン石鹼液800倍 (液1斗ニ石鹼20匁)	併用 4合	65.38	2.15	1石 79.11 2.16
除虫菊浸出輕油單用	—	40.20	0.35	— 72.99 0.35

- イ 油類ト液粉劑トノ併用ハ苗代本田トモ油類單用ニ比シ何レモ効果優レリ
- ロ 殺虫効果ハ油類ト除虫菊劑トノ併用最モ優位ニシテニコチン劑トノ併用之レニ次ギ油ノ單用最モ劣ル殊ニ除虫菊石鹼液併用ハ苗代本田共最モ効果アルモノト認メラル
- ハ 薬劑撒布ノ難易ハ苗代期ニ於テハ各種薬劑トモ大差ナケレドモ本田期ニ於テ稻出穂後ノ薬劑撒布ハ稻生育伸長セル關係上撒布ニ不便ヲ感ズルノミナ

ラズ多大ノ勞力ヲ要スル缺點アリ

ニ 反當薬劑價格ハ除虫菊浸出輕油最モ廉價ナルハ論ヲ俟タズ併用驅除ヲ施行セル各區ハ薬劑使用量ノ多少ニ依リテ其ノ價格ニ差異アリテ苗代ニ於テハ煙草石灰最モ廉價ニシテ除虫菊木灰最モ高價ナリ本田ニ於テハ硫酸ニコチン石鹼液最モ廉價ニシテ除虫菊石鹼液、煙草石灰除虫菊木灰ノ順位ニ高價トナレリ勿論其ノ差僅少ニシテ殊ニ木灰ハ市價ニ換算セルモノナレバ自給自足ノ場合ニ於テハ除虫菊木灰最モ廉價トナル理ナリ

(三) 粉劑ニ對スル石灰及木灰加用量查定試験

目的 前年同様粉劑ニ對シ石灰ハ木灰ヲ加用シ之ガ適量ヲ檢知セムトス

設計 下記ノ如ク配合シ苗代本田双方ニ於テ試験ス

配合量	苗代	本田	備考
市販煙草粉不篩過單用	坪當40匁	反當10貫	1. 粉劑ト混合物ノ混合ヘ試験前日ノ夕刻トス 2. 苗代本田トモ落水セル田ニ手撒キトシテ撒布ス
市販煙草粉 9貫 + 消石灰 1貫	全	全	
全 7貫 + 全 3貫	全	全	
全 5貫 + 全 5貫	全	全	
除虫菊粉 1封度 + 木灰 2斗	坪當30匁	反當 7貫	
全 1封度半 + 全 2斗	全	全	苗代試験ノ結果殆ンド効果ナキヲ以テ本田試験ヲ中止セリ
全 1封度 + 消石灰(8)4貫 硅藻土(2)	坪當40匁	—	
全 1封度 + 消石灰(9)4貫 硅藻土(1)	全	—	
全 1封度 + 藥灰 2斗	—	反當 7貫	
全 1封度 + 麥稈灰 2斗	—	全	

成績

薬劑ノ種類	苗代	本田		
		坪當量	一回二區分平均殺虫率	反當藥劑價格
市販煙草粉不篩過單用	40匁	50.01%	5.00圓	10貫 47.69% 4.17圓
市販煙草粉 9貫 + 消石灰 1貫	〃	68.20	4.56	〃 75.51 3.80
市販煙草粉 7貫 + 消石灰 3貫	〃	68.99	3.61	〃 64.21 3.01
市販煙草粉 5貫 + 消石灰 5貫	〃	51.42	2.81	〃 52.94 2.34

除虫菊粉 1封度 + 木 灰 2斗	30匁	60.20	3.54	7貫	64.00	2.75
除虫菊粉 1封度半 + 木 灰 2斗	〃	67.82	5.04	〃	62.75	4.92
除虫菊粉 1封度 + 消石灰(8) 4貫 硅藻土(2)	40匁	11.81	3.61	—	—	—
除虫菊粉 1封度 + 消石灰(9) 4貫 硅藻土(1)	〃	4.37	3.69	—	—	—

- イ 苗代ト本田ニ於テ殺虫率ニ多少ノ齟齬ヲ來セルモ概シテ除虫菊木灰煙草石灰粉優リテ相伯仲ノ成績ヲ示シ次イデ煙草粉單用ニシテ除虫菊ニ消石灰及硅藻土ヲ加用セルモノハ効力甚ダ低下セリ
- ロ 除虫菊木灰ハ除虫菊ノ混合量多キニ從ヒ効果大ナルモノ、如キモ1封度及1封度半ニ於テハ其ノ差異僅少ニシテ何レトモ判定シ難シ
- ハ 煙草粉ハ前年度試験成績ト同様單用ヨリモ消石灰混入セルモノ効果優リ其ノ混合量ハ10—30%迄ニシテ等量混合ハ効果減ゼリ然レドモ尙煙草粉單用ヨリ優レル成績ヲ得タリ
- ニ 除虫菊粉+消石灰硅藻土ハ消石灰ト硅藻土ノ比ガ硅藻土大ナルモノ程殺虫効果大ナルモノ、如キモ其ノ殺虫率ハ僅少ニシテ使用價值認メラズ
- ホ 除虫菊木灰ハ殺虫力相當顯著ニシテ價格低廉ナレドモ木灰ノ大量使用ハ相當至難ノ事ナレバ適當ナル代用物ヲ得ルヲ必要トス
- ヘ 除虫菊麥稈灰ハ木灰ノ代用物トシテ試験セルモ唯一回ノ試験ニシテ其ノ上虫數極メテ僅少ナレバ後日ノ試験ニ俟タムトス
- ト 反當藥劑價格ハ主藥劑ノ混合量ニ比例シテ差異アリ而シテ煙草石灰(50)最モ廉價ニシテ除虫菊木灰(除虫菊1封度)煙草石灰(70)除虫菊+消石灰(9)硅藻土(1)ノ順位ニ高價トナリ煙草粉單用最モ高價ニシテ5圓内外ヲ要セリ

第二 浮塵子ノ生態ニ關スル調査

浮塵子ノ生態ニ關シテハ越冬、加害狀況、種類別發生ニ關スルモノ及ビ發生豫察ニ就キ詳細調査セルモ目下調査研究ノ途ニアルヲ以テ追テ別報告トシテ發表スベシ

天敵ニ關スルモノ、ミニ就キ其ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

浮塵子天敵トシテ前年度迄ニ報告セルモノハ卵寄生蜂(ホソハネヤドリバチ科)1種、幼虫及成虫寄生蜂(カマバチ科)6種、ネヂレバネ(クシヒゲネヂレバネ科、エダヒゲネヂレバネ科)2種、オドリバヘ科1種、アタマアブ科1種、マキバサシガメ科1種、カタビロアメンボ科1種、糸片虫(ネマトーダ)2種、蜘蛛類7種、蟬1種、寄生菌2種ナルガ本年度ニ於テ新ニ調査觀察セル事項次ノ如シ

1 ホソハネヤドリバチ科(Mymaridae)ノ1種

寄主 つまぐろまこばひノ卵

浮塵子類ノ卵寄生蜂ニ就キ調査セムトシ本年度ニ於テハ豫メ稲苗ヲ育成シ置ケル「ポット」三個ニつまぐろよこばひヲ多數放飼産卵セシメ7月末日本田稻株間ニ配置シ1週間經過後寄生卵ヲ採集飼育セルニ8月中旬ニ羽化シ成虫ヲ得タリ「ポット」ニ圃場ニ配置セルヲ以テ他ノ浮塵子ノ卵トノ疑ヒナキニシモアラザルモ寄生卵ト同一部位ニ産卵セラレタル非寄生卵ハつまぐろよこばひ幼虫孵化シ來レルヲ以テつまぐろノ卵ナル事ハ認定シ得九州帝國大學ニ送附同定ヲ依頼セシニOoctonas, SP、ナラントノ事ナリ

2 カマバチ科(Dryinidae)ノ1種

カマバチ科ニ關シテハ昨年度迄數種ノ記録アリ且ツ寄生モつまぐろ、ひめこび、せしろ、こびいろ判明シ居レルモ本年度ニ於テハいなづま幼虫ニ寄生シ居レルモノヲ8—9月ニ採集シ飼育ノ結果羽化成虫ヲ得タリ九州帝國大學ニ送附同定ヲ依頼セシニ Pachygonatopus andoi Esaki et Hashimoto(アンドウカマバチ)ノ新種ト決定セリ

3 アラバアリガタハネカクシ Paederus idai Lewis

本年5月試験場内圃場ニテ同種ガひめこび幼虫3令位ノモノヲ捕食シ居ルヲ觀察シ其ノ後實驗室ニテ飼育セルニ盛ニ捕食スルヲ認メタリ

稻 萎 縮 病

本試験中基礎實驗ハ本場内ニ於テ施行シ圃場試験ハ南海部郡上堅田村委託試験地ニテ實施セリ

(一) 子孫ニ對スル傳染能力ノ有無調査試験

目的 保毒虫及無毒虫相互ノ交配ニ依リ得タル仔虫ノ病原獲得ノ有無及其ノ比率ヲ調査セムトス

設計 發病地方ノ野外ヨリ得タルモノヲ基礎トシ下記組合セニ依リ試験ス

試 驗 區 別	組合數	方 法
保毒虫雌×保毒虫雄	3對	各世代毎ニ孵化虫全部ヲ試験管内健全稻一本ニ一頭宛加害セシメ所定期間經過後ハ一鉢30本宛植栽シ温室若シクハ網室内ニテ病斑出現ノ有無ヲ調査セリ子孫ハ其ノ中ノ保毒虫3對宛ヲトリ繼續試験ス。但シ雌保毒ノ雄ハ無病地採集ノモノニテ交配ス
保毒虫雄×無毒虫雄	3對	

## 成績

- イ 稻萎縮病原保有ノつまぐろよこばひノ交配ニ依リ其ノ仔虫ノ病原獲得ノ有無ヲ調査セル結果ハ兩親保毒(保毒雌×保毒雄)雌保毒(保毒雌×無毒雄)共其ノ仔虫ノ大多數ハ病原ヲ獲得シ得ルコト明カトナレリ之ハ別ニ試験セル雄保毒(無毒雌×保毒雄)ノ仔虫ガ全ク病原ヲ獲得セルモノナキ點ヨリ考察シ保毒雌虫ノ体内ニ於テ保毒素質ヲ與ヘラレ卵ヲ通ジテ子孫ニ傳染セラル、モノト思考サル
- ロ 兩親保毒、雌保毒トモ各世代ノ保毒比率ハ殆ンド相似タルモノナレドモ1、2世代ハ兩親保毒ガ雌保毒ニ比シ多少大ニシテ以後世代ノ經過ト共ニ却テ雌保毒大トナリ交配セル雄ノ保毒有無ニ依ル影響認メラズ
- ハ 兩親保毒ガ雌保毒ニ比シ保毒歩合低下セルハ雌保毒ガ各世代毎ニ無病地ノ野外ヨリ採集セル雄ヲ補給シタルニ反シ兩親保毒ハ近親繁殖ヲ行ヒタル弊害ナルヤ或ハ又個体ニ依ル病毒ノ減退ニ依ルモノナルヤハ不明ナレドモ之ハ次年度ノ試験ニ俟タントス
- ニ 幼虫令別ニ依ル媒介傳播力ハ兩親保毒、雌保毒共1—2令最モ保毒歩合少ナク令ノ進ムニ從ヒ傳播力増カスル傾向アリ而シテ成虫ノ性別ニ依ル傳播力ハ其ノ差異ヲ認メズ
- ホ 接種後病徴ノ出現迄ニ要スル日數(潜伏期間)ハ溫度ノ高低日照時間ノ多少等ニ依リ左右セラル、事大ニシテ夏季高溫ニシテ稻ノ生育旺盛ナル時期ニ於テハ最短6日最長35日ニシテ最モ多ク發病セル期間ハ8—15日内外ナリ秋末ヨリ早春ニ至ル温室内ニ於ケル調査ハ最適15—25日内外ニシテ最モ氣温ノ低下セル時期ハ50日内外ヲ要セリ

## (二) 保毒虫ノ傳染能力調査試験

- 目的 保毒虫ノ傳染ニ要スル最短時間ノ檢知及1世代ニ於ケル傳染能力ヲ査定セムトス
- 設計 1 保毒成幼虫5個体宛ヲ左ノ如ク健全稻ニ接種加害セシメテ傳染ノ有無ヲ調査ス  
接種時間 10分、30分、60分、12時間、24時間
- 成績 1 保毒つまぐろよこばひヲ健全稻ニ所定時間接種加害セシメシニ各時間トモ罹病スルヲ認メタリ  
ロ 接種時間ノ長短ニ依ル罹病ノ多少ハ接種時間長キモノ程大ナル傾向ヲ示セリ然レドモ短時間接種ニ依リ罹病セシ同一個体ニテ長時間接種スルモ必ず

シモ罹病スルモノニアラザルガ如シ之レハ接種加害時期ニ於テ一時的唾線ニ病毒ノ缺乏セルモノニ依ルモノト思考サル

- ハ 接種後病徴出現迄ノ時間ハ接種時間ノ長短ニ依リテハ左右セラレザルガ如ク其ノ期間内ノ環境ニヨルコト大ナリ潜伏期間ハ時期ニ依リ差異アレドモ最短7日最長24日内外ヲ要セリ
- 2 保毒虫5個体ニ就キ日々健全稻ヲ取り換ヘ生存期間中吸収セシメテ傳染能力ヲ調査ス

## 成績

- イ 保毒つまぐろよこばひノ傳染能力ハ各個体ニヨリ差異アルモ1世代期間中日々健全稻ヲ取り換ヘルモ傳染能力減退スルモノニアラザルガ如シ
- ロ 各個体トモ1—2令ノ間ハ殆ンド傳染力ナク3—4令以後ニ至リ傳染力大トナレリ
- ハ 日々ノ病原傳染ノ有無ハ個体ノ傳染力ノ強弱ニ依ルコトハ論ヲ待タザルモ溫度ノ高低吸収期間ノ長短昆虫体内ノ病原運行其ノ他種々ノ環境ニヨリ左右セラル、モノ、如シ

## (三) 各種昆虫ニ於ケル病原媒介力有無調査試験

- 目的 從來本病ノ媒介傳染ハつまぐろよこばひノミニ依ルト稱セラレタルモ他ノ昆虫ニヨリテモ傳染セシムル傾向アリトノ説アルニヨリ下記ニ依リ試験シ之ヲ檢知セムトス
- 設計 苗代及本田ニテ稻ヲ加害スル各種昆虫ヲ病原媒介ノ供試材料トシ罹病稻放飼15晝夜健全稻接種3晝夜トシ試験管内稻1本ニ同性又ハ同生態ノモノ2頭宛ヲ放飼シ各15株ニ就キ調査ス

## 成績

- イ つまぐろよこばひ、いなづまよこばひ、ひめこびうんか、せしろうんか、ミびつろうんかノ5種ヲ供試シ加害接種セル結果いなづまよこばひノミ15株中1株全部罹病セリ
- ロ いなづまよこばひニ接種加害セシムルトキハ加害ニ依リ恰モ萎縮病罹病ノ如キ症狀顯ハル、モノ多ク往々見誤リ易キ場合アルモ其ノ他浮塵子類ニハ認メラズ

## (四) 浮塵子驅除回數ト罹病狀態調査試験

- 目的 前年度試験ヲ繼續試験シ以テ之レガ適切ナル方法ヲ講ズル材料ニ供セントス
- 設計

驅除劑ノ種類	驅除方法	驅除回数		備考
		苗代	本田	
除虫菊浸出輕油(青全勝)反當1升 除虫菊木灰坪當20匁	併用法	3回區 5回區 7回區	2回區 2回區 2回區	本田ノ除虫菊木灰ハ反當5貫トス各區2區制
全上	全	全	—	全上
除虫菊浸出輕油(青全勝)反當1升 除虫菊木灰反當5貫	全	—	2回	4區制
標準區(無驅除)	—	—	—	4區制

本田一畝當ヲ基準トシテ之ニ對スル所要苗代坪3合播トシ本田ハ1本植トス移植後ノ缺株ハ別ニ補植セズ驅除ハ苗代ニ於テ播種後2週間日本田ニ於テハ挿秧後12日目ヨリ以後ハ苗代本田共豫定期日ヲ定メタルモ天候不良ノ際ハ施行期日ヲ多少移動セリ尙ホ驅除ハ午前5時迄ニ行ヘリ

成績

試驗區別	罹病率	罹病程度指	反當玄米收量	本田一反當所要藥劑價格	
				苗代	本田
除虫菊輕油併用苗代3回驅除 除虫菊木灰本田2回	14.39%	0.330	石 3.3584	円 0.171	円 3.760
全 苗代5回 本田2回	15.84	0.347	3.3650	0.258	3.760
全 苗代7回 本田2回	14.28	0.326	3.3780	0.399	3.760
全 苗代3回 本田無	20.98	0.433	3.2741	0.171	—
全 苗代5回 本田無	20.01	0.414	3.2419	0.258	—
全 苗代7回 本田無	19.87	0.395	3.2923	0.399	—
全 苗代無 本田2回	15.47	0.331	3.3081	—	3.760
標準區(無驅除)	17.06	0.363	3.3326	—	—

- イ 本年度試驗結果ハ各區共罹病率一般ニ高ク驅除回数ニヨリ罹病率ノ差異判然セザルモ概シテ苗代本田共驅除區ハ罹病率罹病程度指價共ニ低ク收量増加セル傾向ヲ示セリ
- ロ 苗代本田共驅除區ト苗代驅除本田無驅除區苗代無驅除本田驅除區苗代本田共無驅除區(標準區)ヲ比較スレバ苗代無驅除本田驅除區、標準區苗代驅除本田無驅除區ノ順位トナレリ
- ハ 苗代驅除本田無驅除區ノ罹病率最も高キハ試驗ノ誤差ニモ依ルナランモ苗代無驅除本田驅除區ノ罹病率低キ點及つまぐろよこばひノ發生消長ヲ綜合

考察スルニ苗代末期及本田初期驅除ノ如何ガ萎縮病發生ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナラント思考セラル

ニ 罹病ノ程度ハ苗代驅除區ニハ概シテ全株萎縮及重症罹病少ナキ代リニ1部罹病多ク本田驅除區ハ1部罹病少ナク全株萎縮及重症罹病多キ傾向ヲ有ス

(五) 苗代ノ種類ト罹病關係調査試驗

目的 苗代ノ種類ニ依リ本病ノ發生ニ如何ナル影響アルヤヲ檢知セムトス

設計 苗代ヲ水苗代陸苗代ノ2區トシ本田ハ1畝歩宛2區制トシテ苗代本田共無驅除トシ調査方法ハ(四)ニ全ジ

試驗區別	罹病率	罹病程度指	反當玄米收量	備考
水苗代	18.65%	5.84	石 3.1504	
陸苗代	33.03	10.04	2.7921	

イ 罹病率罹病程度指價トモ陸苗代區ハ水苗代區ニ比シ著シク高シ之レハ移植後ノ活着ガ水苗代ニ比シ良好ナルヲ以テつまぐろよこばひノ來襲ヲ誘導セルモヘト考ヘラル

ロ 反當收量モ陸苗代區ハ水苗代區ニ比シ減收セリ

(六) 抵抗性稻品種査定試驗

目的 本病ニ對スル抵抗性强キ品種ヲ査定セムトス

設計 前年度供試セル品種ニ對シ特ニ接種ヲ行ハズ苗代ニ於テ栽培シ一品種60株宛ヲ本田ニ栽植試驗ス

成績

イ 供試セル各品種共罹病セルモ各品種間ニ罹病率ニ多少ノ差異アルコト明カナリ

ロ 比較的抵抗性强キモノヲ罹病率罹病程度指價ニ依リ考察シ示セバ下ノ如シ抵抗性比較的強キモノ

- 雄町1號 (山口縣)      高砂 (山梨縣)
- 石割3號 (宮崎縣)      福神 (熊本縣)
- 銀坊主 (大分縣)      穀良都 (大分縣)

## 講 習 部

本場講習規程ニヨリ町村農業技術員タラントスル者並精農家タラントスル者ヲ養成センガタメ昭和九年四月十日甲、乙、兩種講習生及ビ研究生ヲ入場セシメ之ニ必要ナル學科並實習ヲ課シ昭和十年三月二十日夫々修得證書ヲ授與シタリ修得者氏名下ノ如シ

## 甲種講習生 8名

原籍	氏名
大分郡判田村大字上判田	秦 幸 正
大分市大字勢家	小 野 德 市
玖珠郡北山田村大字四日市	吉 武 次 郎
大分郡植田村大字木ノ上	漆 間 瀧 治
速見郡北由布村大字川北	梅 尾 一 日
直入郡宮城村大字炭竈	古 庄 秀 樹
大野郡白山村大字中津留	衛 藤 定 彦
大分郡東庄内村大字大龍	吉 良 忠 夫

## 乙種講習生 21名

原籍	氏名
大分郡竹中村大字竹中	今 村 善 行
大野郡菅尾村大字淺瀬	波 津 久 束
大分郡由布川村大字朴木	西 郡 松 雄
西國東郡香々地町大字見目	小 野 康 夫
日田郡三芳村大字日高	小 野 正 夫
大分郡判田村大字上判田	甲 斐 三 千 男
大分郡東庄内村大字五ヶ瀬	立 岩 政 雄
大分郡東大分村大字今津留	竹 谷 昇
大分郡野津原村大字福原	但 馬 善 武
大分郡明治村大字横尾	竹 中 宗 人
大分郡西庄内村大字中	恒 松 友 市
廣島市三條町大字庄	中 谷 健 一
大野郡戸上村大字西寒田	村 上 敬 磨
下毛郡山口村大字原口	上 野 嘉 市
大分郡谷村大字小野	藤 井 都

大分郡竹中村大字竹中  
 東國東郡中武藏村大字丸小野  
 南海部郡直見村大字下直見  
 大分郡東植田村大字岡川  
 大分市大字畑中  
 南海部郡下堅田村大字堅田

研究者 14名  
 原籍

大野郡西大野村大字梨小  
 大分郡野津原村大字野津原  
 大分郡由布川村大字古野  
 大分郡竹中村大字端登  
 日田郡前津江村大字大野  
 北海部郡下北津留村大字井村  
 字佐郡横山村大字上之重  
 南海部郡下堅田村大字堅田  
 西國東郡香々地町大字見目  
 直入郡松本村大字岩瀬  
 北海部郡津久見町大字青江  
 速見郡日出町大字佐尾  
 大野郡三重町大字芦刈  
 大分郡野津原村大字竹矢

古屋達雄  
 古城徳吉  
 後藤藤衛  
 佐藤信男  
 秦虎夫  
 正田宇佐美

氏名

小野宗之  
 緒方惟文明  
 小野明三  
 甲斐寅三市  
 梶原萬篤一  
 武田篤發志  
 早染矢壽久  
 藤卷勉  
 後藤春芳  
 安達宮一夫  
 青柳俊重司  
 芦刈重常夫  
 森下

## 柑橘試験分場

### 柑橘栽培標準

試験ノ場所 北海部郡津久見町大字津久見字前田及狐鼻ニ在リ概ネ排水佳良ナル  
 山腹ノ傾斜地及地力均整ナル土層深キ平坦地ナリ

砧木及定植法 砧木ハ特種試験以外ノ供試樹ハ凡テ根殻ヲ用ヒ方2間反當75本植  
 トセリ

每區本數 5本宛ヲ原則トシ稀ニ6本以上ヲ供試ス

#### 肥料

##### 温州蜜柑反當施肥量標準

肥料名	窒素分	磷酸分	加里分
鱈粕	8.500%	4.000%	0.500%
大豆粕	7.000	1.100	2.000
蒸製骨粉	3.800	23.000	—
硫酸加里	—	—	48.000

##### 樹齡別施肥料

樹齡	假定四成分量	鱈粕	大豆粕	蒸製骨粉	硫酸加里	施肥量合計	一本當施肥量	反當石灰施用量
3年	各 實 0.500	實 2.600	實 3.600	實 1.600	實 .870	實 8.670	實 .116	實 .900
4	〃 .750	3.900	5.400	2.400	1.300	13.000	.174	1.300
5	〃 1.000	5.200	7.150	3.200	1.730	17.280	.231	1.700
6	〃 1.500	7.800	10.730	4.800	2.600	25.930	.346	2.500
7	〃 2.000	10.300	14.300	6.300	3.500	34.400	.499	3.400
8	〃 2.500	13.000	17.900	7.900	4.370	43.170	.576	4.200
9	〃 3.000	15.500	21.500	9.400	5.200	51.600	.688	5.000
10	〃 3.500	18.100	25.100	11.000	6.100	60.300	.800	5.900
11	〃 4.000	20.600	28.600	12.500	6.920	68.620	.915	6.700
12	〃 4.500	23.200	32.200	14.100	7.800	77.300	1.031	7.500
13	〃 5.000	26.000	36.000	15.600	8.700	86.300	1.151	8.400
14	〃 5.500	28.600	39.600	17.200	9.600	95.000	1.267	9.000
15	〃 6.000	31.000	42.900	18.700	10.100	102.700	1.370	10,000
16	〃 6.500	33.600	46.500	20.300	11.000	111.400	1.486	10.900
17	〃							

18 19	7.000	37.000	50.000	22,000	12.100	121.100	1.615	11.700
20 21	7.500	39.600	53.600	23.600	13.000	129.100	1.731	12.500
22 23	8.000	41.000	57.200	25.000	13.900	137.100	1.828	13.400
24 25	8.500	43.600	60.800	26.600	14,800	145.800	1.944	14.200
26 27	9.000	47.000	64.000	28.000	15.600	154.600	2.062	15.000
28 29	9.500	49.600	67.600	29.600	16.500	163.300	2.178	15.900
30	10.000	51.600	71.500	31.100	17.300	171.500	2.287	16.700

施肥期 温州其他ノ蜜柑類ハ十二月下旬又ハ二月下旬1回施肥橙類ハ十二月下旬又ハ二月下旬及六月下旬ノ2回

分施量 2回分施ノモノハ第一回ハ全量ノ三分ノ二ヲ第二回ニ残リ全部

施肥法 樹下全面深サ2寸ニ埋没

樹形 半圓形

誘引 終年隨時ニ行フモ特ニ盛夏ニ勵行ス

剪定 熟枝ハ三月中旬ニ綠枝ハ六月ヨリ十月ノ間ニ隨時行フ

剪斷 三月中下旬

更新 三月下旬稀ニ十二月下旬ヨリ行フ

中耕 十二月下旬又ハ二月下旬 唐鍬3寸耕

除草 年10回以上必ズ除草器又ハ平鍬ヲ以テ削リ取ル

病虫害防除 次ノ驅除豫防曆ノ通り

柑橘病虫害驅除豫防曆 温州其他蜜柑類ノ部

防除時期	防除法	適用病虫害類	摘要
第一回 自一月至二月	機械油乳劑(20倍)又ハ松脂合劑 青酸瓦斯燻蒸	介殼虫類 蟬類(ダニルイ)	三年ニ(被害甚ダシキ園ニ)一回實施
第二回 自三月下旬至四月上旬(開花直前)	三斗式石灰ボルドウ液(硫酸ニコチン800倍加用)	瘡痂病赤ダニ	

第三回 五月下旬(落花八九分)五月中下旬	三斗式石灰ボルドウ液(硫酸ニコチン800倍)加用 ベタリヤ放飼	瘡痂病・赤ダニ・蚜虫 イセリア介殼虫	
第四回 六月中旬(小豆大ノ時)自六月下旬至七月下旬自七月中旬至八月中旬	曹達硫黄合劑40倍 天牛 蜜柑蠅 成虫捕殺	赤ダニ・各種介殼虫幼虫	硫黄華50苛性曹達25匁水1斗
第五回 六月下旬	四斗式石灰ボルドウ液(硫酸ニコチン800倍)加用	黒點病・落葉病ハムダリ虫・赤ダニ	
第六回 七月上旬	四斗式ボルドウ液(硫酸ニコチン800倍)加用		
第七回 八月下旬	石灰硫黄合劑0.5度液	赤ダニ・銹ダニ各種介殼虫	
第八回 九月下旬	石灰硫黄合劑0.5度液	赤ダニ・各種介殼虫	

橙類及之ニ類スルモノノ部

柑橘類以外ノ蜜柑類ニ對シテハ前表ノ外更ニ次ノ防除ヲ行フ

夏芽展開時其ノ後2週間目ノ2回潰瘍病像防ノ爲三斗式石灰ボルドー液ヲ撒布ス

防寒 幼齡樹及必要ヲ生ジタル樹ニ對シテハ適宜防寒設備ヲナス、但シ十二月下旬設備シテ三月下旬撤去ス

### 第一 御下賜柑橘ノ栽培

#### (一) 御下賜柑橘ノ栽培

昭和六年四月十五日附御下賜北亞米利加合衆國加州産柑橘「ワシントンネーヴル」「ヴァレンシヤレート」及ビ「グレープフルーツ」ハ其後順調ニ繁茂シ「ヴァレンシヤレート」以外ノ二種ハ相當結實スルノ程度ニ達シタルモ「ネーヴル」種ハ樹勢甚ダ不良ナルガ如シ

今後更ニ肥培管理ニ最善ノ努力ヲ盡シテ成長結實ヲ助長シ萬遺憾ナキヲ期シテ以テ御趣旨ヲ奉体セントス



設計 1 ネーヴル 6 本  
 2 ヴァレンシヤレート 2 本  
 3 グレープフルーツ 2 本

每區方2.5間ニ定植ス

經過成績

ネーヴル種

樹ノ番號	年度別	果 實 收 量										果數	重量	
		大 小 等 級 別								合 計				
		260 瓦以上	240 瓦以上	220 瓦以上	200 瓦以上	180 瓦以上	160 瓦以上	140 瓦以上	120 瓦以上	100 瓦以上	果數			重量
1	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	1	6	780
3	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	3	512
4	昭和九年	—	1	4	—	—	—	—	—	—	1	—	6	1.309
	昭和九年	—	247	914	—	—	—	—	—	—	148	—	—	—
5	昭和八年	—	1	—	2	—	—	—	—	—	2	—	5	981
	昭和九年	—	258	—	414	—	—	—	—	—	309	—	—	—
6	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ネーヴル種 (續)

樹ノ番號	年度別	一平均重量	果 實 型											
			最 大 果			最 小 果			平 均 果					
			縱徑	橫徑	比	縱徑	橫徑	比	縱徑	橫徑	比			
1	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	昭和九年	130	6.90	7.20	0.96	6.00	6.30	0.95	6.16	6.44	0.96	—	—	—
3	昭和九年	171	7.60	7.05	1.08	7.15	7.00	1.21	7.41	6.98	1.06	—	—	—
4	昭和九年	218	7.65	8.10	0.93	6.40	7.00	0.91	7.45	7.74	0.96	—	—	—
5	昭和八年	196	7.70	8.20	0.94	6.90	6.20	1.11	7.23	7.28	0.99	—	—	—
	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

グレープフルーツ種

樹ノ番號	年度別	果 實 收 量										果數	重量
		大 小 等 級 別								合 計			
		300 瓦以上	280 瓦以上	260 瓦以上	240 瓦以上	220 瓦以上	200 瓦以上	180 瓦以上	160 瓦以上	140 瓦以上	果數		
1	昭和九年	300	589	279	993	669	1.442	557	676	440	28	5.945	
2	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

グレープフルーツ種 (續)

樹ノ番號	年度別	一平均重量	果 實 型								
			最 大 果			最 小 果			平 均 果		
			縱徑	橫徑	比	縱徑	橫徑	比	縱徑	橫徑	比
1	昭和九年	212	7.70	10.00	0.77	6.30	6.90	0.91	6.20	7.40	0.84
2	昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 二 品種改良ニ關スル試験

(一) 特種柑橘種類試験

目的 本試験ハ温州「ネーヴル」及夏橙以外ノ著明ナル特種柑橘ニ就キ其特性並經濟的價值ヲ比較シ本縣下ノ栽培ニ適スル有望種ヲ査定セントスルニアリ

設計 各種5本宛供試シ每區20坪トシ、肥料ハ温州標準施肥量ノ2割増トス

成績 未ダ結實スルノ程度ニ達セズ

(二) 温州異系比較試験

目的 本試験ハ本邦ニ於ケル著明ナル温州蜜柑ニ就キ栽培試験ヲ行ヒ其特性ヲ究ムルト同時ニ經濟的栽培價值ノ優劣ヲ査定セントスルニアリ

設計 各系5本宛トシ每區20坪ニ定植供試ス

成績

本年度成績

供試品種	剪定枝條量	果實ノ收量		一果平均重量	大小等級別收量						花印
		果數	重量		ア印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	
攝津系	665	86	2.485	28.9	403	110	765	689	391	98	29
尾張系	1.285	82	2.792	34.5	14	12	25	15	14	1	13
伊木力系	1.480	59	1.639	27.8	—	3	16	16	17	6	12
愛媛系	835	143	5.285	37.0	35	31	39	27	11	—	—
垂水系	520	31	915	29.5	1	3	5	15	4	3	—
廣島系	395	22	645	29.3	1	2	4	7	5	3	—

累年經過成績

供試品種	剪定枝條量			果實ノ收量						一果平均重量		
	昭和八年度	同九年度	合計	顆數			重量			昭和八年度	同九年度	平均
				昭和八年度	同九年度	合計	昭和八年度	同九年度	合計			
攝津系	120	665	785	154	86	240	4,505	2,485	6,990	29.3	31.1	29.1
尾張系	200	1,285	1,485	66	82	148	1,848	2,792	4,640	28.0	34.5	31.4
伊木力系	365	1,480	1,845	41	59	100	1,180	1,639	2,819	28.8	27.8	28.2
愛媛系	80	835	915	129	143	272	4,184	5,285	9,469	32.4	37.0	34.8
垂水系	140	520	660	43	31	74	1,251	915	2,166	29.1	29.5	29.3
廣島系	80	395	475	—	22	22	—	645	645	—	29.3	29.3

以上供試樹ハ樹齡若キ爲メ未ダ其成績ヲ判定スルノ程度ニ達セズ

(三) 早生温州異系比較試験

目的 本試験ハ本邦ニ於ケル著明ナル早生温州ニ就キ栽培試験ヲ行ヒ其特性ヲ究ムルト同時ニ經濟的栽培價值ノ優劣ヲ査定セントスルニアリ

設計 各5本宛トシ每區20坪ニ定植供試セリ

供試品種 川野早生外13系

成績 本年四月四日滿2年生苗木ノ定植ヲ了セリ

(四) ネーヴル累系比較試験

目的 著明ナル「ネーヴル」ノ異系ニ就キ栽培試験ヲ行ヒ其特性ヲ究ムルト同時ニ栽培的價值ノ優劣ヲ査定セントスルニアリ

栽培的價值ノ優劣ヲ査定セントスルニアリ

設計 各系6本トシ每區24坪ニ定植供試ス

供試品種 御下賜加州産6系外3系

成績 本年七月十七日3年生苗木ノ定植ヲ了セリ

(五) 温州優良母樹調査

目的 良系選出淘汰事業及優良苗木育成配給事業ノ基本資料ニ供セントスルニアリ

設計 場ノ内外ヲ問ハズ良系ト認ムル變種ニ就キ調査シ其ノ優劣ヲ査定ス

成績 繼續調査中ニテ完結ノ上特別報告ヲナスモノトス

(六) 早生温州優良母樹調査

目的 良系選出淘汰事業及優良苗木育成配給事業ノ基本資料ニ供セントスルニアリ

設計 場ノ内外ヲ問ハズ良系ト認ムル變種ニ就キ調査シ其ノ優劣ヲ査定ス

成績 未ダ發表ノ程度ニ達セザルヲ以テ後日報告スルモノトス

(七) 縣内産在來柚果調査

目的 縣下寒冷地方ニ在來アル柚果ヲ蒐集調査シテ其特性ヲ比較審査シ就中優良系ノ原木ヲ見出シ増植獎勵ノ資料ヲラシメントスルニアリ

設計 縣下主要生産町村ニ依頼シテ無償送附ヲ乞ヒ當場ニ於テ精密ナル比較審査ヲ行ヒ之ガ優劣ヲ判定セントスルニアリ

成績 本年度初メテ試ミタルニ僅カニ9點ヲ蒐集シ得タルノミニテ十分ナル成績ヲ舉ゲル事能ハザリシヲ遺憾トス、其成績次表ノ如シ

第一表

調査番號	郡市名	町村名	生産者氏名	調査果數	全果ノ特性							
					一果平均重量	一果平均排水量	比重	充實程度	縦徑	横徑	同上比	
1	直入	久住	工藤 高雄	4	108	149	0.7	7	膨	5.45	6.95	1.28
2	直入	明治		4	146	201	0.7	8	膨	6.45	7.60	1.18
3	大野	重岡	飛田勇次郎	4	62	62	1.0	1	充	4.47	5.35	1.20
4	大野	川登	井上 一郎	5	158	194	0.8	5	中	6.14	7.60	1.24
5	大野	井田	太田 眞澄	4	94	139	0.7	2	充	5.27	6.47	1.23
6	直入	久住	甲斐 秀人	5	142	192	0.7	6	中	5.94	7.66	1.29
7	大野	緒方	岡部 芳人	5	146	181	0.8	9	膳	6.18	7.32	1.18
8	大野	大野	首藤 憂	5	94	118	0.9	4	中	5.20	6.52	1.25
9	大野	大野	清水 柴人	5	116	140	0.8	3	中	6.94	5.22	1.33

第二表

調査番號	果		皮			其			他						
	調査當時 萎凋 程度	時態 順位	着 色 順位	皮 理 順位	果 皮 厚	果 肉 重	全 果 肉 割	ニ ル 合	果 大 心 サ	香 氣 順位	氣 味 順位	瓢 囊 數	核 子 數		
														良 否	順位
1	稍萎凋	3	甲	2	乙	5	0.97	43	67	0.64	1.10	乙	4	10	31
2	稍萎凋	4	乙	7	丙	7	0.73	63	76	0.83	1.15	丙	8	11	28
3	甚萎凋	9	乙	5	甲	1	0.58	24	34	0.71	1.20	丙	7	10	26
4	稍萎凋	6	乙	8	丙	9	0.77	68	81	0.84	1.06	乙	6	9	24
5	甚萎凋	8	丙	9	乙	3	0.62	34	61	0.56	0.95	丙	9	10	25
6	完全	1	甲	1	乙	6	0.85	63	71	0.89	1.50	甲	3	10	30
7	稍萎凋	7	乙	6	丙	8	0.54	61	77	0.79	1.23	甲	1	10	27
8	稍萎凋	5	甲	4	甲	2	0.62	38	46	0.83	1.20	乙	5	9	23
9	完全	2	甲	3	乙	4	0.62	50	64	0.78	1.50	甲	2	10	26

(八) 縣内産在來「カボス」果實調査

目的 縣下寒冷地方ニ在來スル「カボス」果ヲ蒐集調査シテ其特性ヲ比較審査シ就  
中優良系ノ原木ヲ見出シ増植奨勵ノ資料ヲラシメントスルニアリ  
設計 縣下主要生産町村ニ依頼シテ無償送附ヲ乞ヒ當場ニ於テ精密ナル比較審査  
ヲ行ヒ之ガ優劣ヲ判定セントスルニアリ

經過成績

第一表

調査番號	郡市名	町村名	生産者 氏名	調査果數	全果ノ特性							
					一果平均 重量	一果平均 排水	比重	充實 程度	縦 徑	横 徑	同 上 比	
												良 否
1	大野	大野	清水 柴人	5	162	172	0.94	3	甲	6.78	7.24	1.07
2	大野	大野	奈良 滿	5	118	118	1.00	23	丁	5.14	6.38	1.24
3	大野	大野	首藤 曼	6	168	181	0.93	7	乙	6.55	7.11	1.09
4	大野	川登	清水 小十郎	5	163	185	0.88	13	乙	6.62	7.24	1.09
5	大野	川登	清水 平三郎	5	153	172	0.89	18	丙	6.30	6.98	1.11
6	大野	緒方	首藤 實	5	184	202	0.91	21	丙	6.72	7.42	1.10
7	大野	緒方		3	161	173	0.93	22	丙	6.62	7.00	1.06
8	大野	重岡	渡邊 操一	5	126	144	0.88	20	丙	6.20	6.60	1.06
9	大野	長谷川	三代 吉平	6	111	122	0.91	16	乙	5.50	6.23	1.13
10	大野	井田	太田 眞澄	5	169	184	0.92	10	乙	6.70	7.30	1.09

11	直入	久住	佐藤 弘	5	133	149	0.89	15	乙	5.90	6.80	1.15
12	直入	久住	甲斐 秀人	5	121	138	0.88	2	甲	5.94	6.68	1.12
13	直入	久住	吉野 日功	5	115	126	0.91	5	甲	6.06	6.46	1.06
14	直入	豊岡	萬巻 常彦	5	161	174	0.93	8	乙	6.44	7.06	1.10
15	直入	豊岡	阿南 小次郎	5	169	188	0.90	6	乙	6.62	7.30	1.10
16	直入	豊岡	甲斐 武夫	5	203	225	0.90	4	甲	7.18	7.80	1.07
17	直入	姫嶽	三田 井丈一	5	96	94	1.02	19	丙	5.38	5.98	1.11
18	直入	姫嶽	阿南 秀雄	5	162	195	0.83	1	甲	6.82	7.32	1.07
19	直入	竹田	竹田 町農會	5	163	172	0.95	12	乙	6.50	7.16	1.10
20	直入	明治		5	175	191	0.92	11	乙	6.96	7.36	1.06
21	直入	明治	首藤 近	5	123	113	1.09	17	乙	5.96	6.42	1.08
22	直入	久住	渡邊 勳一	5	154	130	1.18	9	乙	6.00	6.38	1.06
23	北海部	津久見	藤丸 一男	5	215	246	0.87	14	乙	6.84	8.02	1.17

第二表

調査番號	果		皮			其			他			成 分			瓢囊數	含核數	
	調査當時 果皮 等級	時態 順位	着 色 等級	皮 理 等級	果 皮 厚	果 肉 重	全 果 肉 割	ニ ル 合	果 大 心 ノ サ	香 氣	全 糖 量	酸 量	甘 味 率				
														良 否			順位
1	甲	5	乙	10	丁	21	0.56	54	101	0.65	1.30	甲	11.01	4.20	2.62	10	31
2	丁	23	甲	1	甲	4	0.23	50	75	0.60	1.00	變	10.49	4.30	2.43	10	28
3	乙	13	乙	5	甲	6	0.54	53	111	0.68	1.16	甲	10.49	4.40	2.38	10	28
4	乙	15	乙	7	丙	17	0.54	58	100	0.63	1.10	乙	10.53	4.95	2.12	10	31
5	丙	20	乙	9	乙	11	0.47	47	99	0.57	1.20	乙	9.51	4.20	2.26	11	27
6	丙	19	甲	3	乙	13	0.50	60	122	0.67	1.37	乙	10.79	3.52	3.07	11	32
7	丙	21	乙	8	乙	15	0.39	40	105	0.72	1.00	乙	10.23	4.26	2.40	10	31
8	乙	18	丁	22	丙	20	0.55	42	74	0.64	1.00	乙	8.88	4.68	1.90	10	32
9	乙	11	丙	15	甲	1	0.43	43	75	0.69	1.10	乙	8.88	4.07	2.18	10	25
10	乙	10	丁	23	丁	22	0.59	55	101	0.65	1.10	乙	10.53	4.62	2.27	10	33
11	乙	16	乙	12	乙	7	0.55	45	82	0.65	1.00	乙	10.99	4.95	2.22	10	31
12	乙	12	乙	11	乙	12	0.47	43	71	0.62	1.00	甲	10.99	5.28	2.08	10	31
13	甲	7	乙	13	乙	14	0.55	42	66	0.61	0.90	乙	9.93	5.12	1.93	10	26
14	甲	3	丙	16	甲	2	0.55	47	100	0.68	1.20	乙	9.95	4.44	2.24	9	34
15	乙	9	丙	17	乙	16	0.60	55	101	0.65	0.90	乙	8.82	4.24	2.08	8	26
16	甲	6	丙	20	丁	23	0.59	64	127	0.66	0.90	甲	10.44	4.33	2.41	10	28
17	乙	17	丁	21	甲	5	0.38	28	58	0.67	1.25	甲	10.46	4.41	2.36	10	27

18	甲	4	乙	6	丙	18	0.61	26	111	0.81	1.20	甲	11.26	4.75	2.37	10	25
19	乙	14	乙	14	乙	9	0.42	51	105	0.67	1.20	甲	10.46	5.34	1.95	10	33
20	丙	22	甲	2	丙	19	0.65	50	95	0.66	1.10	乙	10.69	4.12	2.59	10	30
21	乙	8	丙	18	乙	10	0.58	43	71	0.53	0.90	甲	9.93	4.37	2.27	10	31
22	甲	1	丁	19	乙	8	0.59	42	66	0.61	1.00	甲	10.44	4.13	2.52	9	25
23	甲	2	乙	4	甲	3	0.55	57	149	0.72	1.40	甲	9.68	4.64	2.08	8	36

(九) 温州變種淘汰

目的 品質優良大果豐産性ニシテ栽培價值高キ偶然變異又ハ芽條變異種ヲ蒐集栽培シテ之ニ各種ノ撰擇淘汰ヲ加ヘテ一般的獎勵ニ適スル有望品種ヲ作出セントスルニアリ

設計 前年ニ引續キ基本第二代供試樹每區2本方1間植ノモノニ對シ外觀、實質及食用の價值高キ優良系又ハ其個体樹選出ヲ目標トシ最善ノ肥培管理下ニ其特性發揮ヲ企テ更ニ誘導接換等ニ依テ不良系ヲ排除シ良系ヲ作出スル方法ヲ講ス

成績 未ダ其成績ヲ判定スル程度ニ達セス

(十) 早生温州變種淘汰

目的、設計、成績 前淘汰同斷ニ付之ヲ省略ス

(十一) 温州系統保存栽培

目的 試驗研究上ノ參考資料ト爲シ又直間接ニ品種改良事業ノ材料ト爲ス

設計 用地關係上幅4尺ノ植壇ニ各3尺ノ株間ヲ以テ定植保存ス

成績 75系ヲ保存中ナルモ之カ優劣ハ未ダ判定シガタシ

(十二) 早生温州系統保存栽培

目的 其他前同斷ニシテ目下35系ヲ栽培シツ、アリ

(十三) 柑橘種類見本栽培

目的 種類試驗ニ供試以外ノ相當名アル食用又ハ砧木用柑橘ヲ栽培シテ其特性ヲ知ルト同時ニ利用價值ヲ調査シ尙品種改良ノ資ニ供セントスルニアリ

設計 用地ノ關係上各種2本ニ限定シ各株方1間ニ定植ス

成績 前年ニ引續キ「ラクスシトレンヂ」外25種ヲ栽培セリ

(十四) 早生温州二重砧木種類試驗

目的 早生温州ノ枝條密生シテ矮性トナル缺陷ヲ矯正シテ其生長力ヲ旺盛ナラシムル爲メ強盛ナル中間砧木利用ノ効果竝ニ其適當ナル種類ヲ判定セントスルニアリ

設計 最初2年生ノ基本砧木ヲ養成シ之ニ中間砧木ヲ嫁接シ更ニ滿1ケ年後8穗高ノ箇所ニ於テ早生温州ヲ接キテ供試用苗木ヲ養成シ各區2本宛各方2間ニ定植ス

經過 本年度2年生二重砧苗木ヲ得タルヲ以テ六月豫備圃ニ假植培養中  
成績 昭和九年四月十五日接木シ同十年三月五日調査ノ結果其活着歩合次表ノ如シ

區 別	接木本數	活着本數	活着歩合%
枳殼 + 早生	20	19	95
枳殼+シトレンヂ+早生 (8cm)	25	21	84
枳殼+シトレンヂ+早生 (12cm)	20	18	90
枳殼 + 白酢 + 早生	20	20	100
枳殼 + 回青橙 + 早生	25	21	84
枳殼 + 夏橙 + 早生	25	22	88
枳殼+スキートレモン+早生	25	22	88
枳殼 + 柚 + 早生	25	7	28
枳殼 + ネーブル + 早生	25	24	96
枳殼 + 文旦 + 早生	25	19	76
枳殼 + 山蜜柑 + 早生	25	23	92

苗木ノ發育良否比較

昭和十年三月五日滿一年生苗木ニ就キ調査シタル成績次表ノ如シ

區 別	調査本數	平均一本當伸長量			
		春芽 糶	夏芽 糶	秋芽 糶	合計 糶
枳殼 + ○ + 早生	17 <sup>本</sup>	15.2	21.4	22.4	59.0
同 + シトレンヂ+同 (8cm)	18	20.4	31.3	29.6	81.3
同 + シトレンヂ+同 (12cm)	18	21.5	30.5	22.9	74.9
同 + 白酢 + 同	20	24.5	30.2	25.9	80.6
同 + 回青橙 + 同	20	15.6	27.0	15.6	58.2
同 + 夏橙 + 同	19	25.0	30.0	23.1	78.1
同+スキートレモン+同	21	27.5	33.0	21.8	82.3
同 + 柚 + 同	7	18.9	29.0	24.7	72.6
同 + ネーブル+同	24	37.8	33.2	25.3	96.3
同 + 文旦 + 同	18	22.8	37.4	29.4	89.6
同 + 山蜜柑 + 同	20	30.8	36.4	30.5	97.7

第三 苗木養成法ニ關スル試験

(一) 枳殼ノ系統ニ關スル調査

目的 枳殼ノ實生中ニハ枝葉ノ形態異ナルモノアルヲ以テ多クノ系統アルモノト肯定セザルベカラズ本試験ハ葉ノ大小ニ依テ區別シタル枳殼砧ニ温州ヲ接木シタル場合ニ於ケル砧木トシテノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

設計 枳殼實生中葉ノ大小ニ依リ大葉、中葉及小葉ノ3系ニ區別シテ前年ノ梅雨期ニ移植シ本年四月温州ヲ切接セリ

經過 昭和七年四月枳殼ヲ播種ス 昭和八年六月葉ノ大中小3系ニ分別シテ接木床ニ移植ス 昭和九年三月切接前枳殼苗ノ發育調査ヲ行フ 昭和十年三月切接後温州苗ノ發育調査ヲ行フ

成績 枳殼苗ノ系統別發育ノ優劣比較

昭和九年三月及同十年三月ノ2回温州ヲ接木セザル枳殼苗ニ就キ發育ノ良否ヲ調査シタル結果次表ノ如シ

系統別	昭和九年三月現在		昭和十年三月現在	枝條ノ發育狀態
	幹徑	苗高		
大葉系	9.65	15.22	102.9	枝條最モ能ク肥大スレドモ其發生少シ
中葉系	9.87	17.39	129.3	枝條ノ肥大並ニ發生ノ數共ニ中庸ナリ
小葉系	8.01	12.48	76.8	枝條細小ナレドモ密生ス

改良温州接木ノ結果活着ノ良否

昭和九年四月十五日滿2年生ノ枳殼砧ニ切接シタル成績次表ノ如シ

系統別	切接本數	活着本數	活着歩合	活着後枯死セル本數
大葉系	61	48	79.7%	1
中葉系	81	56	69.1%	4
小葉系	70	24	34.3%	1

改良温州ヲ接木シタル苗木ノ發育良否比較

昭和十年三月滿1年生改良温州苗木ニ就キ調査セル結果次表ノ如シ

系統別	調査本數	主幹ノ直徑	苗木ノ伸長度
大葉系	47	65.3	50.6
中葉系	51	77.8	62.0
小葉系	23	51.6	28.8

第四 栽培法ニ關スル試験

(一) 温州定植密度試験

目的 温州ノ整枝剪定ニ最善ノ努力ヲ拂ツテ生産能率ヲ高メ品質ノ向上ヲ圖ラントスルニ當リ定植粗密ノ得失ヲ明カニセントスルニアリ

設計

區別	定植密度		一區本數	一區坪數	一本當坪數	反當本數
	畦幅	株間				
第一區	18	18	4	36.00	9.00	33
第二區	15	15	5	31.25	6.25	48
第三區	12	12	6	24.00	4.00	75
第四區	9	9	8	18.00	2.25	133
第五區	6	6	12	12.00	1.00	300

施肥量 用地ノ都合上本數ニ依ラズ坪數ニ應シ12尺×12尺植(反當)ヲ標準トシテ每區共通トセリ

本年度成績

區別	定植密度	剪定量	收量								一果平均重量	
			大小等級別							合計		
			ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	果數		重量
1	18×18	230	320	338	957	321	483	178	—	85	2597	30.5
2	15×15	200	346	274	1005	988	868	293	37	136	3811	27.9
3	12×12	708	168	469	1323	1607	1221	351	45	186	5184	27.8
4	9×9	971	224	748	2052	1673	736	234	—	183	5667	30.9
5	6×6	2157	281	1066	2151	2237	1442	490	81	267	7748	29.0

同上百坪當成績

區別	定植密度	供試面積(坪)	每區百坪當收量								
			大小等級別							合計	
			ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	果數	重量
1	18×18	36.00	19889	25939	782688	31891	581341	25494	—	236	7274

2	15×15	31.25	26 1.107	22 877	106 3.216	106 3.162	115 2.778	51 938	10 118	436	12.196
3	12×12	24.00	17 700	54 1.954	163 5.512	233 6.695	217 5.087	79 1.462	17 187	780	21.597
4	9×9	18.00	28 1.244	106 4.155	328 11.399	322 9.294	167 4.088	67 1.300	—	1.018	31.480
5	6×6	12.00	50 2.342	225 8.883	525 17.924	650 18.641	508 12.016	217 4.083	50 875	2.225	64.564

前五ヶ年間ノ累年成績

區別	供試面積	剪定枝條量					合計	百坪當
		昭和四年	昭和五年	昭和七年	昭和八年	昭和九年		
1	36.00	665	2.490	81	830	230	4.296	11.930
2	31.25	855	3.330	113	685	200	5.183	16.586
3	24.00	925	3.000	257	975	708	5.865	24.433
4	18.00	1.085	4.170	465	1.630	971	8.321	46.223
5	12.00	1.650	5.110	424	2.326	2.157	11.667	97.221

(續)

區別	供試面積	實果收量					合計	百坪當
		昭和三年	昭和四年	昭和七年	昭和八年	昭和九年		
1	36.00	56 1.452	30 879	10 140	84 2.324	85 2.597	265 7.392	730 20.528
2	31.25	203 4.814	33 802	47 1.082	273 7.827	136 3.811	692 18.336	2214 58.675
3	24.00	134 3.574	37 1.240	298 4.391	97 2.723	186 1.545	752 13.473	3133 56.129
4	18.00	182 4.419	54 1.804	206 3.145	295 8.319	183 5.667	920 23.354	5111 129.731
5	12.00	156 3.812	36 1.127	227 3.590	354 9.637	267 7.748	1040 25.914	8666 215.941

(二) 温州肥料要素肥効試験

目的 柑橘樹ノ一生ヲ通シテ肥料要素ノ効果並其相互關係ヲ明カニセントスルニアリ

設計 枳殼砧2年生苗木ヲ方2間ノ混苦利土框内ニ定植シ每5本宛供試シ次ノ區別ヲ設ク

完全區 無窒素區 無磷酸區 無加里區 無石灰區  
無肥料區 (用土礫質粘壤土)

成績 本年度ハ専ラ混苦利土框ノ据付及用土ノ搬入混和ヲ行ヘリ

(三) 温州肥料要素加減試験

目的 柑橘樹ノ一生ヲ通シテ4要素ノ配合施肥ノ適量並其相互間ノ關係ヲ明カニセントスルニアリ

設計 9區制トシ窒素磷酸加里及石灰ノ4要素ニ就キ各2、4、6ノ割合ヲ以テ加減シテ施肥試験ヲ行フモノナリ、其他前試験ニ準ス但シ每區1本宛供試セントス

成績 本年度ハ専ラ混苦利土框ノ調製ヲ行ヒタリ

(四) 温州園ノ土壤種類試験

目的 温州ノ栽培上各種ノ土壤カ其生育結果及品質ニ及ホス影響如何ヲ究ムルト同時ニ就中好適スル土壤ノ種類ヲ明カニセントスルニアリ

設計 粘土區 壤土區 礫土區 砂土區 蘆土區  
火山灰土區

每區1本宛各4坪ヲ以テ試験スルノ外凡テ前試験ニ同ジ

成績 苗木ノ準備終了セシモ混苦利土框ノ準備完了セズ

(五) 温州施肥時期試験

目的 温州樹ニ對シ幼齡時代ヨリ樹ノ一生ヲ通スル施肥ノ適期ヲ明カニセントスルニアリ

設計 三月中旬區 六月中旬區 九月中旬區 十二月中旬區

每區3本宛每樹方2間ニ定植供試ス

經過及成績 昭和八年度定植ヲ了シタル樹ノ植傷癒ヘ樹勢ノ均整スルヲ待チ試験ニ着手セントス

(六) 温州施肥方法試験

目的 温州樹ニ對シ幼齡時代ヨリ樹ノ一生ヲ通シテ施肥スルニ當リ其適當ナル施肥法ヲ知ラントスルニアリ

設計 全面及局處施肥ノ2區トシ每區3本ヲ供試各方2間ニ定植シ施肥ハ何レモ2寸深耕入トス

經過及成績 昭和八年定植ヲ了シタル供試樹ノ植傷癒ヘ樹勢ノ均整スルヲ待チ試験ヲ開始セントス

(七) 温州施肥深度試験

目的 枳殼砧ニ接木シタル温州ニ對スル施肥ノ適當ナル深度ヲ知ラントスルニアリ

- 設計 1 樹下全面撒布攪拌  
 2 樹下全面深サ2寸ニ埋施攪拌  
 3 樹下全面深サ4寸ニ埋施攪拌

各區3本宛每樹方2間ニ定植供試ス

經過及成績 昭和八年度定植ノ枳殼砧温州ノ植傷癒ヘ樹勢均整スルヲ待チ試験ニ着手セントス

(八) 温州對自給肥料連施試験

目的 最モ得易キ自給肥料ヲ連用シテ温州ノ窒素肥トシテノ價值並ニ其經濟的得失ヲ明カニセントスルニアリ

- 設計 堆肥主用區 蠶沙主用區 鷄糞主用區 人糞尿主用區  
 乾鱷主用區 (標準區)

經過成績

本年度成績

區別	剪定量	六本廿四坪當等級別收量							合計		一果平均重量
		ア印	イ印	エ印	ミ印	カ印	ム印	花印	果數	重量	
堆肥區	1.695	9 409	23 885	40 1.272	51 1.449	33 821	30 449	3 35	189	5.314	28.1
蠶沙區	1.730	14 850	12 505	33 1.138	30 872	40 921	10 190	—	139	4.476	32.2
鷄糞區	980	16 721	18 667	47 1.552	46 1.319	41 986	5 89	—	173	5.334	30.8
人糞尿區	1.440	7 330	32 1.240	33 1.131	32 932	26 619	12 219	2	144	4.497	31.2
乾鱷區	1.640	15 690	15 603	38 1.300	52 1.475	28 676	21 378	2	171	5.154	30.1

果實ノ外觀的審査成績 (本年度)

區別	調査果數	充實		皮理		着色		光澤		果心	果肉ノ色		果皮厚	食味	
		順位	程度	順位	粗密	順位	良否	順位	良否		大サ	濃淡		順位	良否
堆肥區	10	5	甚膨	5	粗	4	紅橙	5	不良	1.2	5	淡紅	0.5	2	上
蠶沙區	10	4	膨	3	稍密	5	紅橙	2	良	1.0	3	紅	0.4	5	中ノ下
鷄糞區	10	1	充實	1	密	3	稍紅橙	1	良	1.2	4	紅	0.3	1	上

人糞尿區	10	3	膨	4	稍粗	2	濃紅	3	稍良	1.1	2	濃紅	0.4	4	中
乾鱷區	10	2	稍膨	2	密	1	濃紅	4	稍不良	1.3	1	濃紅	0.4	3	稍上

果實ノ解剖的審査成績 (本年度)

區別	果實各部ノ割合			全果ニ對スル果汁量	果汁ノ成分		甘味率
	全果重	果肉量	果皮量		全糖量	游離酸	
堆肥區	100.0	70.3	29.7	46.4	11.01	0.74	14.88
蠶沙區	100.0	65.8	34.2	40.2	10.96	0.81	13.53
鷄糞區	100.0	71.7	28.3	44.9	11.53	0.87	13.30
人糞尿區	100.0	71.4	28.6	47.6	10.46	0.73	14.32
乾鱷區	100.0	71.5	28.5	47.8	10.49	0.78	13.45

累年收量成績

區別	剪定量						合計
	昭和二年	全三年	全五年	全七年	全八年	全九年	
堆肥區	435	1.775	7.880	440	3.585	1.695	15.810
蠶沙區	382	1.285	8.060	380	2.950	1.730	14.787
鷄糞區	388	1.466	7.460	430	2.185	980	12.909
人糞尿區	345	1.492	9.030	390	2.445	1.440	15.142
乾鱷區	196	1.517	5.270	395	2.995	1.640	12.013

(續)

區別	果實收量							合計
	昭和元年	全二年	全三年	全四年	全七年	全八年	全九年	
堆肥區	18	11	167	2	80	43	189	510
蠶沙區	370	302	3.295	48	1.863	1.288	5.314	12.480
鷄糞區	24	2	130	19	205	164	139	680
人糞尿區	505	59	2.707	456	3.797	5.231	4.476	17.231
乾鱷區	15	7	104	1	23	163	173	486
鷄糞區	328	291	2.325	33	497	6.897	5.334	15.705

人糞尿區	20	9	28	6	210	147	144	564
	437	279	623	148	3,905	4,903	4,497	14,792
乾鱈區	12	—	71	6	42	142	171	444
	269	—	1,803	189	687	4,354	5,154	12,456

累年分析成績

區別	全糖量			游離酸			甘味率		
	昭和八年	全九年	平均	昭和八年	全九年	平均	昭和八年	全九年	平均
堆肥區	10.93	11.01	10.97	0.99	0.74	0.87	10.04	14.88	12.46
蠶沙區	12.02	10.96	11.49	1.00	0.81	0.91	12.02	13.53	12.78
鶏糞區	10.90	11.53	11.22	0.97	0.87	0.92	11.24	13.50	12.27
人糞尿區	10.41	10.46	10.44	0.79	0.73	0.76	13.18	14.32	13.75
乾鱈區	10.41	10.49	10.45	0.87	0.78	0.83	11.97	13.45	12.71

(九) 温州綠肥連作連施試験

目的 温州ノ窒素肥料トシテ代表的綠肥作物ヲ連年間作シテ連施スルノ得失ヲ比較シテ其經濟的價値ヲ明カニセントスルニアリ

設計 每區6本宛供試シ各方2間ニ定植ス

試驗區別次ノ如シ

- 1 冬作 ルービン連作連施(反當3升下種)
- 2 同 セラデラ連作連施(反當3升下種)
- 3 夏作 青刈大豆連作連施(反當8升下種)
- 4 同 落花生連作連施(反當5升下種)
- 5 乾鱈(對照區)

綠肥區ニハ別ニ窒素性金肥ヲ施サズ但シ

窒素成分以外ニ磷酸加里及石灰ヲ各反當5貫500匁宛施給セリ

經過成績 本年度成績

區別	剪定量	收草埋施量	六本二十四坪當大小等級別收量								一果平均重量		
			ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	顆數		重量	
ルービン	3,095	78,260	13	23	44	41	36	7	—	—	164	5,008	30.5
セラデラ	1,840	64,800	7	17	39	36	10	5	—	—	114	5,445	30.2
青刈大豆	980	48,950	—	3	18	18	19	10	1	—	69	1,901	27.6

落花生	1.740	50.400	12	11	39	35	23	15	2	137	3,935	28.7
			500	455	1,216	960	539	240	25	—	—	—
乾鱈	1.990	—	6	25	51	64	55	28	—	229	6,483	28.3
			282	972	1,722	1,758	1,254	495	—	—	—	—

果實ノ外觀的審査成績(本年度)

區別	調査果數	充實		皮理		着色		光澤		果心大サ	果肉色		果皮厚	食味	
		順位	程度	順位	程度	順位	程度	順位	程度		順位	程度		順位	程度
ルービン	8	1	充	2	密	2	濃紅	2	良	1.2	2	紅	0.5	2	上
セラデラ	10	3	膨	1	密	3	濃紅	1	良	1.3	1	濃紅	0.3	4	下
青刈大豆	10	5	膨	4	粗	5	紅橙	5	不良	1.3	5	紅橙	0.4	5	下
落花生	10	4	膨	5	粗	4	紅橙	4	不良	1.4	4	紅橙	0.5	3	中
乾鱈	10	2	稍充	3	稍密	1	濃紅	3	稍良	1.4	3	紅	0.4	1	上

果實ノ解剖的審査成績(本年度)

區別	果實各部ノ割合			全果ニ對スル果汁量	果汁ノ成分		甘味率
	全果重	果肉量	果皮量		全糖量	游離酸	
ルービン	100.0	70.8	29.2	49.9	10.49	0.85	12.33
セラデラ	100.0	71.2	28.8	40.0	10.23	0.89	11.49
青刈大豆	100.0	71.2	28.8	46.5	10.01	0.97	11.35
落花生	100.0	70.8	29.2	48.6	10.46	0.96	10.89
乾鱈	100.0	77.3	22.7	47.6	11.56	0.93	12.43

累年成績

年度別收草量剪定量及收量比較

年度別	區別				
	ルービン區	セラデラ區	青刈大豆區	落花生區	乾鱈區
大正吉年	31,130	18,085	24,680	45,300	—
昭和元年	28,780	11,650	19,270	28,480	—
全二年	19,600	3,480	32,790	19,850	—
全三年	46,100	32,270	32,800	45,000	—
全四年	—	—	8,420	17,450	—
同六年	6,000	6,600	64,750	49,250	—
同七年	61,300	30,000	41,820	74,320	—



	同 八年	65.150	36.760	41.600	42.100	—
	同 九年	78.260	64.800	48.950	50.400	—
	合 計	335.920	203.645	305.080	372.150	—
剪	昭和二年	1.700	1.317	184	1.159	254
	同 三年	2.925	2.285	765	1.472	1.826
	同 五年	9.590	9.765	4.630	2.720	7.570
定	同 七年	720	440	162	197	446
	同 八年	3.035	2.890	1.050	1.675	2.390
	同 九年	3.095	1.840	980	1.740	1.990
量	合 計	21.065	18.537	7.771	8.963	14.476
收 量  (上下段 へ果重 量)	昭和元年	32 805	10 293	13 340	6 180	10 302
	同 二年	4 123	17 495	—	10 329	4 111
	同 三年	38 1.024	83 2.255	17 488	73 1.740	96 2.381
	同 四年	33 877	41 1.246	3 42	20 615	13 365
	同 七年	86 1.815	—	201 3.848	128 2.430	81 1.799
	同 八年	424 12.460	211 6.738	147 4.317	106 3.275	244 8.134
	同 九年	164 5.008	114 3.445	69 1.901	137 3.935	229 6.483
	合 計	781 22.112	476 14.472	450 10.930	486 12.504	677 19.575

(十) 温州樹ノ劃一的整枝法試験

目的 温州樹定植ノ當時ヨリ一定ノ目標樹形ヲ定メテ整枝シタル劃一的樹形ノ如何ガ樹勢、果實ノ品質及收量ニ如何ナル影響ヲ齎スカヲ明カニセントスルニアリ

設計 終始自然形外4區ヲ設ケ整枝以外ノ肥培管理ハ凡テ一般栽培標準ニ依リ每區3本宛供試ス

經過成績

本年度成績

區別	剪定量	各三本十二坪當果實收量 (上段へ果數) (下段へ重量)							合 計		一均 果重 平量
		ア印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	△印	花印	顆數	重量	
終始 自然形	110	2 85	3 117	11 367	21 575	17 388	10 179	2 27	66	1.738	26.3
終始 半圓形	515	6 302	2 80	11 369	8 230	17 379	15 262	2 29	61	1.651	27.0
終始 開窓形	775	7 309	12 472	14 484	7 204	2 49	2 42	—	44	1.560	35.4
終始 盃狀形	377	1 45	10 381	6 207	4 112	4 85	4 68	2 26	31	924	29.8
終始 平面形	615	2 100	6 224	9 292	26 480	31 665	—	—	74	1.761	21.7

前二ケ年間累年成績

區別	剪 定 量			三本十二坪當收量						一果平均重量		
	昭和八年	昭和九年	合計	果 數			重 量			昭和八年	昭和九年	平均
				昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	合計			
終始 自然形	87	110	197	41	66	107	1.443	1.738	3.181	35.2	26.3	29.7
終始 半圓形	150	515	665	—	61	61	—	1.651	1.651	—	27.0	27.0
終始 開窓形	80	775	855	12	44	56	545	1.560	2.105	45.4	35.4	37.6
終始 盃狀形	18	377	395	73	31	104	2.597	924	3.521	35.6	29.8	33.9
終始 平面形	40	615	655	9	74	83	422	1.761	2.183	46.9	23.7	26.3

(十一) 温州樹ノ轉換的整枝法ニ依ル生産力増進試験

目的 劃一的樹形整枝法ノ缺點ヲ補フ爲メ時々樹ノ姿態的個体ヲ尊重スル整枝剪定ノ方法並其得失ヲ明カニセントスルニアリ

設計 最初自然形ヲ構成シテ數年目毎ニ順次半圓、開窓、盃狀、平面形等ニ轉換區外4區ヲ設ケ其他前試験同様トス

經過成績

本年度成績

區別	剪定量	三本十二坪當收量 (上段へ果數 下段へ重量)							合計		一果平均重量
		ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	顆數	重量	
最初自然形	415	個6 259	個13 490	個14 1.164	個71 1.567	個53 1.195	個22 400	個3 45	個202	5.120	25.3
最初半圓形	1.635	6 270	9 340	16 1.182	27 761	23 520	21 362	5 56	129	3.491	27.0
最初開窓形	2.380	11 477	15 550	21 691	24 638	17 420	14 252	7 83	109	3.111	28.5
最初盃狀形	1.850	3 134	18 678	26 1.167	33 887	41 928	12 226	7 90	150	4.110	27.0
最初平面形	1.065	8 366	11 421	19 666	18 497	19 447	5 83	2 33	82	2.513	30.6

前2ケ年間ノ累年成績

區別	剪定量			三本十二坪當收量						一果平均重量		
	昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	平均
最初自然形	185	415	600	161	202	363	4.887	5.120	10.007	30.3	25.3	27.6
最初半圓形	145	1.635	1.715	219	129	348	7.107	3.491	10.598	32.5	27.0	30.4
最初開窓形	335	2.380	2.715	91	109	200	3.087	3.111	6.198	33.9	28.5	31.0
最初盃狀形	50	1.850	1.900	111	150	261	3.580	4.110	7.690	32.3	27.0	29.5
最初平面形	55	1.065	1.120	157	82	239	5.289	2.513	7.802	33.7	30.6	32.6

(三) 温州綠枝剪定時期試験

目的 温州樹ニ對スル適當ナル剪定ノ時期ヲ明カニセントスルニアリ

設計 三月中旬ヨリ十二月中旬迄毎月1區宛合計10區ヲ設ケ試験スルコトトシ毎

區3本宛尾張系13年生ヲ供試セリ

經過成績

本年度成績

區別	剪定量	三本十二坪當收量 (上段へ果數 下段へ重量)							合計		一果平均重量
		ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	果數	重量	
三月中旬	575	個7 288	個13 484	個14 1.580	個48 1.344	個32 750	個15 276	個2 30	個166	4.752	28.6

四月中旬	1.487	5 215	11 422	21 712	19 545	21 473	14 257	5 96	2.691	28.0
五月中旬	1.223	4 165	7 251	30 988	48 1.332	55 1.419	28 496	1 173	4.665	26.9
六月中旬	2.385	1 48	3 110	21 693	25 631	43 953	24 424	7 124	2.953	23.8
七月中旬	1.912	— —	1 36	8 265	40 1.071	50 1.107	32 563	12 160	3.202	22.3
八月中旬	2.000	1 38	6 217	25 777	67 1.837	103 2.240	79 1.360	17 208	6.677	22.4
九月中旬	1.707	4 180	7 270	21 616	39 1.162	47 1.149	15 285	2 135	3.684	27.2
十月中旬	1.987	8 507	13 755	43 1.896	71 3.079	85 3.113	63 1.355	6 102	11.796	40.8
十一月中旬	475	— —	5 185	18 580	42 1.175	62 1.434	20 372	6 80	3.826	25.0
十二月中旬	1.760	1 39	16 575	44 1.368	49 1.163	100 2.860	46 778	7 91	6.874	26.1

前二ケ年間ノ累年成績

區別	剪定量 (三本當)			三本十二坪當收量						一果平均重量		
	昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	合計	昭和八年	昭和九年	平均
三月中旬	—	575	575	143	166	309	4.583	4.752	9.335	32.0	28.6	30.2
四月中旬	—	1.487	1.487	226	96	322	7.546	2.691	10.237	33.3	28.0	31.8
五月中旬	—	1.223	1.223	178	173	351	5.918	4.665	10.583	33.3	26.9	30.1
六月中旬	—	2.385	2.385	270	124	394	8.511	2.953	11.464	31.5	23.8	29.1
七月中旬	—	1.912	1.912	310	143	453	8.878	3.202	12.080	28.6	22.3	26.7
八月中旬	—	2.000	2.000	194	298	492	5.933	6.677	12.610	30.6	22.4	25.6
九月中旬	—	1.707	1.707	227	135	362	7.422	3.684	11.106	32.6	27.2	30.7
十月中旬	—	1.987	1.987	174	289	463	4.923	11.796	16.719	28.3	40.8	36.1
十一月中旬	—	475	475	265	153	418	6.843	3.826	10.669	25.8	25.0	25.5
十二月中旬	—	1.760	1.760	220	263	483	7.191	6.874	14.065	32.7	26.1	29.1

(三) 温州ノ介殼虫驅除藥劑種類試験

目的 柑橘介殼虫驅除用主要合劑乳劑撒布及青酸瓦斯燻蒸ヲ連年連施シタル場合ニ於ケル温州樹並介殼虫ニ及ホス影響ヲ知り適當ナル驅除藥劑又ハ其方法ヲ明カニセントスルニアリ

設計

區名	藥劑又ハ驅除法	調 合 量	稀釋又ハ時間
1	石灰硫黄合劑	硫 黄 華 1貫200匁 生 石 灰 600匁	水1斗 四 度 液
2	機 械 油 乳 劑	C マシン油 1升 アデカ石鹼 50匁	水1升 二 十 倍 液
3	松 脂 合 劑	松 脂 100匁 鯨 油 2 匁 苛性曹達 25匁 水 1 斗	稀釋セサル熱液
4	石 油 乳 劑	上松石油 1升 マルセーユ石鹼 15匁	水 5合 二 十 倍 液
5	青酸瓦斯燻蒸	青酸加里1. 水3. (千立方尺=付青酸) 硫 酸1, 加里250匁	一 時 間

經過成績

本年度收量成績

區 別	五本二十坪當大小等級別收量							合 計		一果平均重量
	ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	果數	重量	
石灰硫黄合劑	50	80	560	454	1,076	507	104	123	2,831	23.0
機械油乳劑	—	—	2	13	6	11	3	35	827	23.7
松脂合劑	1	4	13	39	62	47	18	184	3,935	21.6
石油乳劑	2	3	21	27	38	34	5	130	3,178	23.7
青酸瓦斯燻蒸	2	1	11	32	50	45	19	160	3,511	20.1
對 照 區	2	7	31	52	75	58	18	243	5,836	16.9

果實ニ對スル介殼虫附着ノ多少

區 別	調 査 果 數	完 全 果 數	被 害 果 數	同 上 被 害 率	介 殼 虫 種 類 別 被 害										樹ニ對スル影響	參 考 病 象	
					トビイロマル介殼		ロゼ介殼		サンホー介殼		パーラトリヤ介殼		コンマ介殼				
					果數	%	果數	%	果數	%	果數	%	果數	%			果數
1. 石灰硫黄合劑撒布	150	37	113	75.3	41	28.5	27.3	10	64	6.7	20	68	13.3	—	無	89	19
2. 機械油乳劑撒布	35	6	29	72.9	7	19	20.0	5	17	14.3	26	74	74.3	—	無	19	5

3. 松脂合劑撒布	174	11	163	93.7	91	281	52.3	46	155	26.4	79	8,960	42.4	1	1	0.6	無	111	60
4. 石油乳劑撒布	117	17	100	85.5	32	249	27.4	89	522	76.1	62	2,316	53.0	—	—	—	無	49	45
5. 青酸瓦斯燻蒸	151	78	73	48.3	11	17	7.3	21	53	13.9	73	1,877	48.3	—	—	—	無	97	44
6. 對 照 區	221	26	195	88.2	41	153	18.5	84	917	38.1	173	4,038	78.3	—	—	—	無	120	58

前二ケ年間ノ累年成績

果實ノ收量比較 每區五本當

區 別	年 度 別	五本當果實ノ大小等級別收量 (總テ果數ヲ以テ現ス)							合 計		一 果 平均重量
		ブ印	ン印	ゴ印	ミ印	カ印	ム印	花印	果數	重量	
石灰硫黄合劑	昭和八年	3	6	22	40	18	6	2	97	2,722	28.1
	昭和九年	1	2	18	18	48	29	7	123	2,831	23.0
	合 計	4	8	40	58	66	35	9	220	5,553	25.3
機械油乳劑	昭和八年	7	12	32	37	24	13	4	128	4,070	31.8
	昭和九年	—	—	2	13	6	11	3	35	827	23.7
	合 計	7	12	34	50	30	24	7	163	4,897	30.0
松脂合劑	昭和八年	4	6	18	33	29	9	2	101	2,895	28.7
	昭和九年	1	4	13	39	62	47	18	183	3,935	21.5
	合 計	5	10	31	72	91	56	20	284	6,830	24.0
石油乳劑	昭和八年	7	19	67	67	102	59	16	341	8,370	24.5
	昭和九年	2	3	21	27	38	34	5	130	3,178	23.7
	合 計	9	22	88	94	140	93	21	471	11,548	24.5
青酸瓦斯燻蒸	昭和八年	2	10	46	98	154	66	12	384	9,190	23.9
	昭和九年	2	1	11	32	50	45	19	160	3,511	20.1
	合 計	4	11	57	130	204	111	31	544	12,701	22.1

對照區	昭和八年	2	11	15	22	18	11	7	86	2.405	28.0
	昭和九年	2	7	31	52	75	58	18	343	5.836	17.0
	合計	4	18	46	74	93	69	25	429	241	19.2

被害ノ多少及樹ニ對スル影響

區別	年別	調査果數	完全果數	被害果數	同上被害	介殼虫種類別被害ノ多少												樹ニ對スル影響	参考 病果數		
						トビイロ丸介殼			サンホーゼ介殼			バラトリヤ介殼			コンマ介殼					煤病	象皮病
						果數	虫數	被害果率	果數	虫數	被害果率	果數	虫數	被害果率	果數	虫數	被害果率				
石灰硫黃合劑	昭和八年	97	2	95	97.9	45	497	46.4	14	—	14.7	81	—	83.5	—	—	9	20			
	昭和九年	150	37	113	15.3	41	285	27.3	10	64	6.7	20	68	13.3	—	—	89	19			
	合計	247	39	208	84.2	86	782	34.8	24	—	9.7	101	68	40.9	—	—	98	39			
機械油乳劑	昭和八年	128	12	116	90.7	31	—	24.2	61	—	47.7	115	—	89.0	1	10.8	無	3	11		
	昭和九年	35	6	29	92.9	7	19	20.0	5	17	14.3	26	741	74.3	—	—	無	5	19		
	合計	163	18	145	88.9	38	—	23.3	66	—	40.5	141	—	86.5	1	10.6	無	8	30		
松脂合劑	昭和八年	101	2	99	98.0	17	89	16.8	34	—	33.7	62	—	61.3	—	—	無	4	12		
	昭和九年	174	11	163	93.7	91	281	52.3	46	155	26.4	79	8960	42.3	1	10.6	無	60	111		
	合計	275	13	262	95.3	108	370	39.3	80	—	28.9	141	—	51.3	1	10.3	無	64	123		
石油乳劑	昭和八年	341	13	328	96.2	59	—	17.3	193	—	36.6	253	—	74.2	—	—	無	35	75		
	昭和九年	117	17	100	85.5	32	249	27.4	89	522	76.1	62	2316	53.0	—	—	無	45	49		
	合計	458	30	428	95.6	91	—	19.9	282	—	61.6	315	—	68.8	—	—	無	80	124		
青酸瓦斯燻蒸	昭和八年	384	34	350	91.1	43	—	11.4	154	—	11.2	234	—	76.5	1	—	痕跡	9	91		
	昭和九年	151	78	73	48.3	11	17	7.3	21	53	13.9	73	1877	48.3	—	—	無	44	97		
	合計	535	112	423	79.0	54	—	10.0	175	—	23.7	367	—	68.6	—	—	無	53	188		
對照區	昭和八年	86	—	86	100.0	15	59	17.4	52	—	60.4	72	—	83.7	—	—	無	3	5		
	昭和九年	221	26	195	88.2	41	153	18.5	84	917	38.1	173	4038	78.3	—	—	無	58	120		
	合計	307	—	281	91.8	56	212	18.2	136	—	46.3	245	—	79.8	—	—	無	61	125		

普及指導並ニ獎勵事項

(一) 優良柑橘苗木養成配給

目的 將來有望ト認ムル柑橘類中主トシテ優良系統ノ温州苗木ヲ養成シテ之ガ普及ヲ圖リ一面縣下關係町村ニ於ケル増植計畫ノ遂行ヲ容易ナラシメントスルニアリ

設計 用地1町3反歩ヲ用ヒテ本年度生産配給計畫次ノ如シ

- 1 2年生温州苗木培養ノ分 30,000本
- 2 1年生温州苗木接木培養ノ分 50,000本
- 3 2年生枳殼砧移植培養ノ分 60,000本
- 4 1年生枳殼砧播種培養ノ分 100,000本

成績

本年度種類別配給本數

温州苗木	9,465本
早生温州苗木	3,220本
ネーヅル苗木	1,691本
其他柑橘苗木	436本
合計	14,812本

本年度都市別配給本數

郡市別	町村數	配布本數	郡市別	町村數	配布本數
西國東郡	7	2,357	大野郡	1	62
東國東郡	12	2,188	宇佐郡	5	226
速見郡	6	620	下毛郡	1	160
大分郡	6	1,584	大分市		1,168
北海部郡	11	4,012			
南海部郡	5	2,474	計	10	54
					14,812

外ニ翌年度繰越配布本數 3,094本

(二) 町村技術員養成

目的 甲種農學校卒業又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル志願者中ヨリ選抜入場セシメ柑橘栽培ニ關スル學術技能ヲ修得練習セシメントスルニアリ本年度修得者氏名次ノ如シ

氏名	原籍地	學歷
渡邊 隆雄	大分縣南海部郡名古屋村	大分縣立四日市農學校農科卒業
高野 誠	同 同 因尾村	大分縣立三重農學校卒業
石田 靜	同 同 西上浦村	同上
深津 金松	同 北海部郡佐志生村	大分縣立農事試驗場乙種講習生修業
廣瀬 良見	同 南海部郡西上浦村	大分縣立三重農學校卒業
又見 正元	同 同 切畑村	大分縣立農事試驗場乙種講習生修業
高羽 大男	同 同 名護尾村	大分縣立四日市農學校農科卒業
佐藤 好夫	同 大分郡 戸次町	大分縣立農事試驗場乙種講習生修業

(三) 中堅柑橘業者養成

目的 實地柑橘栽培ニ從事セントスル者ニシテ思想堅固ナル志願者ヲ乙種練習生トシテ入場セシメ専門的智識技能ヲ修得セシメントスルニアリ

本年度修得者次ノ如シ

氏名	原籍地	學歷
安成 繁利	大分縣西國東郡香々地町	西國東郡香々地農業補習學校卒業

第二回縣内産温州果實品評

昭和九年十二月縣内ニ於ケル各關係町村ノ代表的温州各1點ヲ蒐集シ一般ノ參考ニ供スルト同時ニ將來ニ於ケル指導獎勵ノ資料タラシメンガタメ出品果實ニ就キ精密ナル比較審査ヲナシ之レガ優劣ヲ定メタリ  
其ノ成績ハ紙數ノ都合ニヨリ別ニ報告スルモノトス

庶務ニ關スル事項

(一) 印刷物配付

代表的柑橘園案内	2,820枚
柑橘施肥並配合例	297枚
石灰硫黃稀釋表	600枚
縣内産温州果實調査表	230枚
柑橘栽培行事曆	200部
密柑ト健康	120部

(二) 出張

用務	縣内		縣外	
	回数	日數	回数	日數
調査	8	22	—	—
農事協議會	11	17	—	—
苗木養成事業	5	6	—	—
實地指導	4	5	—	—
講習講話	9	16	—	—
品評會審査	6	24	—	—
其他	20	30	—	—
計	63	120	—	—

(三) 文書收發件數

收發文書	發送文書	收發印刷刊行物
290通	129通	307通

(四) 質問應答

柑橘栽培ニ關スル事項	73件
種苗ニ關スル事項	108件
其他ノ事項	239件
計	410件

(五) 參觀人

本年度當場ニ於ケル參觀人 3,065人

## 高冷地試験地

### 氣象概要

農作物ト氣象トノ關係調査ニ資センガ爲當場水田試験地ノ中央ニ氣象觀測所ヲ設置シ毎日午前十時ニ觀測ヲ行ヒタリ昭和九年度觀測概要ハ次ノ如シ

#### (一) 平均氣溫

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
1	0.2	(-)3.3	(-)0.4	(-)1.9	(-)2.2	(-)4.3	(-)1.2	(-)3.8
2	1.6	(-)0.7	2.2	(+)0.9	2.8	(+)0.7	2.2	(+)0.3
3	0.4	(-)2.0	5.6	(+)1.3	7.2	(+)1.4	4.4	(-)0.4
4	9.3	(-)1.7	10.0	(+)0.5	13.5	(+)1.2	10.9	0.0
5	14.8	(+)0.8	17.7	(-)0.1	17.7	(+)1.7	16.7	(+)0.7
6	18.3	(-)0.6	17.4	(-)2.0	22.6	(+)1.5	19.4	(-)0.3
7	25.4	(-)2.8	24.1	(+)0.9	24.6	(-)0.4	24.7	(+)1.3
8	24.1	(-)0.2	24.1	(+)0.3	23.9	(+)0.5	24.0	(+)0.2
9	19.1	(-)2.7	21.1	(+)0.7	17.8	(-)0.6	20.0	(-)0.2
10	15.0	(-)0.7	13.2	(-)1.3	11.6	(+)0.8	12.9	(-)0.5
11	9.3	(-)1.0	8.3	(-)1.5	6.8	(-)2.5	8.1	(-)1.7
12	4.3	(-)3.3	7.1	(+)3.1	7.2	(+)2.5	6.2	(+)0.8

#### (二) 平均最高氣溫

月別	上旬		中旬		下旬		全年	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
1	4.2	(-)4.1	2.7	(-)4.0	2.6	(-)3.3	3.2	(-)3.7
2	4.0	(-)2.3	6.5	(+)0.7	8.6	(+)1.7	6.4	(+)0.1
3	3.7	(-)5.4	9.7	(+)0.5	11.2	(+)0.8	8.2	(-)1.4
4	14.9	(-)1.5	15.0	(+)0.6	17.3	(-)0.6	15.7	(-)0.6
5	21.5	(+)1.0	22.9	(+)1.2	23.4	(+)3.4	22.6	(+)1.2
6	22.7	(-)0.7	20.2	(-)3.2	25.3	(+)0.6	22.7	(-)0.9
7	30.0	(+)4.0	27.1	(+)0.5	27.7	(-)0.1	28.3	(+)1.5
8	28.8	(+)1.4	29.5	(+)2.3	28.3	(+)1.0	28.9	(+)1.6

9	25.4	(-)1.5	24.2	(-)0.2	23.0	(+)0.7	24.2	0.0
10	17.9	(-)2.9	17.7	(-)0.7	17.4	(+)0.3	17.6	(-)1.1
11	13.6	(-)2.1	14.2	(+)0.2	12.0	(-)2.0	13.3	(-)1.3
12	8.2	(-)4.0	12.8	(+)4.3	12.2	(+)3.5	11.7	(+)1.9

(三) 平均最低氣温

月 別	上 旬		中 旬		下 旬		全 月	
	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較
月	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C
1	(-)3.8	(-)2.8	(-)3.4	(-)1.4	(-)7.0	(-)5.2	(-)4.7	(-)3.1
2	(-)0.9	(+)0.7	(-)2.1	(+)0.8	(-)3.1	(-)0.3	(-)2.0	(+)0.4
3	(-)2.9	(-)2.1	1.5	(+)1.6	3.1	(+)0.7	0.6	0.0
4	3.8	(-)1.7	5.0	(+)0.3	9.5	(+)2.3	6.1	(+)0.4
5	8.0	(-)0.1	12.5	(+)0.5	12.0	(-)1.0	10.8	(-)0.2
6	13.8	(-)0.4	14.6	(-)0.8	19.3	(+)1.7	15.9	(-)1.7
7	20.8	(+)1.7	21.1	(-)1.3	21.4	(+)0.8	21.1	(+)1.3
8	19.3	(-)1.5	19.8	(-)0.5	19.6	(+)0.3	19.6	(-)0.5
9	17.0	(-)0.8	17.9	(+)2.3	12.5	(+)0.1	15.8	(+)0.1
10	12.1	(+)1.4	6.7	(-)2.1	5.8	(+)1.1	8.2	(+)0.2
11	4.9	0.0	3.3	(-)1.8	1.6	(-)3.0	3.3	(-)1.7
12	0.4	(-)2.6	1.4	(+)2.0	2.1	(+)1.6	1.3	(+)0.3

(四) 水 温 (流水温度)

月 別	上 旬		中 旬		下 旬		全 月	
	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較
月	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C
1	2.4	(-)0.9	1.7	(-)0.6	1.4	(+)0.1	1.8	(-)0.5
2	2.7	(+)0.1	2.1	(-)1.1	3.8	(-)0.2	2.9	(-)2.3
3	2.4	(-)1.1	5.3	(-)0.5	7.6	(-)1.2	5.1	(-)0.9
4	10.3	(-)1.1	12.2	(-)0.3	13.4	(+)0.2	12.0	(-)0.4
5	15.0	(-)0.1	17.5	(-)0.4	17.9	(+)0.5	16.8	0.0
6	19.0	(-)0.3	18.6	(-)0.4	20.3	(-)0.2	19.3	0.0
7	22.7	(+)0.9	21.7	(+)0.4	21.9	(-)0.7	22.1	(+)0.2
8	21.9	(+)0.3	21.2	(-)0.1	20.5	(-)0.2	21.3	(+)0.1
9	19.3	(-)0.3	19.0	(+)0.1	17.1	(-)0.1	18.5	(-)0.1
10	15.8	(+)0.1	13.7	(+)0.4	10.2	(-)0.8	13.2	(-)0.2
11	9.8	(-)0.1	2.7	(-)3.9	0.8	(-)4.8	0.4	(-)7.0
12	—	—	—	—	—	—	—	—

(五) 降 水 量

月 別	上 旬		中 旬		下 旬		公 月	
	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較
月	m	m	m	m	m	m	m	m
1	1.0	(-)21.6	19.2	(+)12.7	7.0	(+)4.6	27.2	(-)4.3
2	16.9	(-)10.6	2.5	(-)8.8	1.8	(-)0.8	21.2	(-)21.2
3	14.2	(-)9.8	44.3	(+)20.4	53.5	(+)12.2	112.0	(-)22.8
4	23.8	(-)15.3	5.4	(-)43.8	116.2	(+)52.7	194.0	(+)41.7
5	22.0	(-)1.7	65.1	(-)3.9	0.0	(-)59.7	87.1	(-)65.2
6	53.6	(-)22.5	106.6	(+)28.9	12.3	(+)96.9	172.5	(-)75.2
7	43.2	(-)204.2	107.5	(-)7.8	100.1	(+)15.5	250.8	(-)96.5
8	43.4	(-)39.2	39.8	(-)18.8	15.1	(-)56.8	98.3	(-)114.8
9	68.5	(+)41.8	139.8	(+)110.6	20.1	(-)38.9	228.4	(+)102.6
10	108.6	(+)77.1	3.7	(-)84.3	24.5	(+)21.0	136.8	(+)13.8
11	7.6	(-)14.4	21.2	(-)5.0	73.7	(+)64.1	102.5	(+)43.2
12	8.6	(-)19.0	1.4	(-)10.7	58.6	(+)9.2	68.6	(-)16.5

(六) 日 照 時 數

月 別	上 旬		中 旬		下 旬		全 月	
	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較	本 年	平年比較
月	時	時	時	時	時	時	時	時
1	45.2	(+)20.4	26.8	(-)19.0	57.1	(+)25.7	129.1	(+)17.1
2	27.2	(-)0.2	78.9	(+)38.1	52.2	(+)11.7	158.3	(+)49.5
3	66.5	(+)8.5	70.0	(+)24.2	56.6	(+)10.5	193.1	(+)42.9
4	55.0	(+)6.4	48.9	(+)3.4	36.5	(-)7.6	140.4	(+)2.3
5	64.2	(+)0.2	56.1	(+)1.7	90.7	(+)56.9	211.0	(+)58.8
6	67.9	(+)19.9	26.5	(-)4.6	48.5	(+)13.3	142.9	(+)33.8
7	84.3	(+)37.3	25.9	(-)23.5	18.3	(+)23.0	188.5	(+)47.8
8	80.6	(+)43.8	81.0	(+)36.7	85.3	(+)28.8	246.9	(+)109.3
9	37.9	(-)12.8	21.8	(-)15.8	75.0	(+)34.9	134.7	(+)6.4
10	34.5	(-)12.6	55.9	(+)13.7	62.5	(+)8.1	152.9	(+)8.2
11	47.9	(+)5.7	55.6	(+)18.5	55.3	(+)11.9	158.8	(+)36.0
12	38.3	(+)0.6	57.1	(+)22.1	26.3	(+)10.3	122.2	(+)12.9

摘要

以上示セルガ如ク高冷地方ノ氣象状態ヲ考フルニ平坦地方ニ比シ氣温低ク殊ニ九月頃ヨリ急激ニ温度降下シ所謂冷害ノ現象ヲ表現シ易ク灌溉水ハ一般ニ低冷

ニシテ降雨曇天多キタメ植物体ハ軟弱トナリ熟期遅延シ倒伏ノ因トナリ病蟲害ノ被害ヲ多カラシムルヲ以テ當高冷地方トシテハ品種選定上又ハ農作物栽培上殊ニ周到ナル注意ヲ以テ氣象ニ最モ適應シタル方法ヲ探ラザレバ安全ニシテ經濟的ナル農業ヲ行フコト能ハズ

## 水 稻

### 耕 種 概 要

#### 試驗圃

1 位置 大分縣直入郡久住町字下地<sup>町</sup>1,697

#### 種子ノ豫措

1 選種 風選及篩選後梗無芒種ハ比重1.13有芒種ハ1.03ノ鹽水選ヲ行ウ但シ特別栽培ノモノヲ除ク

2 浸種 5日間桶浸トシ毎日換水シ其ノ都度上下ヲ反轉ス尙桶ニハ覆蓋ヲ施ス

#### 苗 代

1 整地苗代田ハ冬季休閑シ三月下旬耕起シ四月上旬鋤返シヲ行ヒ土塊ヲ粉碎シ播種數日前灌水シ荒代ヲ搔キ畦畔ヲ塗り泥土ノ沈着ヲ待チ中鋤ヲ行ヒ馬把ニテ搔均シ仕上前ニ肥料ヲ撒布シ土壤沈着後床拵ヲナス床ハ南北ニ設ケ床幅4尺溝幅1尺トシ幅5寸厚サ5分長サ5尺ノ板ヲ用ヒ床面ヲ押均シ其ノ均平ヲ計リ播種ス

2 肥料ノ種類及ビ一坪當リ施用量

肥料名	用量	三 要 素			備考
		N	P	K	
硫酸アンモニア	30	6.00	—	—	
過磷酸石灰	30	—	4.50	—	
藥 灰	150	—	3.14	6.75	藥灰ハ播種後芽乾ノ際ニ施ス
計		6.00	7.64	6.75	

3 播種 播種ハ四月下旬ニシテ大粒ハ坪3合小粒ハ2合トシ播種翌日ヨリ灌水ス

4 管理保護 發芽後一週間以内ハ晴天温暖ノ日ヲ選ビ3回位午前8時ヨリ午後3時迄落水シテ芽乾ヲ行ヒ其ノ後ハナルベク淺水トシ肥料ノ分解ヲ助ケ苗ノ生育ヲ強剛ナラシム、又苗ノ2—3寸ニ伸長シタル頃ヨリ螟蛾ノ捕殺

蟲卵採集並ニ「ムクゲムシ」ノ注油驅除ヲ行フ、尙稻苗腐敗病發生ノ徵アル時ハ石灰ボルドウ液四斗式等量ヲ撒布ス

#### 本 田

1 整地 春季馬耕シ更ラニ五月下旬鋤返シヲ行ヒ土塊ヲ碎キテ畦畔ヲ塗り灌水後塊返シヲナス次デ數回代搔ヲ行ヒ肥料ヲ撒布シ田面ヲ均一ニス

2 肥料ノ種類及ビ反當施用量(全部基肥)

肥料名	用量	三 要 素			備考
		窒 素	磷 酸	加 里	
堆 肥	300	1.500	0.780	1.890	
硫酸アンモニア	4	0.800	—	—	
過磷酸石灰	8	—	1.200	—	
大 豆 粕	7	0.470	0.105	0.160	
硫 酸 加 里	2	—	—	0.960	
計		2.770	2.085	3.010	

3 挿秧 本田挿秧ハ六月十五日ニ行フ

一坪株數 1株苗數ハ次ノ標準ニヨル

一坪株數 75株(8寸×6寸)

一株苗數 6—7本

4 除草 除草ハ下記ノ通り行フ

回数	時 期	方 法	備 考
1 回	挿秧後10日目	雁爪打	止草ハナルベク有効分藥期以前ニ終ル
2 回	1回除草後5日目	雁爪直シ	
3 回	2回除草後10日目	手 取	
4 回	3回除草後10日目	手 取	

5 管理保護

灌排水 挿秧當時ハ稍深水トシ苗活着後ハナルベク淺水トス又時々排水シテ地温ノ上昇ヲ計リ常ニ灌水ハ暖メル様ニ努メ4回除草後田面ニ龜裂ノ生セザル程度ニ乾付ケ其ノ後ハ適宜灌水シテ開花後全ク排水ス

除害 挿秧後ハ常ニ病蟲害ノ發生ニ注意シ螟蛾ノ捕殺、螟蟲卵採集、葉鞘變色莖ノ切取り浮塵子ノ驅除ヲ行フ

6 收穫調製



黄熟期ニ至ラバ刈取り架乾ヲ行ヒ充分乾燥セシメタル後扱落シ更ラニ蓆乾  
ヲ行ヒ粳摺ヲナシ精選調査用トス

第一 豊凶考照試験

目的 毎年同一品種ヲ同様ノ方法ニヨリ栽培シ所定ノ時期ニ其ノ成績ヲ調査シ其  
ノ年ニ於ケル稲作豊凶ヲ考照セムトス

設計 供用品種ハ下記品種ニシテ20坪宛栽培ス

早稻、穀良都、銀坊主、辨慶、不作不知

中稻 渡船 愛知中稻

成績

1 大暑 (7月23日)

種 別	昭和九年		前二ヶ年平均		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稻 四種 平均	R 2.68	130	R 2.45	14.6	(+)0.23	(-)1.6
中稻 二種 平均	2.39	13.1	2.36	15.4	(+)0.03	(-)2.3

苗代期間中ハ氣温稍高ク日照時數稍多ク氣候概シテ適順苗ノ生育良好ナリキ挿  
秧後モ氣候適良ナリシモ六月中下旬氣温稍低ク植生ヲ阻害シ六月下旬ヨリ七月上  
旬ニ亘リテ高温多照降雨極メテ少ク灌溉水ニ稍不足ヲ來シ七月上旬ヨリ大暑ニ至  
ル期間降雨連續シ株張り稍少ク草丈稍長ク目下ノ作況普通ナリ

2 二百十日 (9月1日)

種 別	昭和九年		前二ヶ年平均		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稻 四種 平均	R 3.97	本 12.3	R 3.67	本 13.4	(+)0.30	(-)1.1
中稻 二種 平均	3.57	12.7	3.55	13.6	(+)0.02	(-)0.9

大暑以後ノ天候ハ早天連續シ日照時數極メテ多ク昨年同期ニ比シ0.7倍ノ日照  
アリ氣温稍高ク其ノ生育ハ病蟲害ノ發生ナク順調ナリ尙二百十日ハ平穩ニシテ早  
稻ハ出穂完了シ中稻ハ3-4分ノ出穂ヲ見ル分蘖ハ前表ニ示セルガ如ク稍少ナキ  
モ草丈長ク莖強剛ニシテ草狀ヨク作況概シテ平年ト大差ナシト認ム

3 秋分 (9月23日)

種 別	昭和九年		前二ヶ年平均		比較増減	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稻 四種 平均	R 3.98	本 12.0	R 3.73	本 13.1	(+)0.25	(-)1.1
中稻 二種 平均	3.86	12.1	3.81	13.5	(+)0.05	(-)1.4

二百十日後ノ氣象状態ヲ見ルニ日照時數ハ昨年同期ニ比シ極メテ少ク降雨極  
メテ多ク氣温ハ九月中旬迄ハ大差ナキモ九月二十一日ヨリ急激ニ降下シ早冷ノ徴  
ヲ示セリ 尙九月二十日ノ暴風雨ハ稲ヲ倒伏セシメ早稻種ハ熟期早キタメ收量ニ  
ハ影響ナキモ品質ニハ相當ノ被害アリト思考サル中稻種ハ收量品質共相當ノ打撃  
アリト認ム 分蘖ハ前表ニ示セル如ク草丈稍伸ビ莖數稍少ク作況ハ平年作ニ比シ  
稍下良ナリ

4 大雪

種 別	昭和九年		前二ヶ年平均		比較増減	
	反 玄米容量	玄 米一升重	反 玄米容量	玄 米一升重	反 玄米容量	玄 米一升重
早稻 四種 平均	石 3.623	匁 411	石 3.620	匁 396	(+)0.003	(+) 15
中稻 二種 平均	3.096	413	3.451	398	(-)0.355	(+) 15

苗代期間中ノ天候ハ苗代初期ハ平年ニ比シ低温ナリシモ苗代中後期ニ於テハ日  
照多ク苗ノ生育良好ナリキ挿秧期ニ於テハ晴天連續シ活着速カニシテ生育良好ナ  
リシモ大暑ノ頃ノ長雨ト早冷及強風ハ中稻種ノ生育結實ニ相當ノ影響アリ其ノ後  
ノ天候概シテ適順ニシテ病蟲害ノ障害ナク實收調査ノ結實ハ平年ニ比シ穂數稍少  
カリシモ穂長ク1升重重ク早稻種ハ約1厘ノ增收中稻種ハ1割3厘ノ增收ヲ示セ  
リ

第二 品種改良ニ關スル試験

(一) 品種比較本試験

目的 本縣高冷地方風土ニ適スル優良品種ヲ選出セントス

設計 AB二區制トナシ一區面積5坪トシ3品種毎ニ標準區ヲ設ケ畦畔ニ接シテ  
3列以上ノ區外ヲ置ク

成績

品 種 名	取寄先	出穂期		稈長	穂長	穂數	反當 玄米 容量	玄 米 重	品質	最近五 ヶ年平均 均收量
		月日	月日							
標準 (銀坊主)	當 場	8.30	10. 8	94.1	21.9	9.9	3.388	410	中上	3.957
奧 羽 二 號	奧 羽 試驗地	8.12	9.25	96.0	21.7	9.4	3.317	402	上下	3.364
奧 羽 六 四 號	全	8.12	9.25	73.2	20.1	12.5	2.751	406	上中	3.153
陸 羽 一 三 二 號	全	8.11	9.24	79.3	20.7	10.8	2.196	406	上下	2.804
陸 羽 一 三 六 號	岐 阜	8.12	9.25	86.1	20.9	8.3	2.914	405	上下	2.320
穀 良 都	大 分	8.18	9.30	96.8	22.9	7.6	3.629	410	中上	3.265
中 辨	愛 媛	9. 2	10.25	73.2	20.1	8.1	3.555	407	中下	3.397
畿内早生一六五	長 崎	8.23	10. 5	86.2	22.0	9.1	3.694	411	中上	3.515 (1)
早 生 旭	三 重	8.27	10.10	84.0	19.8	13.5	3.912	411	中上	3.912 (1)
中 生 旭	三 重	9. 2	10.25	100.2	21.6	12.3	3.537	407	下上	3.537 (4)
不作不知崎七號	崎 玉	8.27	10. 7	99.0	20.9	12.5	3.515	415	中上	3.275
銀 坊 主	當 場	8.28	10. 8	94.1	21.9	9.9	4.005	408	中上	3.598
收 良 愛 國	新 潟	8.28	10. 8	93.5	24.6	10.4	3.285	409	中中	3.288 (4)
多 摩 錦	南 鮮	8.21	10. 3	108.3	21.0	8.1	3.450	412	上下	3.174
大分辨慶一號	大 分	9. 1	10.18	101.5	22.4	9.6	3.542	409	中中	3.324
龜 治	廣 島	8.30	10.13	103.9	22.5	6.7	3.339	408	中下	3.364
一 本 早 生	宮 崎	8.30	10.15	106.5	21.7	9.7	3.573	404	中下	3.382 (4)
撰 一 二 號	栃 木	8.29	10.13	106.6	22.0	10.6	3.221	413	中中	3.233
福 神	熊 本	9. 1	10.25	106.6	21.8	10.2	3.160	405	中中	3.341 (4)
畿内二二號	福 島	8.30	10.13	82.0	23.3	12.2	3.509	411	中中	3.283 (4)
八 關	崎 玉	8.22	10. 5	87.6	22.0	11.6	2.864	414	上下	2.970
渡 船	兵 庫	9. 4	10.30	97.4	22.1	12.4	3.366	406	中下	3.477
大分雄町五〇號	大 分	6. 4	10.30	110.9	22.6	11.4	3.493	407	中下	3.366
愛知中稻一七號	香 川	9. 1	10.25	100.7	21.8	10.4	3.212	414	中中	3.324 (1)
旭	大 分	9. 7	11. 5	94.3	19.9	11.7	3.150	401	中下	3.150

備 考 ( ) ハ試驗年數

以上ノ成績ニヨレバ本年度ニ於テ成績良好ナルハ早生系(極早生ヲ除ク)ニシテ殊ニ銀坊主ハ昭和五年ヨリ全九年ニ至ル五ヶ年平均收量最モ多ク品質中等ナリ、尙熟期遅キモノハ收量、品質共ニ劣ル

(二) 品種比較豫備試験

目的 本縣ハ勿論廣ク他府縣ニ於テ栽培セラル、モノ、内本縣高冷地方ニ適スト認メラル、良種ヲ蒐集シ比較研究ヲ行ヒ聽テ品種比較本試験ニ編入スベキ優良品種ヲ選定セントス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ三品種毎ニ標準區ヲ置ク

成績

品 種 名	取寄先	出穂期		稈長	穂長	穂數	反當 米 容量	玄 米 重	品質	最近五 ヶ年平均 均收量
		月日	月日							
標準 (銀坊主)	當 場	8.30	10. 8	94.1	21.9	9.9	3.005	409	中上	3.957 (1)
丸 山 一 號	鳥 取	8.16	9.29	99.9	25.8	6.8	3.136	409	中中	2.933 (4)
龜ノ尾一號	青 森	8.13	9.26	91.8	—	7.7	2.606	400	上下	2.399 (4)
豐 國 一 號	青 森	8.13	9.28	94.9	22.9	9.1	3.143	408	上下	2.578 (4)
京 錦	山 形	8.16	9.30	100.5	21.2	7.3	3.040	408	上中	2.823
穀良都一號	石 川	8.20	10. 1	104.5	24.2	10.1	3.245	410	中上	3.135 (4)
六 八 日	大 分	8.20	10. 1	103.5	23.0	10.6	3.515	411	中上	3.118 (4)
新 イ 號	青 森	8.13	9.28	91.8	21.6	7.6	2.857	410	上中	2.550 (3)
農 林 一 號	新 潟	8. 4	9.15	65.2	16.4	19.0	1.523	399	上中	1.884 (4)
常 穗	茨 城	8.10	9.25	100.6	24.0	8.9	3.236	407	上中	3.118 (4)
國 益 一 號	茨 城	8.28	10.14	101.8	23.6	13.0	3.318	411	中上	3.645 (4)
中生大和力	千 葉	8.23	10. 3	86.9	21.6	11.9	3.307	411	上下	3.466 (4)
東京愛國	東 京	8.24	10. 4	85.4	21.6	9.7	3.193	410	中上	3.257 (4)
群益三〇號	岐 阜	8.26	10. 6	101.6	25.2	8.0	3.440	416	中中	2.894 (4)
早生神力一號	山 口	8.13	9.26	79.1	20.5	16.5	3.092	407	中中	2.765 (3)
關 取 五 號	岐 阜	8.28	10. 6	86.3	21.1	10.7	3.044	410	中中	3.088 (1)
銀坊主中生	富 山	8.13	9.25	79.1	21.1	8.5	2.620	399	中上	2.620 (1)
白 銀	南 鮮	8.24	10. 5	81.2	22.0	9.6	3.507	414	中上	3.507 (1)
銀坊主二〇號	南 鮮	8.30	10. 8	87.9	20.2	10.2	4.004	409	中上	4.004 (1)
早生銀坊主五二號	南 鮮	8.13	9.25	74.5	20.8	12.7	2.426	400	中上	2.426
龜 治 一 號	和 歌 山	9. 1	10.20	97.8	22.4	9.1	3.487	410	中下	3.182
都	岡 山	8.30	10.13	90.1	22.3	8.5	3.118	408	中下	3.261
神 玉	神 奈 川	8.28	10.10	87.2	22.4	9.0	3.044	413	中中	3.044

北	國	大	分	8.30	10.13	104.5	23.9	9.8	3.158	408	中下	3.205 (4)
大	關	東	京	9.1	10.8	87.1	21.3	10.7	2.890	410	中中	2.974 (4)
畿	内	中	稻	8.30	10.13	84.2	23.0	11.9	3.000	407	中中	3.179 (1)
近	畿	九	號	8.27	10.8	80.4	19.8	11.0	3.084	411	上中	3.084 (1)
近	畿	一〇	號	8.29	10.10	88.8	20.0	10.6	3.125	407	上下	3.125 (1)
近	畿	一一	號	9.2	10.13	78.4	20.2	13.2	2.887	413	上下	2.887 (1)
早	生	銀	坊	8.15	9.25	68.3	20.1	8.3	2.602	403	中上	2.602 (1)
奧	羽	二	七	8.19	9.30	86.9	21.1	9.6	3.278	404	中中	3.278 (1)
奧	羽	二	八	8.23	10.5	89.1	20.2	8.2	3.436	413	中中	3.436 (1)
早	生	朝	日	8.27	10.8	73.8	21.2	9.7	3.428	407	中上	3.428 (1)
愛	知	早	生	8.30	10.8	76.3	20.3	13.5	3.483	410	中上	3.483 (1)
畿	内	三	三	9.10	11.7	77.5	—	15.3	3.006	405	下	3.006 (1)
畿	内	一	九	9.15	11.10	88.5	—	12.4	2.397	398	下	2.397 (1)
大	阪	早	生	8.28	10.10	71.8	19.8	13.6	3.495	409	中中	3.495 (1)
農	林	三	號	8.29	10.12	70.2	21.1	11.8	3.306	407	上下	3.306 (1)
大	分	三	井	9.13	11.10	84.1	—	10.7	2.734	401	下上	2.734 (1)
大	分	永	興	9.12	11.10	87.4	—	14.3	2.907	397	下中	2.907 (1)
晚	稻	交	配	9.13	11.10	77.8	—	20.9	3.238	391	下中	3.238

( ) ハ試験年數

成績概要

前試験ト同様ナル傾向ヲ示ス、尙近畿九號、農林三號ハ有望ト認ム

(三) 農林省農事試験場奥羽試験地及熊本  
試験地育成品種比較試験

目的 農林省農事試験場奥羽試験地及熊本試験地ニ於テ育成セル新品種中本縣高  
冷地方ニ適當ト認メラル、モノヲ比較栽培シ該地方ニ好適スル優良品種ヲ選出  
セントス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トス

成績

品	種	名	取寄先	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂數	反米 當容 玄量	玄米 一升 重	品質	最近五 ヶ年平均 均收量
				月日	月日	釐	釐		石	石		石 (1)
標準	(銀坊主)		當場	8.29	10.8	—	—	—	3.408	411	中上	3.408
陸	羽	二〇	奧羽 試驗地	8.18	9.30	83.0	22.5	8.4	3.601	411	中中	3.135
陸	羽	一三	全	8.9	9.23	80.4	19.2	12.8	3.550	409	上下	3.075
奧	羽	一	全	8.18	9.30	82.7	21.1	8.5	3.593	405	中上	3.498
奧	羽	二	全	8.11	9.24	78.0	20.7	11.4	3.475	404	上下	3.395 (4)
奧	羽	五	全	8.13	9.26	84.5	22.8	13.2	3.470	411	中中	3.333
奧	羽	九	全	8.8	9.20	75.6	21.7	11.5	2.970	405	中上	3.020
奧	羽	一八	全	8.17	9.28	90.1	23.2	13.7	3.407	408	中中	3.489
奧	羽	二九	全	8.23	10.5	98.7	19.3	10.6	3.617	415	中上	3.424
奧	羽	三二	全	8.17	10.8	83.9	23.0	11.9	3.565	402	中中	3.411
奧	羽	五八	全	8.10	9.25	86.8	21.3	10.7	3.672	409	中中	3.387
奧	羽	六三	全	8.10	9.23	85.0	22.1	10.0	3.611	404	中中	3.458
奧	羽	六四	全	8.12	9.25	83.8	20.6	13.1	3.309	414	上中	3.264
西	海	三	熊本 試驗地	8.30	10.19	89.9	22.9	10.3	3.389	409	中下	3.390
西	海	四	全	8.30	10.19	89.0	22.4	8.2	3.495	406	中下	3.490
西	海	五	全	9.6	10.24	98.9	23.0	14.4	3.257	412	中下	3.449
西	海	六	全	9.7	10.27	103.5	24.9	9.9	3.072	404	下上	3.233

( ) ハ試験年數

成績概要

本年度ニ於テハ收量多キハ奥羽五八號、全二九號全六三號ニシテ米質良好ナル  
ハ奥羽六四號、陸羽一三二號ナリ、熊本試験地育成品種中ニハ收量米質見ルベ  
キモノナシ

(四) 酒造米品種比較試験

目的 酒造米トシテ優良ナル品種ヲ選出スルニアリ

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トス

成績

品 種 名	取寄先	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂數	反米 當玄量	玄 米 一升重	品質	最近五 年平均 均收量
		月日	月日							石
標 準 (辨慶)	當 場	8.30	10.18	97.3	22.5	10.1	3.561	408	中中	3.561 (1)
大分辨慶一號	大 分	8.30	10.18	97.5	22.4	10.0	3.449	405	中中	3.449 (1)
大分雄町五〇號	大 分	9. 6	10.28	112.8	22.6	11.2	3.279	405	中中	3.279 (1)
穀 良 都	大 分	8.21	9.30	97.5	23.4	10.0	3.529	410	中上	3.529 (1)
大和日出	不詳	8.23	10. 3	98.9	21.2	11.3	3.589	411	中上	3.589 (1)
都 一 號	岡 山	8.22	10. 1	95.2	21.9	9.2	3.586	411	中上	3.586 (1)
雄 町 二 號	岡 山	9. 6	10.28	96.3	21.9	8.6	3.300	406	中中	3.300 (1)
渡 船	兵 庫	9. 6	10.28	96.3	22.1	9.8	3.427	405	中中	3.427 (1)
新山田穗一號	兵 庫	8.31	10.20	108.6	23.4	9.6	3.358	411	中中	3.358 (1)
新山田穗二號	兵 庫	8.31	10.20	104.2	22.4	10.3	3.581	408	中中	3.581 (1)
奈 良 穗	兵 庫	8.30	10.15	109.8	25.1	10.2	3.549	408	中中	3.549 (1)
但 島 剛 力	兵 庫	8.21	10. 1	101.3	23.4	10.0	3.315	413	上下	3.315 (1)
大和日出一號	京 都	8.24	10. 3	102.7	25.0	8.2	3.419	406	中上	3.419 (1)
萬 作	福 岡	8.30	10.18	105.1	24.6	10.7	3.360	408	中中	3.360 (1)
白 玉	福 岡	8.30	10.18	106.0	21.9	10.5	3.522	410	中中	3.522 (1)
野 條 穗	兵 庫	8.25	10. 5	97.7	23.4	10.0	3.237	413	上下	3.237 (1)
明 德	岡 山	8.29	10.19	94.9	23.1	9.6	3.476	401	中中	3.476 (1)

備 考 ( ) ハ試験年數

成績

初年目ノ試験ナルモ本年度ノ成績ヲ通覽スルニ收量多キハ大分辨慶一號ニシテ米質佳良ナルハ野條穗、但島剛力ナリ以上二品種ハ收量稍少ナキモ稈強ク耐病性弱カラザルモノノ如ク雄町、新山田穗一號及同二號ハ熟期遅キニ過グ

(五) 耐肥性品種比較試験

目的 品種比較試験ニ於テ優良ト認メタル數品種ニ付キ其等ノ耐肥力ヲ檢知セン  
トス

設計 肥料五割増、十割増ノ二區制トシ一區面積5坪トス

成績

品 種 名	肥 料 量	出穂期	成熟期	稈長	穂數	倒伏	反米 當玄量	米質	病虫害	備考
		月日	月日							
奧羽六四號	5割増	8.12	9.23	91.4	13.5	多	3.598	上中	無	
全	10割増	8.13	9.25	87.4	10.6	多	3.333	上下	無	
穀 良 都	5割増	8.21	9.30	108.8	10.6	多	3.568	中上	無	
全	10割増	8.23	10. 1	103.6	8.4	多	3.765	中中	無	
銀 坊 主	5割増	8.29	10.10	95.4	13.1	少	3.540	中上	無	
全	10割増	8.29	10.10	97.4	13.1	中	3.596	中中	無	
辨 慶	5割増	8.30	10.18	102.5	12.4	少	3.384	中中	無	
全	10割増	8.31	10.20	101.1	11.4	少	3.587	中下	無	
早 生 旭	5割増	8.29	10.10	91.0	15.1	無	3.491	中上	無	
全	10割増	8.29	10.10	95.1	15.0	無	3.800	中中	無	
不 作 不 知	5割増	8.30	10.15	101.0	12.9	多	3.256	中上	無	
全	10割増	8.31	10.18	103.2	13.8	多	3.375	中中	無	
雄 町	5割増	9. 5	10.30	115.1	11.0	少	3.256	中中	無	
全	10割増	9. 7	11. 2	113.8	12.2	中	2.935	中下	無	

備考 各區肥料三要素量ヲ示セバ次ノ如シ

試 驗 區	窒 素	磷 酸	加 里
五 割 増	4.155	3.128	4.515
十 割 増	5.540	4.170	6.020

成績概要

試験年次短カク成績未ダ確然タラザルモ本年度成績ハ耐肥力大ナルハ早生旭ニシテ弱キハ奧羽六四號及雄町ナリ、各試験區ヲ通ジテ收量多キハ穀良都、銀坊主早生旭ナリ

(六) 銀坊主純系淘汰第三年目生産力檢定試験

目的 前年度選抜セル銀坊主<sup>16</sup>系統ニツキ生産力檢定ヲ行ヒ良質、多收ノ系統ヲ選定セントス

試計 一區制ニシテ一區面積5坪トス

成績

本年度成績ニ於テハ出穂期、成熟期ノ差殆ドナク收量ニ於テハ一〇號全一二號米質ニ於テハ六號、七號及八號良好ト認ム

(七) 人工交配ニヨル新品種育成試験

目的 人工交配ニヨリ本縣高冷地方ニ適スル新品種ヲ育成セントス

1 雜種第七代系統育成試験

系 統 名	着手年度	選 擇 系 統 數					備 考
		昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	
北 國 × 旭	昭和二年	34	37	10	5	6	
旭 × 北 國	全	72	72	30	14	14	
旭 × 雄 町	全	52	52	37	21	27	
雄 町 × 北 國	全	8	11	3	0	0	

2 雜種第八代系統育成試験

系 統 名	着手年度	選 擇 系 統 數					備 考
		昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	
神 力 × 辨 慶	大正五年	14	16	10	4	—	
穀良都 × 無芝愛國	全	12	18	20	6	—	

3 雜種第七代未固定系統生産力檢定試験

設計 供試系統ハ次ノ如シ

旭 × 北 國 5系 }  
 北 國 × 旭 3系 } 19系  
 旭 × 雄 町 11系 }

一區制ニシテ一區面積5坪トス

成績

熟期一般ニ遅キヲ以テ多收、良質ノ系統ナシ

4 雜種第八代未固定系統生産力檢定試験

設計 供試系統ハ次ノ如シ

神 力 × 辨 慶 2系 }  
 穀良都 × 無芒愛國 1系 } 3系

一區制ニシテ一區面積5坪トス

成績

多收、良質ノ系統ナシ

第 三 栽培注ニ關スル試験

(一) 播種量對苗代日數試験

目的 播種量及苗代日數ノ相違ガ成育及收量ニ及ボス影響ヲ知ラムトス

設計 播種期 四月十日 四月二十日 五月一日

播種量 二合 四合 六合

挿秧期 五月二十五日 三月五日 六月十五日

以上ノ組合セニヨル24區ヲ設ケ一區面積10坪トシ品種ハ銀坊主ヲ供用セリ

成績

判然タラザルヲ以テ尙次年度ノ成績ニ俟タントス

(二) 未分蘖苗分蘖苗比較試験

目的 平坦地方ニ比シ稻ノ分蘖充分ナラザル山間地ニ於テハ苗ノ育成ハ稻作上特

ニ重要ナル問題ニシテ本試験ハ前試験ト相關聯セシメ分蘖セザル苗ト分蘖苗ト

ノ育成收量ヲ比較試験セントス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ銀坊主ヲ供用ス

區 名	出穂期	成熟期	稈 長	穂 數	反 當 玄米容量	最近二ケ年 平均收量
標 準 (未分蘖苗4本)	月日 8.30	月日 10.9	釧 本 92.7	本 13.7	石 3.716	石 3.802
未 分 蘖 苗 3 本	8.30	10.9	96.0	14.6	3.627	3.709
全 8 本	8.29	10.8	93.3	16.5	3.425	3.645
全 12本	8.29	10.8	95.7	19.5	3.654	3.884
一 本 分 蘖 苗 2 本	8.29	10.8	95.5	10.4	3.499	3.712
全 4 本	8.28	10.7	93.1	13.8	3.824	3.956
全 6 本	8.28	10.7	93.0	16.7	3.910	4.037
二 本 分 蘖 苗 1 本	8.30	10.9	95.4	9.1	3.283	3.549
全 3 本	8.28	10.7	94.7	15.7	3.771	4.040
全 4 本	8.28	10.7	93.2	14.8	3.963	4.235

成績

分蘖苗區收量多ク一株苗數ノ點ヨリ考察スルニ未分蘖苗分蘖苗何レヲ問ハズ一

株苗數ハ8—12本ヲ以テ成績良好ノ傾向アリ尙愛知中稻ヲ供用セルモノノ成績

モ略同一ノ傾向ヲ示セリ

(三) 灌 溉 法 試 験

目的 高冷地方ニ於ケル灌溉水ハ一般ニ低冷ニシテコレ稻ノ成育不良ナル一原因

ナルベシ、本試験ハ各種ノ灌溉法ヲ比較研究シ當地方ニ最適ノ灌溉法ヲ知ラン

トス

設計 一區制ニシテ一區面積20坪トシ銀坊主ヲ供用ス

成績

區名	出穂期	成熟期	稈長	穂數	玄米 一升重	反當玄米容量		品質	
						昭和九年	最近二ヶ 年平均		
掛流區	8.31	10.11	77.5	15.5	408	3.316	3.615	中中	深水ハ 水深2寸 淺水ハ 水深5分 トス
夜間掛流區	8.29	10.10	90.2	12.5	410	3.342	3.593	中上	
晝間排水區	8.29	10.9	91.4	12.0	410	3.551	3.720	中上	
晝間排水區	8.29	10.9	89.4	13.1	412	3.583	3.819	中上	
溜置區(深水)	8.30	10.9	90.2	10.8	411	3.468	3.687	中上	

成績

成績良好ナルハ淺水溜置區ニシテ高冷地帯ニ最モ多キ掛流區ハ成績最モ不良ナリ尙掛流區ハ水溫最モ低冷ニシテ水口ハ青立トナリ稔實良好ナラズシテ米質最モ劣ル

(四) 落水時期試験

目的 落水時期ノ早晚ガ生育收量及米質ニ及ボス影響ヲ知ラントス

設計 一區制ニシテ10坪トシ銀坊主ヲ供用ス

成績

區名	出穂期	成熟期	稈長	穂數	玄米 一升重	反當玄米容量		品質	落水期
						昭和九年	最近二ヶ 年平均		
分蘖終止期	8.29	10.7	80.0	7.9	411	2.462	2.749	中中	7.28
穂孕期	8.29	10.8	82.0	7.9	410	2.900	3.229	中上	8.18
穂揃期	8.30	10.8	88.3	9.8	409	3.156	3.522	中上	9.2
乳熟期	8.30	10.9	89.7	10.3	412	2.922	3.413	中上	9.11
成熟前10日	8.30	10.9	86.5	11.4	408	2.831	3.287	中上	10.1
常時濕潤	8.30	10.10	87.4	10.9	406	2.776	3.151	中中	—

成績概要

成績最モ良キハ穂揃期落水ニシテコレヨリ早期又ハ後期落水ハ收量漸減ノ傾向アリ2ヶ年平均ニ於テモ同一ノ傾向ヲ示セリ

(五) 刈取時期試験

目的 高冷地方ノ水稻刈取時期ヲ見ルニ一般ニ極メテ晩ク降霜ヲ見、枯熟ニ至ラザレバ刈取ラザル慣習アリ爲メニ收量品質ニ及ボス影響大ナルガ如シ本試験ハ刈取時期ノ早晚ガ收量及ビ品質ニ如何ナル影響アルヤヲ檢知セントス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ銀坊主ヲ供用セリ  
成績

刈取時期	反當 玄米容量	玄米 一升重	米質調査				品質
			完全米	茶米	青米	死米	
九・二〇	2.663	383	23.62	0.29	43.17	32.92	中下
九・二五	2.993	400	40.00	2.63	29.37	18.00	中下
九・三〇	3.405	407	47.79	10.25	29.67	12.53	中中
一〇・五	3.612	407	54.02	11.21	21.85	12.92	中上
一〇・一〇	3.686	413	54.79	19.07	12.29	12.88	中上
一〇・一五	3.697	410	56.81	23.42	8.33	12.77	中上
一〇・二〇	3.695	410	59.96	26.46	3.13	10.73	中中
一〇・二五	3.666	410	64.38	29.57	1.84	5.63	中中
一〇・三〇	3.697	410	59.65	28.94	4.44	11.08	中中
一一・五	3.693	405	57.71	31.95	—	10.34	中下
一一・一五	3.687	401	57.24	34.25	—	10.11	中下
一一・二〇	3.558	401	56.18	35.99	—	7.97	中下
一一・三〇	3.511	401	53.82	37.78	—	6.66	中下

(六) 施肥量對株數並ニ一株苗數試験

目的 施肥量、一坪株數、挿秧苗數ヲ異ニスレバ生育收量ニ如何ナル差異アルヤヲ知ラムトス

設計 施肥量、半肥、普通肥、倍肥

株數 60株、80株、102株

苗數 4本、6本、8本、10本

以上ヲ組合セ36區トナシ一區制ニシテ一區面積5坪トシ銀坊主ヲ供用セリ  
各區肥料三要素量ヲ示セバ次ノ如シ

試験區	窒素	磷酸	加里	備考
肥料半量區	1.385	1.043	1.505	
肥料普通區	2.770	2.085	3.010	
肥料倍量區	5.540	4.170	6.020	

成績

區名	出穂期	成熟期	稈長	穂數	玄米 一升重	反當玄米容量		米質	備考
						昭和九年	最近二ヶ 年平均		
半肥 株本 60×4	8.29	10.8	75.2	12.6	413	2.843	3.182	中上	
全×6	8.28	10.8	84.2	15.7	408	3.228	3.071	中上	
全×8	8.27	10.8	85.5	15.3	411	3.297	3.149	中上	
全×10	8.27	10.8	84.2	16.8	409	3.460	3.618	中上	
80×4	8.27	10.7	85.0	13.0	410	3.576	3.391	中上	
全×6	8.26	10.7	83.5	12.5	410	3.468	3.370	中上	
全×8	8.26	10.7	87.0	14.7	415	3.340	3.156	中上	
全×10	8.26	10.7	85.7	14.8	409	3.413	3.384	中上	
102×4	8.26	10.7	85.2	10.3	409	3.606	3.414	中上	
全×6	8.26	10.7	87.0	12.7	409	3.455	3.502	中上	
全×8	8.25	10.6	90.0	13.7	410	3.854	3.694	中上	
全倍肥 株本 60×4	8.29	10.10	88.9	14.4	412	3.811	4.041	中中	
全×6	8.29	10.10	96.3	18.7	411	3.947	4.110	中中	
全×8	8.28	10.10	97.2	21.9	411	3.611	3.716	中中	
全×10	8.28	10.10	97.2	21.3	406	3.828	3.946	中中	
80×4	8.28	10.10	98.2	14.7	411	3.645	3.781	中中	
全×6	8.28	10.10	98.8	17.3	411	3.786	3.791	中中	
全×8	8.28	10.10	95.4	19.7	414	3.399	3.749	中中	
全×10	8.28	10.10	94.3	18.4	408	3.471	3.540	中中	
102×4	8.28	10.9	95.3	13.9	408	3.606	3.495	中中	
全×6	8.28	10.9	101.4	15.2	404	3.617	3.861	中中	
全×8	8.28	10.9	91.7	14.4	405	3.757	3.799	中中	
全×10	8.28	10.9	103.2	18.2	408	3.559	3.482	中中	

成績

本年度成績ハ肥料半量區ニ於テハ102株8本植區及ビ10本植區良ク肥料倍量區ニ於テハ60株4本植區及ビ6本植區良シ肥料普通量區ニ於テハ成績顯著ナラザルヲ以テ次年度ノ研究ニ俟タントス

(七) 熟期促進ニ關スル試験

目的 高冷地方ニ於テハ水稻栽培技術上成熟期ヲ促進セシムルコトハ極メテ重要ナル問題ナリ、本試験ハ同一品種ニ於テモ栽培條件ヲ異ニスレバ成熟期ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラントス

設計及成績 一區制ニシテ一區面積5坪トシ銀坊主ヲ使用セリ

試験 番 號	肥料	落水期	播種期	插秧期	坪當 株數	一株 苗數	出穂期	成熟期	反 當 米 容 量	備考
一	促進肥料	分 藥 終 止 期	4.10	5.25	100	10	8.23	10.4	3.666	
二	全	全	4.25	5.25	100	10	8.23	10.5	3.444	
三	全	全	4.10	5.25	75	6	8.24	10.5	3.689	
四	全	全	4.25	5.25	75	6	8.26	10.6	3.973	
五	全	普通落水	4.10	5.25	100	10	8.21	10.3	4.074	
六	全	全	4.25	5.25	100	10	8.24	10.4	3.861	
七	全	全	4.10	5.25	75	6	8.25	10.5	4.044	
八	全	全	4.25	5.25	75	6	8.26	10.5	4.197	
九	普通肥料	分 藥 終 止 期	4.10	6.10	100	10	8.25	10.4	3.526	
一〇	全	全	4.25	6.10	100	10	8.26	10.5	3.983	
一一	全	全	4.10	6.10	75	6	8.25	10.5	3.910	
一二	全	全	4.25	6.10	75	6	8.26	10.6	3.932	
一三	全	普通落水	4.10	6.10	100	10	8.24	10.4	3.593	
一四	全	全	4.25	6.10	100	10	8.25	10.5	3.620	
一五	全	全	4.10	6.10	75	6	8.26	10.6	3.837	
一六	全	全	5.25	6.10	75	6	8.28	10.7	4.020	

備考 (1) 促進肥料 (段當)

肥料名	施肥量	窒 素	磷 酸	加 里	備 考
堆 肥	150.000	0.750	0.390	0.945	普通肥料ハ當場標
硫酸アンモニア	6.000	1.230	—	—	準肥料ヲ用フ
過 磷 酸 石 灰	15.000	—	2.250	—	
硫 酸 加 里	3.000	—	—	1.440	
計		1.980	2.640	2.385	

- (2) 分蘖終止期 七月二十八日
- (3) 普通落水 九月二日

成績

本年度成績ニヨレバ促進肥料ヲ施シ早期ニ播種及ビ挿秧ヲ行ヒ密植トナシ早期ニ落水シタルモノハ然ラザルモノヨリ出穂期ニ於テ7日成熟期ニ於テ4日熟期ヲ促進ス

第四 肥料ニ關スル試験

(一) 四要素試験

目的 水稻ノ肥料トシテ三要素ヲ配合スルモノト或ル要素ヲ缺グモノ及ビ石灰ノ加用ガ其ノ成育及收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラムトス

設計 二區制ニシテ一區面積10坪トシ窒素、磷酸、加里各々段當2貫宛施用シ石灰ハ肥料用石灰20貫施用ス  
品種ハ銀坊主ヲ供用ス

成績

區名	稈長	穗數	出穂期	葉重	籾容量	反當玄米		備考
						昭和九年	最近二ヶ年平均	
無肥料	83.6	10.0	8.28	334.0	4.249	2.623	2.807	
無窒素	84.7	10.9	8.27	353.0	5.002	3.080	2.916	
無磷酸	86.5	11.6	9.1	423.0	4.713	2.859	2.899	
無加里	91.4	13.4	8.29	504.0	6.271	3.761	3.675	
完全	92.0	13.0	8.29	522.0	6.178	3.683	3.619	
完全石灰加用	90.4	13.9	8.29	565.0	6.342	3.802	3.732	

成績

完全石灰加用區收量最モ多ク無加里、完全區コレニ亞ギ無肥料區最モ劣ル尙磷酸ノ肥効極メテ大ニシテ無磷酸區ハ熟期遅ク且ツ收量ハ完全區ヨリ極メテ少ナク無肥料區ニ稍優ル程度ナリ

(二) 堆肥ヲ基礎トシタル速効性肥料ノ適量試験

目的 堆肥ヲ段當300貫施用シタル場合コレト供用スベキ速効性肥料(硫安)ノ適量ヲ知ラムトス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ銀坊主ヲ供用ス

成績

區名	稈長	穗數	出穂期	葉重	籾容量	玄米	倒伏	備考
無硫安	77.6	8.7	8.29	255.0	3.750	2.297	無	
硫安二貫五百匁	85.3	10.1	8.29	324.0	4.630	2.859	無	
硫安五貫	85.5	10.4	8.29	401.0	5.192	3.160	無	
全七貫五百匁	89.6	12.9	8.30	408.0	4.977	3.100	少	
全十貫匁	90.6	14.6	8.31	477.0	5.527	3.310	少	
全十五貫匁	93.5	15.2	8.31	518.0	5.537	3.398	中	

成績

本年度成績ニヨレバ速効性肥料(硫安)増施スルニ從ヒ收量増加スルモ米質不良トナリ倒伏ノ程度大トナル傾向アリ

(三) 過磷酸施用法試験

目的 如何ナル過磷酸石灰ノ施用法ガ有利ナルヤヲ知ラムトス

設計 一區制ニシテ一區面積2坪トシ銀坊主ヲ供用ス

成績

區名	稈長	穗數	出穂期	葉重	籾容量	玄米		備考
						昭和九年	最近二ヶ年平均	
根付	92.3	12.2	8.29	455.0	5.581	3.462	3.266	
撒布	92.7	13.2	8.29	387.0	5.940	3.661	3.351	
根付追肥	84.0	9.6	8.29	440.0	5.171	3.221	3.036	
撒布追肥	86.8	12.1	8.29	402.0	5.441	3.355	3.238	
無肥料	80.4	7.8	8.29	276.0	3.664	2.243	1.787	

成績

本年度成績ニヨレバ撒布ハ根付ヨリ撒布追肥ハ根付追肥ヨリ收量多シ、高冷地方ニ於テ行ハルル過磷酸石灰ノ根付法ハ當場圃場ニ於テハ其ノ効ナキガ如シ



麥 類

耕 種 概 要

- 1 整地 水田畦幅4、5尺5寸幅2條ノ縦播法(條間1、5尺)
- 2 選種 唐箕選後比重1、22—1、23ノ鹽水ニテ選種ス
- 3 黑穗豫防 冷水ニ7時間浸漬シ後120°Fノ溫湯ニテ溫メ最後ニ130°Fノ溫湯ニ5分間浸シツ、攪拌シ直ニ冷水ニテ冷却シ取上ゲテ乾燥セシム
- 4 播種期 十一月上旬
- 5 播種量 六升
- 6 肥料

肥料名	總量	基肥	追肥		三要素			備考
			第一回	第二回	窒素	磷酸	加里	
堆肥	300.000	300.000	—	—	1.500	0.780	1.890	
硫酸アンモニア	6.500	1.500	2.500	2.500	1.300	—	—	
過磷酸石灰	7.000	7.000	—	—	—	1.050	—	
硫酸加里	1.000	1.000	—	—	—	—	0.480	
計					2.800	1.830	2.370	

備考 基肥ハ全部播種ノ際ニ施シ十二月中旬、二月下旬ノ2回ニ行フ

7 管理

中耕	第一回	十二月中旬
	第二回	二月中下旬
	第三回	三月中下旬(土寄)

8 收穫調製

成熟期ニ至レバ直チニ刈取り稈麥ハ直ニ拔落シ3日間陽乾シ脱穀シテ節選唐箕選後調査用トス、小麥ハ刈取後3日間陽乾シ其ノ後脱穀シ節選、唐箕選ヲ行ヒ調査用トス

第 一 品種改良ニ關スル試験

小麥

(一) 第一次小麥品種比較試験

目的 高冷地方ニ最適セル優良品種ノ豫備選抜ヲナサムトス  
設計 二區制ニシテ一區面積5坪トシ標準栽培ヲ行フ

供用材料、農林五號外<sup>10</sup>品種

成績

收量多キモノハ西海四五號、全四八號、埼玉小麥二七號及大分伊賀筑後五〇號ニシテ品質佳良ナルハ農林五號、西海四五號、全四八號、全五一號、全五三號及全五四號ナリ

(二) 第二次小麥品種比較試験

目的 既往ニ於ケル試験ニ於テ優良ト認メタルモノニ付キ其ノ優劣ヲ調査シ第三次試験ニ供用スベキ品種ヲ選出セントス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ標準栽培ヲ行フ

播種期 十月二十五日、十一月五日

供用材料 早坊主外<sup>11</sup>品種

成績

十一月五日播ノ成績可ナルモノ早坊主、大分小麥、大分伊賀筑後五〇號、早生入梅、尾島早生、スネキリー五號 農林一號、赤達磨ニシテ十月二十五日播ノ成績可ナルハ埼玉小麥二七號、農林二號ナリ

稈麥

(一) 稈麥品種比較試験

目的 高冷地方ニ最適ノ稈麥優良品種ヲ選抜セムトス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ標準栽培ヲ行フ

供用材料 大分稈外<sup>14</sup>品種

成績

收量多キモノ大分稈、コビン、岡山稈、赤神力及香川一號ニシテ品質良好ナルハ大分稈、香川一號、國富×コビン、國富×紅珍子ナリ

第 二 栽培法ニ關スル試験

(一) 小麥播種時期對播種量試験

目的 高冷地帯ニ於ケル小麥ノ播種時期及播種量ノ適度ヲ知ラムトス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トス

播種時期 十月二十五日、十一月五日

播種量 四升五合、六升、七升五合、九升

供用材料 大分伊賀筑後五〇號

成績

十月二十五日播ハ播種量ノ如何ニ係ラズ成績良好ナラズ十一月五日播ハ6升—9升ノ播種量ヲ以テ良トス成績最モ可ナルハ十一月十五日播4升5合—6升ナリ

(二) 小麥早熟栽培

目的 高冷地帯ニ於テハ氣候風土ノ關係ニヨリ小麥ノ熟期遅延シ且ツ水稻ノ挿秧早期ニ行ハル、ヲ以テ小麥品種ハ早熟ナルヲ可トシ可成の熟期ヲ促進セシムベキ耕種法ヲ採ラザルベカラズ、本試験ハ小麥ノ熟期ヲ促進セシムベキ要素ヲ種々綜合シ如何ナル耕種法ガ最モ熟期ヲ促進スベキカラ知ラムトス

設計 一區制ニシテ一區面積5坪トス

播種期 十月二十五日、十一月五日

播種量 六升、九升

追肥 早施、標準

供用材料 大分伊賀筑後五〇號

成績

熟期ヲ促進セシムル要素中最モ有効ナルハ播種時期ニシテ4—5日促進ス、尙播種量、施肥時期ハ前者ニ比シ顯著ナル傾向ヲ見ズ

菜 種

耕種概要

苗床

- 1 整地 八月中旬ニ畑地ヲ除草シ石灰ヲ坪當50—60匁撒布シ淺ク耕起シ土塊ヲ粉碎シ畦幅4尺高サ3寸ノ短棚畦ヲ作製シ所要ノ肥料ヲ施シ播種床トス苗床所要面積ハ本圃一段歩ニ對シ3坪ヲ用意ス
- 2 播種法 八月下旬—九月上旬苗床一坪宛1匁ノ種子ヲ播種ス
- 3 肥料 坪當一貫匁ノ人糞尿ヲ3倍ノ水ニテ稀釋シ播種前撒布敷肥トス
- 4 管理 發芽後3日頃ヨリ間引ヲ行ヒ葉片ノ重ナラザル程度ニ保ツ

假植床

- 1 整地 苗床ニ於ケル苗ノ成育本葉4—5枚位ノ時假植ヲ行フモノニシテ畦幅4尺ノ短棚型ニ整地シ所定ノ肥料ヲ施シテ假植床トス、本圃一段歩ニ要スル假植床面積ハ1畝トス
- 2 假植法 假植ノ距離ハ5寸×5寸トス
- 3 假植床肥料

肥料名	元肥	追肥		備考
		第一回	第二回	
堆肥	15.000	—	—	3倍ノ水ニ稀釋シテ施用ス
人糞尿	5.000	5.000	5.000	
木灰	5.000	—	—	

本圃

- 1 整地 稻刈取後直チニ耕起シ土塊ヲ粉碎シ4、5尺ノ畦幅ニ整地ス
- 2 肥料

肥料名	總量	基肥	追肥		三要素			備考
			第一回	第二回	窒素	磷酸	加里	
堆肥	300.000	300.000	—	—	1.500	0.780	1.890	
大豆粕	6.000	6.000	—	—	0.305	0.042	0.120	
下肥	140.000	40.000	50.000	50.000	0.798	0.140	0.378	
過磷酸石灰	6.000	6.000	—	—	—	0.900	—	
硫酸加里	1.500	1.500	—	—	—	—	0.720	
計					2.603	1.862	3.108	

- 3 定植時期 十一月五日
- 4 定植距離 畦幅4、5尺株間1、5尺ノ千鳥植
- 5 管理 本場ニ準ズ

第一 品種改良ニ關スル試験

(一) 品種比較試験

目的 高冷地方最適ノ菜種優良品種ヲ選出セントス  
 設計 一區制ニシテ一區面積10坪トシ標準栽培ヲ行フ  
 供用材料 不二、外5品種

成績

收量多キハ中生朝鮮、大分中生一號及伊勢黒ニシテ全黃種ハ收量少ク品質不良ノタメ大朝鮮種ハ熟期遅キニ過グルヲ以テ昭和八年度ニ廢棄シタリ

第二 栽培法ニ關スル試験

(一) 定植期對株間試験

目的 高冷地方最適ノ定植期及ビ株間ヲ檢知セントス  
 設計 一區制ニシテ一區面積5坪トシ品種ハ不二種ヲ供用セリ  
 播種期 八月二十五日 九月一日  
 定植期 十月二十五日 十一月五日 十一月二十五日  
 株間 一尺 一尺五寸 一尺八寸  
 以上ヲ組合セ8區トナシ試験セリ

## 成績

概シテ早播早植ノモノ優良ナル成績ヲ示セリ、遅播遅植ノモノト雖モ其ノ密度ノ増加ヲ以テスレバ收量ノ増加ヲ計リ得ルヲ認ム

## 七島蘭試驗地

## 七島蘭普通栽培

## 耕種概要

## 苗ノ育成

- 1 整地 苗ノ育成ハ畑苗仕立法(伏苗仕立法)ニヨリ苗床ハ五月下旬耕起シ數日後土塊ヲ碎キ床面ヲ均ラシ整地ヲナス、苗床ハ本田一反歩ニ對シ30坪トス
- 2 苗ノ準備 前年ヨリ育成セルモノヲ鋤ニテ掘り取り土ヲ叩キ落シタル後古キ地下莖ヲ除キ4—5本ヲ以テ一株トシ株分ケヲ行フ、株分ケヲ行ヒタルモノハ適當ノ太サニ束ネ地下莖根部ヲ一晝夜以上水ニ浸シ置キ、植付ニ際シテハ1、2尺ノ長サニ地上莖ノ先端ヲ剪除ス
- 3 苗ノ植付、苗ノ植付ハ五月下旬乃至六月上旬頃迄ノ中、降雨ノ豫想セラル時ニ行ヒ、床地ノ一方ニ深サ2—3寸ノ作條ヲ切り施肥後株間4—5寸トシ一株宛苗ヲ配置ス、而テ6寸位ヲ隔テ次ノ作條ヲ切りツ、配置セル苗ノ根部ニ2寸内外ノ深サニ覆土シ輕ク鎮壓ス、覆土上ニハ雜草ノ繁茂及夏期ニ於ケル早害ヲ豫防スル目的ノ下ニ一畝歩當リ20—30貫麥稈其他ノ材料ヲ敷キ、前同様施肥後苗ノ配置ヲナシ次ノ作條ヲ切ルト同時ニ覆土ヲナス、以下順次同様ノ作業ヲ繰返シ苗床植付ヲ終ル
- 4 一畝歩當施肥量ヲ示セバ

肥料名	總用量	基肥	追肥	三要素		
				窒素	磷酸	加里
堆肥	30.000	30.000	—	0.150	0.780	0.189
硫安	1.500	0.300	1.200	0.300	—	—
大豆粕	1.500	1.500	—	0.104	0.010	0.030
過石(15%)	1.200	1.200	—	—	0.180	—
硫加	0.500	0.500	—	—	—	0.240
計				0.544	0.268	0.459

追肥、硫安ハ七月中旬、翌年苗床燒直後(四月上旬初)及五月上旬、ノ三回ニ各400匁宛施用ス

- 5 除草、苗床植付後翌年四月下旬迄ノ中ニ排水溝ヲ設ケ尙粉殻其他ノ材料ヲ2寸位ノ厚サニ撒布シ、冬期嚴寒ニ際シ地下莖ノ腐蝕スルヲ防グ
- 6 苗床焼、降霜止ミタルヲ見計ヒ三月下旬乃至四月上旬枯死セル地上莖ヲ地際ヨリ刈取ルト共ニ除草ヲナシ、藁其他適當ノ燃焼材料ヲ厚薄ナキ様床面ニ撒布シ苗床焼ヲ行フ、苗床焼ニハ病菌、雜草種子等ノ焼却ヲ完全ナラシメザルベカラズ、故ニ靜穩ノ日ヲ選ビ風下ヨリ點火ス

本田

- 1 整地、踏躑ヲ以テ天地返ヲ行ヒ7寸位ノ深サニ耕起シ塊ヲ碎キ尙鋤返シヲナシ更ニ土塊ヲ細碎ス而テ移植前灌水、畦塗ヲナシ荒代搔、中鋤、植代搔ヲナシ植代搔後田面ヲ平均ニス
- 2 肥料、一反歩當施肥量ヲ示セバ

肥料名	總用量	基肥	追肥	三要素		
				窒素	磷酸	加里
堆肥	300.000	300.000	—	1.500	0.780	1.890
硫酸	9.000	4.500	4.500	1.800	—	—
大豆粕	14.000	—	14.000	0.840	0.098	0.280
蠶蛹粕	21.000	9.000	12.000	2.205	0.320	—
菜種粕	15.000	15.000	—	0.758	0.300	0.195
過石(15%)	10.000	10.000	—	—	1.500	—
硫加(48%)	4.000	4.000	—	—	—	1.920
計				7.103	2.998	4.285

追肥 七月中旬生育ヲ見計ヒ施用ス

- 3 整苗 前年ヨリ生育セル苗ヲ鋤ニテ掘り取り土ヲ落シタル後古キ地下莖ヲ除キ地上莖5本、乃至7本位ヲ一株トシ株分ケヲ行ヒ束ネテ地下莖根部ヲ水ニ浸ス
- 4 挿秧、挿秧ハ六月上旬ニ行ヒ株間ハ縱横6寸坪100株植トシ植付ヲナス、苗ハ地上莖1、2尺ノ長サニ剪除シ倒伏セザル範圍内ニ淺植トス
- 5 刈敷、雜草ノ繁茂ヲ防ギ田土ノ乾濕ノ程度ヲ調節スル爲メ、挿秧後麥稈ヲ長サ5寸内外ニ切り反當300貫撒布ス
- 6 灌排水、挿秧後2—3週間ハ充分灌水シ其ノ後ハ田土ノ固結セザル程度ニ時々補水シ收穫期10日前全ク排水ス
- 7 管理 七月下旬乃至八月上旬迄ニ2—3回除草ヲ行ヒ其ノ後ハ行ハザル様

ニス、蚜虫ハ硫酸ニコチン千倍液ヲ撒布驅除シ、尙鼈甲病發生ノ徵候アレバ五斗式過石灰ボルドー液、(水5斗ニ對シ生石灰240匁硫酸銅120匁カゼイン石灰15匁)ヲ撒布シ生育進ムニツレ漸次稀釋セル過石灰ボルドー液ヲ撒布ス(七斗式過石灰ボルドー液)

- 8 收穫八月下旬乃至九月上旬(挿秧後90日内外)ヲ經過セル頃刈取り3、5尺ノ高サニ撰藪シ尙ホ病虫被害莖ヲ除去ス
- 9 分割、乾燥、收穫乾燥セル上藪ハ之ヲ束ネ元廻シ(最下部ノ切取口ヲ新ニス)ヲナシ長サ4、7尺ニ剪除ス、而シテ之ヲ分割シ翌朝乾燥場ニ厚簿ナキ様擴ゲ、午後四時頃迄陽乾シ午後五時頃迄ニ集メ下部ヲ包ム保護葉(俗稱袴)ヲ叩キ落シ一握宛結束ス、結束ハ下部ヨリ2、2尺、4、2尺ノニケ所トシ、結束ヲナシタルモノハ之ヲ翌日扇形ニ擴ゲ更ニ陽乾ス

## 七島藪早熟栽培

### 耕種概要

#### 苗ノ育成

- 1 整地 苗ノ育成ハ畑又ハ乾田仕立法ニ依リ五月上旬耕起シ數日後土地ヲ碎キ床面ヲ均ラシ整地ヲナス、本田一反歩ニ對シ60坪内外トス
- 2 苗ノ準備 前年ヨリ育成セルモノヲ鋤ニテ掘り取り土ヲ落シタル後ニ年越古地下莖ノミ除去シ、鋤ニテ一株上莖1寸以上ヲ有スルモノ3—4本ノ大サニ株分ケヲ行ヒ、株分ヲ行ヒタルモノハ適當ノ大サニ束ネ一晝夜地下莖根部ヲ水ニ浸シ置キ植付ヲ行フ
- 3 苗ノ植付 苗ノ植付ハ五月上旬床地一面ニ肥料ヲ撒布シ作條ヲ切り一株宛苗ヲ配置ス、一坪株數ハ200株内外正方形植トシ植付ニ際シテハ地上莖ヲ垂直ニ淺ク挿秧ス、覆土ヒニハ雜草ノ繁茂及夏季ノ旱害ヲ防グ爲メ紫雲英或ハ雜草ノ如キ速ニ腐敗スルモノヲ短ク切斷シ撒布ス
- 4 肥料 一畝當施肥量ヲ示セバ

肥料名	總量	基肥	追肥	三要素		
				窒素	磷酸	加里
堆肥	30.000	30.000	—	0.150	0.078	0.189
硫酸	2.150	0.500	1.650	0.430	—	—

大豆粕	2.000	2.000	—	0.140	0.026	0.030
過石 (15%)	1.800	1.800	—	—	0.270	—
硫加 (48%)	0.500	0.500	—	—	—	0.240
計				0.720	0.374	0.459

追肥 硫安ハ七月中旬及翌年苗床焼後(三月中旬)ニ追肥ノ5割ヲ各々施用ス

- 5 除草、苗床植付後翌年本田植付迄ニ2-3回行フ
- 6 防寒、冬期ハ床地ノ乾燥ニ努メ床面ニ糞ヲ二寸以内撒布シ、尙排水溝ヲ設ケ排水ヲ可良ナラシメ地下莖根部ノ腐蝕ヲ防グ
- 7 苗床焼、苗床ハ三月中旬枯死セル地上莖ヲ地際ヨリ刈取り、除草ヲ行ヒ床面ノ乾燥ヲ俟ツテ糞其他適當ノ燃燒材料ヲ厚薄ナキ様撒布シ、苗床焼ヲ行フ苗床焼ハ病菌、雜草種子及ビ害虫ヲ焼却シ苗ノ發芽促進ヲ計ルヲ目的トスルヲ以テ、靜穩ノ日ヲ選ビ風下ヨリ點火シ燒却ス

本田

- 1 整地、踏躑ヲ以テ天地返ヲ行ヒ成可ク深耕ヲナシ土塊ヲ碎キ尙鋤返シヲナシ更ニ土塊ヲ細碎シ移植ス、四日前荒代搔、中鋤、植代搔後土面ヲ均ラシ土ノ沈定ヲ圖ル
- 2 肥料、本田一反歩當施肥量ヲ示セバ

肥料名	總用量	基肥	三要素		
			窒素	磷酸	加里
堆肥	300.000	200.000	1.500	0.780	1.890
紫雲英	200.000	200.000	0.960	0.180	0.740
硫安	20.000	20.000	4.000	—	—
大豆粕	8.000	8.000	0.559	0.119	0.173
鱒粕	10.000	10.000	1.043	0.451	—
過石 (15%)	20.000	20.000	—	3.000	—
硫加 (48%)	6.000	6.000	—	—	2.880
計			8.062	4.530	5.683

- 3 整苗、前年ヨリ育成セル苗ヲ鋤ニテ堀取り土ヲ落シタル後二年越地下莖ノミヲ除去シ、缺ヲ以テ一株地上莖1寸以上ヲ有スルモノヲ3-4本ノ大サニ株分ケヲ行ヒ結束シ、地下莖根部ヲ一晝夜水ニ浸シ植付ヲ行フ
- 4 挿秧、五月上旬、苗ハ一坪300株ノ正方形植トシ倒伏セザル程度ニ淺植トス

- 5 灌排水、挿秧後一週間ハ稍々深水トシ、以後一ヶ月間ハ乾燥セザル程度ニ補水シ、以後二十五日間稍深水トシ、以後ハ落水乾燥ヲナシ七島蘭莖ノ充實ヲ計ル
- 6 管理、害虫發生セル場合ハ硫酸ニコチン八百倍乃至千倍稀釋液ヲ撒布シ、尙鼈甲病ハ發生ノ徵候アレバ五斗式乃至七斗式過石灰ボルドー液ヲ撒布シ生育進ムニ從ヒ濃度ヲ稀簿ニス
- 7 收穫、挿秧後75日(蘭莖ノ根元ヨリ3.5尺迄稍黄色ヲ帶ビタル頃)ヲ經バ收穫シ、3.5尺ノ長サニ撰蘭ヲナシ尙ホ病虫害莖ヲ除去ス。
- 8 分割乾燥 收穫撰蘭セル上蘭ハ之ヲ束ネ元廻(最下部ノ切り口ヲ新ニス)ヲナシ上部ハ4.7尺ニ剪除シテ分割ス、翌朝乾燥場ニ運ビ厚薄ナキ様擴ゲ、午後4時頃迄陽乾シ午後5時頃迄ニ集メ一握(250匁位)宛結束ス、結束ハ下部ヨリ3.2尺、4.4尺ノ二ヶ所トシ補護葉ヲ叩キ落シ作業室内ニ貯藏ス、翌日乾燥場ニ下敷ヲナシ扇形ニ擴ゲ下部1尺位ヲ出シ順次重ネ陽乾ス。

苗ノ育成ニ關スル試驗

第一 品種改良ニ關スル試驗

(一) 品種比較試驗

目的 從來本縣ニ於テ栽培セラレツ、アル七島蘭中特性ノ異ルモノ多シ、依テ縣内ハ勿論他府縣ヨリ優良品種ヲ蒐集シ翌年本田ニ於テ比較研究シ最優良品種ヲ選定セムトス

設計	取寄先	品種數
	大分縣大分郡	13
	全速見郡	15
	全東國東郡	15
	沖繩縣	1
	福岡縣	1

(二) 耐病性品種比較試驗

目的 本縣内ニ於テ栽培セラレツ、アル七島蘭中ニハ鼈甲病ノ被害甚大ナルモノ多シ、依テ縣内栽培地中特ニ被害著シキ田ヨリ耐病性强キ優良品種ヲ蒐集シ、之ガ年々本田ニ於テ比較研究シ、最適品種ノ選出ヲナサムトス。

設計	取寄先	品種數
	大分縣大分郡	16
	全速見郡	23
	全東國東郡	18

## (三) 優良品種比較試験

目的 本縣内ニ於テ優良青表ノ生産セラレツ、アル地方ノ特ニ優良品種中ヨリ選抜シ、之ガ翌年本田ニ於テ比較研究シ、最適品種ノ選出ヲナサムトス。

設計 取寄先 品種數  
大分縣大分郡 20

## (四) 實生ノ淘汰

目的 從來地下莖ニ依ル淘汰ヲ行ヒツ、アリシモ、昭和四年七島蘭種子ノ採種ヲ行ヒ、昭和五年ヨリ之ガ實生ノ淘汰ニ着手シ多收良質ニシテ耐病性强キ系統ノ選出ヲナサムトス。

設計及経過 昭和四年速見郡朝日村、高橋久四郎氏經營ノ温室ニ委託採種セシモノヲ當場ニテ育成、昭和五年度ニ150系統選抜、翌年80系統ヲ選抜シ、更ニ昭和七年度72系統ヲ選抜シ、八年度ヨリ之ガ繁殖ヲ行セ試験ヲ供用セリ。

## 第二 栽培法ニ關スル試験

## (一) 移植時期ト一坪株數試験

目的 苗ノ移植時期ノ早晚ガ苗ノ良否ニ如何ナル關係アルヤヲ檢知シ、之ガ翌年本田ニ於テ成育、收量並ニ品質ニ及ボス差異如何ヲ檢知セムトス。

設計 移植期ハ四月廿五日、五月廿五日、六月廿五日、七月廿五日ノ四區トシ、一坪株數ハ60株、120株、250株、400株ノ四區ヲ組合セ計16區トス。

## (二) 苗ノ育成法試験

目的 苗育成法ガ苗ノ良否ニ如何ナル關係アルヤヲ檢知シ、之ガ本田ニ於テ成育收量並ニ品質ニ如何ナル差異ヲ及ボスヤヲ知ラムトス。

設計 苗ハ乾田仕立法ト水田仕立法ノ二區トシ各區共立越法、刈跡法、2.5尺仕立、3.5尺仕立、4.5尺仕立立越法ノ五區ヲ組合セ十區トス。

## (三) 苗ニ關スル個體調査研究

目的 苗ノ基礎的調査研究ヲ行ハントス。

設計 九分ノ一坪框ヲ用ヒ一框ニ二芽ヲ挿秧シ二區制トス。

イ、苗床燒時期ト發芽促進ニ關スル調査研究

ロ、肥料三要素ニ對スル苗ノ成育ニ關スル調査研究

ハ、窒素量ト苗ノ成育ニ關スル調査研究

ニ、磷酸量ト苗ノ成育ニ關スル調査研究

ホ、加里量ト苗ノ成育ニ關スル調査研究

本田ニ關スル試験

## 第一 品種改良ニ關スル試験

## (一) 耐病性品種比較試験

目的 從來本縣ニ於テ栽培シツ、アル品種ハ耐病性弱キモノ多キヲ以テ、縣内各地ヨリ耐病性優良品種ヲ蒐集シテ本縣最適品種ヲ選出セムトス。

設計 取寄先 品種數  
大分縣大分郡 16  
全 速見郡 23  
全 東國東郡 18

## (二) 品種比較試験

目的 本縣内ニ栽培セラレツ、アル品種中特性ノ異ルモノ多シ、依テ縣内ハ勿論縣外ヨリ優良品種ヲ蒐集シ比較研究シ最適品種ヲ選出セムトス

設計 取寄先 品種數  
大分縣大分郡 13  
全 速見郡 15  
全 東國東郡 15  
沖繩縣 1  
福岡縣 1

成績概要 右品種中收量、品質共優良ナルハ大分三號、七號、國東四號ナリ

## (三) 實生ノ淘汰

目的 從來地下莖ニ依ル淘汰ヲ行ヒツ、アルモ昭和四年七島蘭ノ種子ヲ採種シ昭和五年度ヨリ之ガ淘汰ニ着手、昭和七年度ニ於テ72系統ヲ選抜育成シ内昭和八年度、29系統、昭和九年度29系統ヲ栽培セリ

## 第二 栽培法改良ニ關スル試験

## (一) 移植時期ト一坪株數試験

目的 本田移植ノ時期ト一坪株數ヲ異ニスレバ成育、收量、品質ニ如何ナル關係アルヤヲ檢知セムトス

設計 移植時期ハ四月十日、四月廿五日、五月十五日、五月三十日、六月十五日六月三十日ノ六區トシ一坪株數ハ100株、200株、300株、400株ノ四區トシ組合セテ計24區トス

成績概要 移植時期ハ五月十五日區成育、收量、品質、共ニ最モ良ク、移植時期遅レルニ隨ヒ品質、收量共ニ劣ル、一坪株數ハ移植時期ノ各區ヲ通ジ株數ノ増加ト共ニ成育、收量、品質共ニ良好ナリ

## (二) 苗仕立試験

目的 苗床ニ於ケル植方ガ本田ノ收量ニ如何ナル關係アルヤヲ檢知セムトス



二回施用	50	—	50	36	—	—	—	—	—	—
三回施用	40	—	30	24	30	47	—	—	—	—
四回施用	25	—	25	20	25	35	25	50	—	—
五回施用	20	—	20	20	20	30	20	42	20	57

第四 病虫害ニ關スル試験

(一) 七島菌癘甲病豫防試験

目的 七島菌癘甲病豫防劑トシテ三池殺菌劑、生石灰ボルドー液、消石灰ボルドー液、ノ効果並ニ之ガ撒布回数ノ効果ヲ知リ、最適豫防劑並ニ撒布回数ヲ知ラムトス

設計 各區共2回撒布、3回撒布、之ニ無豫防區ヲ加エテ7區トス

三池殺菌劑ハ200倍液、消石灰ボルドー液(硫酸銅120匁ニ對シ消石灰300匁)、生石灰ボルドー液(硫酸銅120匁ニ對シ生石灰240匁)トシ撒布ハ發病ノ程度ニ依リ撒布ス

試験別	三池殺菌劑	消石灰ボルドー液	生石灰ボルドー液
二回撒布	200倍 200倍	四斗式 六斗式	四斗式 六斗式
三回撒布	200倍 200倍 200倍	四斗式 五斗式 六斗式	四斗式 五斗式 六斗式

七島菌跡地利用

第一 七島菌跡地水稻

耕種概要

苗代

- 1 整地、苗床ハ水田揚床苗代トシテ四月頃耕起シ、五月下旬土塊ヲ碎キ灌水畦塗ヲ行ヒ荒代搔、本代搔ヲ行ヒ、後施肥シ地均ヲナシ數日後揚床ヲ行フ床巾ハ4尺、溝8寸トシ溝ノ土ヲ床上ニ揚ゲ床面ヲ平ニス
- 2 苗床肥料 一坪當施肥量ヲ示セバ

肥料名	施肥量	三要素		
		窒素	磷	加里
硫安	匁40	匁8.0	匁—	匁—
過石15%	30	—	4.50	—
藥灰	150	—	3.15	6.74
計		8.0	7.65	6.74

- 3 播種量、選種セル種子ヲ5日間浸漬シ一坪當2合宛播種ス
- 4 播種床面積、本田一反歩ニ對シ播種床25坪トス
- 5 管理、播種後發芽迄ハ稍深水トシ後苗ノ生育ヲ良好ナラシムル爲淺水トシ螟蛾ノ發生ヲ見バ補蛾採卵ヲ行フ

本田

1 假植田

- 1 整地 前作物收穫後直チニ耕起シ、七月上旬塊碎、後灌水、畦塗ヲ行ヒ、荒代搔、植代搔ヲ行ヒ施肥シ後地均ヲ行ヒ、植付ヲ行フ
- 2 肥料 一反歩當施肥量ヲ示セバ

肥料名	總量	基肥	追肥	三要素		
				窒素	磷	加里
堆肥	300.0	300.0	—	1.500	0.780	1.890
硫安	10.0	6.5	3.5	2.000	—	—
大豆粕	15.0	9.0	6.0	1.425	0.105	0.300
硫加(48%)	1.5	1.5	—	—	—	0.720
過石(15%)	5.0	5.0	—	—	0.750	—
計				4.925	1.635	2.910

追肥 七月下旬、乃至八月上旬、假植苗拔取後施肥ス

- 3 挿秧 挿秧ハ七月上旬一坪當リ200株(4寸0—4寸5)一株6本トス
  - 4 收穫及調製、黃熟明ニ至レバ刈取架乾(5日)シ充分乾燥セシメタル後扱落シ蓆乾(2日)ヲ行ヒ、籾摺ヲナシ精選ス
- 2 七島菌跡地
- 1 整地 七月下旬乃至八月上旬、七島菌ヲ收穫セバ直ニ耕起シ灌水、荒代搔後一晝夜間灌水放置シ、翌日植代搔後地均ヲ行フ
  - 2 挿秧 假植田ヨリ一畦隔ニ拔取タル苗ヲ坪100株(4寸—9寸)ニ挿秧ス



- 3 保護管理植付後一週間稍深水トシ倒伏セル苗ヲ起シ後淺水トス
- 4 收穫乾燥、黃熟期ニ至レバ刈取架乾(5日)シ、充分乾燥セシメタル後扱落シ、更ニ蓆乾(3日)ヲ行ヒ糶摺ヲナス

(一) 定植時期試験

目的 假植苗ヲ七島蘭跡地ニ定植スル時期ヲ異ニセバ生育収量ニ及ボス影響、並ニ其ノ最適定植期ヲ知ラントス

設計 定植期、七月十五日、七月二十五日、八月一日、ノ三區トシ一區面積一畝歩、計三畝歩ヲ供用ス

第 二 七島蘭跡地晩化栽培  
耕 種 概 要

苗代

- 1 整地 苗床ハ水田揚床苗代トシ六月上旬耕起シ、六月下旬土地ヲ碎キ灌水畦塗ヲ行ヒ荒代搔ヲ行ヒ、施肥後地均ヲナシ數日後床揚ヲ行フ、床巾ハ四尺、溝幅一尺トシ溝ノ土ヲ床上ニ揚ゲ床面ヲ平ニス
- 2 苗床肥料 一坪當施用量ヲ示セバ

肥 料 名	基 肥	三 要 素			
		窒 素	磷	酸	加 里
硫 安	4.0	0.8	—	—	—
菜 種 粕	80.0	4.08	2.02	—	1.92
過 石	50.0	—	7.05	—	—
燻 灰	300.0	—	6.30	—	13.48
計		4.88	15.37	—	15.40

- 3 播種量、選種セル種子ヲ三日間浸漬シ一坪當5勺播トス
- 4 播種床面積、本田一反歩ニ要スル播種床面積ハ50坪トス
- 5 管理、播種後發芽迄ハ稍深水トシ後苗ノ成育ヲ良好ナラシムル爲飽水トシ螟蛾ノ發生ヲ見レバ補蛾採卵ヲ行フ

本田

- 1 整地 七月下旬乃至八月上旬、七島蘭ヲ收穫セバ、直ニ耕起、灌水シ、荒代搔後一晝夜間灌水放置シ、翌日植代搔ヲ行ヒ地均ヲナス
- 2 挿秧、七月下旬乃至八月上旬、一坪當(4寸—9寸)一株7本植トス
- 3 保護管理、植付後一週間稍深水トシ活着後ハ淺水トス
- 4 收穫乾燥、黃熟期ニ至レバ刈取架乾(5日)シ充分乾燥セシメタル後扱落シ更ニ蓆乾3日行ヒ糶摺ヲナス

第 三 稗麥小麥蔬菜(大根)紫雲英  
耕 種 概 要

本場ニ準ズ

農林省委託試験

(一) 七島蘭早熟栽培法及跡地利用試験

目的 七島蘭普通栽培ト早熟栽培トノ比較試験ヲ行ヒ併テ跡地利用ノ經濟關係ヲ試験セントス

- 設計
- 1 七島蘭普通栽培法及跡地作麥栽培區
  - 2 七島蘭早熟栽培及跡地作水稻紫雲英栽培區
  - 3 七島蘭早熟栽培及跡地作水稻晩化紫雲英栽培區
  - 4 七島蘭二回收穫栽培區
  - 5 七島蘭早熟栽培跡地水稻蔬菜栽培區

(二) 七島蘭早熟栽培ニ關スル試験

目的 七島蘭早熟栽培ノ基礎的調査研究ヲ行ハムトス

- 設計
- 1 地下莖ニ關スル調査一區3個体12區
  - 2 病虫被害莖ノ位置及數ニ關スル調査一畝歩、區數二區 一區面積15坪
  - 3 莖ノ長サ、太サ、重量、分蘖數ニ關スル調査、一畝歩、區數二區 一區面積15坪
  - 4 製織經濟ニ關スル試験  
疊表80枚、諸目、片目、各20枚
  - 5 製織ニ必要ナル水分含量、變色程度ニ關スル試験、疊表50枚區數5區 一區10枚宛
  - 6 苗ノ發芽促進ニ關スル試験  
面積60坪、區數6區、一區面積10坪
  - 7 苗ノ冬期中ニ於ケル發芽ト伸長ニ關スル調査、面積80坪、區數5區、二區制一區面積2坪

## 庶 務 部

### 第 一 印 刷 物 刊 行

本年度ニ配付シタル印刷物下記ノ如シ

- 七島蘭癩甲病防除法
- 水稻原種ノ説明
- 夏蔬菜ノ育苗法
- 施肥標準調査成績
- 麥原種ノ説明
- 小麥品種特性表

### 第 二 出 張

用 名	縣 内		縣 外	
	回 數	日 數	回 數	日 數
調 査	196	345		
農 事 協 議 會 (縣外會議ヲ含ム)	19	24	6	42
委 託 試 験	34	67		
採 種 圃 經 營 指 導	19	53		
實 地 指 導	47	141		
講 習 講 話	44	62		
品 評 會 共 進 會 審 査	43	97		
講 習 生 指 導	9	9		
計	411	809	6	42

### 第 三 文 書 收 發 件 數

種 別	通 數
收受文書	2,390
發送文書	3,149
收受印刷刊行物	1,105

### 第 四 質 問 應 答

一般農業上ノ書面質問ニ對シ應答シタル件數 598

第五 參觀人

本年度ニ於ケル當場參觀人總數 32,138人

第六 職員ノ異動

昭和九年四月三十日退職	地方農林技師	津田守誠
昭和九年五月二十八日退職	農林技手	酒井久馬
昭和九年六月四日任命	全	安藤信弘
昭和九年六月三十日任命	全	間宮廣

第七 現職員

昭和十年三月三十一日現在  
場長

	地方農林技師	田口秀雄
	全	松浦忠夫
	全	石井三十郎
	全	栗田義郎
	農林主事補	大西千獅雄
	農林技手	金野敬三
	全	荒川左千代
	全	安藤信弘
	全	矢野道雄
	全	間宮廣
	全	松浦鐵太郎
	全	富永政幸
柑橘試験分場 分場長	地方農林技師	岡本慶夫
	農林技手	清水間
高冷地試験地		
七島蘭試験地	農林技手	一木久盛
	全	森田眞盛

昭和十一年<sup>七</sup>月<sup>七</sup>日印刷  
昭和十一年<sup>七</sup>月<sup>七</sup>日發行

大分縣立農事試験場内

大分縣進農會

大分市駄ノ原四一五番地

印刷者 植木佐太郎

大分市大工町五八四番地

印刷所 碩田社印刷所

14,2  
825